三光村の遺跡

三光村文化財調査報告書（第5集）

―― 佐知久保畑遺跡 ――

2004

大　分　県

三光村教育委員会

発刊によせて

豊かな風土と自然に恵まれた本村は、国指定の名勝耶馬溪・八面山をはじめ、各種の文化財、天然記念物等が各地に分布していますが、郷土の先人たちが長い歴史の中で築いてこられたこれらの文化財の保護体制を、充実強化する必要を感じています。

県下では約4,000カ所におよぶ埋蔵文化財の包蔵地が知られていますが、本村もこれらの遺跡については、その計画的な調査とその保護、そして開発事業の調整をも図ってきました。

こうした中で、平成４年度と10年度の2カ年にわたり「佐知久保畑遺跡」の調査を行いましたが、これは大型ショッピングセンターの建設に伴うもので、調査の結果、縄文時代から古墳時代にかけての住居跡等が検出されました。

今回、本報告書を発刊するにあたり、これらの調査結果を公開することで、郷土の文化財に対する理解を深め、その愛護の高揚を図ることに努めていかなければなりません。

終わりに、これらの調査にあたって、ご指導を頂いた県教育庁文化課の方々、また、ご協力を頂いた村文化財調査委員の方々に深く感謝申し上げて発刊のことばといたします。

三光村教育委員会
教育長　西　　義一郎

例　　言

1．本書は三光村教育委員会が、平成４年度と平成10年度に緊急発掘調査を実施した佐知久保畑遺跡の発掘調査報告書である。
2．本発掘調査は、大分県教育庁文化課指導のもと平田由美（三光村教育委員会）が行った。
3．遺構実測については調査担当者のほか、㈱アジア航測・埋蔵文化財サポートシステムにお願いした。また遺物実測及びトレースについては担当者のほか、文化財リサーチ・㈲雅企画にお願いした。
4．遺構写真及び遺物写真は調査担当者のほか、長谷川正美氏（中津市）の協力を得た。また空中写真は㈱アジア航測・埋蔵文化財サポートシステムにお願いした。
5．出土遺物の整理は主に、三光村教育委員会で行った。
6．本書の執筆・編集は、平田が行った。

本 文 目 次

第１章　はじめに
　１．調査の経過 …… 1
　２．位置と環境 …… 2
第２章　調査の内容
　第１節　調査の概要
　　１．遺跡の範囲 …… 4
　　２．調査した遺構と時代 …… 4
　第２節　第１次調査
　　１．住 居 跡
　　１）１号遺構 …… 7
　　２）２号遺構 …… 7
　　３）11号遺構 …… 8
　　４）12号遺構 …… 9
　　５）４号遺構 …… 11
　　６）６号遺構 …… 13
　　７）７号遺構 …… 13
　　８）９号遺構・40号土坑 …… 14
　　９）10号遺構 …… 16
　　２．溝状遺構
　　１）１ 号 溝 …… 16
　　２）３ 号 溝 …… 17
　　３．土　坑
　　１）15号土坑 …… 17
　　２）19号土坑 …… 18
　　３）42号土坑 …… 18
　　４）36号土坑 …… 19
　　５）59号土坑 …… 20

4．その他の遺構
1）4号土器溜 …… 20
第3節　第2次調査
1．住 居 跡
1）24号遺構・92号土坑 …… 24
2）20号遺構 …… 33
3）26号遺構 …… 33
4）29号遺構 …… 34
5）15号遺構・16号遺構 …… 35
6）17号遺構・18号遺構・19号遺構 …… 36
7）13号遺構 …… 39
8）21号遺構 …… 40
9）23号遺構 …… 42
10）27号遺構 …… 43
11）31号遺構 …… 43
2．溝状遺構
1）6 号 溝 …… 45
2）9 号 溝 …… 45
3）11 号 溝 …… 46
4）14 号 溝 …… 47
3．土　　坑
1）94号土坑 …… 47
2）140号土坑 …… 55
3）150号土坑 …… 58
4）70号土坑 …… 58
5）145号土坑 …… 59
6）147号土坑 …… 61
7）164号土坑 …… 61
8）176号土坑 …… 62
9）177号土坑 …… 64
10）178号土坑 …… 65
11）126号土坑 …… 66
12）138号土坑 …… 67
13）143号土坑 …… 69
14）183号土坑 …… 69
4．その他の出土遺物 …… 72
第4節　第3次調査
1．住 居 跡
1）8号遺構 …… 74
2）9号遺構 …… 77
3）3号遺構 …… 78

４）５号遺構 …… 80
５）11号遺構 …… 80
６）12号遺構 …… 80
２．溝状遺構
１）15号溝 …… 82
３．土　　坑
１）70号土坑 …… 82
２）102号土坑 …… 82
３）114号土坑 …… 85
４）123号土坑 …… 85
５）143号土坑 …… 87
６）146号土坑 …… 87
７）148号土坑 …… 89
８）150号土坑 …… 89
９）163号土坑 …… 92
10）164号土坑 …… 95
11）168号土坑 …… 97
12）27号土坑 …… 98
13）81号土坑 …… 98
14）85号土坑 …… 98
15）90号土坑 …… 99
16）99号土坑 …… 100
17）68号土坑 …… 100
４．その他の遺構
１）132号柱穴 …… 100
２）１号土器溜 …… 101
３）12号土器溜 …… 102
４）14号土器溜 …… 102
５）13号土器溜 …… 102
５．その他の出土遺物 …… 102
第３章　ま と め …… 110

挿 図 目 次

第 1 図　三光村内遺跡分布図 …… 3
第 2 図　佐知久保畑遺跡遺構分布図 …… 5～6
第 3 図　1号遺構平面図 …… 7
第 4 図　1号遺構出土土器実測図 …… 7
第 5 図　2号遺構平面図 …… 8
第 6 図　2号遺構出土土器実測図 …… 8
第 7 図　11号遺構平面図 …… 9
第 8 図　11号遺構出土土器実測図 …… 9
第 9 図　11号遺構出土石器実測図 …… 9
第 10 図　12号遺構平面図 …… 10
第 11 図　12号遺構出土土器実測図 …… 10
第 12 図　4号遺構平面図 …… 11
第 13 図　4号遺構出土土器実測図 …… 12
第 14 図　4号遺構出土石器実測図 …… 12
第 15 図　6号遺構平面図 …… 13
第 16 図　6号遺構出土土器実測図 …… 13
第 17 図　7号遺構平面図 …… 14
第 18 図　7号遺構出土土器実測図 …… 14
第 19 図　9号遺構・40号土坑平面図 …… 15
第 20 図　9号遺構出土土器実測図 …… 15
第 21 図　40号土坑出土土器実測図 …… 15
第 22 図　10号遺構平面図 …… 16
第 23 図　10号遺構出土土器実測図 …… 16
第 24 図　1号溝出土石器実測図(1) …… 17
第 25 図　〃　(2) …… 17
第 26 図　3号溝出土土器実測図 …… 17
第 27 図　15号土坑平面図 …… 18
第 28 図　15号土坑出土土器実測図 …… 18
第 29 図　19号土坑平面図 …… 18
第 30 図　19号土坑出土土器実測図 …… 18
第 31 図　19号土坑出土石器実測図 …… 18
第 32 図　42号土坑平面図 …… 18
第 33 図　42号土坑出土土器実測図(1) …… 18
第 34 図　〃　(2) …… 19
第 35 図　36号土坑平面図 …… 19
第 36 図　36号土坑出土土器実測図 …… 19
第 37 図　59号土坑出土土器実測図 …… 20
第 38 図　4号土器溜出土土器実測図(1) …… 21
第 39 図　〃　(2) …… 22
第 40 図　〃　(3) …… 23

第 41 図　24号遺構・92号土坑平・断面図 …… 25
第 42 図　24号遺構出土土器実測図(1) …… 26
第 43 図　〃　(2) …… 27
第 44 図　〃　(3) …… 28
第 45 図　24号遺構出土石器実測図(1) …… 29
第 46 図　〃　(2) …… 29
第 47 図　92号土坑出土土器実測図(1) …… 30
第 48 図　〃　(2) …… 31
第 49 図　20号遺構平・断面図 …… 32
第 50 図　20号遺構出土土器実測図 …… 32
第 51 図　20号遺構出土玉類実測図 …… 32
第 52 図　26号遺構平・断面図 …… 33
第 53 図　26号遺構出土石器実測図 …… 33
第 54 図　29号遺構平面図 …… 33
第 55 図　29号遺構出土土器実測図 …… 34
第 56 図　29号遺構出土石器実測図 …… 34
第 57 図　15号遺構出土土器実測図 …… 34
第 58 図　15号遺構出土石器実測図(1) …… 34
第 59 図　15号遺構・16号遺構平・断面図 …… 35
第 60 図　15号遺構出土石器実測図(2) …… 35
第 61 図　16号遺構出土石器実測図 …… 36
第 62 図　17号遺構出土土器実測図 …… 36
第 63 図　17号遺構出土石器実測図 …… 36
第 64 図　17号遺構・18号遺構・19号遺構平・断面図 …… 37
第 65 図　18号遺構出土土器実測図 …… 38
第 66 図　18号遺構出土石器実測図 …… 38
第 67 図　19号遺構出土石器実測図(1) …… 38
第 68 図　〃　(2) …… 38
第 69 図　19号遺構出土土器実測図 …… 39
第 70 図　13号遺構出土土器実測図 …… 39
第 71 図　13号遺構平・断面図 …… 40
第 72 図　21号遺構平・断面図 …… 40
第 73 図　21号遺構出土土器実測図(1) …… 41
第 74 図　〃　(2) …… 42
第 75 図　23号遺構平面図 …… 42
第 76 図　23号遺構出土土器実測図 …… 43
第 77 図　27号遺構平・断面図 …… 43
第 78 図　27号遺構出土土器実測図 …… 44
第 79 図　27号遺構出土石器実測図 …… 44
第 80 図　31号遺構平・断面図 …… 44
第 81 図　31号遺構出土土器実測図 …… 45

第 82 図　31号遺構出土石器実測図 …… 45
第 83 図　6 号溝出土土器実測図 …… 46
第 84 図　9 号溝出土土器実測図 …… 46
第 85 図　9 号溝出土石器実測図 (1) …… 46
第 86 図　〃　(2) …… 46
第 87 図　11号溝出土土器実測図 …… 47
第 88 図　14号溝出土土器実測図 …… 47
第 89 図　94号土坑平・断面図 …… 47
第 90 図　94号土坑出土土器実測図 (1) …… 48
第 91 図　〃　(2) …… 49
第 92 図　〃　(3) …… 50
第 93 図　〃　(4) …… 51
第 94 図　〃　(5) …… 52
第 95 図　94号土坑出土石器実測図 (1) …… 53
第 96 図　〃　(2) …… 54
第 97 図　140号土坑平・断面図 …… 56
第 98 図　140号土坑出土土器実測図 (1) …… 56
第 99 図　〃　(2) …… 57
第100図　140号土坑出土石器実測図 (1) …… 57
第101図　〃　(2) …… 58
第102図　150号土坑出土土器実測図 …… 58
第103図　70号土坑平面図 …… 59
第104図　70号土坑出土土器実測図 …… 60
第105図　145号土坑出土土器実測図 …… 61
第106図　147号土坑出土土器実測図 …… 61
第107図　147号土坑出土石器実測図 …… 61
第108図　164号土坑出土石器実測図 …… 61
第109図　164号土坑出土土器実測図 …… 62
第110図　176号土坑出土土器実測図 (1) …… 62
第111図　〃　(2) …… 63
第112図　176号土坑出土石器実測図 …… 63
第113図　177号土坑平・断面図 …… 64
第114図　177号土坑出土土器実測図 …… 64
第115図　178号土坑出土土器実測図 …… 65
第116図　126号土坑出土土器実測図 …… 66
第117図　138号土坑平面図 …… 66
第118図　138号土坑出土土器実測図 …… 68
第119図　138号土坑出土石器実測図 …… 69
第120図　138号土坑出土玉類実測図 …… 69
第121図　143号土坑出土土器実測図 …… 69
第122図　183号土坑出土土器実測図 …… 69

第123図　第１次・第２次調査出土遺物実測図(1) …… 70
第124図　〃　(2) …… 71
第125図　〃　(3) …… 72
第126図　８号遺構平・断面図 …… 74
第127図　８号遺構出土土器実測図(1) …… 75
第128図　〃　(2) …… 76
第129図　〃　(3) …… 77
第130図　９号遺構出土土器実測図 …… 77
第131図　９号遺構平面図 …… 78
第132図　３号遺構平面図 …… 78
第133図　３号遺構出土石器実測図 …… 79
第134図　３号遺構出土土器実測図 …… 79
第135図　５号遺構平面図 …… 79
第136図　５号遺構出土土器実測図 …… 80
第137図　５号遺構出土石器実測図 …… 80
第138図　11号遺構平面図 …… 80
第139図　11号遺構出土土器実測図 …… 80
第140図　12号遺構出土石器実測図 …… 81
第141図　12号遺構平面図 …… 81
第142図　12号遺構出土土器実測図 …… 81
第143図　15号溝出土土器実測図 …… 81
第144図　15号溝出土石器実測図 …… 81
第145図　70号土坑出土土器実測図 …… 82
第146図　70号土坑出土石器実測図 …… 82
第147図　102号土坑出土土器実測図 …… 83
第148図　114号土坑出土土器実測図 …… 83
第149図　123号土坑出土石器実測図 …… 84
第150図　123号土坑出土土器実測図 …… 84
第151図　143号土坑出土土器実測図 …… 85
第152図　146号土坑出土土器実測図(1) …… 86
第153図　〃　(2) …… 87
第154図　148号土坑出土土器実測図 …… 89
第155図　150号土坑出土土器実測図(1) …… 89
第156図　150号土坑出土石器実測図 …… 90
第157図　150号土坑出土土器実測図(2) …… 90
第158図　163号土坑出土土器実測図(1) …… 90
第159図　〃　(2) …… 91
第160図　〃　(3) …… 92
第161図　〃　(4) …… 93
第162図　163号土坑出土石器実測図 …… 93
第163図　164号土坑出土土器実測図 …… 94

第 164 図　168号土坑出土石器実測図 …… 95
第 165 図　168号土坑出土土器実測図 …… 96
第 166 図　27号土坑出土土器実測図 …… 97
第 167 図　81号土坑平面図 …… 97
第 168 図　81号土坑出土土器実測図 …… 97
第 169 図　85号土坑出土土器実測図 …… 97
第 170 図　90号土坑平面図 …… 99
第 171 図　90号土坑出土土器実測図 …… 99
第 172 図　99号土坑出土土器実測図 …… 99
第 173 図　68号土坑出土玉類実測図 …… 99
第 174 図　132号柱穴出土土器実測図 …… 100
第 175 図　1号土器溜出土土器実測図 …… 100
第 176 図　12号土器溜出土土器実測図 …… 100
第 177 図　14号土器溜出土土器実測図 …… 100
第 178 図　13号土器溜出土土器実測図 …… 101
第 179 図　第3次調査出土遺物実測図 (1) …… 101
第 180 図　〃 (2) …… 103
第 181 図　〃 (3) …… 104
第 182 図　〃 (4) …… 105
第 183 図　〃 (5) …… 106
第 184 図　〃 (6) …… 107

表　目　次

第 1 表　遺物観察表 (1) …… 73
第 2 表　〃 (2) …… 108
第 3 表　〃 (3) …… 109

写 真 目 次

写真図版１ …… 111
H4 検出状況・H4 調査風景・H4 ４号遺構
H4 ７号遺構・H4 掘立柱建物・H4 ９号遺構 40号土坑
写真図版２ …… 112
H4 ４号土器溜・H4 24号遺構・H4 24号遺構石組炉
H4 26号遺構・H4 15号遺構 16号遺構・H4 94号土坑
写真図版３ …… 113
H4 94号土坑石組炉・H4 140号土坑・H4 ５号遺構
H10 143号土坑・H10 空撮・H10 調査後全景
写真図版４ …… 114
第38図２・第38図４・第38図５・第38図６
第39図７・第39図８
写真図版５ …… 115
第39図９・第39図10・第39図12・第40図16
第151図１・第178図１
写真図版６ …… 116
第11図12・第13図３・第18図２・第20図１・第26図１
第42図２・第42図６・第42図８・第62図１・第69図１
第69図４・第84図１・第84図２・第84図６・第90図１
写真図版７ …… 117
第91図９・第91図12・第92図18・第93図19・第93図22
第98図６・第99図10・第99図13・第99図15・第99図18
第104図４・第104図６・第104図８・第104図11・第110図２
写真図版８ …… 118
第118図４・第118図５・第118図11・第118図15・第123図１
第123図２・第127図３・第127図10・第127図13・第127図16
第134図１・第134図４・第142図３・第168図１・第168図２
写真図版９ …… 119
第175図１・第176図１・第177図１・第９図１・第９図２
第51図１・第61図１・第82図１・第95図１・第95図２
第95図３・第95図４・第95図６・第96図15・第107図１
写真図版10 …… 120
第120図２・第123図７・第124図12・第124図13・第125図20
第133図２・第173図１・第179図４・第180図17・第180図18
第182図47・第182図49・第182図50・第183図52・第183図53

第1章　はじめに

1．調査の経過

三光村では平成２年度より村の北側に位置する佐知地区に、大型のショッピングセンターの建設が計画された。100,000 ㎡の広さを予定するショッピングセンターは、村の活性化をかけた一大プロジェクトであった。しかし当地区は佐知遺跡群として周知されている地区であり、村教育委員会としてもあまりにも大規模な開発行為であることから、開発予定地全てに試掘調査を行い、遺跡範囲の確認を行った。その結果、予定地のおよそ半分はすでに圃場整備の時点で遺跡が破壊、もしくは遺跡範囲外であった。残っている遺跡については、出来るだけ駐車場用地として残すこととした。その結果、10,000 ㎡が調査対象地区となり、平成４年度より本調査に着手することとなった。調査には約１年を要した。

平成 10 年度には、大型ショッピングセンターの増床計画があがり、駐車場用地として残していた地区の一部がその対象となった。調査対象面積は、3,000 ㎡を測る。遺跡は 2 メートル近く盛土をして保存していたため、まずその土の除去から始めた。調査には約半年を要した。

調査の関係者は以下のとおりである。

平成４年度

調査主体者	三光村教育委員会
調査責任者	松　田　一　臣（三光村教育長）
調査指導員	賀　川　光　夫（故　人）
調　査　員	平　田　由　美（三光村教育委員会）

平成 10 年度

調査主体者	三光村教育委員会
調査責任者	花　崎　貞　雄（三光村教育長）
調査指導員	賀　川　光　夫（故　人）
調　査　員	平　田　由　美（三光村教育委員会）

調査には下記の人々があたった。

平成４年度

藤野武志・相良スナミ・松尾初枝・相良トメ子・相良ノブ子・高畑キヨカ・川野ヨシ子
大霜豊子・尾嶋ハル子・清城玉美・清城君子・上永紀代子・佐々木貞子・前田千恵子・釘丸雪子
楠木マサ子・神一子・出口義友・重並正人・楠木愛子・楠木秋香・辻原霞・岡田幸子・中原武友
楽松末子・井上美雪・道免アサノ・道免文子・東正吉・高畑ヤヨイ・噌西ミサヲ・久保一子
大森恵美子・東和子・前田洋司・原政博・原輝行・溜島千年

平成 10 年度

藤野武志・相良スナミ・松尾初枝・相良トメ子・相良ノブ子・高畑キヨカ・川野ヨシ子
大霜豊子・清城玉美・清城君子・上永紀代子・佐々木貞子・前田千恵子・釘丸雪子・川西美代子
酒井勝代・堤千代子・薮田岩子・新村治美・酒井節美・沢田幹義・長谷川雪子・川野秀子

整理作業には下記の人々があたった。

土橋厚子・乙咩里美・佐藤幸美

2. 位置と環境

三光村は大分県の北端にあって、村の西側には福岡県との境となる一級河川山国川が悠々と流れ、周防灘へと注いでいる。また村の南側には村のシンボルである標高 659m の八面山がひかえ、中津平野に向かっていくつかの低い丘陵を形成している。またその裾部は開析谷によって開けている。三光村の現在の人口は約 5,500 人、世帯数は約 1,830 戸を数える。

三光村内に所在する遺跡は現在までに確認されているだけでかなりの数にのぼり、それらの遺跡の多くは、山国川から延びる低位丘陵及び山国川をはじめとした川の周辺に広がる平野部とに所在している。これらの遺跡の多くは、現在まで開発による破壊を免れており、村内は遺跡の宝庫である。しかし開発の波は確実に押し寄せてきており、本格的な発掘調査が行われることも少なくない。調査によって遺跡の様子も少しずつ分かってきており、村の歴史の一端を垣間見ることができる。

第１図は三光村内に所在する遺跡の分布図である。村の南側は八面山があり、遺跡の多くは村の西側から北側、東側の平野部へと広がっている。それらの遺跡の多くは住居跡や墓域群などであり、多くの人々が暮らしたであろうことが推測できる。南側は山岳地域であり、人が生活した痕跡はあまりみることはできないが、古くから信仰の対象として崇められ、多くの宗教関連遺跡がみられる地域である。

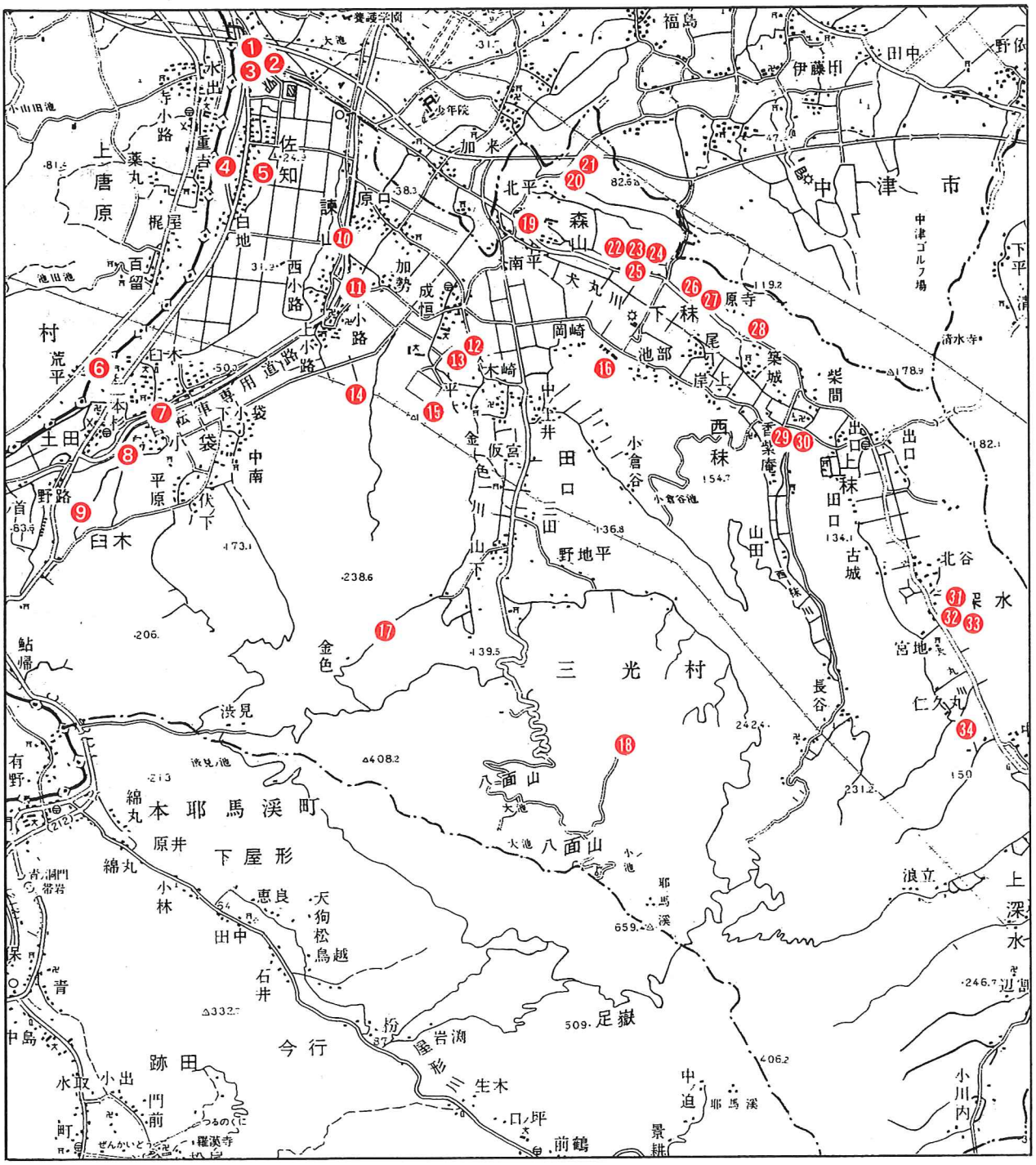
代表的な遺跡として、村の北側の河岸段丘上に、平成元年に調査が行われた佐知遺跡がある。縄文時代から古墳時代・古代までの複合遺跡となっている。またこの遺跡の周辺には上ノ原横穴墓群があり、生活を行った集落と埋葬された墓域とが確認できる遺跡として注目される。

村の北東側には現在は所在していないが、平成２年度に調査が行われた倉迫二ッ塚古墳がある。２基の円墳があり、中でも２号墳は墳丘規模が最大で 16 mを測り、すでに天井石は取り除かれていたが遺物等の保存状態がよく、７世紀初頭の須恵器・勾玉等を確認することができた。

村のほぼ中心部には８世紀後半に建立されたと思われる、塔ノ熊廃寺が所在している。この遺跡は平成元年から平成３年にかけて調査が行われ、多くの瓦とともに瓦塔・土器が確認された。この寺院は新羅系の軒先丸瓦を使用しており、山国川を挟んで対岸にある築上郡新吉富町の垂水廃寺から出土した軒先丸瓦と非常によく似た作りとなっている。

村の東側には中世の山城や集落跡の遺跡であるズリヤネ城跡や、下深水小路遺跡等がある。また、これらの遺跡の周辺には県指定有形文化財が出土した深水邸埋納遺跡がある。この遺跡は偶然発見されたもので、大甕の中に小皿をはじめとして、五徳、古銭等が納められていた。

以上のように三光村は多くの遺跡が所在する遺跡の宝庫である。幸いにも今までは多くの遺跡が開発から免れており、手付かずの状態で遺跡は残っているが、現在、東九州自動車道や日田中津道路の建設、またそれに伴うインターチェンジの建設等、大規模な計画がある。工事に先立って行われる発掘調査で、遺跡の全貌が確認されるのは、ある部分ではよい事ではあるが、それらの遺跡のいくつかは確実に失われていく。非常に残念なことでもある。



第１図　三光村内遺跡分布図（S=1/50,000）

1．上ノ原横穴墓群　2．上ノ原平原遺跡　3．佐知久保畑遺跡　4．佐知遺跡　5．佐知柿木遺跡
6．城の百穴横穴墓群　7．臼木古墳群　8．外園遺跡　9．臼木上ノ原遺跡　10．諫山遺跡 A.B.C 地区
11．諫山糸永遺跡　12．瑞雲遺跡　13．成恒笹原遺跡　14．鴨山横穴墓群　15．庵ノ尾横穴墓群
16．岡崎遺跡　17．妙見宮祭祀遺跡　18．八面山山頂祭祀遺跡　19．洗添横穴墓群　20．北平横穴墓群
21．森山遺跡　22．美濃尾遺跡　23．倉迫平古墳　24．倉迫二ッ塚古墳　25．野辺田横穴墓群
26．三塚古墳　27．天神原横穴墓群　28．大源寺横穴墓群　29．塔ノ熊窯跡　30．塔ノ熊廃寺
31．ズリヤネ城跡　32．深水邸埋納遺跡　33．下深水小路遺跡　34．爰迫遺跡

第2章　調査の内容

第1節　調査の概要

1.遺跡の範囲

佐知久保畑遺跡は山国川の東側の河岸段丘上に立地する遺跡である。現在佐知地区は圃場整備事業も終了し、旧地形が残っていないが、平成元年に調査が行われた佐知遺跡での遺構の広がりと古い地図によると、現在の国道212号線に沿って、現在の佐知集落のほとんどが、南北に延びる微高地の上に形成されていることがわかる。開発予定地の事前試掘調査でも、予定地の東側では表土、及び圃場整備時に搬入された土砂を除去すると、川石がゴロゴロしており、人が生活していた痕跡はみることができない。また通称下毛原台地と呼ばれる、佐知地区の東側の原口・諫山地区の西側の台地下には、山国川からの支流である細長い川があったことが、圃場整備前の地図で確認することができる。

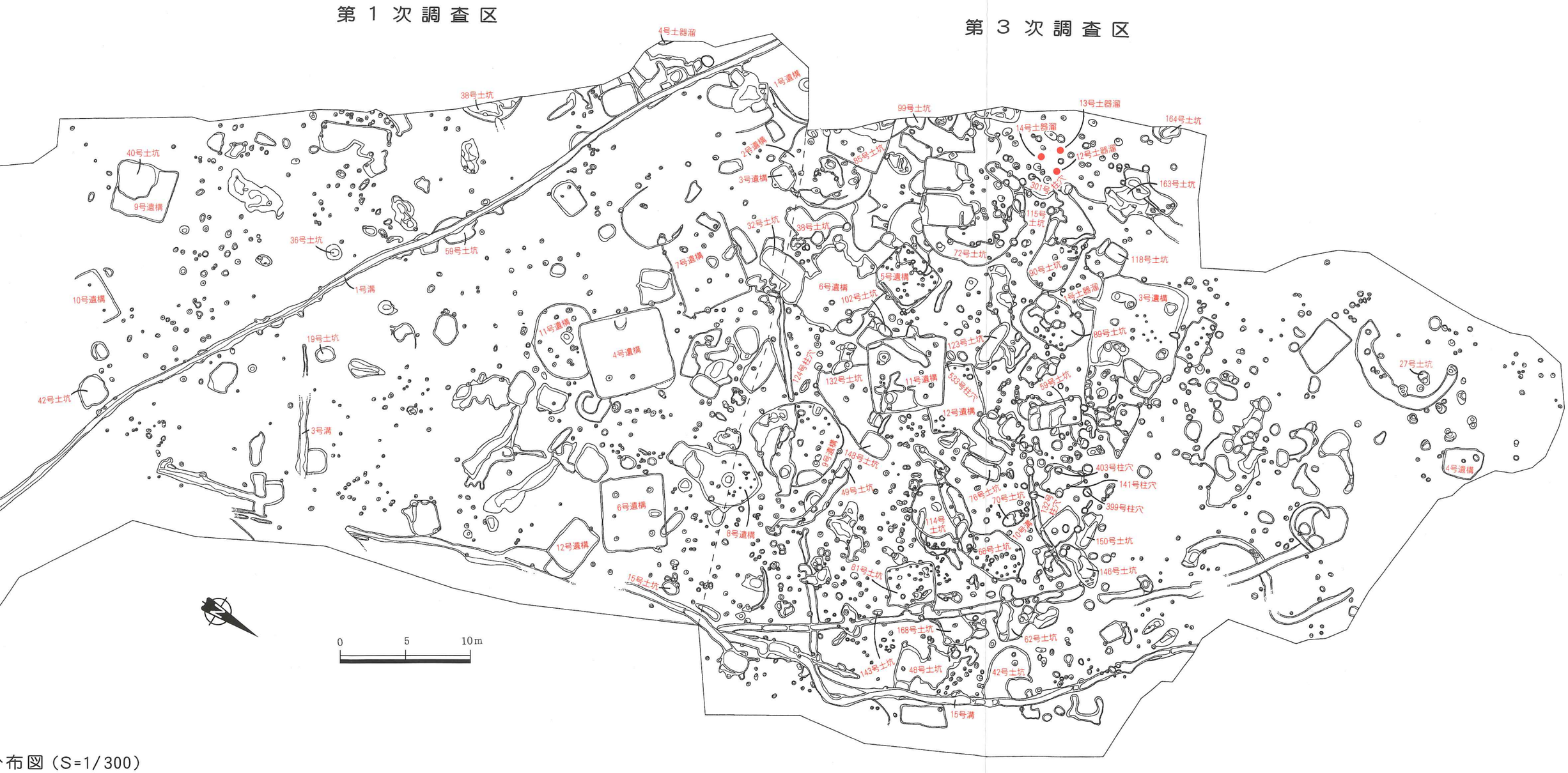
こうした地形の中で遺跡の範囲を考えると、今回調査を行った遺跡は、この佐知遺跡群の北端と、東端の一部を確認できたことになる。遺構の分布状況から、遺跡はさらに西側、東側へと広がっていくことは明らかである。

2.調査した遺構と時代

佐知久保畑遺跡から出土した遺物は、縄文時代後期・晩期、弥生時代前期・中期・後期、古墳時代前期・後期とほぼ途切れることなく続いている。遺構の種類は、住所跡・溝状遺構・土坑・柱穴等で、これらの遺構が重なり合い、いくつかのグループに分かれながら、一つの遺跡を形成している。

調査区は南北に細長く広がっており、北側と南側にそれぞれ遺構の密集地がある。中央部分は比較的まばらに遺構が所在している。また中央部分には後世、道路が建設されていたために遺構の確認ができなかった部分がある。

今回報告書を作成するにあたっては、調査時点で住居跡と土坑との区別がつき難かった遺構について、本来であれば修正を加えるべきであるが、本遺跡は調査年度が複数年にわたった事もあって、土坑・溝状遺構・柱穴については特に修正は加えていない。住居跡については、調査後明らかに住居跡ではない遺構も含まれていたが、本報告書では、区分としては住居跡に掲載をしており、番号を1号遺構・2号遺構・・・とした。また、複数年にわたったため、遺構番号が一部重複しているが、節ごとに記載することによって、区別をしている。


第１次調査区
第３次調査区
4号土器溜
38号土坑
1号遺構
40号土坑
9号遺構
36号土坑
59号土坑
1号溝
10号遺構
19号土坑
42号土坑
3号溝
11号遺構
4号遺構
7号遺構
3号遺構
32号土坑
38号土坑
6号遺構
102号土坑
5号遺構
124号柱穴
132号土坑
11号遺構
123号土坑
533号柱穴
12号遺構
9号遺構
148号土坑
49号土坑
6号遺構
8号遺構
12号遺構
15号土坑
81号土坑
168号土坑
143号土坑
48号土坑
42号土坑
15号溝
62号土坑
146号土坑
150号土坑
68号土坑
114号土坑
76号土坑
70号土坑
151号柱穴
153号柱穴
399号柱穴
141号柱穴
403号柱穴
59号土坑
89号土坑
1号土器溜
3号遺構
118号土坑
90号土坑
115号土坑
72号土坑
307号柱穴
12号土器溜
14号土器溜
13号土器溜
163号土坑
164号土坑
99号土坑
95号土坑
27号土坑
4号遺構
0
5
10m

分布図（S=1/300）

第２図　佐知久保畑遺跡 遺構分布図（S=1/300）

第２次調査区
27号遺構
278号柱穴
23号遺構
13号遺構
70号土坑
26号遺構
179号土坑
29号遺構
24号遺構
126号土坑
92号土坑
177号土坑
183号土坑
94号土坑
176号土坑
285号柱穴
164号土坑
150号土坑
223号柱穴
147号土坑
180号土坑
343号柱穴
145号土坑
103号土坑
143号土坑
9号溝
138号土坑
8号溝
14号溝
31号遺構
17号遺構
140号土坑
19号遺構
18号遺構
139号土坑
16号遺構
11号溝
15号遺構
21号遺構
20号遺構

第２図　佐知久保畑

第2節　第1次調査

1．住 居 跡

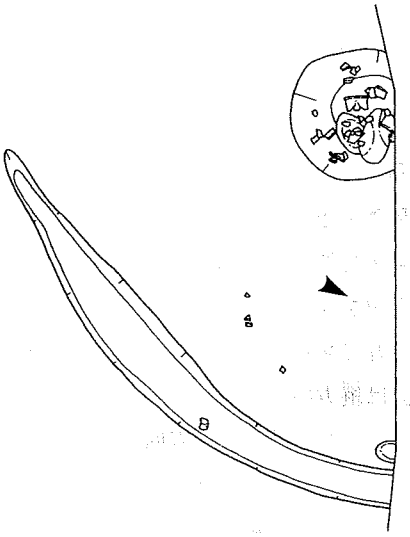
1）1号遺構

＊遺構（第3図）

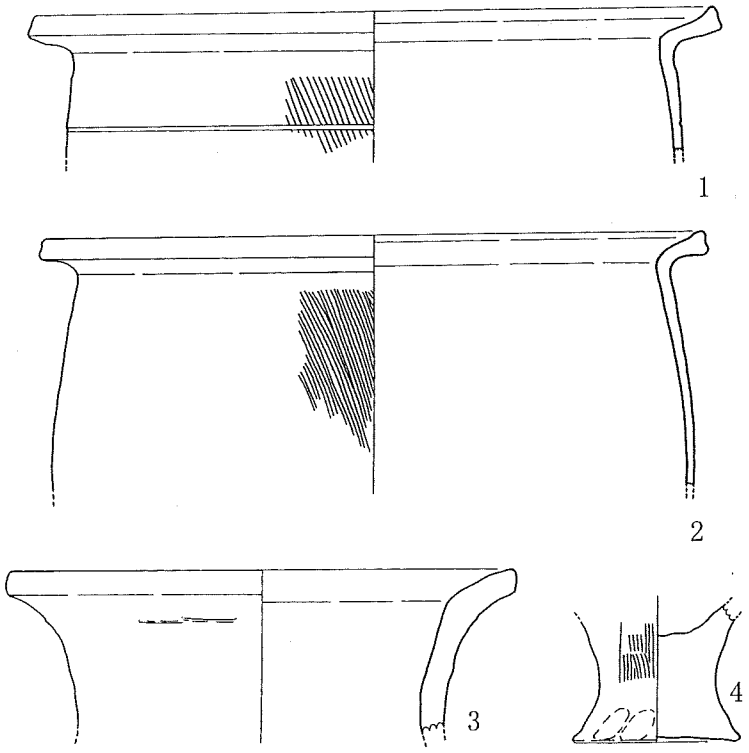
調査区の西端で検出した遺構で、遺構の北側は調査区域外であったため遺構の約4分の1を検出した。復元径約6.4mの円形住居跡である。遺構の壁に沿って幅約0.5m前後、深さ0.10mの溝が巡り、中央部分には0.83m×1.1mの円形で、床面からの深さ0.10mの土坑がある。平坦な床面からは特に柱穴など確認できなかった。出土遺物は弥生時代中期の遺物を中心に出土している。

＊出土土器（第4図）

1は甕の口縁部で、口径26.5cm、残存器高6.6cmを測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。内面はナデ、外面は縦方向のハケ目が施されている。また、外面には一条の沈線がみられる。2は甕の口縁部で、口径25.5cm、残存器高10.0cmを測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目を施している。3は口縁部で、口径19.6cm、残存器高6.5cmを測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は長石・角閃石・石英・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面も指オサエのちナデである。4は甕の底部で、底径6.2cm、残存器高5.4cmを測る。色調内面は暗褐色で一部黄褐色である。外面は黄褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面上部はハケ目を施している。また外面下部は、指によるヨコナデを施している。



第3図　1号遺構平面図(S=1/60)



第4図　1号遺構出土土器実測図(S=1/3)

2）2号遺構

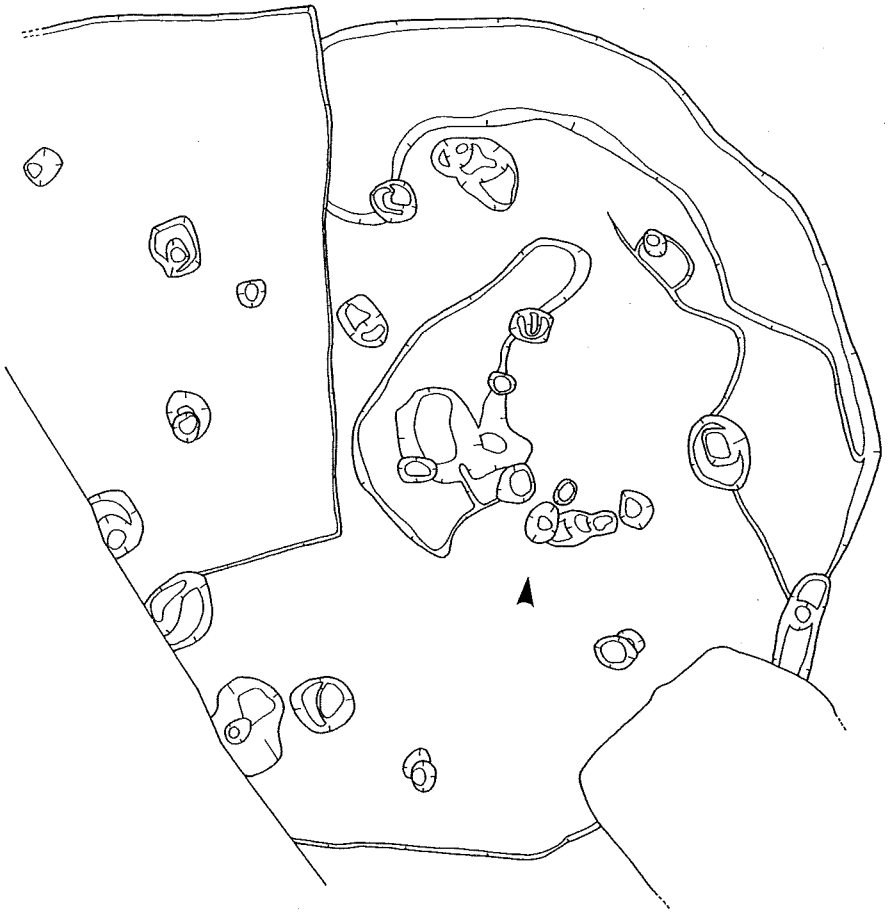
＊遺構（第5図）

遺構は平成4年度に調査が行われた部分と、平成10年度に調査が行われた部分とにまたがって検出された。遺構の西側は他の遺構によって確認することができないが、復元径6.6mの円形住居跡である。中央部分には0.57m×0.74mの円形で、床面からの深さ0.06mの土坑がある。この土坑を囲むようにいくつかの柱穴を確認する

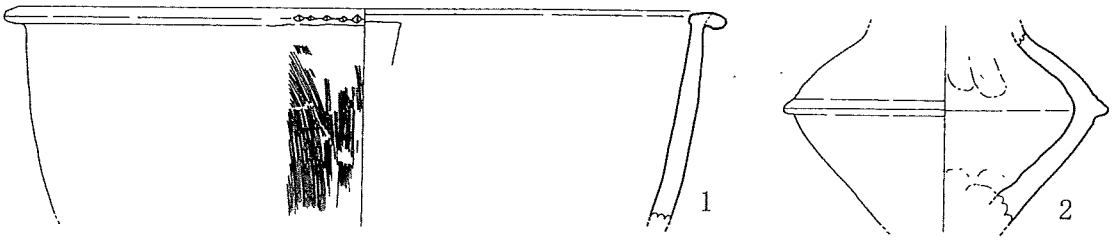
ことができた。遺物はわずかに数点確認できたのみである。

＊出土土器（第６図）

１は口縁部で、口径28.4cm、残存器高 8.1cm を測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・赤褐色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は縦方向の工具ナデを施している。外面は縦方向のハケ目を施しており、一部ヨコナデがみられる。口縁部はヨコナデで、刻み目が施されている。２は胴部で、最大径 12.8cm、残存器高 7.7cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面はナデを施している。外面の一部に黒斑がみられる。



第５図　２号遺構平面図(S=1/60)



第６図　２号遺構出土土器実測図(S=1/3)

3）11号遺構

＊遺構（第７図）

調査区のほぼ中央に位置する遺構で、6.0 m × 4.8 mのやや楕円形の住居跡である。中央部分には 0.94 m × 0.98 mの円形で、床面からの深さ 0.3m の土坑がある。ほぼ平坦な床面からはいくつかの柱穴を検出することができた。

＊出土土器（第８図）

１は甕の口縁部で、口径 29.6cm、残存器高 7.4cm を測る。色調内面は淡赤褐色である。外面は橙褐色で、一部暗褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、内面は丁寧なナデで、外面はナデのち縦方向のハケ目を施している。２は口縁部で、残存器高は 3.0cm を測る。色調は、内外面ともに

橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面及び口縁部はナデで、外面はハケ目を施している。

＊出土石器（第９図）

１は打製石鏃で基部の一部を欠損しているが、長さ 3.45cm、幅 1.6cm、厚さ 0.45cm を測る。材質はサヌカイトである。２は石戈で一部しか残存していないが、長さ 6.5cm、幅 4.2cm を測る。材質は粘板岩である。

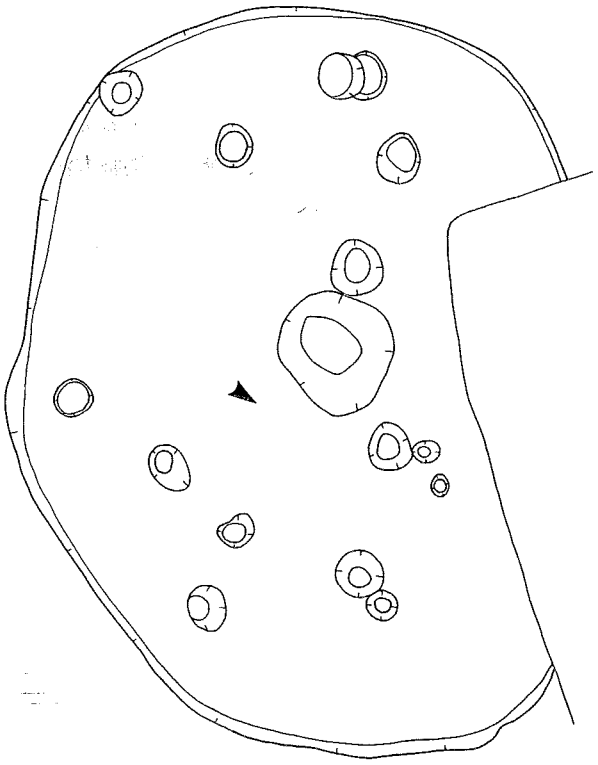
4）12号遺構

＊遺構（第 10 図）

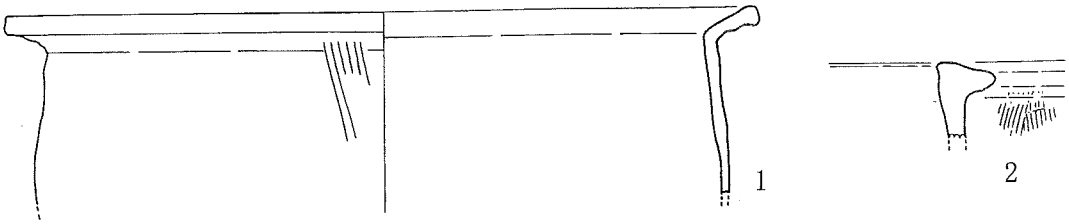
調査区のほぼ中央の東端に位置する遺構で、南北 2.7 m、東西 3.6 mの長方形の遺構で、深さ 0.45 mを測る。床面はほぼ平らで、柱穴等は検出されていない。

＊出土土器（第 11 図）

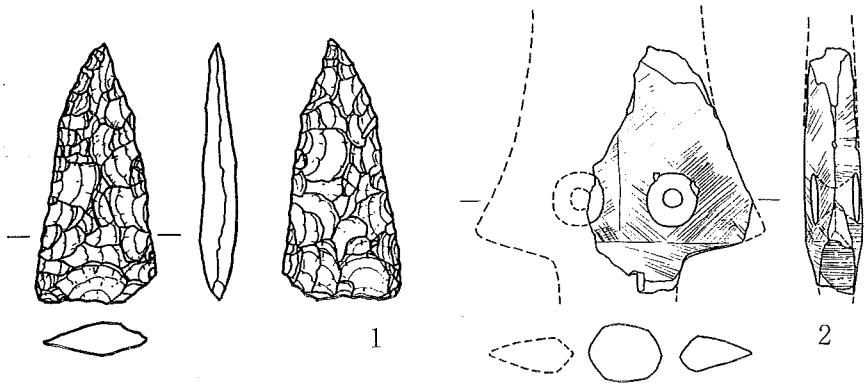
１は 甕の底部で、底径 8.4cm、残存器高 3.5cm を測る。色調外面は淡褐色で、一部明橙褐色である。胎土は石英・角閃石・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、外面上部は縦方向のハケ目を施しており、下部は縦方向のハケ目ののち横方向のナデを施している。２は壷の口縁部で、口径 9.6cm、残存器高 4.1cm を測る。色調は、内外面ともに暗褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、内面はナデで、一部指によるオサエの跡がみられる。外面はナデである。３は甕の底部で、底径 6.5cm、残存器高は 6.75cm を測る。色調は内外面ともに、淡褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面上部は縦方向のハケ目で、下部は指による



第７図　11号遺構平面図(S=1/60)

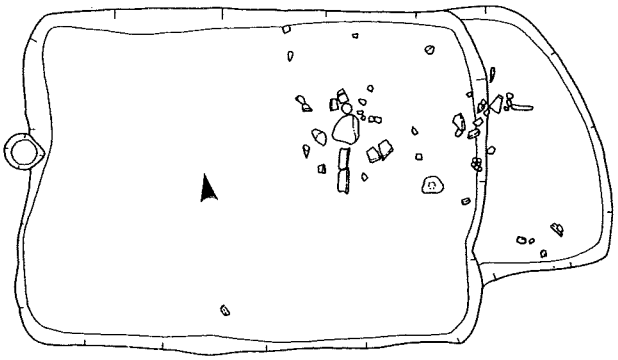


第８図　11号遺構出土土器実測図(S=1/3)

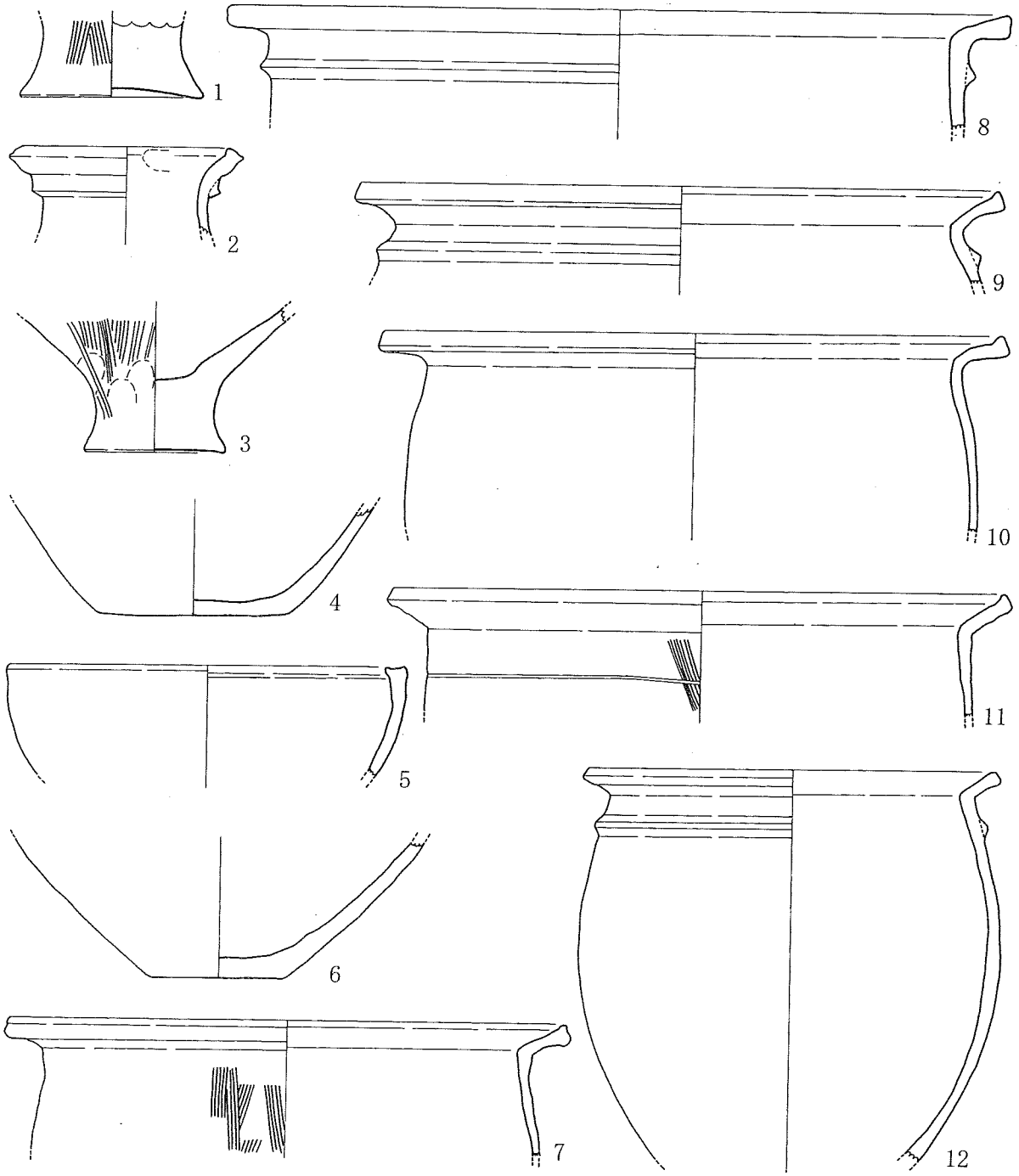


第９図　11号遺構出土石器実測図(S=1/1)(S=1/2)

ヨコナデが施されている。4は壷の底部で、底径9.0cm、残存器高は 5.1cm を測る。色調内面は明褐色で、外面は淡褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面はナデで、外面はヘラ磨きである。5は鉢の口縁部で、口径は 18.4cm、残存器高は 5.1cm を測る。色調内面は淡褐色で、外面は淡橙褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。6



第10図　12号遺構平面図(S=1/60)



第11図　12号遺構出土土器実測図(S=1/3)

は壷の底部で、底径 6.2cm、残存器高 6.3cm を測る。色調内面は暗褐色で、外面は暗褐色、一部淡褐色である。胎土は角閃石・白色粒・砂粒・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面がナデと指オサエで、外面はヘラ磨きである。また外面の一部に黒斑がみられる。7は甕の口縁部で、口径 25.9cm、残存器高 6.1cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面は暗茶褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面がナデで、外面口縁部はヨコナデ、下部は縦方向のハケ目を施している。また外面の一部に黒斑がみられる。8は甕の口縁部で、口径 36.0cm、残存器高は 5.3cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデを施している。9は甕の口縁部で、口径 29.8cm、残存器高 4.3cm を測る。色調内面は灰褐色で、一部橙褐色である。外面は淡赤褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデを施している。また、外面部は1条の突帯がめぐる。10 は甕の口縁部で、口径 28.8cm、残存器高 9.0cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は橙褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面及び口縁部はナデで、外面下部は縦方向のハケ目を施している。また内面の一部に黒斑がみられる。11 は甕の口縁部で、口径 28.4cm、残存器高 5.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面及び口縁部がナデで、外面下部は縦方向のハケ目を施している。また外面には1条の条線がめぐる。12 は甕で、口径 19.0cm、残存器高 18.0cm を測る。色調内面は暗橙褐色で、一部橙褐色である。外面は暗褐色で、一部淡褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成はや不良である。調整方法は内外面ともにナデを施している。また外面の口縁下部には1条の突帯がめぐる。

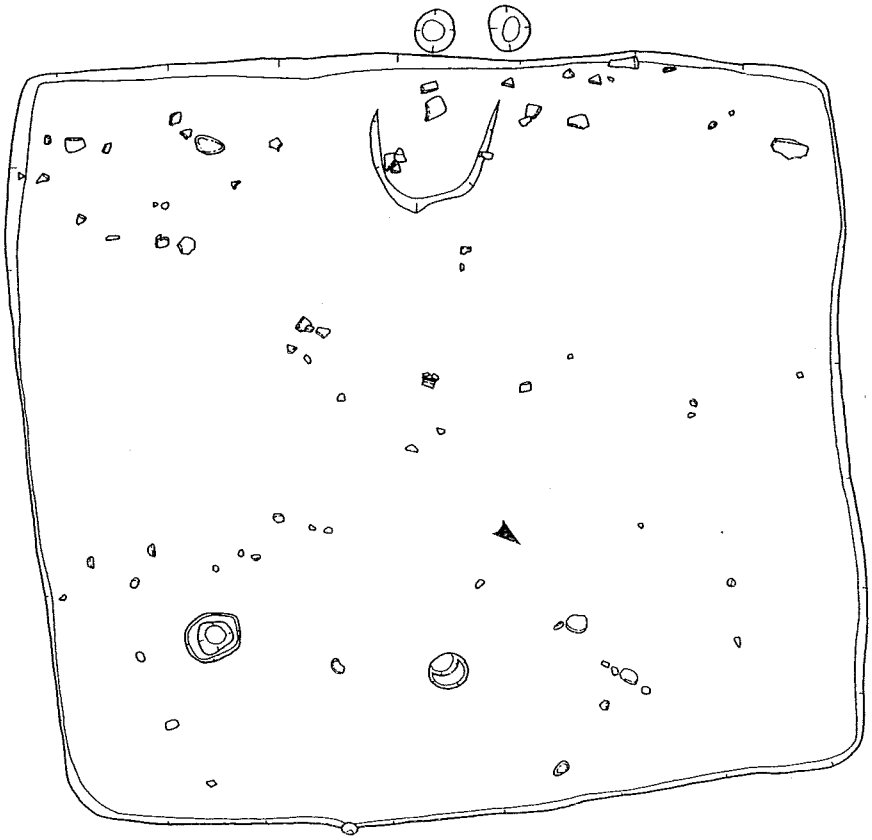
5）4号遺構

＊遺構（第 12 図）

調査区のほぼ中央に位置する遺構で、長軸 6.5 m、短軸 6.1 m、深さ 0.12 mを測る。床面は平坦でいくつかの柱穴を確認できた。カマドは西壁に造られていたと思われ、わずかな掘り込みと焼土が確認できたのみである。

＊出土土器（第 13 図）

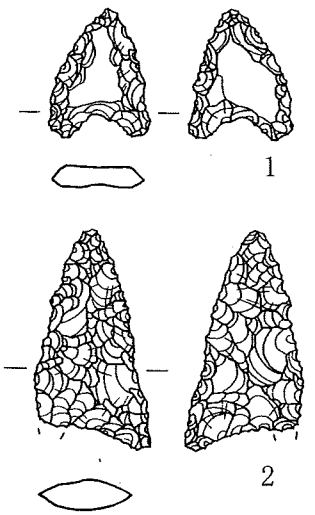
1はハソウの口縁部で、口径 11.6cm、残存器高 3.5cm を測る。色調は、内外面ともに赤灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。2は蓋坏で、口径 13.4cm、残存器高 3.55cm を測る。色調は、



第12図　4号遺構平面図(S=1/60)

第13図　4号遺構出土土器実測図(S=1/3)

内外面ともに灰黄色である。胎土は雲母・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は回転ナデ後、指オサエ。外面上部はヘラキリ後ナデ、下部は回転ナデである。3は脚付埦で、口径 10.8cm、底径 9.4cm、器高 12.8cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は白色粒・灰色砂粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、表面剥落のため不明である。4は甕の口縁部で、口径 16.6cm、残存器高 4.1cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。5は甑で、口径 30.2cm、底径 14.0cm、器高 31.75cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエ後ナデ、外面は上部はヨコナデ、下部はタタキ後ヨコナデである。6は壷の口縁部で、口径 22.3cm、残存器高 8.1cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はヨコナデ、外面上部は指オサエ後ナデ、下部はハケ目を施している。



第14図　4号遺構出土石器実測図(S=1/1)

＊出土石器（第 14 図）

1は打製石鏃で、長さ 1.7cm、幅 1.35cm、厚さ 0.3cm を測る。材質はサヌカイトである。2は打製石鏃で片側抉入部の一部を欠損しているが、長さ 2.95cm、幅 1.55cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。

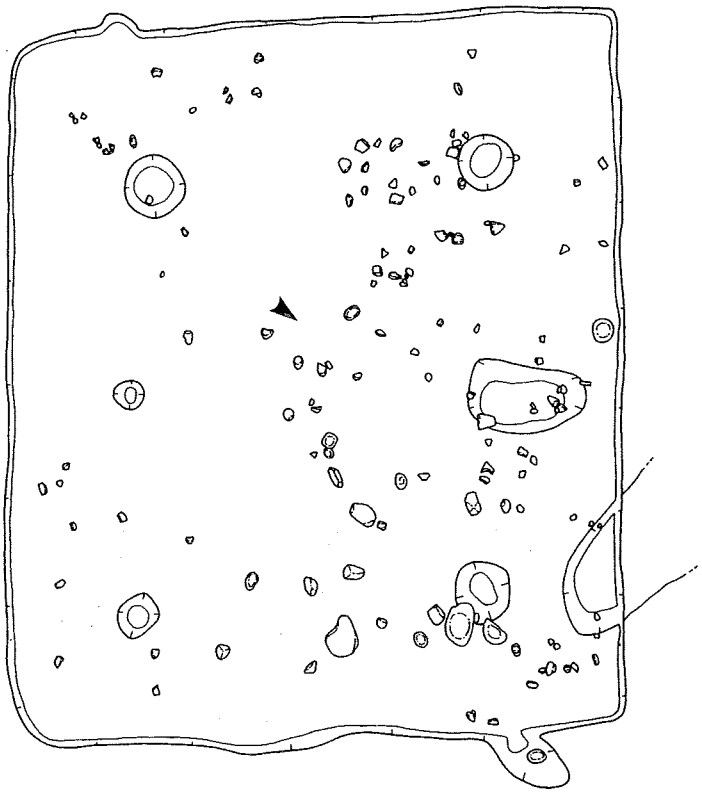
6）6号遺構

＊遺構（第 15 図）

調査区の西端に位置する遺構で、長軸 5.7 m、短軸 4.9 m、深さ 0.14 mを測る。床面は平坦で、壁に平行して柱穴が並ぶ。カマドは北西壁に造られていたと思われ、掘り込みと焼土が確認できた。

＊出土土器（第 16 図）

1は坏身で、口径 12.6cm、受部径は 14.8cm、器高 3.25cm を測る。色調内面は灰色で、外面は薄灰褐色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面上部はナデ、下部は指オサエ後ナデである。外面上部はナデで、下部は回転ヘラキリである。2は坏身で、受部径 15.4cm、残存器高 3.3cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。3は鉢で、口径 18.2cm、器高 7.4cm を測る。色調は、内面は橙色で、外面は橙色、一部黒灰色である。胎土は角閃石・長石・石英・赤褐色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はヘラケズリである。



第15図　6号遺構平面図(S=1/60)

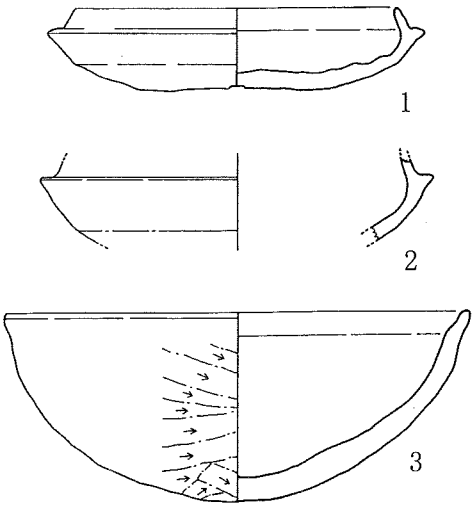
7）7号遺構

＊遺構（第 17 図）

調査区のほぼ中央に位置する遺構で、長軸 6.8 m、短軸 5.1 m、深さ 0.05 mを測る。床面は平坦で、いくつかの柱穴を検出した。カマドは西壁に作られていたと思われ、掘り込みと焼土が確認できた。

＊出土土器（第 18 図）

1は蓋坏で、口径 14.3cm、器高 4.7cm を測る。色調内面は灰黄色で、外面は薄灰褐色である。胎土は白色粒・雲母・石英・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデで、外面は回転ナデと、回転ヘラキリである。2は長頸壷で、口径 9.6cm、器高 14.5cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。焼成は良



第16図　6号遺構出土土器実測図(S=1/3)

好である。調整方法は、内面上部は不定方向のミガキで、下部はナデである。外面は、ミガキである。

8）9号遺構・40号土坑

＊遺構（第19図）

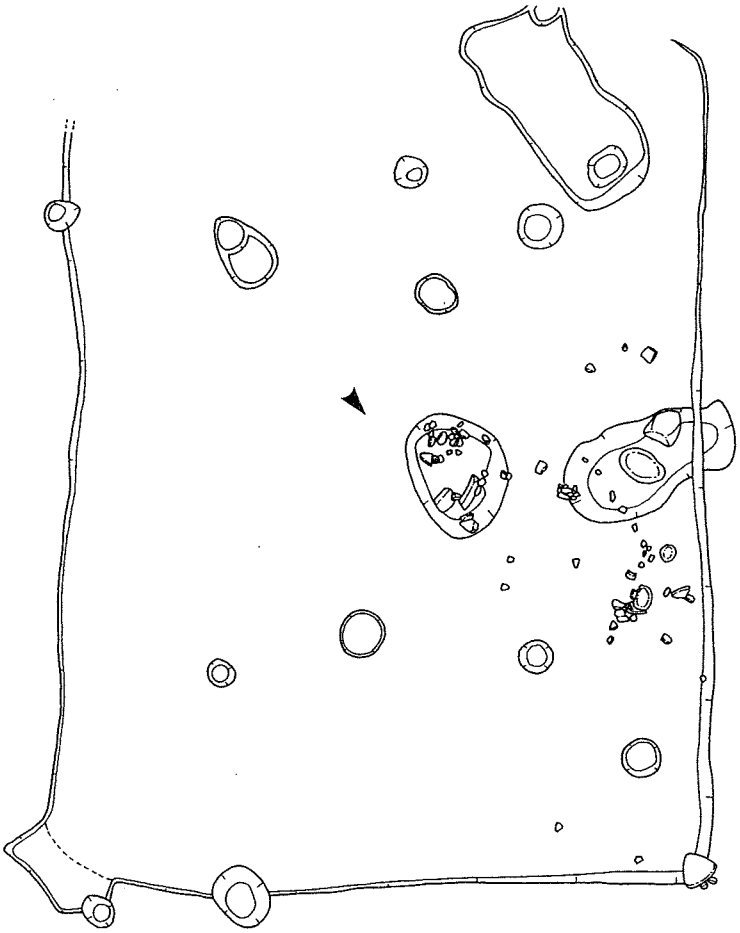
調査区の西側に位置する遺構で、9号遺構は南北4.4 m、東西4.1 m、深さ0.15 mを測り、ほぼ正方形をしている。40号土坑は9号遺構の中に掘り込んだ状態で検出された。径2.9 m、深さ0.32 mのやや円形をしている。9号遺構のカマドは北側壁に造られていたと思われ、床面に焼土のみを確認できた。

＊9号遺構出土土器（第20図）

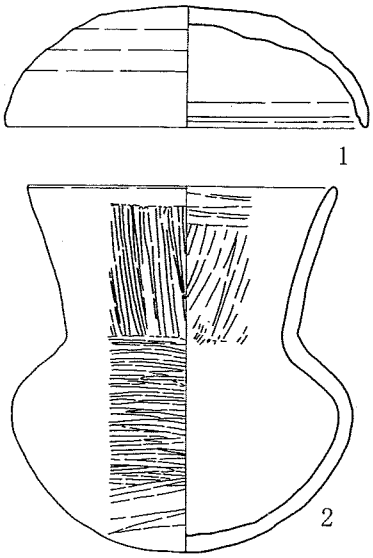
1は蓋坏で、口径13.4cm、器高3.8cmを測る。色調は、内外面ともに灰色で、一部濃灰色である。胎土は石英・雲母・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面上部は回転ナデ後指オサエで、下部は回転ナデである。外面上部は回転ヘラケズリで、下部は回転ナデである。2は蓋坏で、口径12.8cm、器高は4.2cmを測る。色調は、内外面ともに灰色で、一部濃灰色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面上部は指オサエ後不定方向のナデで、下部は回転ナデである。外面上部は回転ヘラケズリで、下部は回転ナデである。3は脚部で、底径13.3cm、残存器高5.3cmを測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、表面が剥落しているため不明である。

＊40号土坑出土土器（第21図）

1は蓋坏で、口径13.5cm、器高4.2cmを測る。色調内面は薄灰褐色で、外面は灰色である。胎土は角閃石・石英・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面上部は指オサエ後不定方向のナデで、下部は回転ナデである。外面上部は回転ヘラケズリで、下部はナデである。2は蓋坏で、口径14.4cm、残存器高4.0cmを測る。色調内面は濃白茶色で、外面は白茶色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。3は蓋坏で口径14.0cm、残存器高2.6cmを測る。色調内面は灰色で、外面は暗灰色である。胎土は石英・雲母・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。4は蓋坏で、口径13.8cm、残存器高3.2cmを測る。色調は内外面ともに暗灰色で、一部褐色である。胎

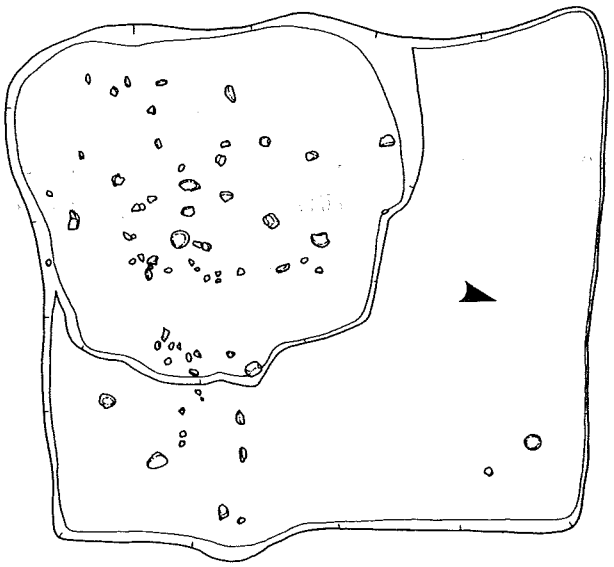


第17図　7号遺構平面図(S=1/60)

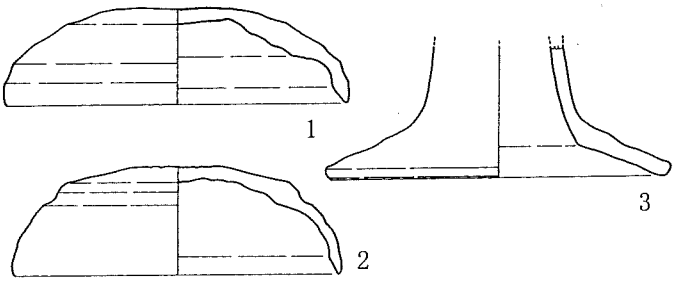


第18図　7号遺構出土土器
実測図(S=1/3)

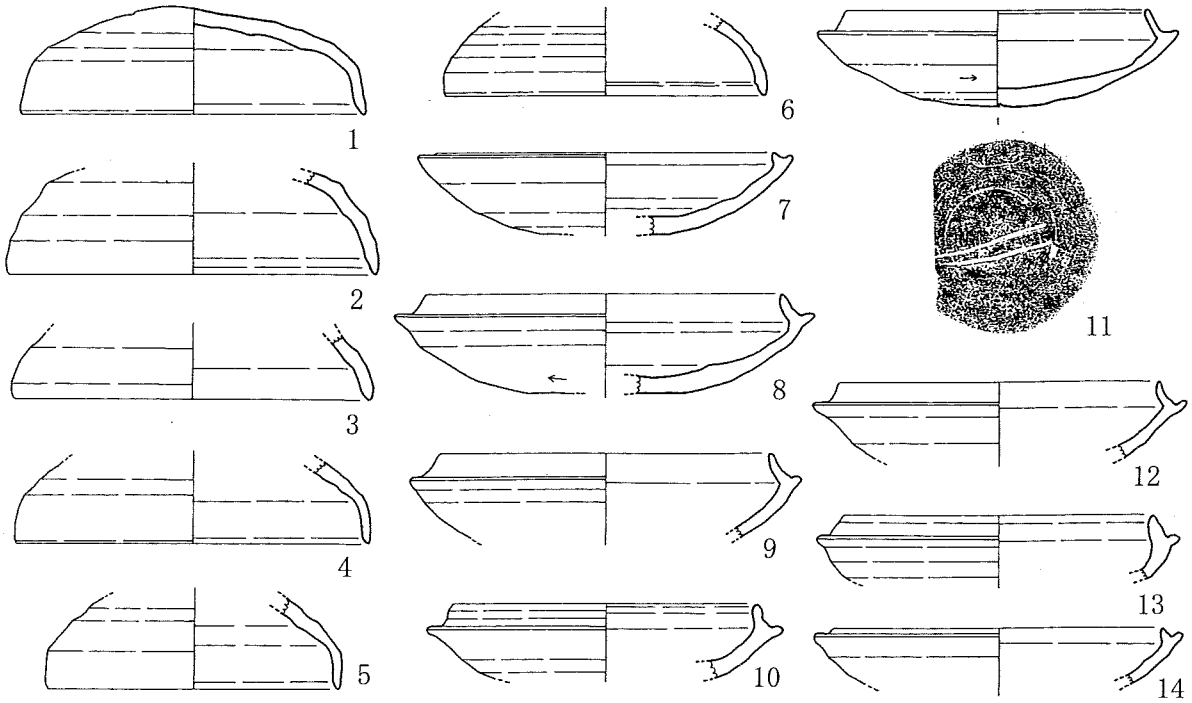
土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面上部はヘラケズリで、下部はナデである。5は蓋坏で、口径 11.4cm、残存器高 3.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄色である。胎土は雲母・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面上部は指オサエ後ナデで、下部は回転ナデである。外面上部は回転ヘラケズリで、下部はナデである。6は蓋坏で、口径 12.6cm、残存器高 3.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は雲母・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。7は坏身で、口径 13.2cm、受部径 14.8cm、残存器高 3.2cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面底部は指オサエ後ナデで、上部はナデである。外面底部は回転ヘラケズリで、上部はナデである。8は坏身で、口径 14.0cm、受部径 16.6cm、残存器高は 3.9cm を測る。色調内面は灰色で、外面は薄灰黄褐色である。胎土は白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は内面底部は指オサエ後ナデで、上部はナデである。外面底部は回転



第19図　9号遺構・40号土坑平面図(S=1/60)



第20図　9号遺構出土土器実測図(S=1/3)



第21図　40号土坑出土土器実測図(S＝1/3)

ヘラキリで、上部はナデである。９は坏身で、口径 13.0cm、受部径 15.4cm、残存器高 3.3cm を測る。色調内面は灰白色で、一部灰橙色である。外面は灰橙色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。10 は坏身で、口径 12.0cm、受部径 14.1cm、残存器高は 2.9cm である。色調内面は薄灰褐色で、外面は灰色である。胎土は雲母・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。11 は坏身で、口径 11.9cm、受部径 14.4cm、器高 3.8cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面底部はナデで、口縁部分はヨコナデである。外面底部は回転ヘラケズリで、底部にはヘラ記号がある。12 は坏身で、口径 12.6cm、受部径 14.8cm、残存器高 3.0cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。13 は坏身で、口径 12.2cm、受部径 14.4cm、残存器高 2.5cm を測る。色調内面は灰色で、外面は灰黄色、一部灰黄褐色である。胎土は石英・白色粒・砂粒・角閃石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。14 は坏身で、口径 13.0cm、受部径 14.6cm、残存器高 2.2cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。

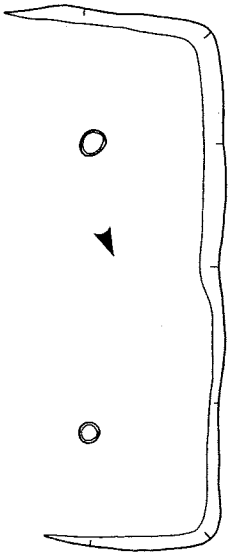
9）10号遺構

＊遺構（第 22 図）

調査区のほぼ中央に位置する。この遺構は北東側を後世の撹乱によって破壊されている。現存長は、南北 4.2 m、東西 1.6 m、深さ 0.15 mを測る。

＊出土土器（第 23 図）

１は蓋坏で、口径 13.6cm、残存器高 3.85cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。また外面の上部にヘラ記号がある。２は蓋坏で、口径 14.2cm、残存器高 4.4cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は灰黄褐色である。胎土は石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は不定方向のナデである。外面上部はヘラケズリ、下部はナデである。



第22図 10号遺構平面図(S=1/60)

2．溝状遺構

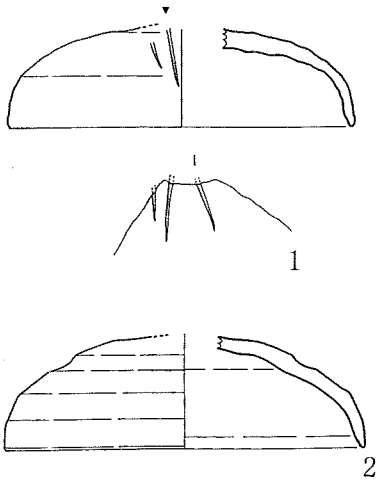
1）1 号 溝

＊遺構

この溝状遺構は調査区の東西をつらぬくように検出された。幅 0.7m、深さ 0.7m を測り、断面はやや上の拡がったコの字型をしている。溝状遺構の中からはほとんど遺物を確認することができず、時代を特定する資料があまり見当たらない。

＊出土石器（第 24 図・第 25 図）

１はエンドスクレイパーで、長さ 7.45cm、幅 9.4cm、厚さ 2.05cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。２は二次加工のある剥片で、長さ 2.8cm、幅 2.8cm、厚さ 1.2cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。３はスクレイパーで、長さ 3.05cm、幅 1.8cm、厚さ 0.65cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。４はスクレイパーで、長さ 4.45cm、幅 2.35cm、厚さ 0.5cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。５は使用痕のある剥



第23図 10号遺構出土土器
実測図(S=1/3)

片で、長さ2.55cm、幅2.95cm、厚さ0.7cmを測る。材質は姫島産黒曜石である。

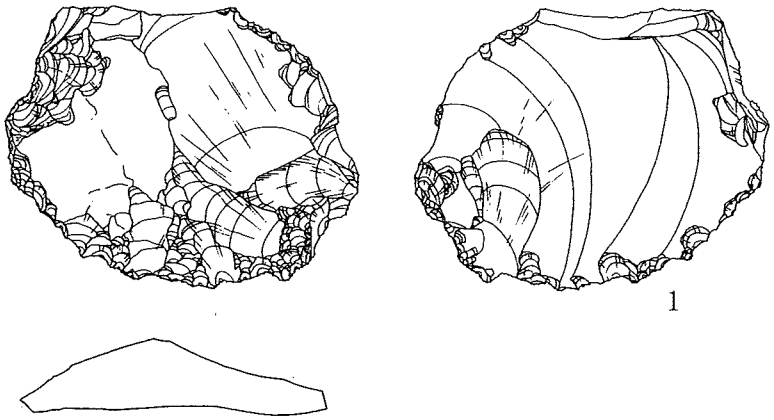
2）3号溝

＊遺構

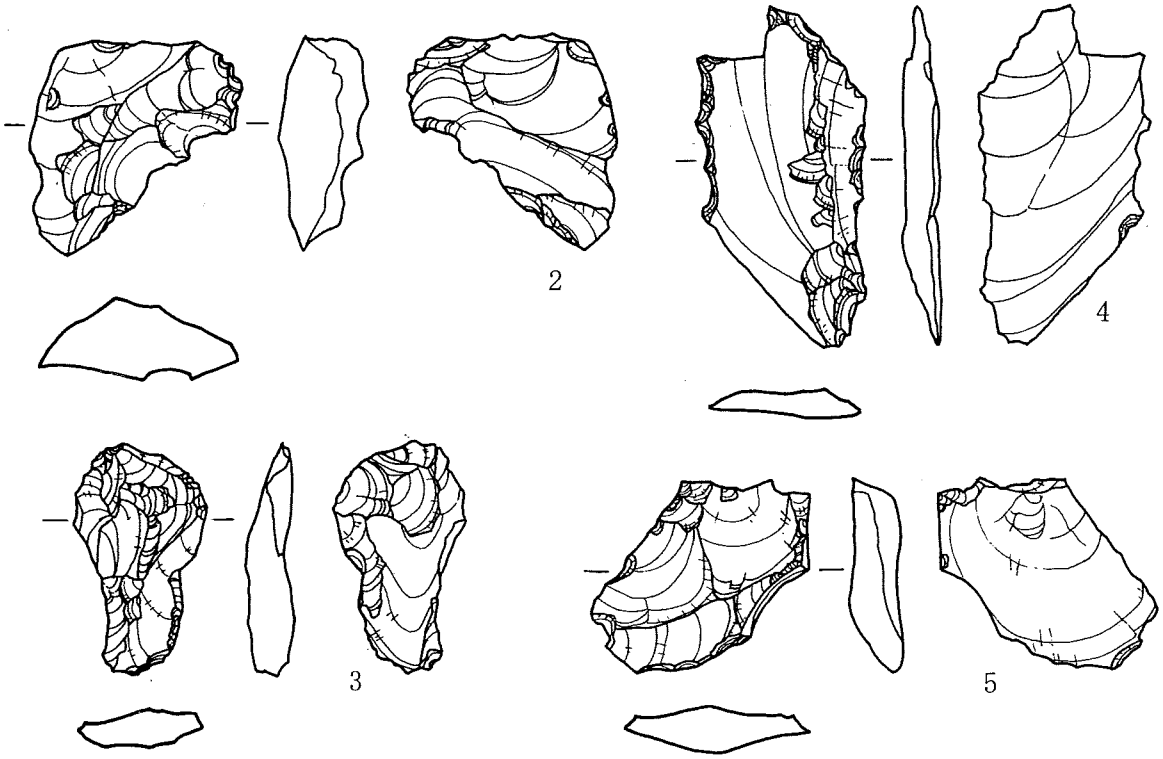
この遺構は調査区の中央部分、ほぼ東西に長く検出された。遺構の下部のみがわずかに検出できたのみである。現存長 10 m、幅 0.6 m、深さ 0.10 mを測る。

＊出土土器（第26図）

1は坏身で、口径 11.0cm、受部径 13.0cm、器高 4.7cm を測る。色



第24図　1号溝出土石器実測図(1)(S=1/2)



第25図　1号溝出土石器実測図(2)(S=1/1)

調は、内外面ともに明赤褐色である。胎土は角閃石・石英・長石・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともに丁寧なミガキである。

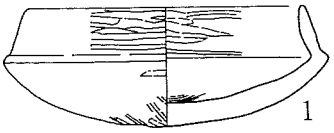
3．土　坑

1）15号土坑

＊遺構（第27図）

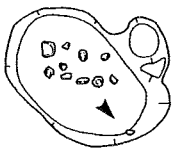
この遺構は調査区の東側に位置し、1.3 m× 1.1 mの楕円形をしている。深さは0.36 mを測る。

＊出土土器（第28図）

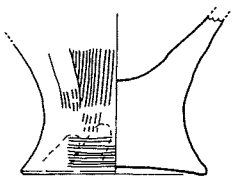


第26図　3号溝出土土器
実測図(S=1/3)

1は甕の底部で、底径 7.2cm、残存器高 6.2cm を測る。色調内面は灰褐色である。外面は淡褐色で、一部明赤褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデである。外面上部は縦方向のハケ目、下部はハケ目後指ナデである。



第27図 15号土坑平面図(S=1/60)

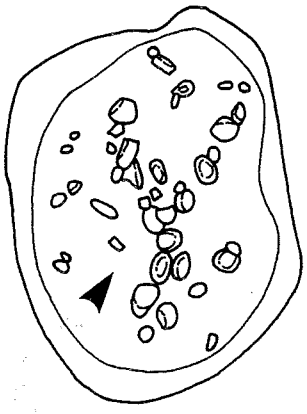


第28図 15号土坑出土土器実測図(S=1/3)

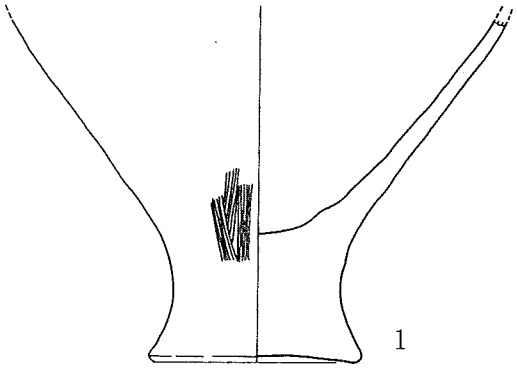
2）19号土坑

＊遺構（第29図）

調査区のほぼ中央に位置し、1.5 m× 1.1 mのやや角張った楕円形をしている。深さは 0.30 m を測る。



第29図 19号土坑平面図(S=1/30)



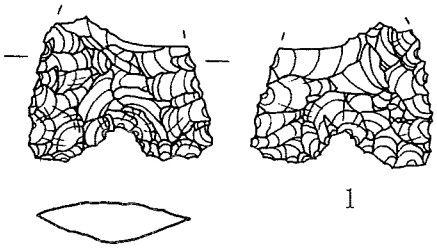
第30図 19号土坑出土土器実測図(S=1/3)

＊出土土器（第30図）

1は甕の底部で、底径 8.0cm、残存器高 13.5cm を測る。色調内面は暗黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面底部は指オサエで、他はナデである。外面上部は縦方向のハケ目で、下部は表面が摩滅しており、判別できない。

＊出土石器（第31図）

1は打製石鏃で一部を欠損しているが、長さ 1.9cm、幅 2.45cm、厚さ 0.5cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。

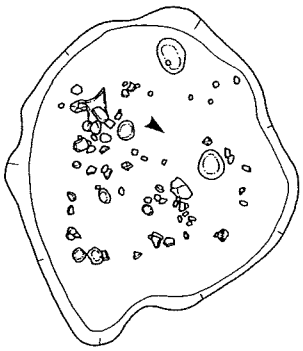


第31図 19号土坑出土石器実測図(S=1/1)

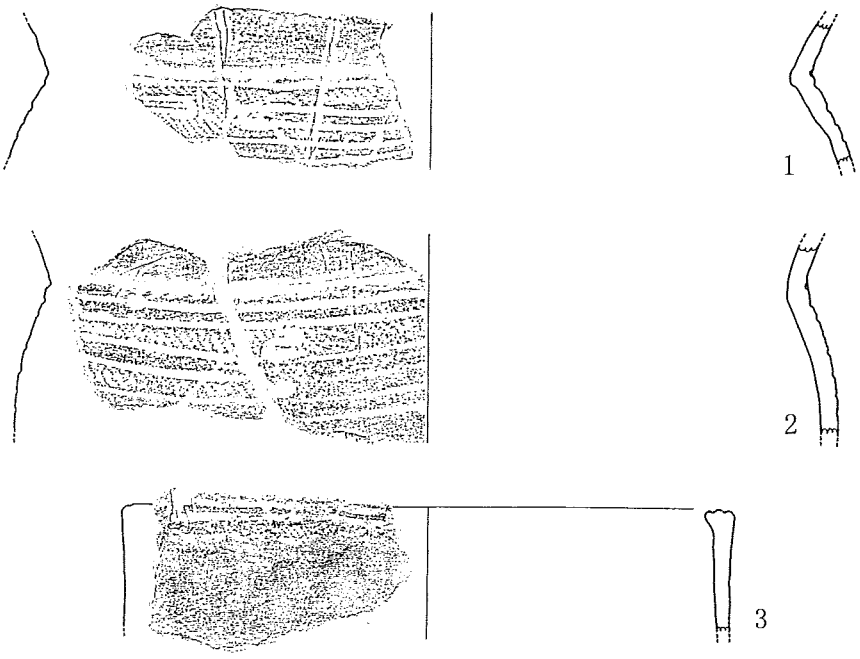
3）42号土坑

＊遺構（第32図）

調査区のほぼ中央に位置し、2.3 m× 2.3 mのやや角張った楕円形をしている。深さは0.10 mを測る。



第32図 42号土坑平面図(S=1/60)

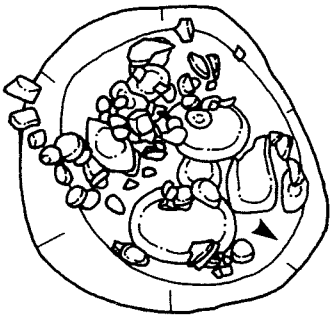


第33図 42号土坑出土土器実測図(1)(S=1/3)

＊出土土器（第33図・第34図）

1は深鉢の胴部で、頸部径 30.3cm、残存器高 5.4cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面はにぶい橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。外面は沈線とミガキが施されており、クビレ部やや下の部分には三日月形の文様が見られる。内面はナデ後ミガキである。2は深鉢の胴部で、頸部径 30.0cm、残存器高 7.5cm を測る。色調は、内外面ともににぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。外面は沈線、ミガキ、刺突文が施されており、内面はナデ後ミガキが施されている。3は深鉢の口縁部で、口径 23.2cm、残存器高 4.8cm を測る。色調内面は橙色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面は丁寧なナデで、口縁端部は2条の沈線が施されている。4は深鉢で、残存器高 6.1cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともに器面荒れのため調整が不明である。口縁端部は「く」の字型に内傾して1条の沈線が施されている。

第34図 42号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)



第35図 36号土坑平面図(S=1/30)

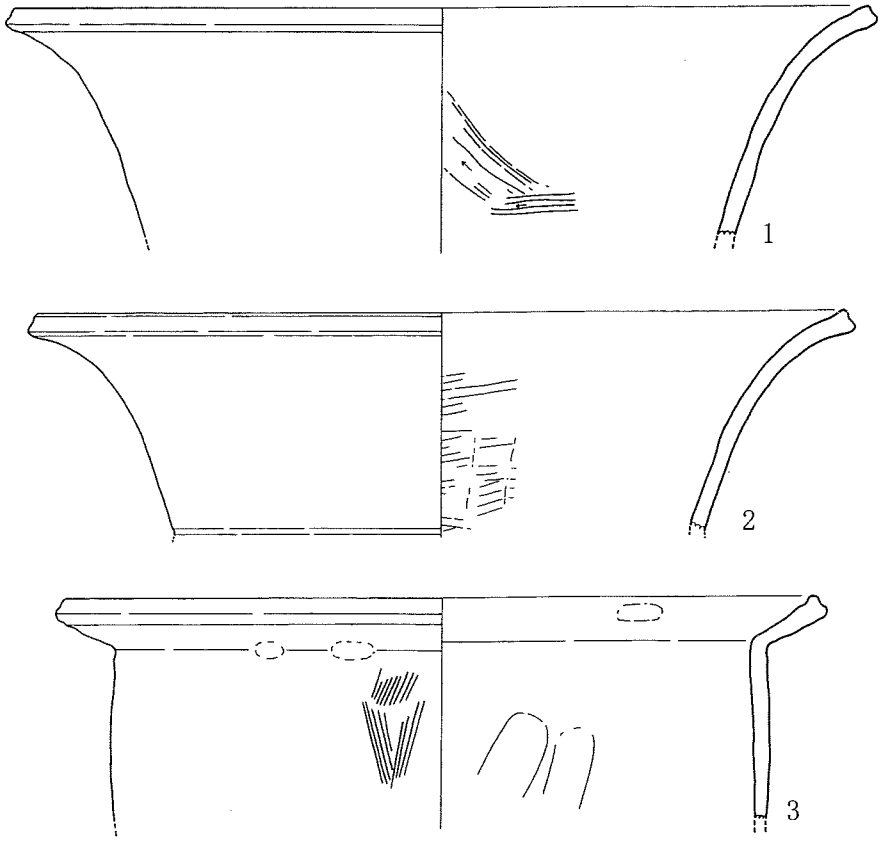
4）36号土坑

＊遺構（第35図）

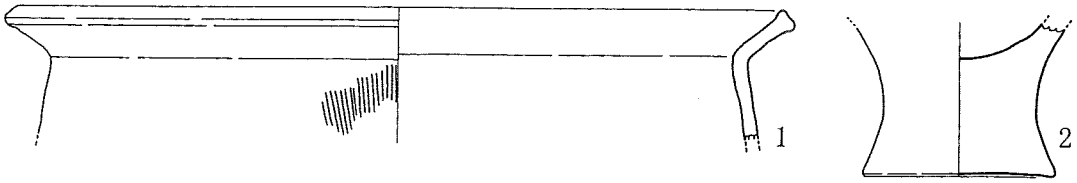
調査区のほぼ中央に位置し、1.3 m× 1.2 mの円形をしている。深さは0.45 mを測る。

＊出土土器（第36図）

1は壷の口縁部で、口径 33.8cm、残存器高 9.0cm を測る。色調は、内外面ともに淡橙褐色である。胎土は雲母・角閃石・石英・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はハケ目後不定方向のナデで、外面は縦方向のナデである。また口縁部は指によるヨコナデが施されている。2は壷の口縁部で、口径 31.8cm、残存器高 8.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はハケ目で仕上げている。外面は器面荒れのため、不明である。3は甕の口縁部で、口径 29.6cm、残存器高 8.7cm を測る。色調内面は灰褐色で、一部暗褐色である。外面は灰褐色である。胎土は角閃石・石英・雲母・砂粒を含



第36図 36号土坑出土土器実測図(S=1/3)



第37図 59号土坑出土土器実測図(S=1/3)

んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。口縁部は指によるヨコナデである。

5）59号土坑

＊遺構

調査区の東西をつらぬく1号溝にまたがって所在し、0.3 m×0.22 mの不定形土坑で、深さ0.10 mを測る。

＊出土土器（第37図）

1は甕の口縁部で、口径 30.0cm、残存器高 5.0cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。口縁部はヨコナデである。2は甕の底部で、底径 7.4cm、残存器高 6.0cm を測る。色調内面は暗褐色で、外面は淡褐色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面は指オサエで、外面はハケ目が施されている。

4.その他の遺構

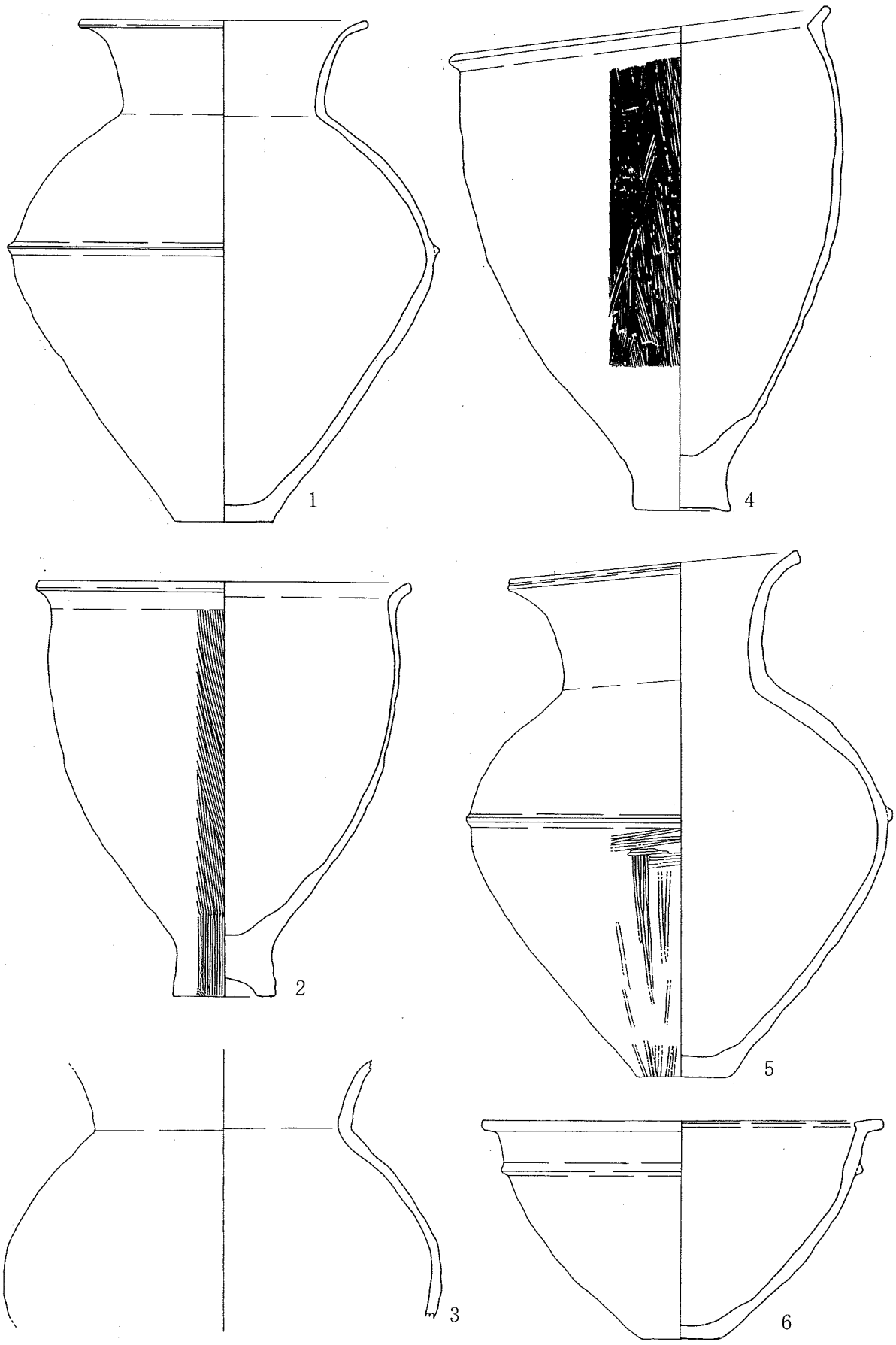
1）4号土器溜

＊遺構

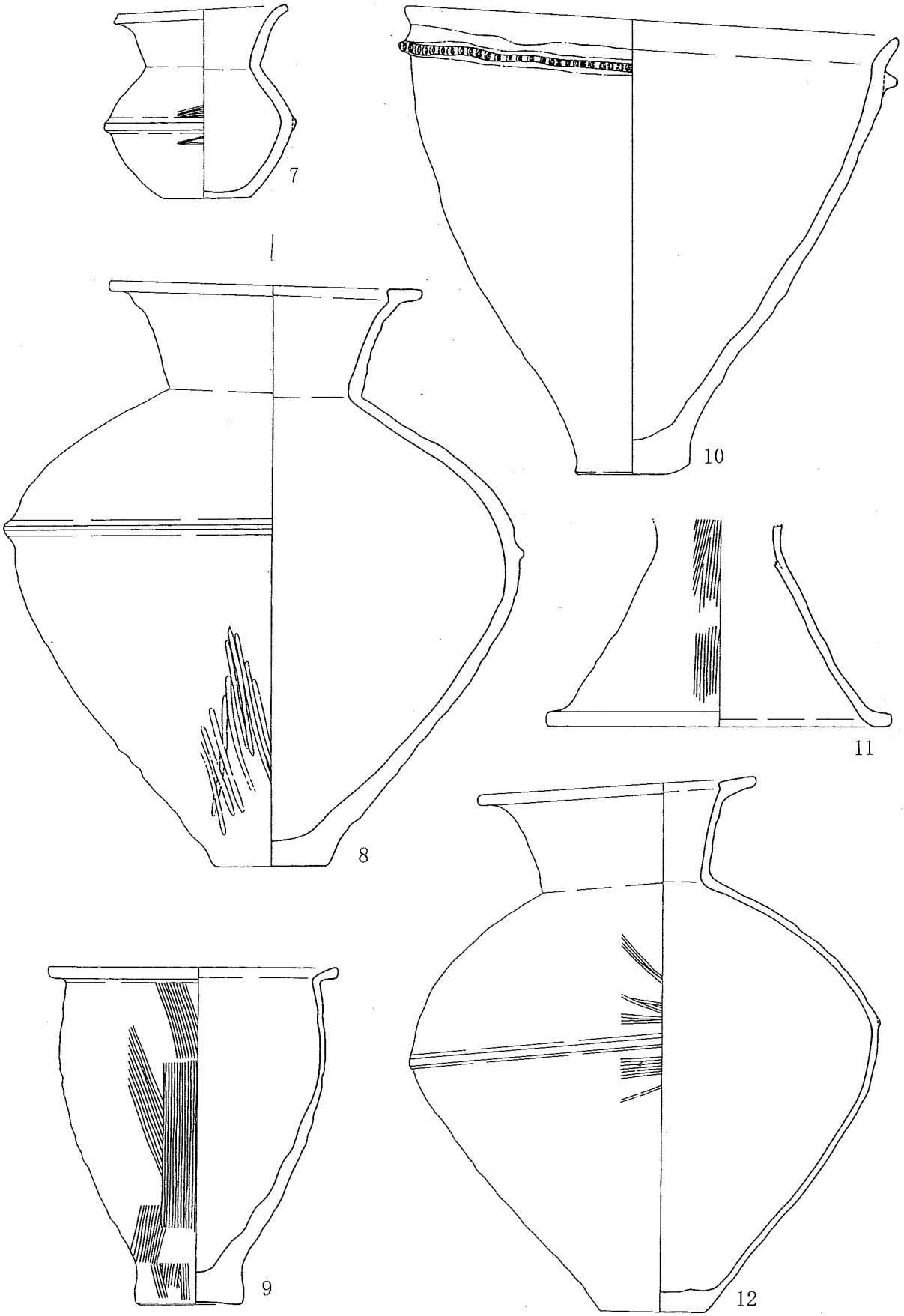
調査区の西端に位置し、遺構のほとんどは調査区外であったため、規模は確認できなかった。遺構からは遺物が折り重なるようにして検出された。

＊出土土器（第38図・第39図・第40図）

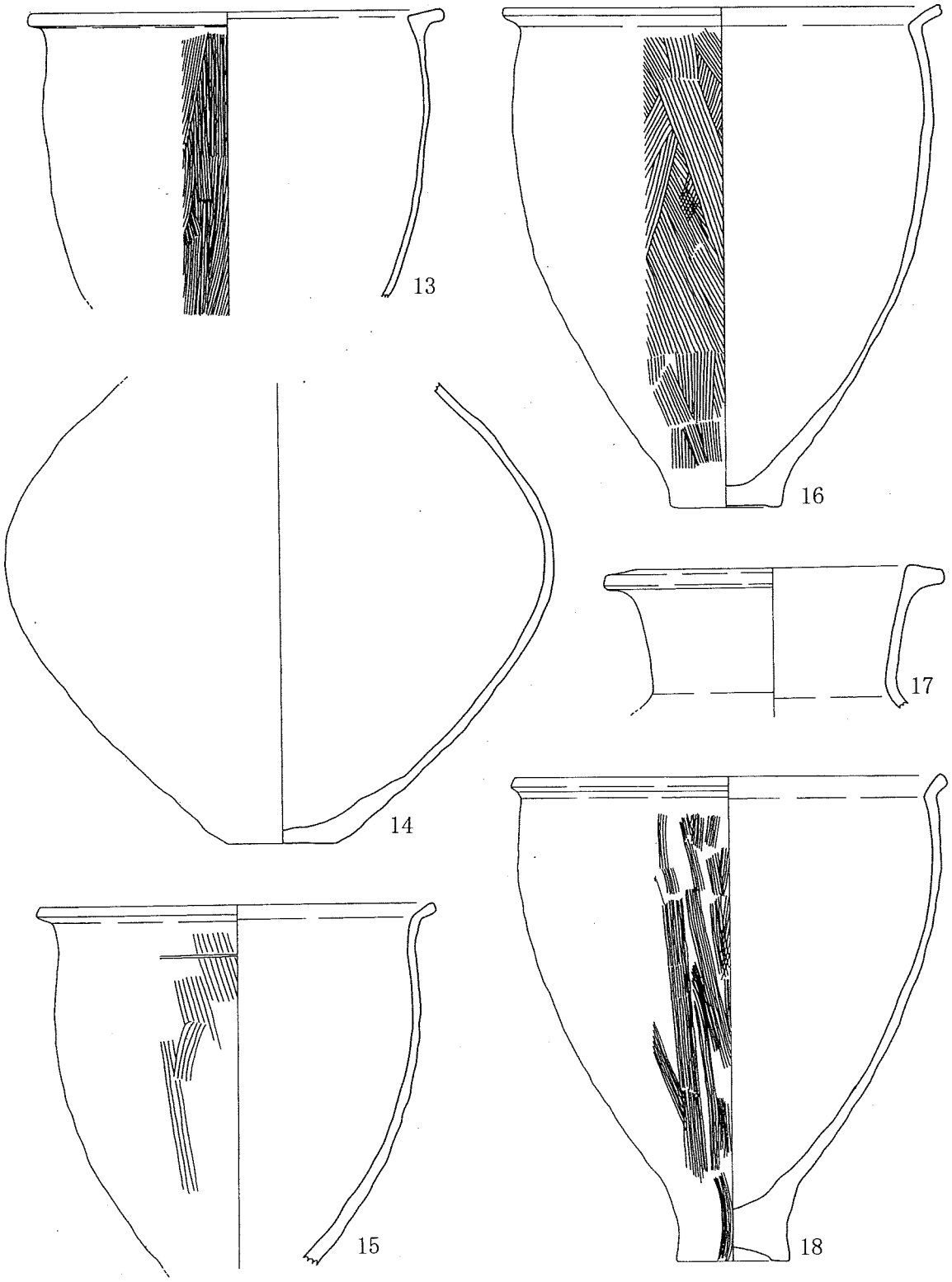
1は壷で、口径 20.0cm、器高 35.0cm、底径 7.0cm、頸部径 14.7cm、最大胴部径 30.8cm を測る。色調内面は赤褐色で、外面は赤黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてナデで、外面胴部は丁寧なヘラミガキとナデで仕上げている。また胴部には1条の突帯がめぐる。2は甕で、口径 26.2cm、器高 29.0cm、底径 7.2cm を測る。色調内面は赤褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてナデで、外面胴部はハケ目が施されている。3は壷の胴部で、頸部径 18.0cm、残存器高は 18.0cm を測る。色調は内外面ともに赤褐色で、外面の一部に黒色部分がある。胎土は雲母・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。4は甕で、口径 26.2cm、器高 33.7cm、底径 6.8cm を測る。色調は内外面ともに赤茶褐色で、一部に黄褐色の部分がある。また内外面に黒褐色部分があり、外面の一部には黒斑がある。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面の胴部は縦方向のハケ目を施している。5は壷で、口径 20.3cm、底径 6.4cm、胴部最大径 30.2cm、器高 35.9cm を測る。色調は、内外面ともに茶褐色で、一部赤褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面胴部の上半部にかけてはナデで、外面胴部の下半部はナデのち不定方向のヘラケズリである。また胴部に突帯が1条めぐる。6は鉢で、口径 28.2cm、器高 15.3cm、底径 5.4cm を測る。色調は内外面ともに黄褐色で、一部に赤褐色部分がある。また、内外面の一部に黒斑がみられる。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。



第38図　4号土器溜出土土器実測図(1)(S=1/4)



第39図　4号土器溜出土土器実測図(2)(S=1/4)



第40図　4号土器溜出土土器実測図(3)(S=1/4)

調整方法は、内面はヘラミガキで、一部ナデがみられる。口縁部はナデで、外面の胴部から下部にかけては、ヘラミガキが施されている。また、外面口縁下部には、突帯が1条めぐる。7は小型の壷で、口径11.8cm、器高13.2cm、底径5.9cm、頸部径8.0cm、胴部径13.6cmを測る。色調は内外面ともに暗褐色で、外面の一部に黒斑が見られる。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の口縁部にかけてナデで、外面胴部の上半部はヘラミガキで、下部はヘラミガキとナデが施されている。また胴部には突帯が1条めぐる。8

は壷で、口径 22.0cm、器高 41.1cm、底径 7.9cm、頸部径 13.7cm、胴部径 36.8cm を測る。色調は内外面ともに白黄褐色で、外面の一部に黒斑が見られる。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデである。口縁部から外面にかけては、ナデで一部ヘラミガキが見られる。また、外面胴部には突帯が 1 条めぐる。9 は甕で、口径 20.5cm、器高 23.7cm、底径 7.3cm を測る。色調は内外面ともに赤褐色で、一部黄褐色の部分がある。また内外面ともに、黒斑がみられる。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内部から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また底部最下部は、指でヨコナデを施している。10 は甕で、口径 34.7cm、器高 32.0cm、底径 8.0cm を測る。色調は内外面ともに赤褐色で、内面の一部に黒斑が見られる。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。また、口縁下部には刻み目の施された突帯が 1 条めぐる。11 は口径 24.0cm、残存器高 14.2cm を測る。色調は、内外面ともに赤褐色である。胎土は長石・石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はハケ目のちナデである。12 は壷で、口径 19.6cm、底径 7.6cm、胴部最大径 33.8cm、器高 37.2cm を測る。色調は、内外面ともに赤茶褐色である。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は丁寧なヘラミガキである。また胴部に突帯が 1 条めぐる。13 は甕で、口径 26.8cm、残存器高 18.3cm を測る。色調は内外面ともに淡褐色で、一部淡赤褐色である。胎土は長石・雲母・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面は縦方向のハケ目である。14 は壷で、底径 7.0cm、残存器高 29.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤黄褐色である。また外面の一部に黒斑がみられる。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はヘラミガキである。15 は甕で、口径 25.3cm、残存器高 23.1cm を測る。色調は内外面ともに黄赤褐色で、一部黒斑部分がある。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部はハケ目、一部ナデが施されている。また、外面口縁下部には、1 条の沈線がめぐる。16 は甕で、口径 28.0cm、底径 7.1cm、器高 31.8cm を測る。色調は、内外面ともに赤褐色で、一部白黄褐色である。胎土は角閃石・長石・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部はハケ目を施している。17 は壷の口縁部で、口径 21.4cm、残存器高 9.0cm を測る。色調は、内外面ともに黄茶褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。18 は甕で、口径 27.6cm、器高 30.9cm、底径 7.2cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色で、一部赤褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部はハケ目を施している。

第 3 節　第 2 次調査

1. 住 居 跡

1）24号遺構・92号土坑

＊遺構（第 41 図）

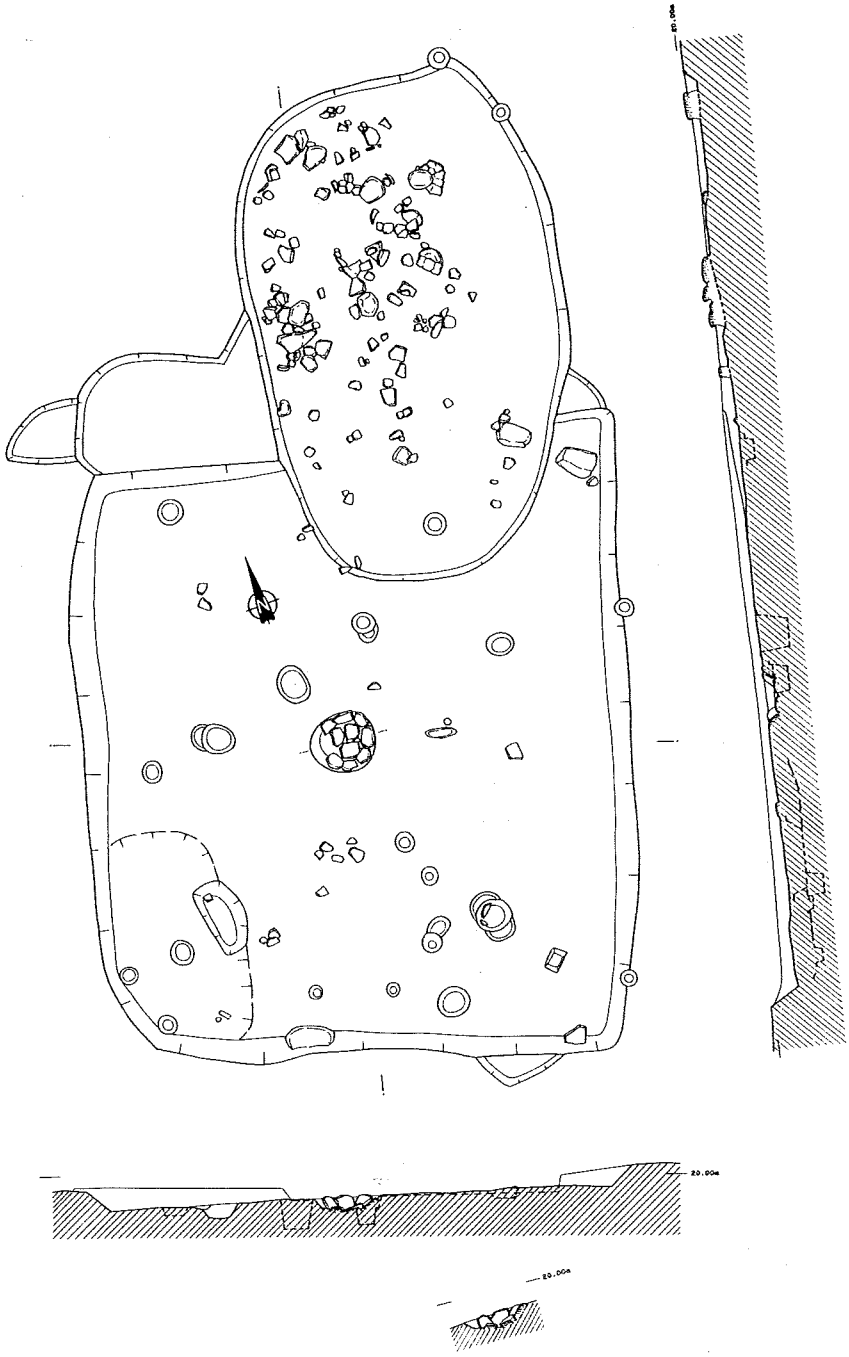
24 号遺構は南北 6.2 m、東西 5.8 m、深さ 0.2 mの長方形の住居跡で、中央に石組みの炉をもつ。炉は径 18cm の川石を底にして、その周りを囲むように径 12cm 程の川石を配している。また炉の東側には、径 30cm 程の川石を半分床面に埋めた状態で立てて配している。床面はほぼ平坦で、いくつかの柱穴を確認することができた。

92 号土坑は 24 号遺構を切るように重なって検出された。5.3 m × 3.4m の楕円形をしている。深さは 0.15 mを測る。

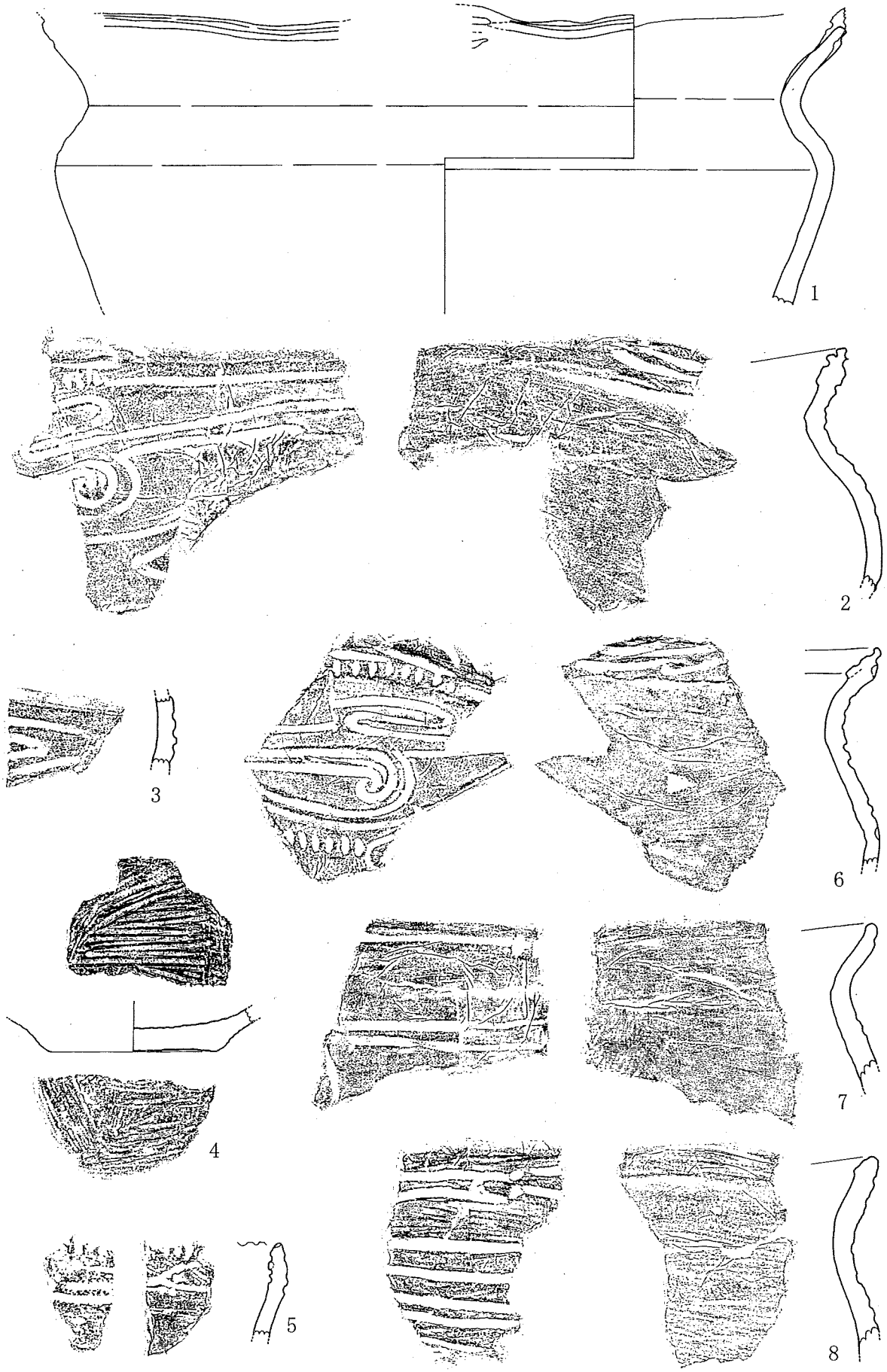
＊ 24 号遺構出土土器（第 42 図・第 43 図・第 44 図）

1 は残存器高 15.5cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は灰褐色である。胎土は角閃石・金雲母・長石・

白色粒・赤色粒を含んでいる。焼成は良好である。内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のヘラケズリである。２は鉢で、残存器高 12.5cm を測る。色調内面は橙色で、外面はにぶい褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面は削りやナデで調整されており、一部にミガキがみられる。外面はナデて仕上げられており、沈線が施されている。３は深鉢の胴部で、残存器高 3.8cm を測る。色調は、内外面ともににぶい褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデが施されており、外面には沈線により模様が描かれている。4 は底部で、底径は 8.8cm、残存器高 2.2cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は角閃石・石英・長石を含んでいる。焼成は良好である。器面は巻貝条痕で仕上げられており、外面底部は指オサエである。５は深鉢の口縁部で、残存器高 5.0cm を測る。色調は、内外面ともに黄灰色である。胎土は石英・長石を含んでいる。焼成は良好である。器面はナデが施されており、沈線と縄文により仕上げられている。６は深鉢の口縁部で、残存器高 11.4cm を測る。色調内面は橙色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はナデで仕上げられており、外面はナデで調整したのち、沈線と刻み目、刺突文で仕上げられている。７は深鉢の口縁部で、残存器高 8.5cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はナデやミガキで仕上げられており、外面はナデとミガキで調整したのち沈線と刺突文で仕上げられている。８は深鉢の口縁部で、残存器高 10.3cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面はにぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラ研磨で、外面はヘラ研磨の後ミガキで調整したのち、沈線を施している。9 は深鉢の口縁部で、口径 35.0cm、残存器高 11.5cm を測る。色調は、内外面ともにぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。

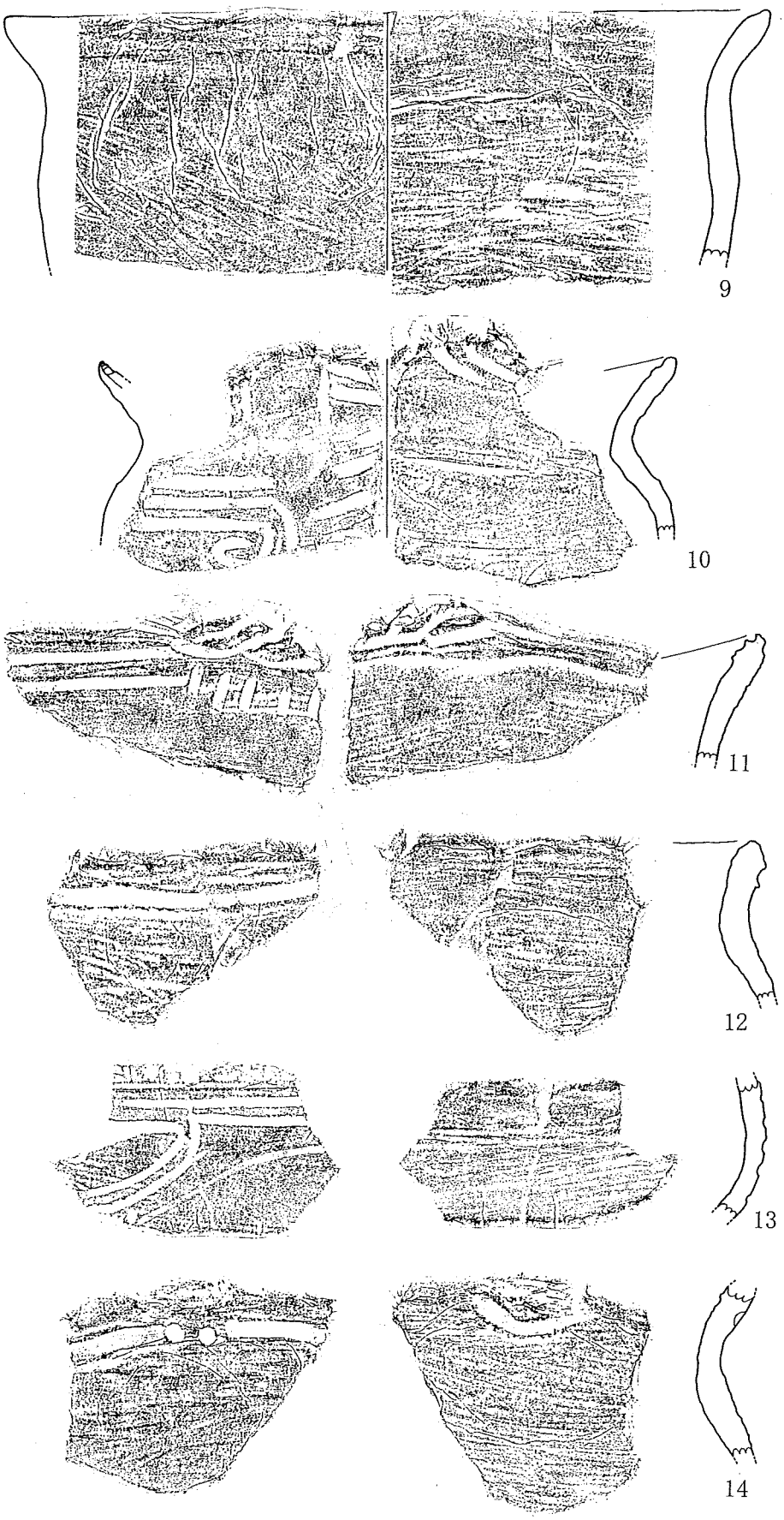


第41図 24号遺構・92号土坑平・断面図(S=1/80)

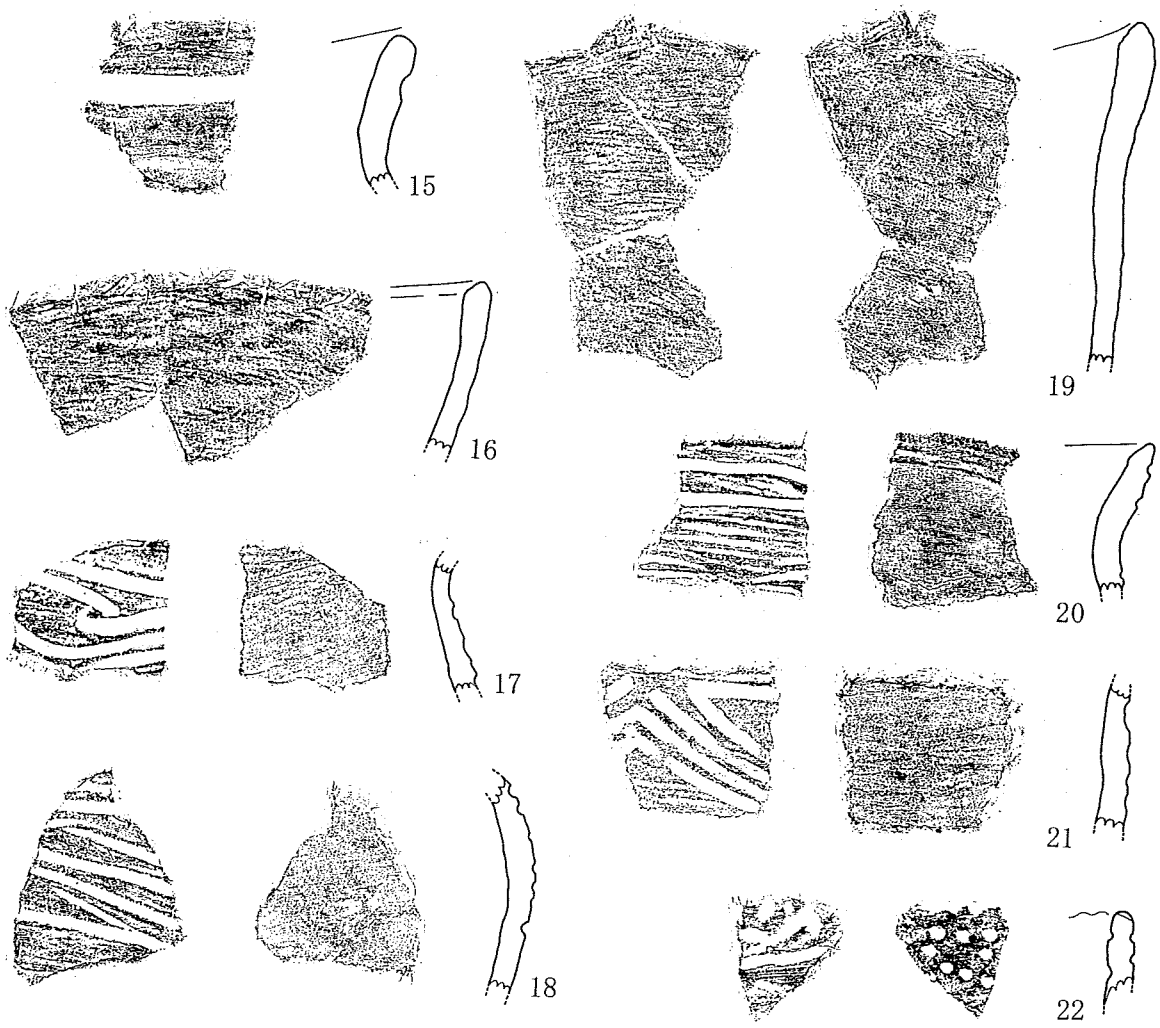


第42図 24号遺構出土土器実測図(1)(S=1/3)

内外面ともにヘラ研磨とナデで調整している。10は口径26.6cm、残存器高8.0cmを測る。色調内面は橙色で、外面はにぶい褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はナデのちミガキで、口縁部から外面胴部にかけては、沈線によって文様を描いている。11は深鉢の口縁部で、残存器高5.8cmを測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内面はヘラ研磨とナデで仕上げられており、外面はヘラ研磨とナデ調整ののち、沈線と刻み目が施されている。12は深鉢の口縁部で、残存器高7.4cmを測る。色調内面は灰黄褐色で、外面はにぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラ研磨で、外面はヘラ研磨とミガキ、一部ナデで仕上げられている。また外面には沈線が施されている。13は深鉢の胴部で、残存器高



第43図 24号遺構出土土器実測図(2)(S=1/3)



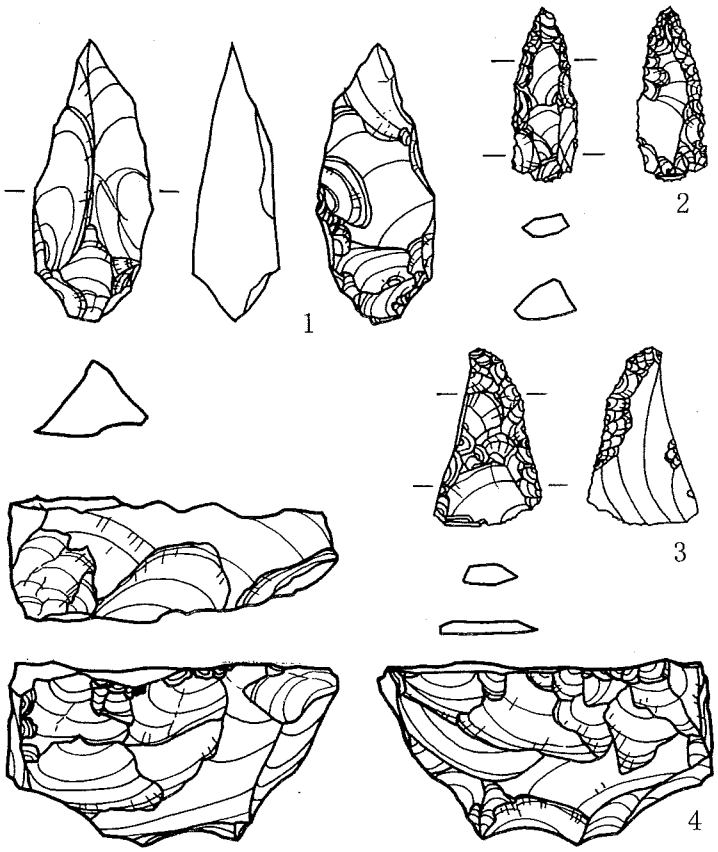
第44図 24号遺構出土土器実測図(3)(S=1/3)

6.3cm を測る。色調は、内外面ともににぶい褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラ研磨とナデで仕上げられている。外面はヘラ研磨とナデで、一部ミガキがみられる。また外面は沈線が施されている。14 は深鉢の胴部で、残存器高 8.0cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面はにぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内外面ともにヘラ研磨とナデで仕上げられている。15 は深鉢の口縁部で、残存器高 5.9cm を測る。色調は、内外面ともににぶい黄褐色である。胎土は石英・長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラ研磨とミガキで、外面はナデている。また外面には沈線が施されている。16 は深鉢の口縁部で、残存器高 6.7cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は明黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデのち、ミガキで仕上げられている。17 は深鉢の胴部で、残存器高 5.1cm を測る。色調内面はにぶい褐色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキとナデで仕上げられており、外面はナデとミガキで調整されたのち、沈線が施されている。18 は深鉢の胴部で、残存器高 8.5cm を測る。色調は、内外面ともににぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキとナデで仕上げられており、外面はナデで調整したのち沈線を施している。19 は深鉢の口縁部で、残存器高 13.5cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面はにぶい褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにヘラミガキとナデで調整している。20 は深鉢の口縁部で、残存器高 5.7cm を測る。色調内面はにぶい褐色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内面はナデのち丁寧なミガキで、外面はヘラミガキで調整したのち、沈線を施している。21 は深鉢の胴部で、残存器高 5.4cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰黄褐色

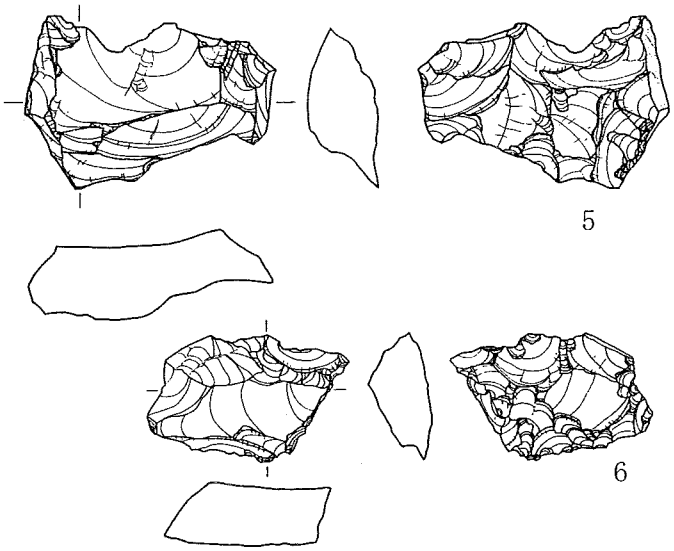
である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキとナデで、外面はナデて仕上げたのち、沈線を施している。22 は深鉢の口縁部で、残存器高 3.6cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデて調整したのち、沈線と刺突文で仕上げている。

＊24 号遺構出土石器（第 45 図・第 46 図）

1 は使用痕のある剥片で、長さ 3.65cm、幅 1.55cm、厚さ 1.15cm を測る。材質は黒曜石である。2 は石鏃未製品で、長さ 2.3cm、幅 0.9cm、厚さ 0.5cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。3 は石鏃未製品で、長さ 2.35cm、幅 1.45cm、厚さ 0.3cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。4 は石核で、長さ 2.45cm、幅 4.4cm、厚さ 1.65cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。5 は石核で、長さ 4.55cm、幅 6.7cm、厚さ 2.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。6 は石核で、長さ 3.35cm、幅 5.4cm、厚さ 1.8cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。



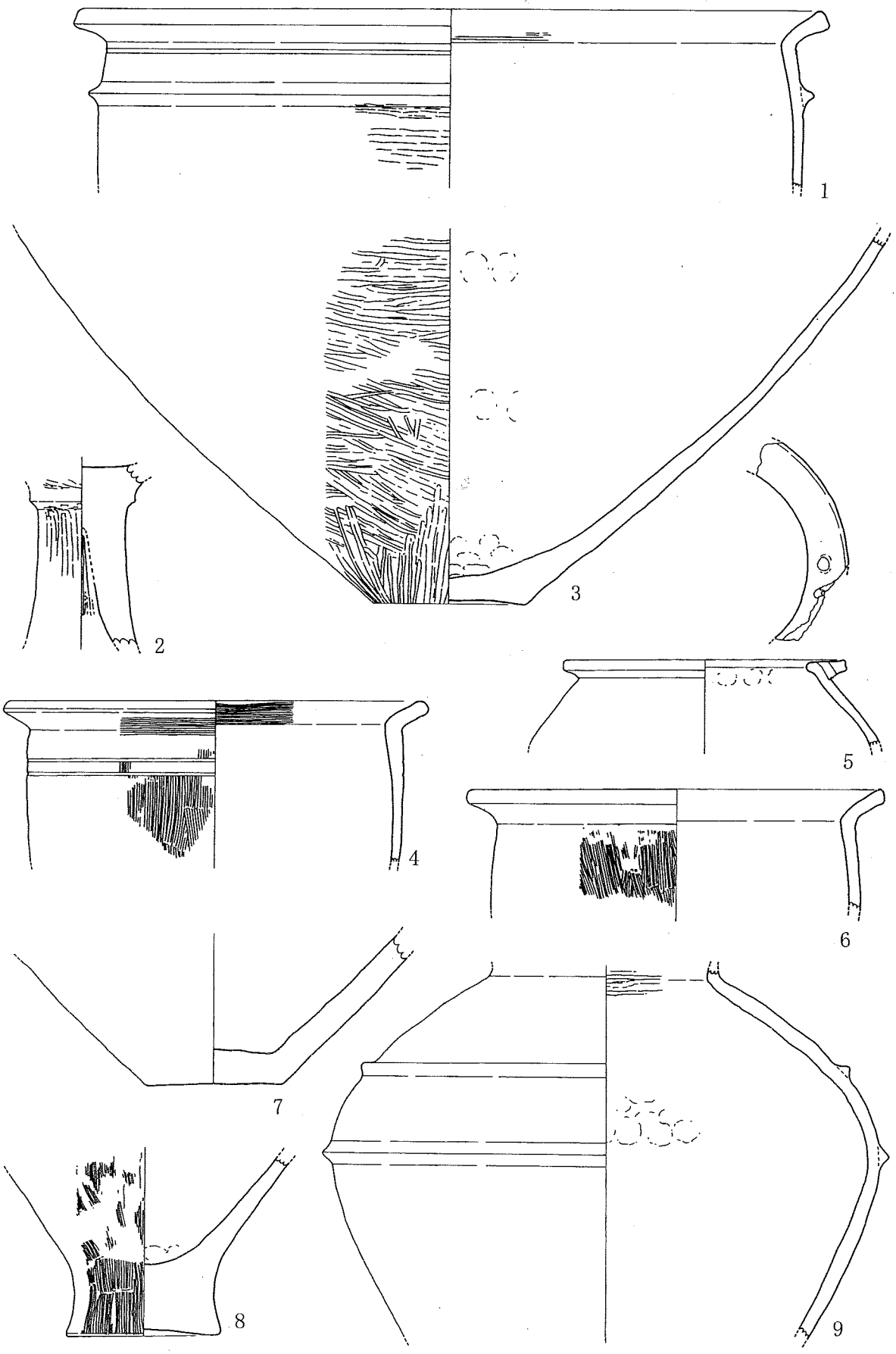
第45図 24号遺構出土石器実測図(1)(S=1/1)



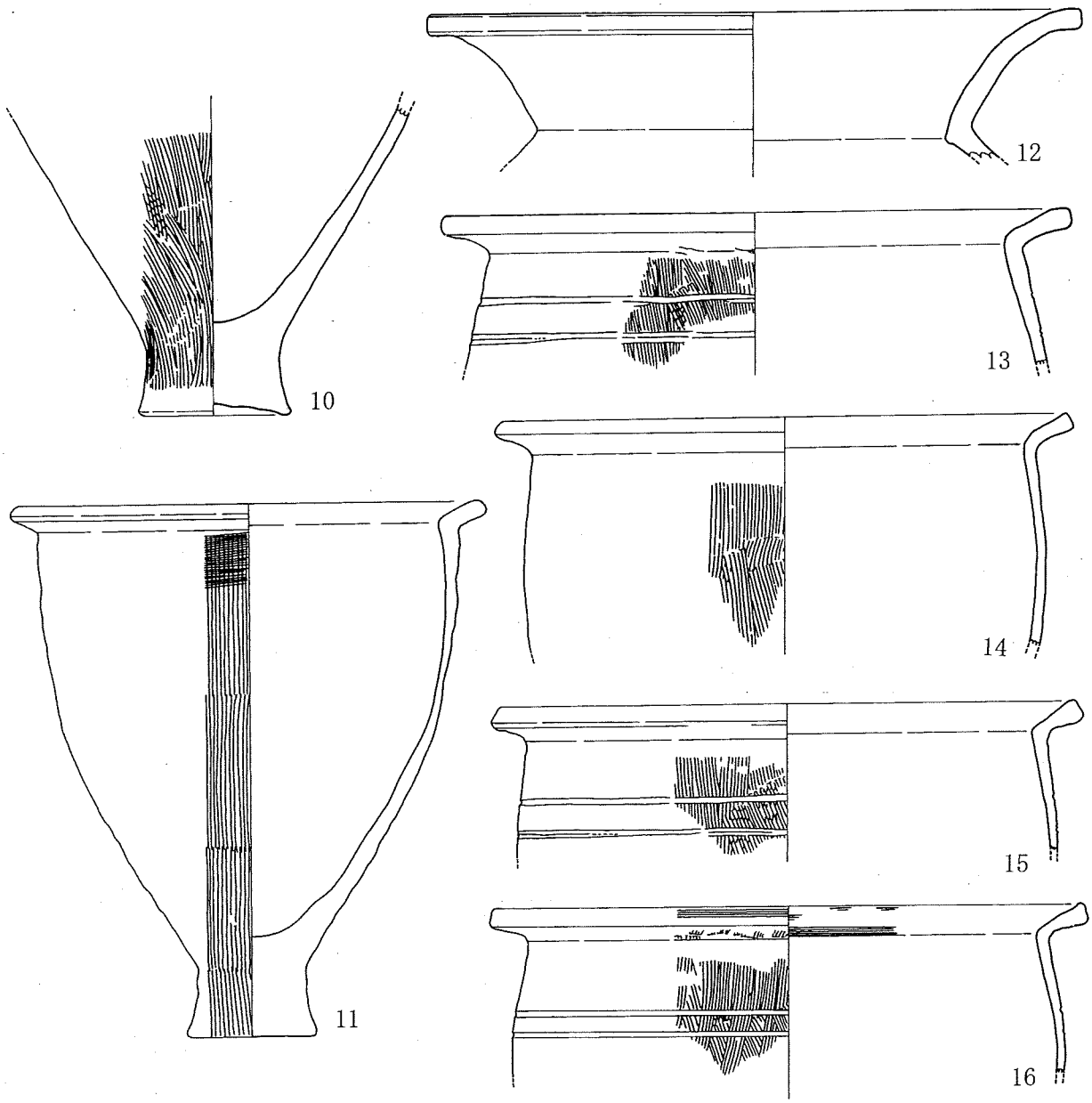
第46図 24号遺構出土石器実測図(2)(S=1/2)

＊92 号土坑出土土器（第 47 図・第 48 図）

1 は甕の口縁部で、口径 38.4cm、残存器高 9.1cm を測る。色調内面は灰褐色で、一部淡黄褐色である。外面は淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデのちミガキで、外面口縁部はヨコナデである。また外面胴部は横方向のミガキである。2 は高坏の脚部で、残存器高 9.3cm を測る。色調内面は橙色である。外面は橙色で、一部黒灰色である。胎土は長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、シボリ痕がみられる。外面はナデと、脚部は縦方向のヘラミガキである。3 は壷の底部で、底径 8.0cm、残存器高 18.9cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、一部灰褐色である。外面は淡黄褐色で、一部にススが付着している。胎土は角閃石・長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面はヘラミガキである。4 は甕の口縁部で、口径 21.6cm、残存器高 8.3cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・石英・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目



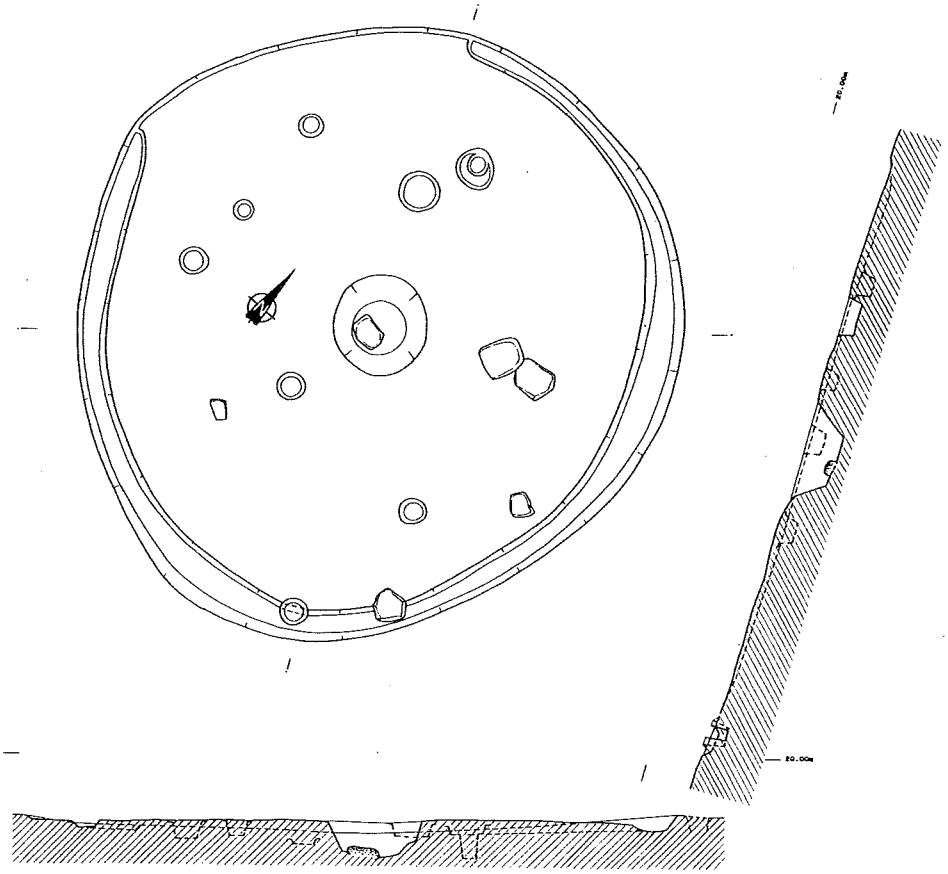
第47図 92号土坑出土土器実測図(1)(S=1/3)



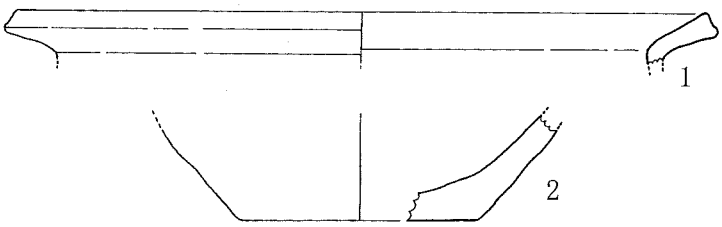
第48図 92号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)

を施している。また外面口縁部下部には２条の沈線がめぐる。５は壷の口縁部で、口径 14.4cm、残存器高 4.5cm を測る。色調内面は橙色で、外面は橙色、一部黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は丁寧なヘラミガキである。６は甕の口縁部で、口径 21.4cm、残存器高 6.2cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また外面にはススが付着している。７は壷の底部で、底径 7.2cm、残存器高 7.7cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色で、外面の一部に黒斑がみられる。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向の丁寧なナデである。８は甕の底部で、底径 7.7cm、残存器高 9.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。９は壷の胴部で、胴部径 29.8cm、残

存器高 19.2cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は暗赤褐色である。胎土は角閃石・長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面はヘラミガキである。10 は甕の底部で、底径 6.2cm、残存器高 13.6cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は橙色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。底部下部には横方向のナデが施されている。11 は甕で、口径 20.5cm、器高 23.4cm、底径 5.6cm を測る。色調は、内外面ともに褐色で、外面の一部に赤褐色部分がある。胎土は長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部から底部にかけては縦方向のハケ目である。12 壷の口縁部で、口径 28.8cm、残存器高 6.5cm を測る。色調内面は赤褐色で、一部黄褐色である。外面は赤褐色である。胎土は石英・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。13 は甕の口縁部で、口径 27.5cm、残存器高 6.8cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は石英・角閃石・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。また外面口縁下部には２条の沈線がめぐる。14 は甕の口縁部で、口径 25.2cm、残存器高 10.2cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は全面にススが付着しているため、黒灰色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。15 は甕の口縁部で、口径 25.6cm、残存器高 6.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色で、一部灰褐色である。胎土は長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。また外面の口縁下部には２条の沈線がめぐる。16 は甕の口縁部で、口径 26.1cm、残存器高 7.4cm を測る。色調内面は橙色



第49図　20号遺構　平・断面図(S=1/80)

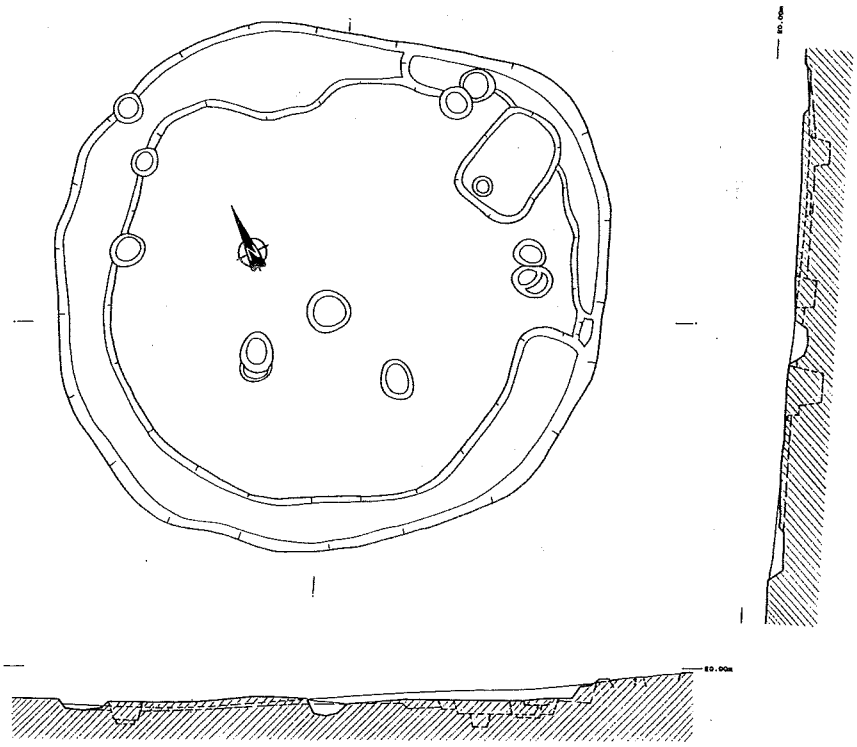


第50図　20号遺構出土土器実測図(S=1/3)

Ⓓ 1

第51図 20号遺構出土玉類実測図(S=1/1)

で、外面は橙色、一部黒灰色である。胎土は長石・角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。また胴部には２条の沈線がめぐっている。



第52図　26号遺構 平・断面図(S=1/80)

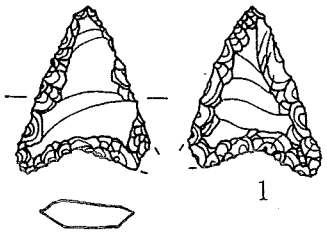
2）20号遺構

＊遺構（第49図）

調査区の東端で検出した遺構で、径 6.6m の円形住居跡である。遺構の壁に沿って幅約 0.3 m前後、深さ 0.17 mの溝が巡り、中央部分には 0.95 m× 1.05 mの円形で深さ 0.33 mの土坑がある。床面は平坦で、いくつかの柱穴を確認することができた。

＊出土土器（第50図）

１は甕の口縁部で、口径 27.0cm、残存器高 2.0cm を測る。色調内面は暗灰褐色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。２は底部で、底径 9.2cm、残存器高 4.15cm を測る。色調は、内外面ともに暗茶褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面は丁寧なナデで、外面は摩滅が激しく判別できない。



第53図　26号遺構出土石器 実測図(S=1/1)

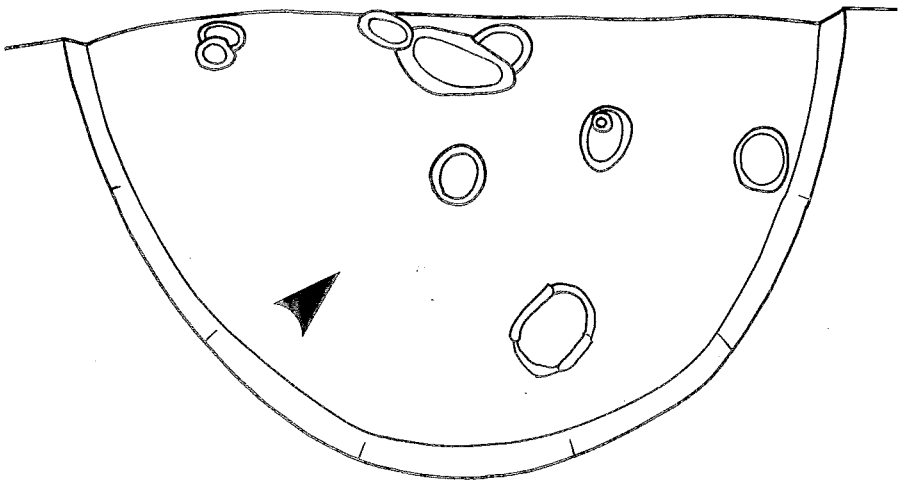
＊その他の出土遺物（第51図）

１は硬玉質の管玉で、長径 17.0mm、短径 4.0mm、孔径 1.5mm を測る。色調は明灰黄緑色である。

3）26号遺構

＊遺構（第52図）

調査区の東端で検出した遺構で、径 5.8m の円形住居跡である。遺構の壁に沿って幅約 0.7 m前後、深

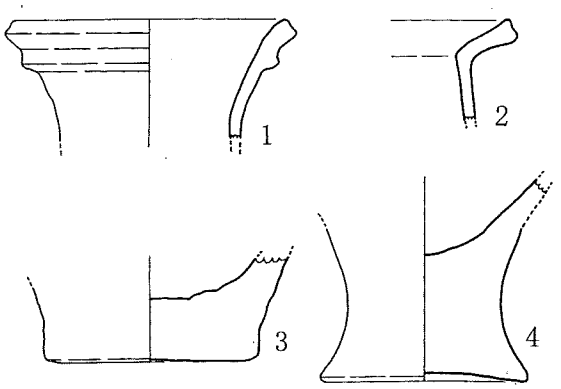


第54図　29号遺構平面図(S=1/50)

さ 0.1 mの溝が巡り、遺構の東床面には 1.17 m× 0.86 mの方形で、床面からの深さ 0.13 mの土坑がある。床面は平坦で、いくつかの柱穴を確認することができた。

＊出土石器（第 53 図）

1は打製石鏃で片側抉入部の一部を欠損しているが、長さ 2.2cm、幅 1.8cm、厚さ 0.3cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。

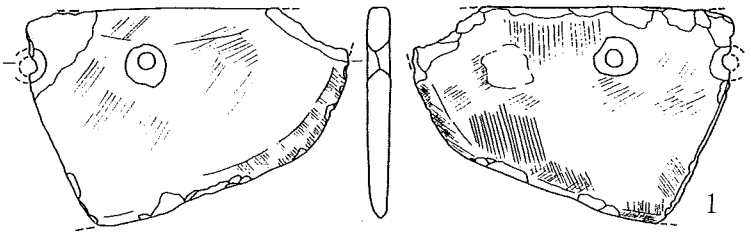


第55図 29号遺構出土土器実測図(S=1/3)

4）29号遺構

＊遺構（第 54 図）

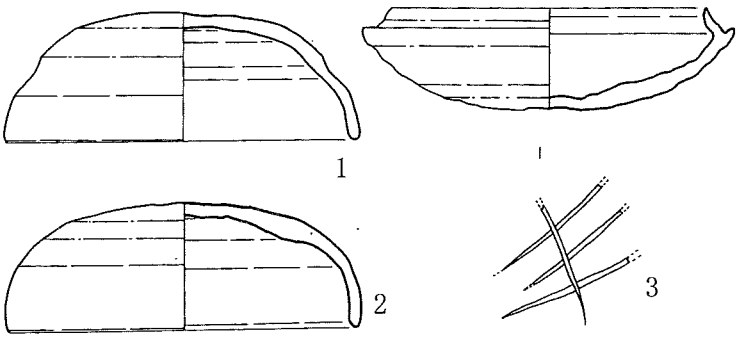
遺構は調査区の西端で検出され、半分は調査区域外であった。復元径 5.2 m、深さ 0.16 mで、中央部分には径 0.8 m× 0.4 mの楕円形に土坑がある。床面はほぼ平坦で、いくつかの柱穴を確認することができた。



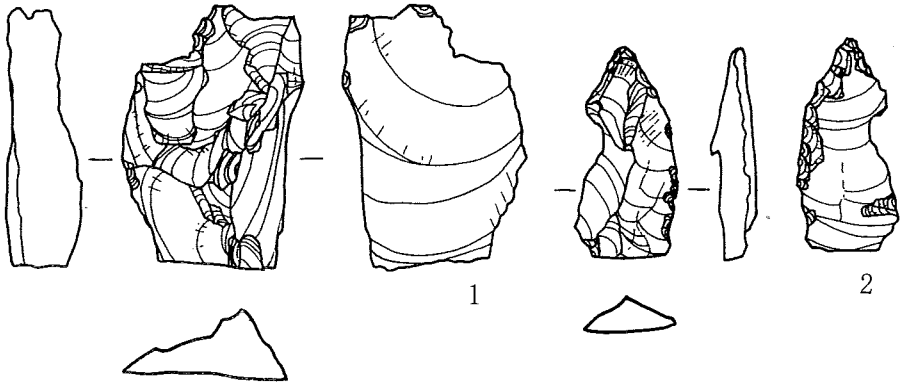
第56図 29号遺構出土石器実測図(S=1/2)

＊出土土器（第 55 図）

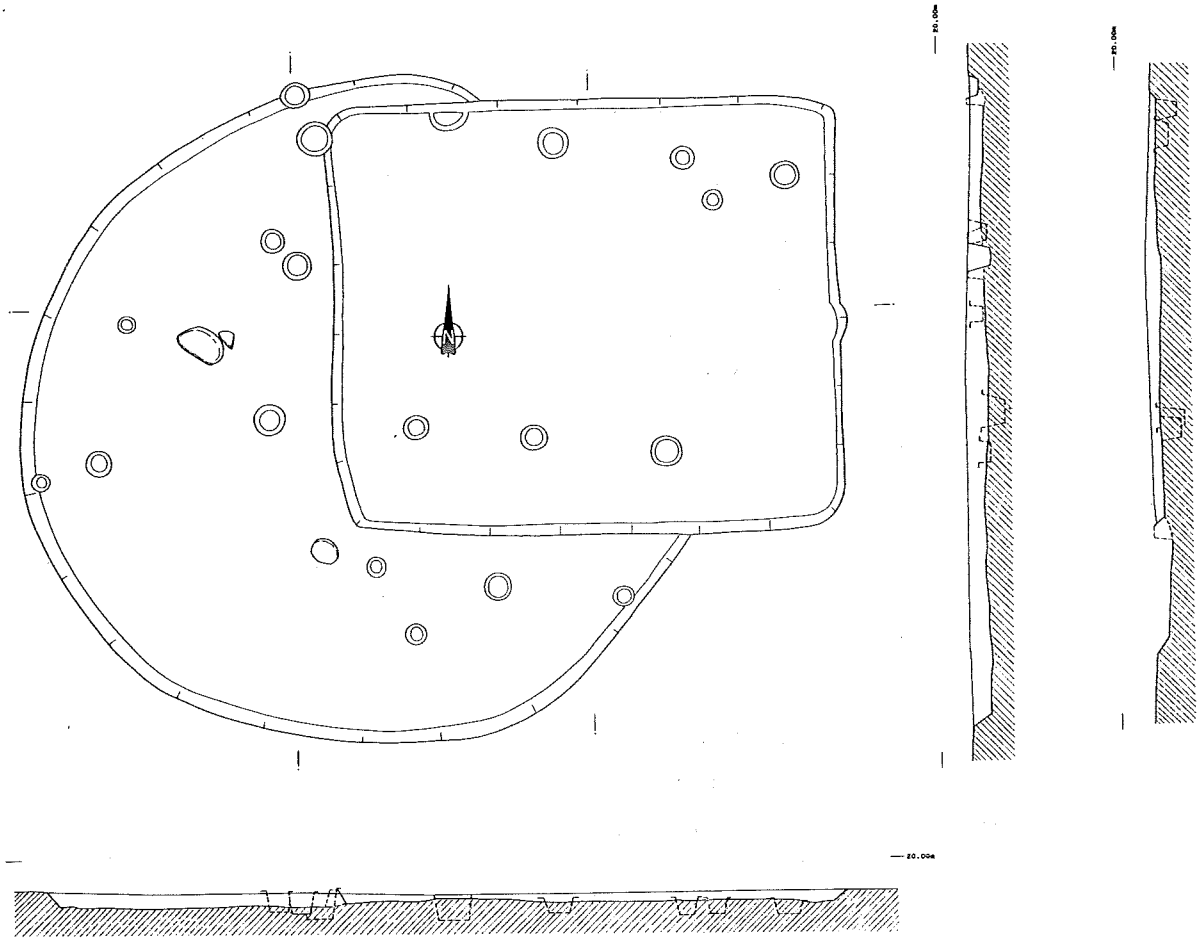
1は壷の口縁部で、口径 10.7cm、残存器高 4.7cm を測る。色調は、内外面ともに淡橙褐色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。2は甕の口縁部で、残存器高 3.9cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともに器面荒れのため調整は不明である。3は底部で、底径 7.3cm、残存器高 4.2cm を測る。色調は、内外面ともに橙黄褐色である。胎土は角閃石・長石・石英を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。4は甕の底部で、底径 7.8cm、残存器高 7.95cm を測る。色調内面は暗褐色で、外面は赤褐色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面はナデで、外面は摩滅が激しく調整は不明である。



第57図 15号遺構出土土器実測図(S=1/3)



第58図 15号遺構出土石器実測図(1)(S=1/1)



第59図　15号遺構・16号遺構　平・断面図(S=1/80)

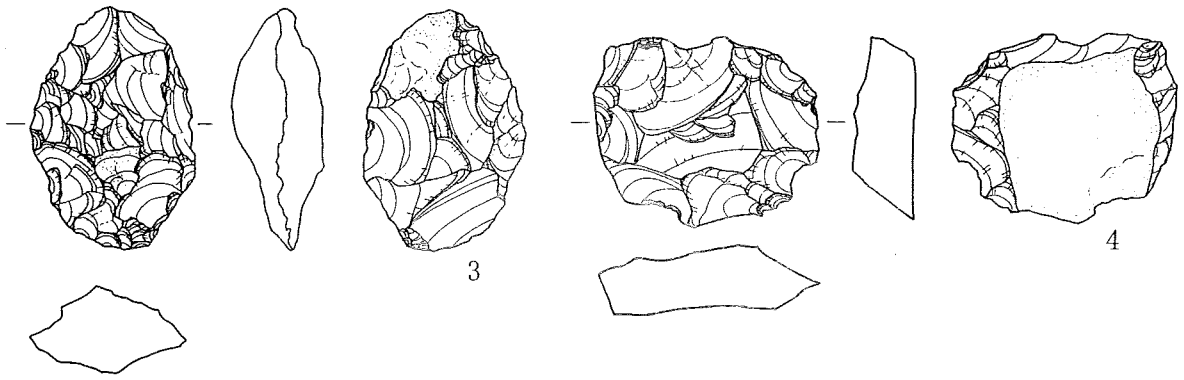
＊出土石器（第 56 図）

1 は石包丁で、半部が欠損している。長さ 5.75cm、幅 8.5cm、厚さ 0.6cm を測る。

5）15号遺構・16号遺構

＊遺構（第 59 図）

15 号遺構は南北 4.65 m、東西 5.4 m、深さ 0.12 mの方形の住居跡である。床面は平坦でいくつかの柱穴を確

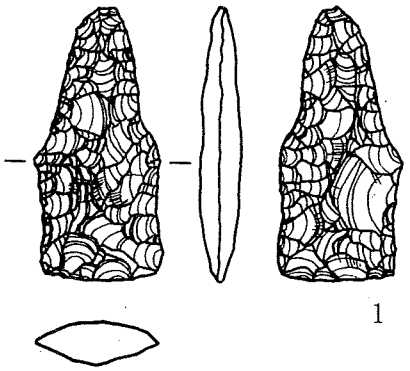


第60図　15号遺構出土石器実測図(2)(S=1/2)

認することができた。16 号遺構は、15 号遺構に切られており、復元径 7.0 m、深さ 0.15 mの円形の住居跡である。床面はほぼ平坦で、いくつかの柱穴を確認できたが、時代については遺物が検出されず確認できない。

＊15 号遺構出土土器（第 57 図）

1 は蓋坏で、口径 14.0cm で、器高 5.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は角閃石・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。2 は蓋坏で、口径 14.0cm、器高 5.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は角閃石・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。3 は坏身で、口径 12.4cm、器高 5.0cm を測る。色調は内面は灰色で、一部褐色である。外面は灰色で、一部薄灰褐色である。胎土は長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面底部はヘラケズリののちナデである。また、外面底部にはヘラ記号がみられる。



第61図 16号遺構出土石器実測図(S=1/1)

＊15 号遺構出土石器（第 58 図・第 60 図）

1 は使用痕のある剥片で、長さ 3.45cm、幅 2.45cm、厚さ 1.0cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。2 は石鏃未製品で、長さ 2.8cm、幅 1.35cm、厚さ 0.6cm を測る。材質は黒曜石である。3 は石核転用スクレイパーで、長さ 6.35cm、幅 4.3cm、厚さ 2.45cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。4 は石核で、長さ 5.0cm、幅 6.0cm、厚さ 1.85cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。

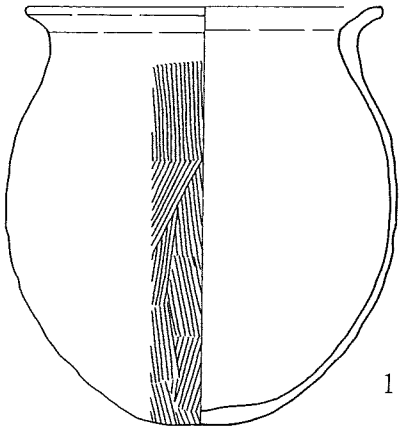
＊16 号遺構出土石器（第 61 図）

1 は打製石鏃で、長さ 3.55cm、幅 1.65cm、厚さ 0.55cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。

6）17号遺構・18号遺構・19号遺構

＊遺構（第 64 図）

17 号遺構は南北 4.8 m、東西 4.16 m、深さ 0.2 mの方形の住居跡で、床面はほぼ平坦である。18 号遺構は 17 号遺構に切られており、復元径 5.3 m、深さ 0.25 mを測る。床面は平坦で、いくつかの柱穴を確認することができた。19 号遺構は径 4.2 m、深さ 0.2 mの円形の住居跡で、床面はほぼ平坦である。床面にはいくつかの柱穴を確認することができたが、遺物を伴わず、時代は不明である。



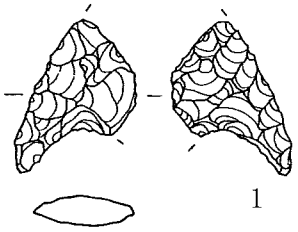
第62図 17号遺構出土土器実測図(S=1/1)

＊17 号遺構出土土器（第 62 図）

1 は壷で、口径 13.8cm、器高 16.6cm を測る。色調は、内外面ともに茶褐色で、外面の一部に赤褐色の部分がある。胎土は石英・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面頸部から底部にかけてはハケ目が施されている。

＊17 号遺構出土石器（第 63 図）

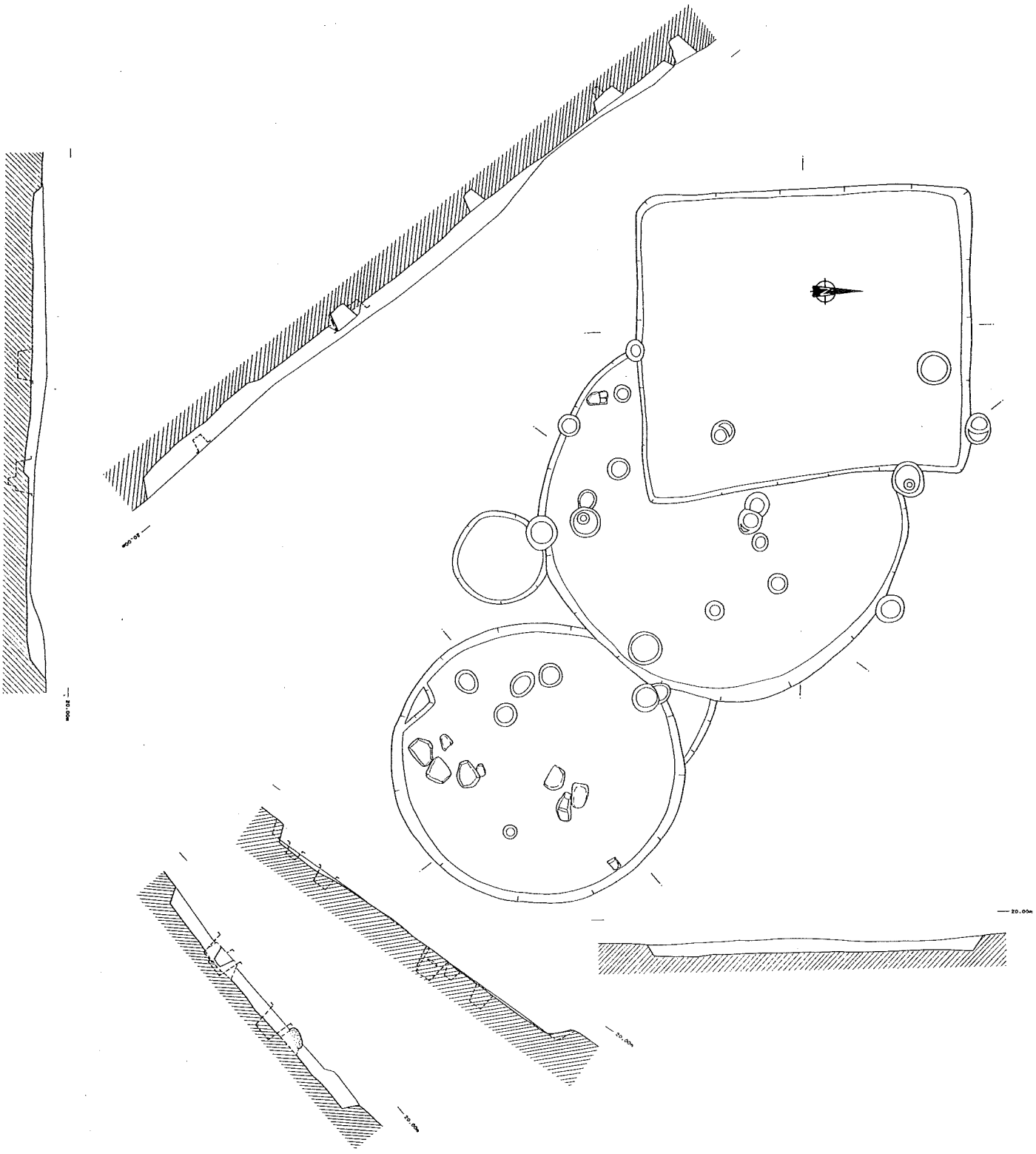
1 は打製石鏃で片側抉入部の一部を欠損しているが、長さ 2.1cm、幅 1.6cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。



第63図 17号遺構出土石器実測図(S=1/1)

＊18 号遺構出土土器（第 65 図）

1 は壷の胴部で、胴部最大径 32.8cm、残存器高 23.0cm を測る。色調内面は



第64図　17号遺構・18号遺構・19号遺構 平・断面図（S＝1/80）

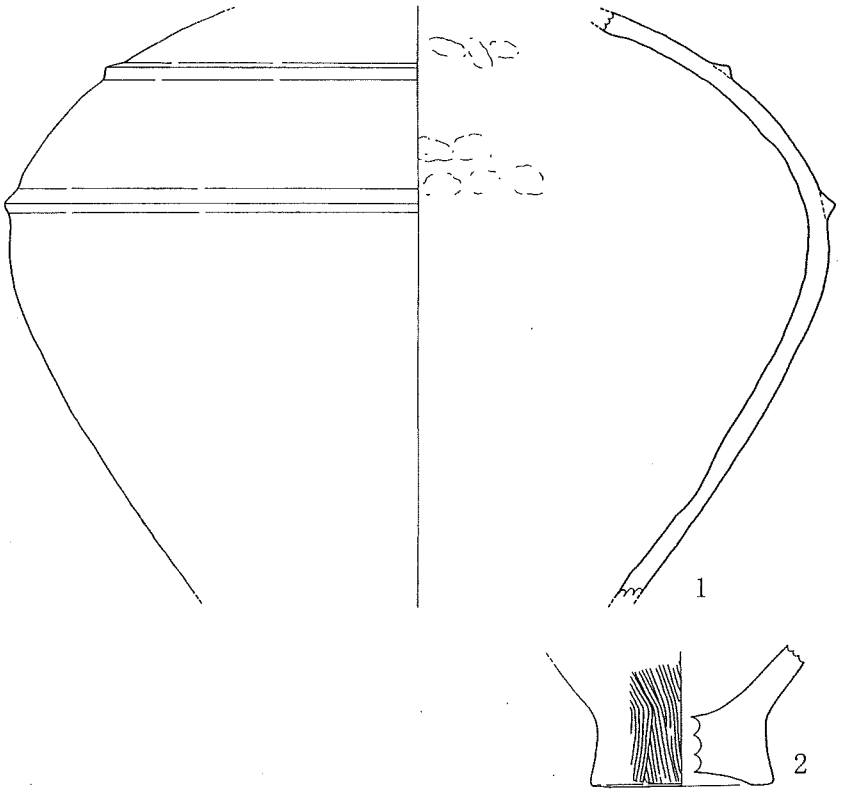
淡黄褐色で、外面は暗赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は横方法のミガキである。２は甕の底部で、底径 7.1cm、残存器高 5.5cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。

＊ 18 号遺構出土石器（第 66 図）

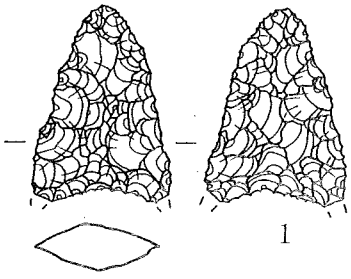
1 は打製石鏃で両側抉入部の一部を欠損しているが、長さ 2.6cm、幅 1.85cm、厚さ 0.6cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。

＊19号遺構出土土器(第69図)

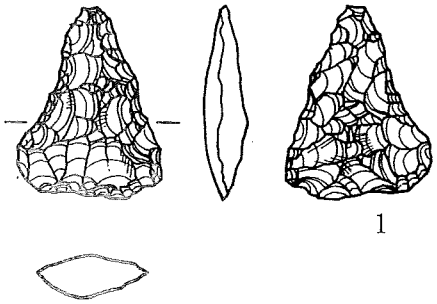
1は甕の口縁部で、口径34.2cm、器高9.8cmを測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色で、一部灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。また、外面の口縁下部には突帯が1条めぐる。2は壷の口縁部で、口径26.8cm、残存器高4.6cmを測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は石英・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。また内面の口縁部分には突帯が1条めぐる。3は甕の口縁部で、口径24.8cm、残存器高15.5cmを測る。色調内面は黄褐色である。外面は灰褐色で、一部ススが付着しているため灰黒色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけては、指オサエのちナデで、外面胴部は縦方向のハケ目であ



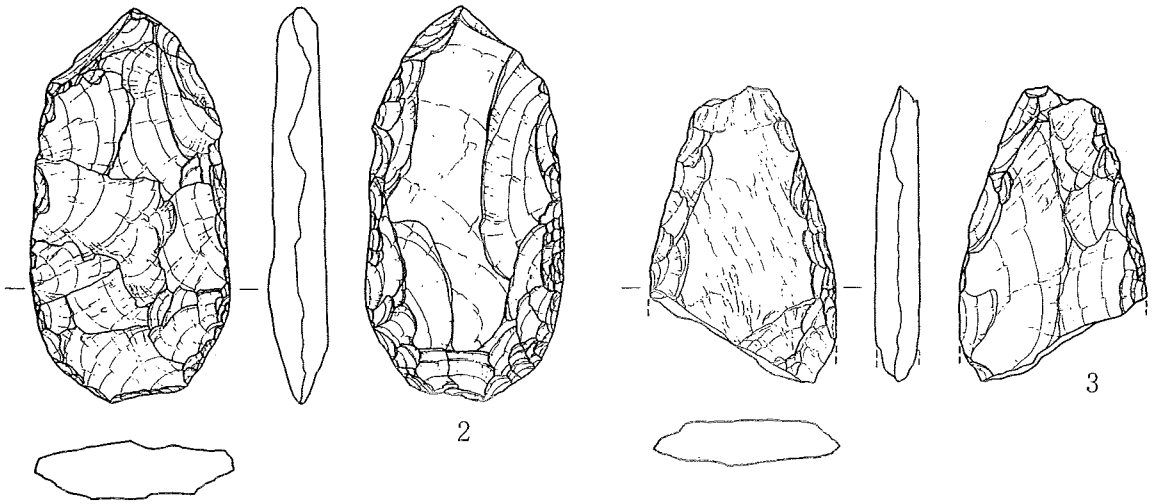
第65図 18号遺構出土土器実測図(S=1/3)



第66図 18号遺構出土石器実測図(S=1/2)



第67図 19号遺構出土石器実測図(1)(S=1/1)

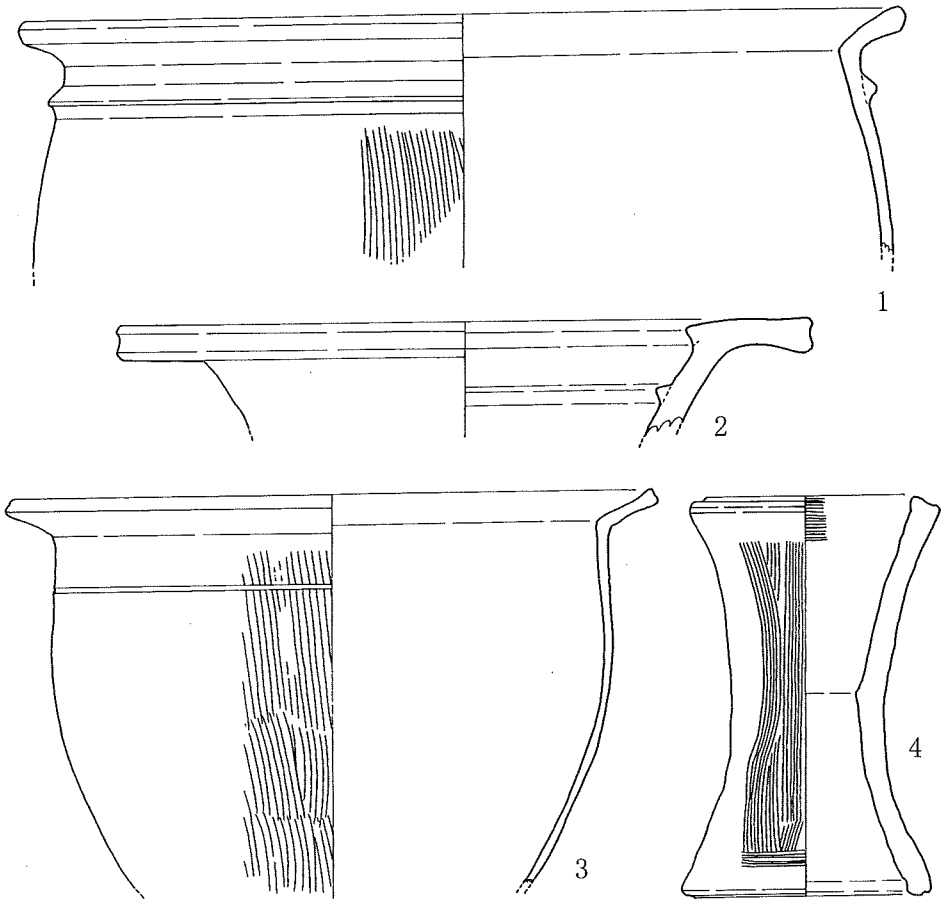


第68図 19号遺構出土石器実測図(2)(S=1/2)

る。また外面の口縁下部には沈線が1条めぐる。4は器台で、口径 9.8cm、底径 9.8cm、器高 15.8cm を測る。色調は、内外面ともに茶褐色である。胎土は角閃石・雲母・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面の口縁部分と底部はヨコナデ、胴部はハケ目である。

＊ 19 号遺構出土石器（第 67 図・第 68 図）

1は打製石鏃で、長さ 2.5cm、幅 1.9cm、厚さ 0.6cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。2は扁平打製石斧で、長さ 10.4cm、幅 5.3cm、厚さ 1.5cm を測る。材質は安山岩である。3は扁平打製石斧で、刃部が欠損している。長さ 7.8cm、幅 4.95cm、厚さ 1.2cm を測る。材質は緑色片岩である。



第69図 19号遺構出土土器実測図(S=1/3)

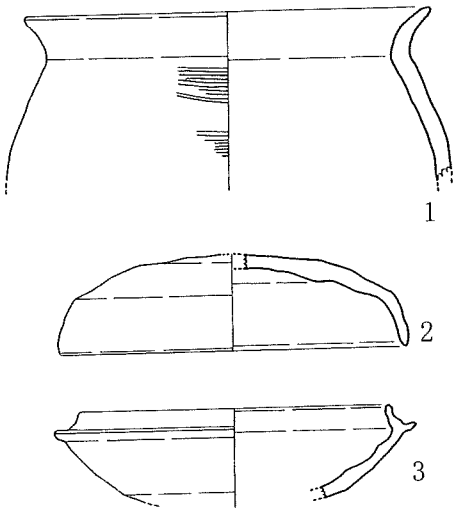
7）13号遺構

＊遺構（第 71 図）

調査区の南端に位置し、南北 5.8 m、東西 5.9 m、深さ 0.15 mの方形の住居跡である。床面はほぼ平坦で、カマドは遺構の西側中央に焼土を確認することができたのみである。床面には南北に平行に柱穴を確認できた。

＊出土土器（第 70 図）

1は壷の口縁部で、口径 15.8cm、残存器高 6.8cm を測る。色調は、内外面ともに淡茶褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は横方向のハケ目を施している。2は蓋坏で、口径 13.6cm、残存器高 3.8cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は角閃石・雲母・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の口縁端部にかけては、回転ナデである。外面上部は回転ヘラケズリである。3は坏身で、口径 12.0cm、受部径 14.2cm、残存器高 3.6cm を測る。色調内面は灰色で、外面は濃灰色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。



第70図 13号遺構出土土器実測図(S=1/3)

焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の受部にかけてナデで、外面底部はヘラケズリである。

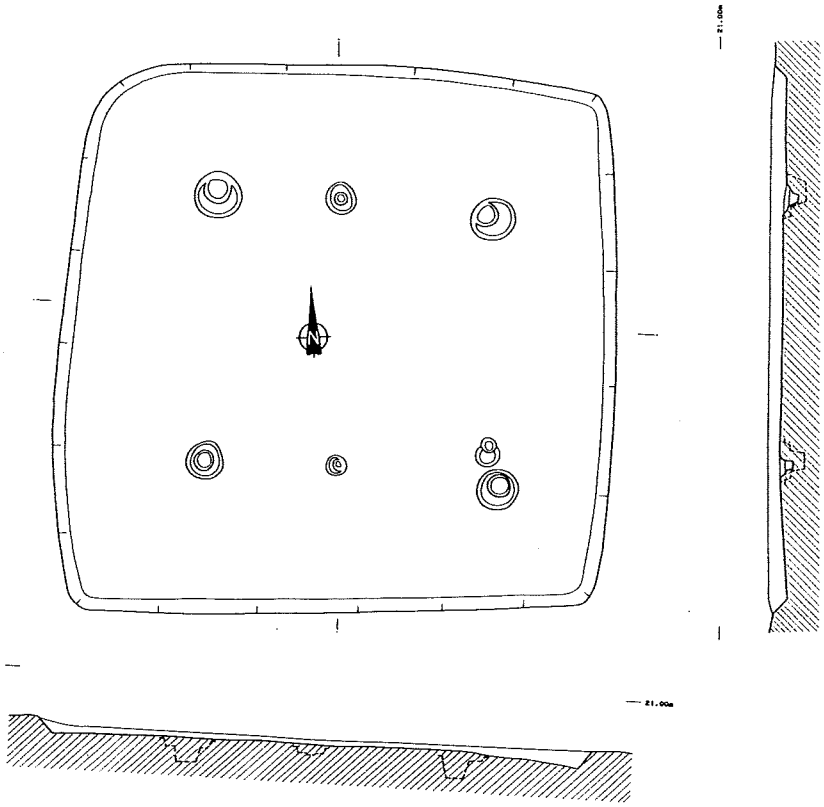
8）21号遺構

＊遺構（第72図）

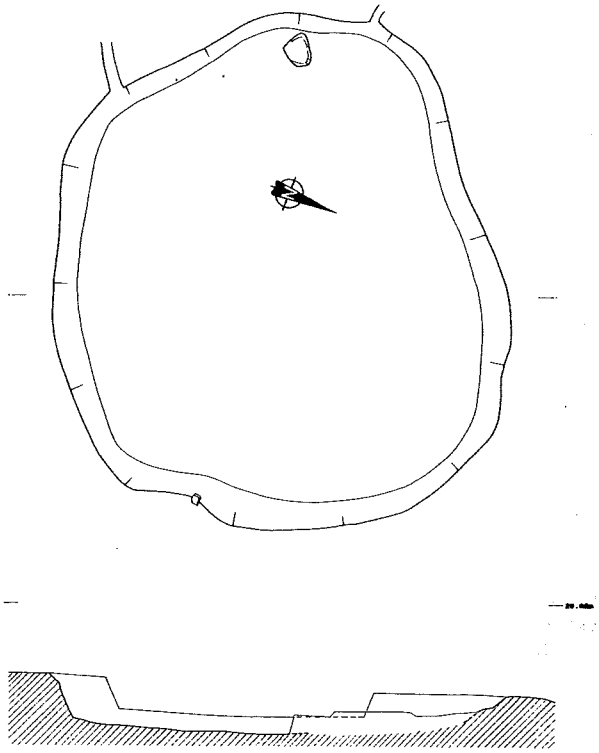
調査区東側に位置し、南北5.1m、東西5.45m、深さ0.5mのやや角丸の方形である。床面はほぼ平坦で、柱穴等は確認できなかった。

＊出土土器（第73図・第74図）

1は蓋坏で、口径13.4cm、残存器高2.9cmを測る。色調内面は灰褐色で、外面は灰色、一部灰黄色である。胎土は石英・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。2は蓋坏で、口径12.8cm、器高3.8cmを測る。色調内面は灰褐色である。外面は灰褐色で、一部濃灰色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面上部は指オサエで、下部はナデである。外面下部はナデで、上部はヘラケズリである。3は蓋坏で口径13.4cm、残存器高3.0cmを測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は雲母・石英を含んでる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。4は蓋坏で、口径10.0cm、残存器高4.7cmを測る。色調内面は灰褐色である。外面は灰色で、一部濃灰色である。胎土は角閃石・石英・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデである。外面下部はナデで、上部は回転ハケ目である。5は坏身で、口径12.4cm、受部径15.0cm、器高4.2cmを測る。色調内面は灰褐色である。外面は灰褐色で、一部濃灰色である。胎土は角閃石・雲母・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から、受部にかけてはナデである。外面底部は回転ヘラケズリである。6は坏身で、口径13.0cm、受部径15.7cm、残存器高4.0cmを測る。色

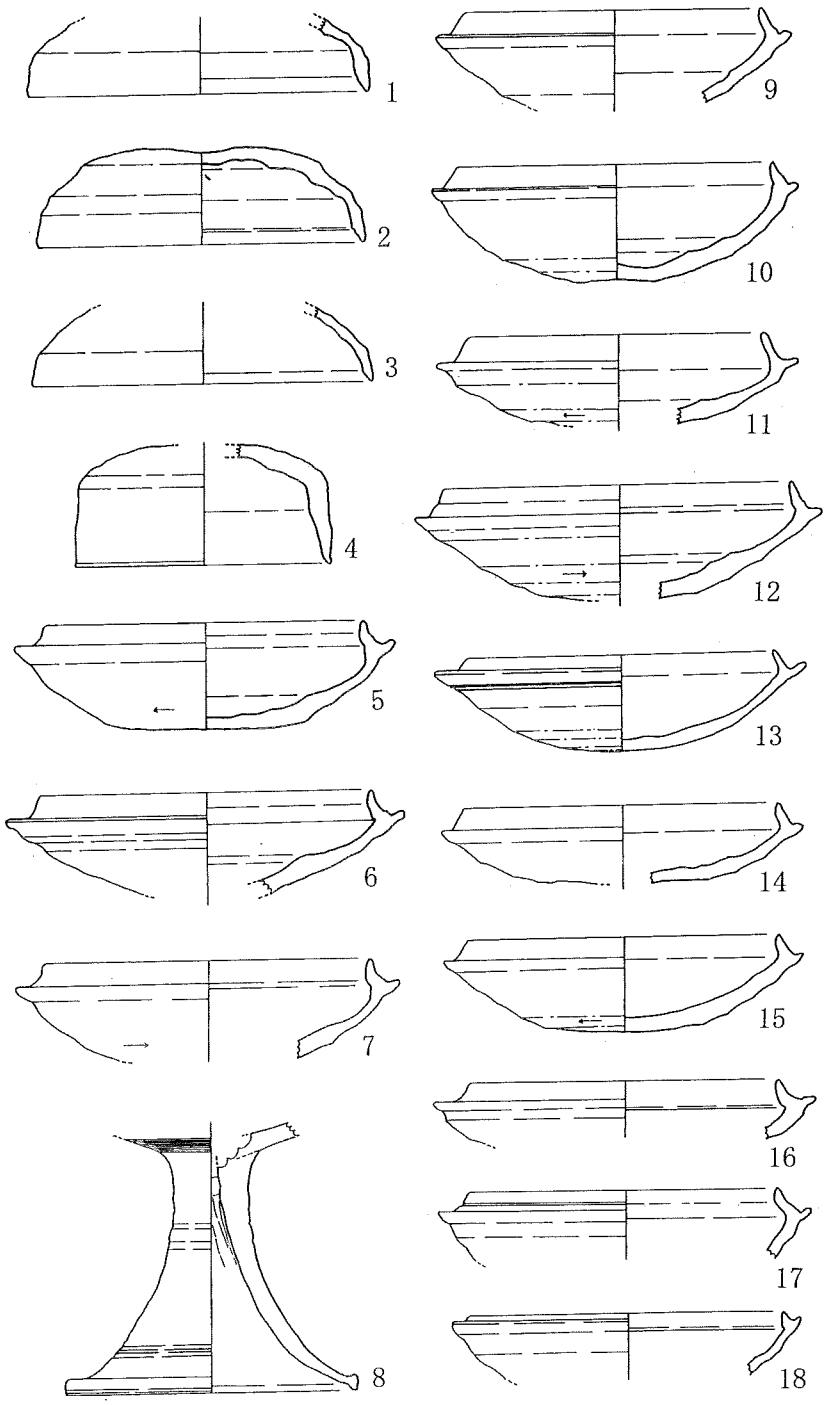


第71図 13号遺構 平・断面図(S=1/80)



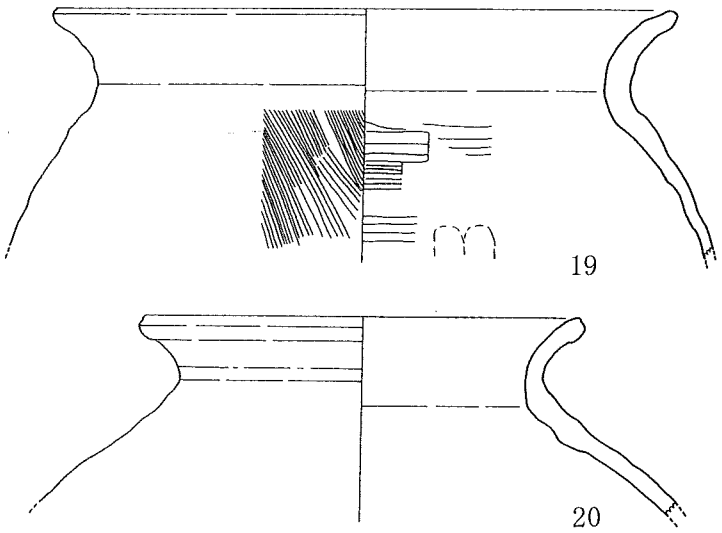
第72図 21号遺構 平・断面図(S=1/80)

調内面は灰赤色である。外面は灰褐色で、一部濃灰色である。胎土は角閃石・雲母・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。7は坏身で、口径 12.8cm、受部径 15.2cm、残存器高 3.9cm を測る。色調内面は灰褐色である。外面は濃灰色で、一部灰褐色である。胎土は角閃石・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。8は高坏の脚部で、底径 11.4cm、残存器高 10.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はヨコナデで、シボリ痕が残っている。外面はヨコナデで、坏部の下部はカキ目が残っている。9は坏身で、口径 11.6cm、受部径 14.0cm、残存器高 3.7cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は石英・長石・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から受部にかけてはナデで、外面下部は回転ヘラケズリののちナデである。10は坏身で、口径 12.4cm、受部径 14.4cm、器高 4.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は角閃石・雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。11は坏身で、口径 11.5cm、受部径 14.2cm、残存器高 3.5cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は石英・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。12は坏身で、口径 13.6cm、受部径 16.0cm、残存器高 4.5cm を測る。色調内面は灰褐色である。外面は灰褐色で、一部灰赤色、濃灰色である。胎土は石英・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。13は坏身で、口径 12.0cm、受部径 14.6cm、器高 3.8cm を測る。色調は、内外面ともに淡灰褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、



第73図 21号遺構出土土器実測図(1)(S=1/3)

内面底部は多方向のナデで、上部はヨコナデである。外面は上部はヨコナデで、底部は回転ヘラケズリである。14は坏身で、口径12.3cm、受部径14.2cm、残存器高3.1cmを測る。色調内面は灰褐色で、外面は灰黄褐色である。胎土は石英・雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。15は坏身で、口径12.2cm、受部径14.1cm、残存器高3.7cmを測る。色調は、内外面ともに淡灰褐色である。胎土は砂粒・角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。16は坏身で、口径12.1cm、受部径15.0cm、残存器高2.4cmを測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。17は坏身で、口径12.0cm、受部径14.6cm、残存器高2.75cmを測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。18は坏身で、口径12.4cm、受部径13.7cm、残存器高2.5cmを測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は雲母・石英・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。19は壷の口縁部で、口径24.2cm、残存器高9.8cmを測る。色調内面は淡褐色で、一部淡黄褐色である。外面は淡黄褐色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面口縁部はヨコナデで、胴部はヘラケズリである。外面口縁部はナデで、胴部はハケ目を施している。20は壷の口縁部で、口径17.0cm、残存器高7.8cmを測る。色調は、内外面ともに白橙褐色である。胎土は長石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともに丁寧なナデである。

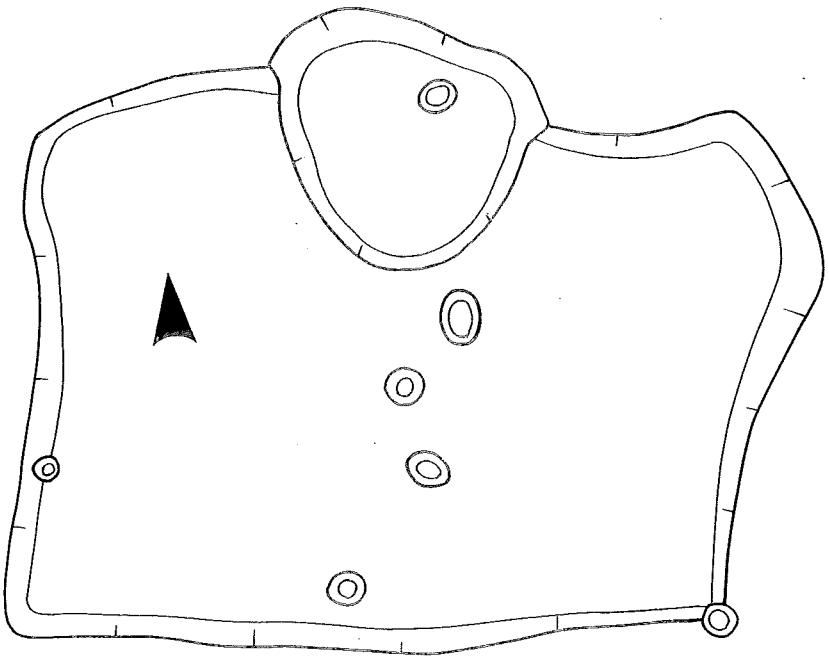


第74図 21号遺構出土土器実測図(2)(S=1/3)

9）23号遺構

＊遺構（第75図）

南北4.0 m、東西4.75 m、深さ0.2 mを測る。床面にはいくつかの柱穴を検出したが、遺物を伴わず時代は

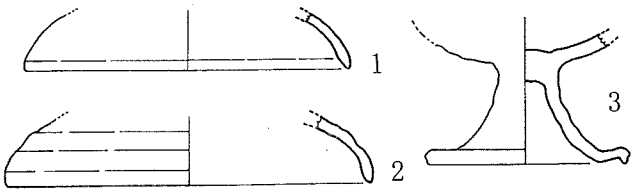


第75図 23号遺構平面図(S=1/50)

不明である。

＊出土土器（第 76 図）

1は蓋坏で、口径 12.8cm、残存器高 2.2cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は雲母を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。2は蓋坏で、口径 17.4cm、残存器高 2.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は雲母・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。3は高坏の脚部で、底径 8.0cm、残存器高 5.2cm を測る。色調内面は淡灰褐色である。外面は灰褐色で、一部濃灰色である。胎土は石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。



第76図 23号遺構出土土器実測図(S=1/3)

10）27号遺構

＊遺構（第 77 図）

南北 4.1 m、東西 4.4 m、深さ 0.2 mを測る。床面は平坦で、柱穴等は確認できなかった。

＊出土土器（第 78 図）

1は坏身で、口径 13.0cm、受部径 15.3cm、残存器高 3.6cm を測る。色調内面はにぶい灰黄褐色で、外面は灰黄褐色である。胎土は石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。2は壷の口縁部で、口径 12.6cm、残存器高 4.0cm を測る。色調内面は暗茶褐色で、外面は茶褐色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面胴部の一部にハケ目が施されている。3は壷の口縁部で、口径 18.8cm、残存器高 4.7cm を測る。色調内面は暗茶褐色で、外面は茶褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。

＊出土石器（第 79 図）

1は打製石斧で基部を欠損しているが、長さ 10.1cm、幅 7.55cm、厚さ 1.8cm を測る。

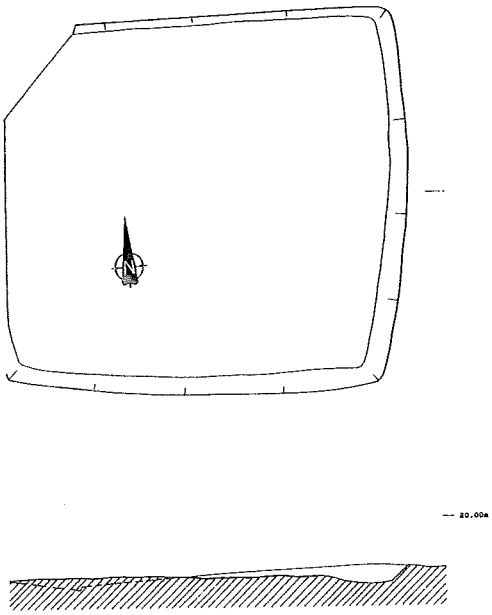
11）31号遺構

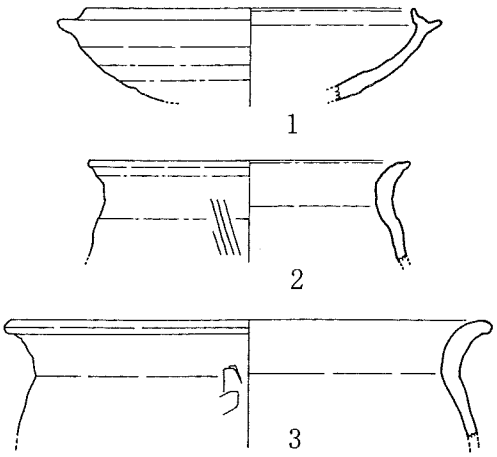
＊遺構（第 80 図）

南北 4.05 m、東西 4.2 m、深さ 0.12 mを測る。床面は平坦で、いくつかの土坑を確認することができた。

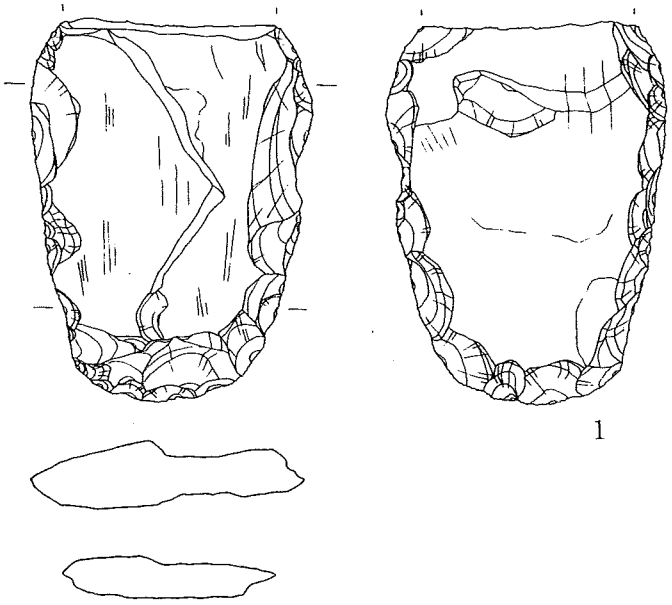
＊出土土器（第 81 図）

1は口縁部で、口径 27.4cm、残存器高 2.95cm を測る。色調は、内外面ともに淡褐色である。胎土は雲母を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はハケ目ののちナデである。2は口縁部で、口径 23.4cm、残存器高 7.6cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は橙黄褐色である。胎土は石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面上部はナデ、下部はハケ目を施している。また外面口縁部には、刻み目が施されている。3は脚部で、底径 10.1cm、残存器高 2.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好であ


第77図 27号遺構 平・断面図(S=1/80)



第78図 27号遺構出土土器実測図(S=1/3)

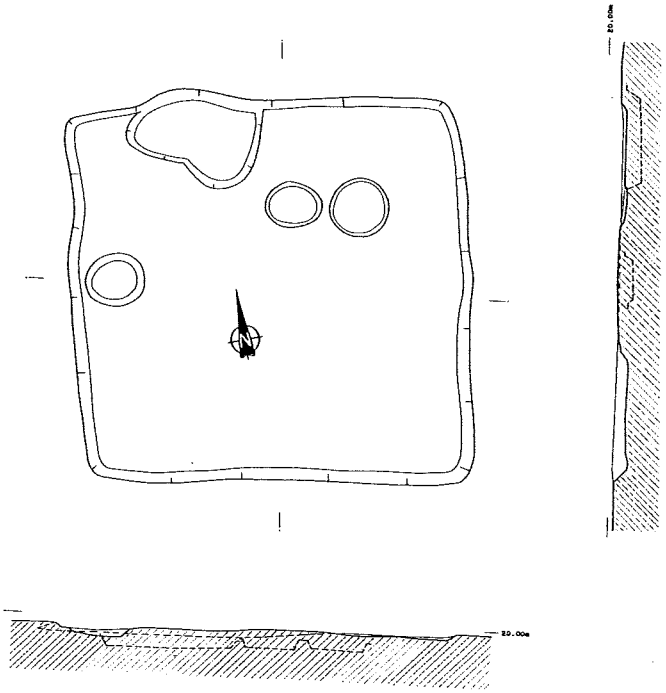


第79図 27号遺構出土石器実測図(S=1/2)

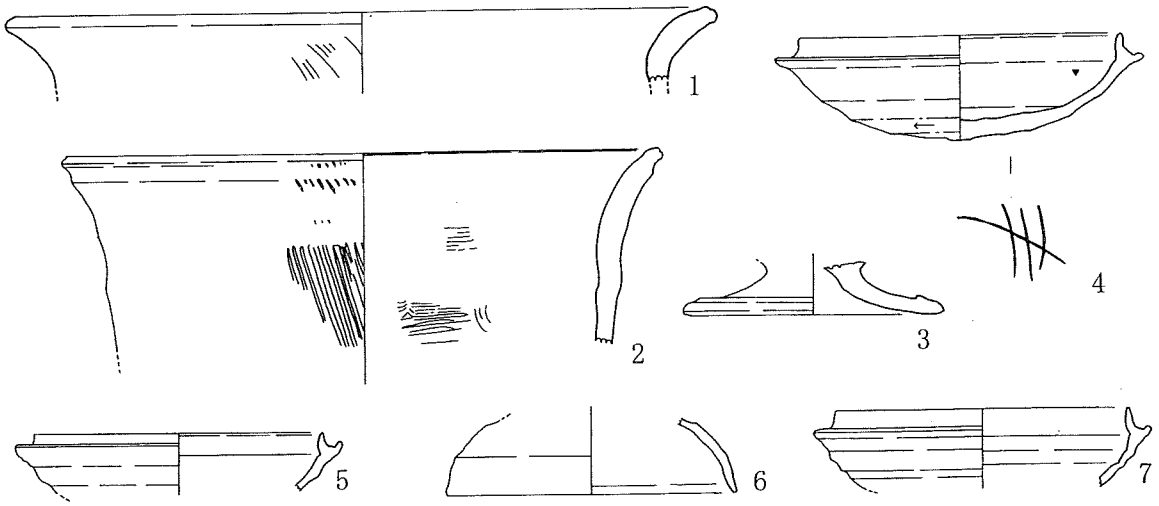
る。調整方法は、内外面ともにナデである。4は坏身で、口径 12.8cm、受部径 14.6cm、残存器高 4.1cm を測る。色調内面は薄灰褐色である。外面は薄灰褐色で、一部濃灰色である。胎土は石英・白色粒・雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。また、内面底部にはヘラ記号がある。5は坏身で、口径 11.4cm、受部径 13.0cm、残存器高 2.3cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。6は蓋坏で、口径 11.4cm、残存器高 2.9cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は雲母を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。7は坏身で、口径 11.6cm、受部径 13.4cm、残存器高 3.1cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は雲母を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。

＊出土石器（第 82 図）

1は打製石鏃で、長さ 3.05cm、幅 1.55cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。2は打製石鏃で、長さ 3.0cm、幅 2.2cm、厚さ 0.5cm を測る。材質は安山岩である。3は打製石鏃で、長さ 2.7cm、幅 1.4cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。4は打製石鏃で、長さ 1.5cm、幅 1.6cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。



第80図 31号遺構 平・断面図(S=1/80)



第81図 31号遺構出土土器実測図(S=1/3)

2. 溝状遺構

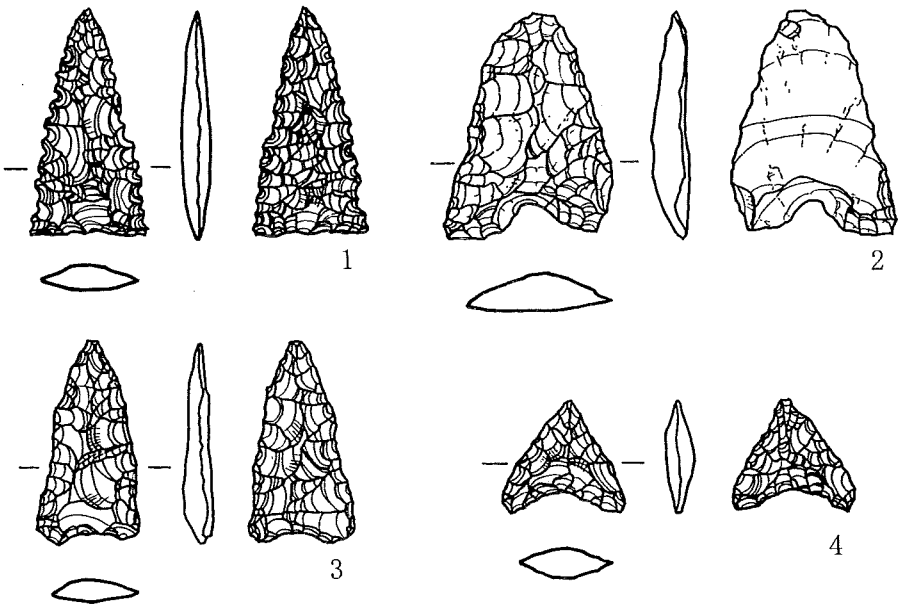
1) 6号溝

＊遺構

調査区の南側で検出した遺構で、東西にのびる溝状遺構である。現存長は東西に7.75 m、幅1.0 m、深さ0.17 mを測る。出土遺物はあまり多くなく、わずかに数点確認できたのみである。

＊出土土器（第83図）

1は口径 15.4cmで、残存器高1.6cmを測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。



第82図 31号遺構出土石器実測図(S=1/1)

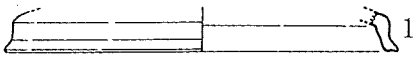
2) 9号溝

＊遺構

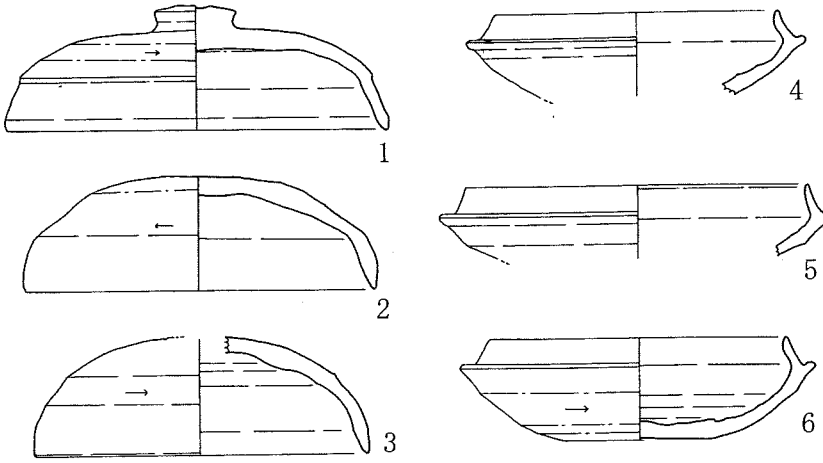
調査区のほぼ中央、南北にのびる遺構である。規模は、南北に36.0 m、幅0.7 m、深さ0.25 mを測る。遺物は遺構の床面から確認することができた。

＊出土土器（第 84 図）

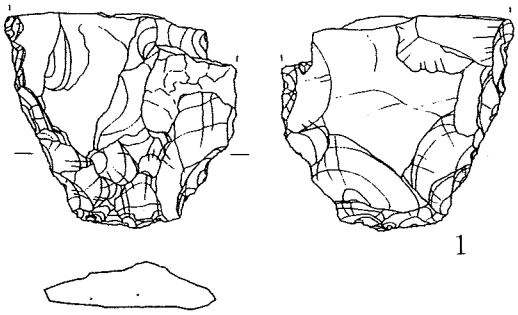
1 は蓋坏で、口径 15.2cm、つまみ径 3.3cm、器高 4.9cm を測る。色調内面は黄灰色で、外面はにぶい赤褐色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデである。外面口縁部は回転ナデ、上部は回転ヘラケズリである。つまみ部は回転ナデである。2 は蓋坏で、口径 13.9cm、器高 4.5cm を測る。色調は、内外面ともに浅黄橙色である。胎土は赤褐色砂粒・石英・角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法内面は、ナデである。外面口縁部は回転ナデ、上部は回転ヘラケズリである。3 は蓋坏で、口径 13.2cm、器高 4.6cm を測る。色調は、内外面ともに浅黄色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法内面は、ナデである。外面口縁部は回転ナデ、上部は回転ヘラケズリである。4 は坏身で、口径 11.2cm、受部径 13.5cm、残存器高 3.3cm を測る。色調内面は灰色で、外面は灰黄色である。胎土は石英・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。5 は坏身で、口径 13.6cm、受部径 15.8cm、残存器高 2.8cm を測る。色調内面は白灰色である。外面は白灰色で、一部濃灰色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。6 は坏身で、口径 11.9cm、受部径 14.4cm、残存器高 4.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒・深緑粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面の上部にかけてナデで、外面中部は回転ヘラケズリである。また、外面底部は回転ヘラキリ後軽くなでている。



第83図 6号溝出土土器実測図(S＝1/3)



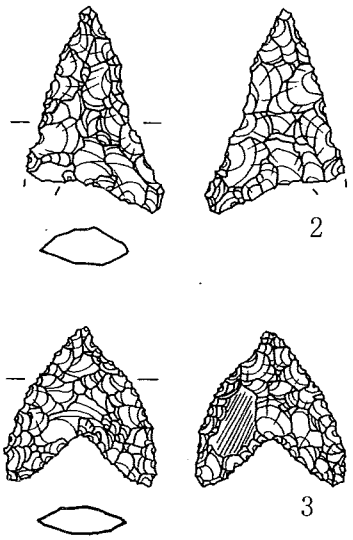
第84図 9号溝出土土器実測図(S＝1/3)



第85図 9号溝出土石器実測図(1)(S=1/2)

＊出土石器（第 85 図・第 86 図）

1 は打製石斧で基部を欠損しているが、長さ 5.7cm、幅 6.1cm、厚さ 1.25cm を測る。2 は打製石鏃で片側抉入部の一部を欠損しているが、長さ 2.7cm、幅 1.8cm、厚さ 0.45cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。3 は打製石鏃で、長さ 2.1cm、幅 2.0cm、厚さ 0.35cm を測る。材質は黒曜石である。



第86図 9号溝出土石器実測図(2)(S=1/1)

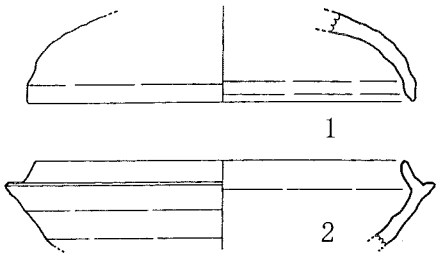
3）11 号 溝

＊遺構

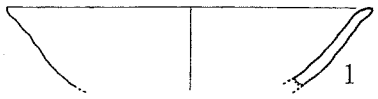
9号溝にほぼ沿うように検出された溝状遺構で、南北 14.5 m、幅 0.35 m、深さ 0.15 mを測る。

＊出土土器（第 87 図）

1は蓋坏で、口径 15.2cm、残存器高 3.4cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は濃灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデである。外面口縁部はナデ、上部は回転ヘラキリである。2は坏身で、口径 14.6cm、受部径 17.0cm、残存器高 3.3cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は雲母・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。



第87図 11号溝出土土器実測図(S=1/3)



第88図 14号溝出土土器実測図(S=1/3)

4）14 号 溝

＊遺構

6号溝にほぼ直角に検出された溝状遺構で、東西 11.0 m、幅 0.9 m、深さ 0.15 mを測る。

＊出土土器（第 88 図）

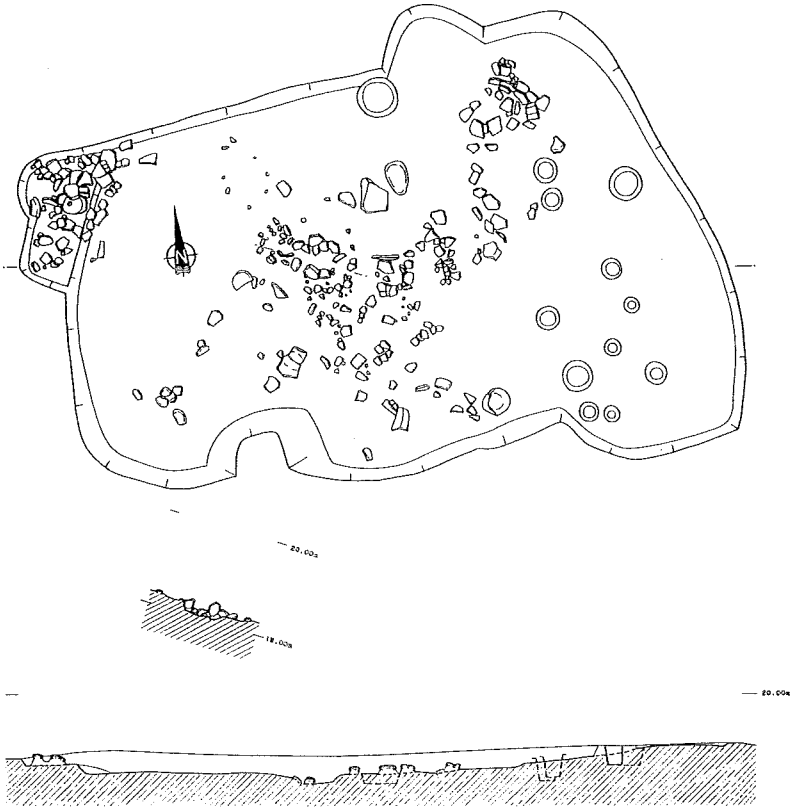
1は坏の口縁部で、口径 14.3cm、残存器高 3.1cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。

3．土　坑

1）94号土坑

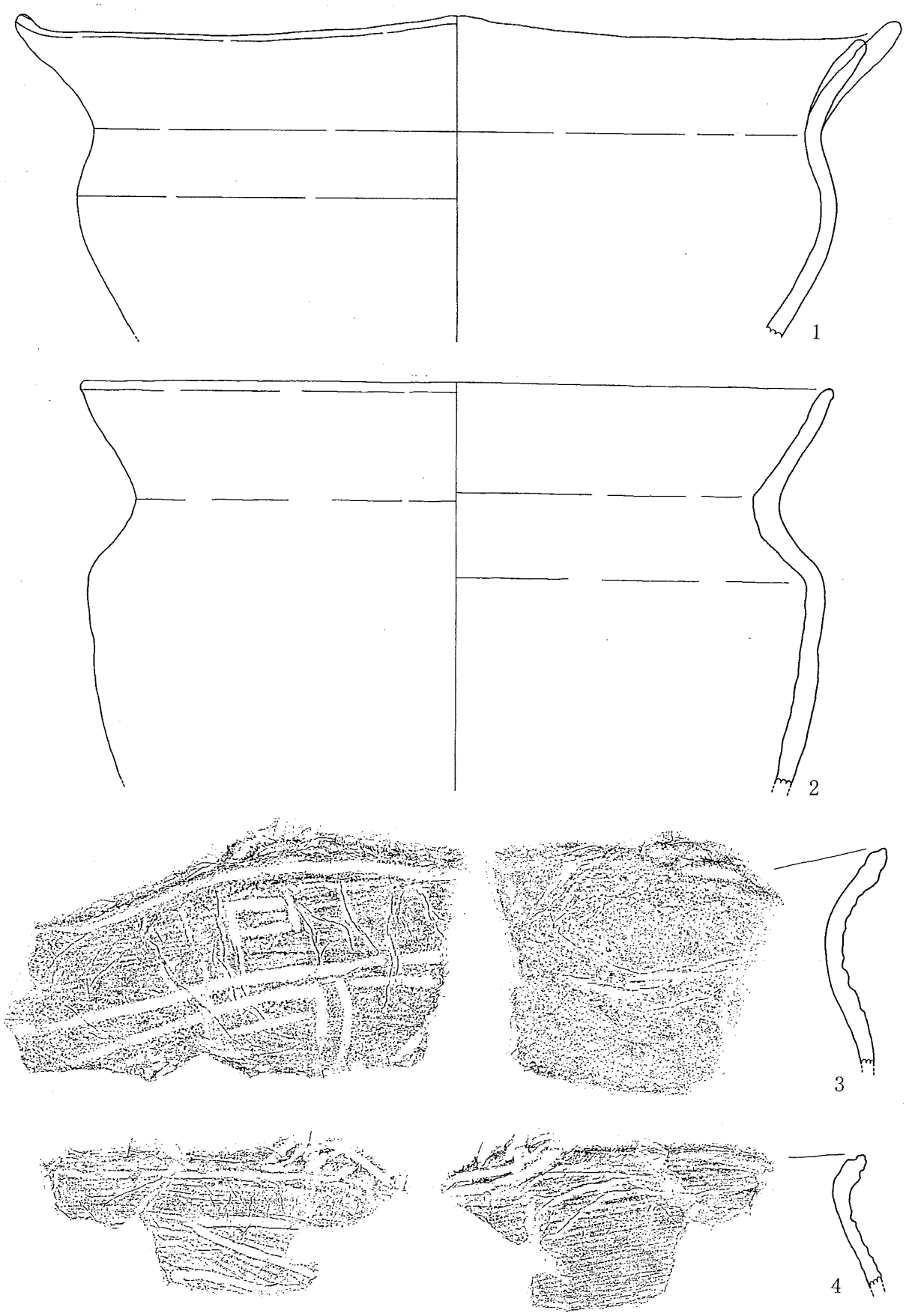
＊遺構（第 89 図）

調査区のほぼ中央部に検出された遺構で、南北 4.2 m、東西 6.95 m、深さ 0.18 mの不定形な遺構である。中央に石組みの炉をもつことから、住居跡と考えられる。炉は中央の石が既になく、周りを囲むように径 10cm 程の川石を配している。また炉の東側には、径 25cm 程の川石を半分床面に埋めた状態で立てて配している。床面は小さな石が多く、遺構に伴う柱穴等は確認できなかった。また中央の炉を囲むように、多くの黒曜石片が確認された。

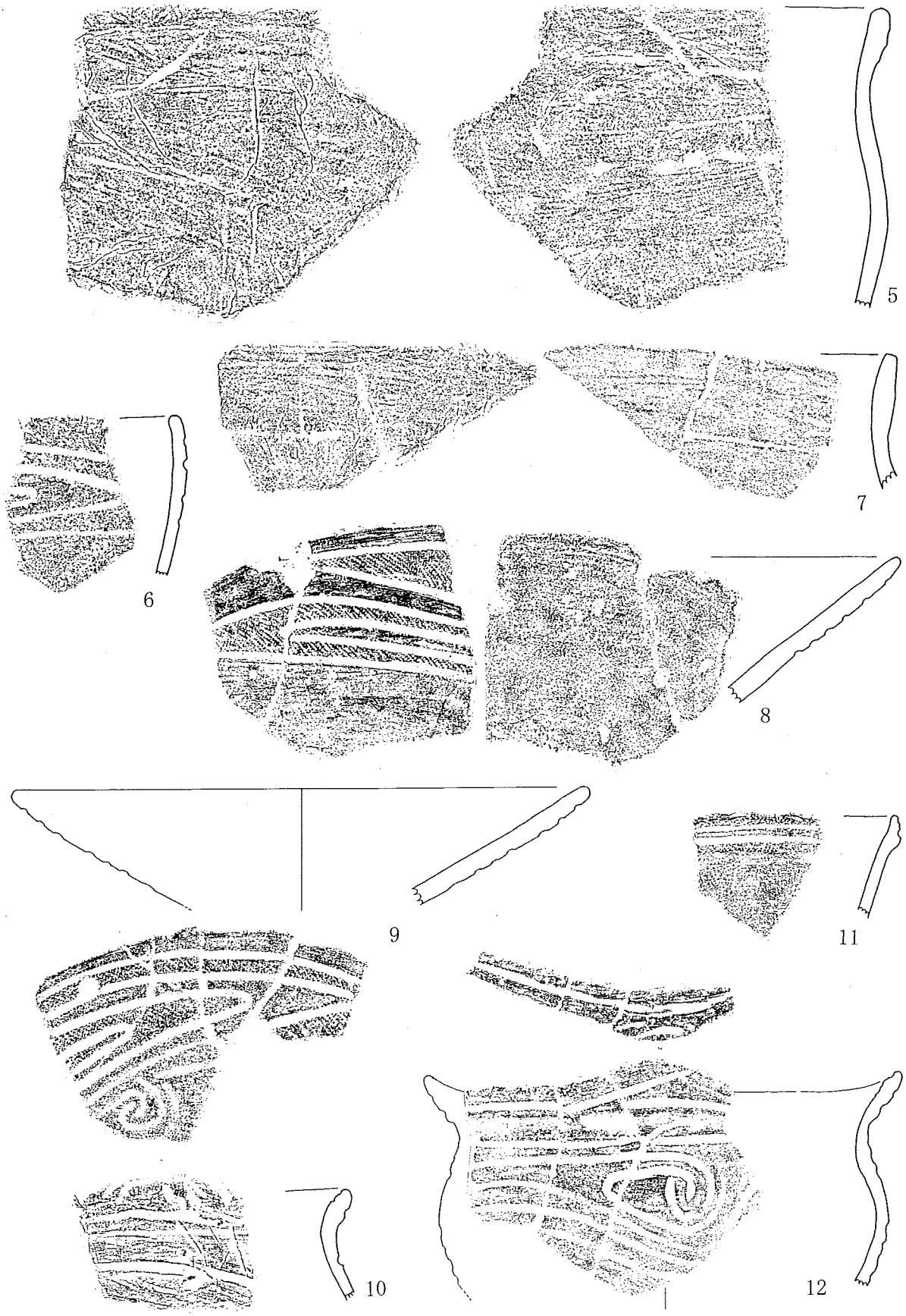

第89図 94号土坑 平・断面図(S=1/80)

＊出土土器（第 90 図・第 91 図・第 92 図・第 93 図・第 94 図）

1は鉢の口縁部で、口径 46.0cm、胴部径 40.4cm、残存

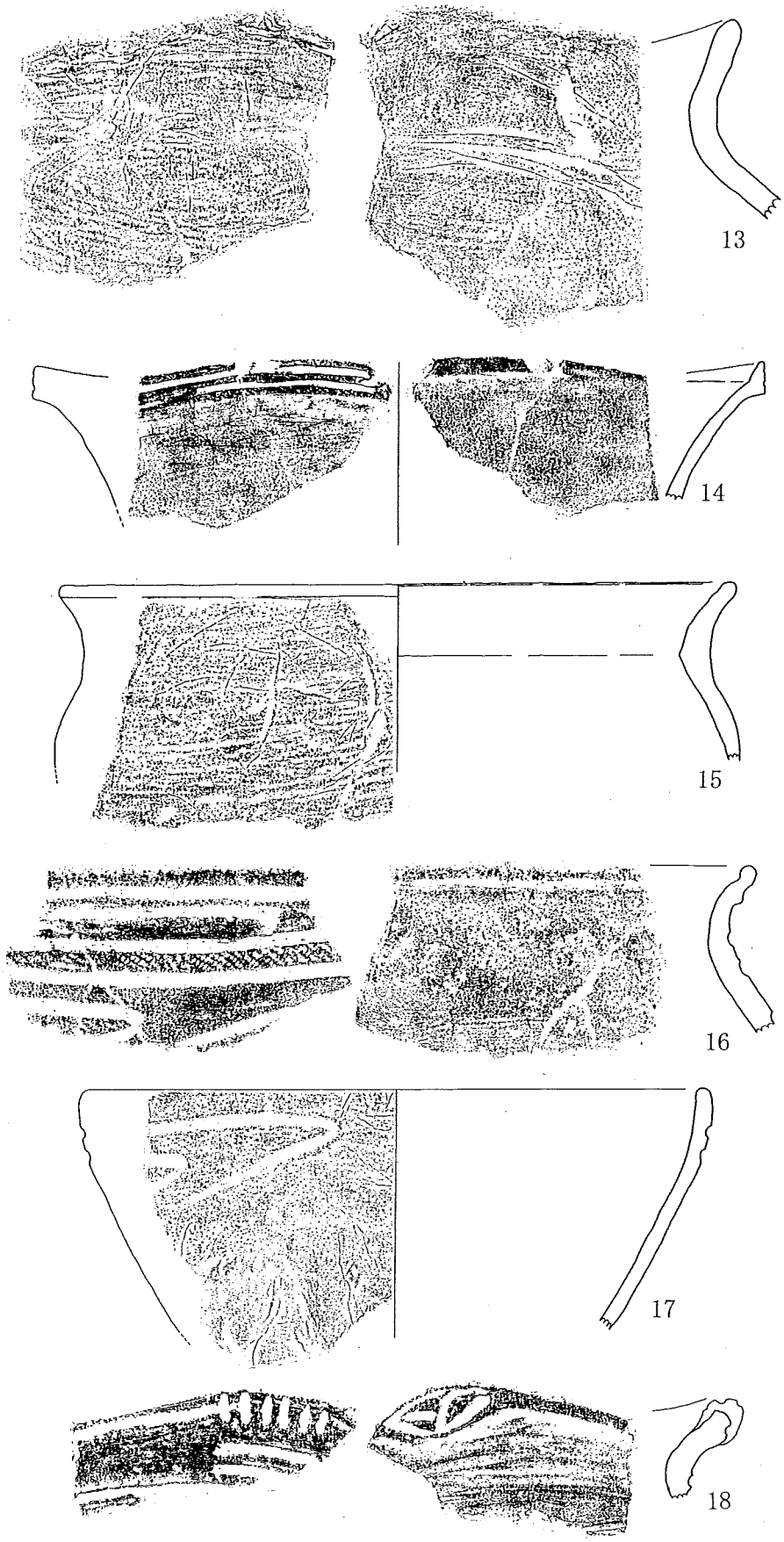


第90図 94号土坑出土土器実測図(1)(S=1/3)



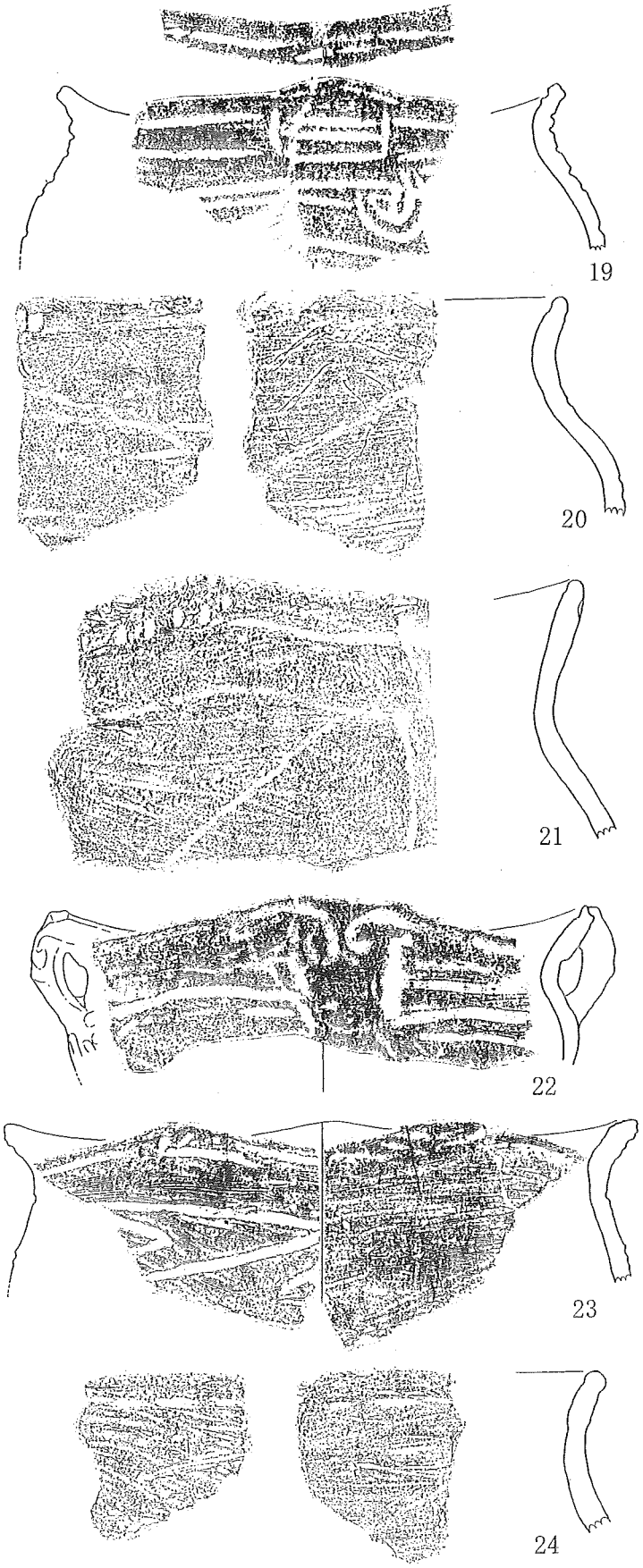
第91図 94号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)

器高 16.7cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにヘラミガキのち、横方向のナデである。２は深鉢の口縁部で、口径 39.4cm、残存器高 21.0cm を測る。色調内面は浅黄色で、外面はにぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石・赤褐色粒を含んでいる。内外面ともにナデと思われるが、器面荒れのため、調整は不明瞭である。３は深鉢の口縁部で、器高 11.4cm を測る。色調内面は橙色で、一部黒褐色である。外面は明赤褐色である。胎土は長石・角閃石・金雲母を含んでいる。内面はナデであるが、器面荒れのため、調整は不明瞭である。外面はナデののち、沈線を施している。４は深鉢の口縁部で、器高 7.0cm を測る。色調内面はにぶい黄褐色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキのちナデである。外面はヘラミガキとナデののち沈線を施している。５は深鉢の口縁部で、器高 15.5cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角



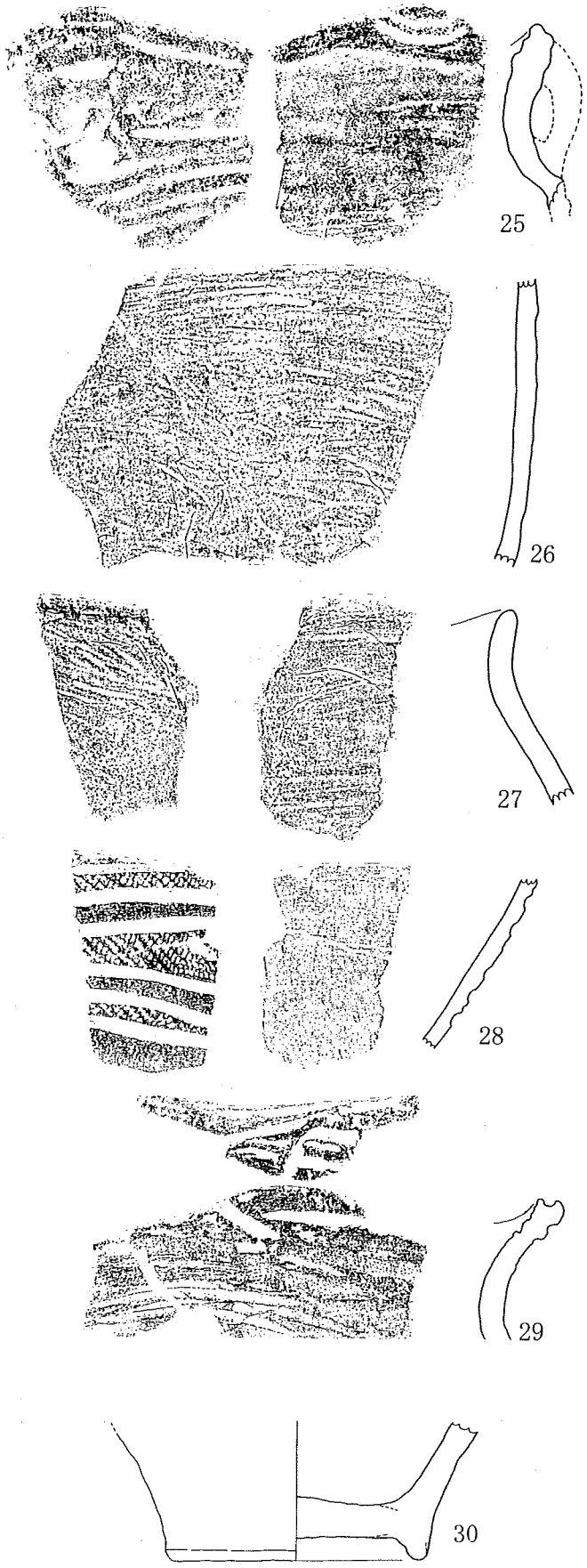
第92図 94号土坑出土土器実測図(3)(S=1/3)

閃石・雲母を含んでいる。内外面ともにヘラミガキののちナデている。6は深鉢の口縁部で、器高 8.3cm を測る。色調内面はにぶい橙色で、外面は橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はナデで、外面はナデののち、沈線を施している。7は深鉢の口縁部で、残存器高 7.0cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面はにぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデと思われるが、器面荒れのため、調整は不明瞭である。8は浅鉢の口縁部で、残存器高 7.4cm を測る。色調内面は褐色で、外面は橙色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。内面はヘラミガキののちナデである。外面はヘラミガキののちナデで、口縁上部は沈線と縄文を施している。9は浅鉢の口縁部で、口径 30.0cm、残存器高 6.0cm を測る。色調内面は褐色で、外面は明褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石・赤褐色粒を含んでいる。内面は条痕ののちナデで、外面は沈線を施したのち縄文とナデで仕上げている。10 は深鉢の口縁部で、残存器高 5.9cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキで、外面はヘラミガキののち沈線を施している。11 は深鉢の口縁部で、残存器高 5.4cm を測る。色調内面はにぶい黄褐色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内外面ともにヘラミガキで、外面口縁部には2条の沈線をめぐらせている。12 は深鉢の口縁部で、口径 24.8cm、残存器高 11.0cm を測る。色調内面は灰黄色で、外面は灰白色である。胎土は石英・白色粒・長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキとナデで、外面はナデののち沈線で文様を描いている。13 は深鉢の口縁部で、残存器高 9.1cm を測

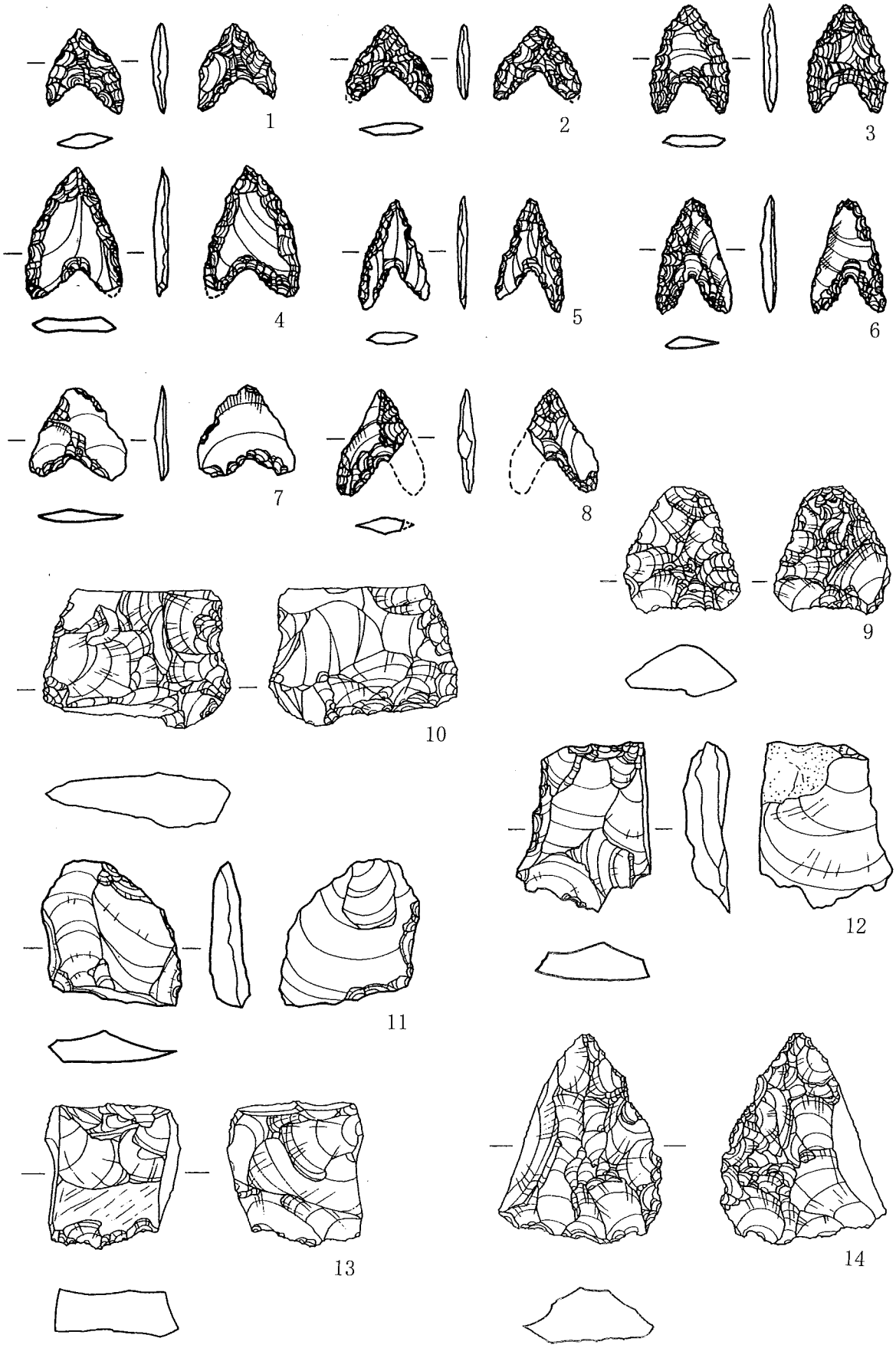


第93図 94号土坑出土土器実測図(4)(S=1/3)

る。色調内面は明赤褐色で、外面は赤褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内面はヘラミガキにナデで調整しているが、器面荒れのため不明瞭である。外面はヘラミガキにナデである。また、一部指オサエがみられる。14 は深鉢の口縁部で、口径 32.8cm、残存器高 6.2cm を測る。色調内面は暗灰黄色で、外面は灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・雲母・赤褐色粒を含んでいる。内外面ともにヘラミガキが施されており、口縁端部は縄文を施したのち、沈線がめぐる。15 は深鉢の口縁部で、口径 30.4cm、残存器高 8.2cm を測る。色調内面は灰褐色で、一部にぶい黄橙色である。外面はにぶい褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面は条痕にナデ調整を施している。外面はナデであるが、器面荒れのため調整は不明瞭である。16 は深鉢の口縁部で、残存器高 7.5cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰褐色である。胎土は白色砂粒・角閃石・長石・雲母・赤褐色粒を含んでいる。内面は一部に条痕が残っているが、全体的に剥落のため調整は不明瞭である。外面上部はヘラミガキで、下部は縄文を施したのち沈線とヘラミガキで仕上げている。17 は深鉢の口縁部で、口径 27.6cm、残存器高 11.0cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は明黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデののちヘラミガキである。また外面には沈線で文様を描いている。18 は深鉢の口縁部で、残存器高 4.4cm を測る。色調内面はにぶい黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・白色粒・角閃石・赤褐色粒・雲母を含んでいる。内外面ともにヘラミガキで調整しており、口縁端部は縄文を施したのち、沈線とヘラミガキで仕上げている。19 は深鉢の口縁部で、口径 22.0cm、残存器高 8.3cm を測る。色調内面はにぶい黄褐色で、外面は明褐色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。器面は条痕にナデが施されており、また外面には沈線によって文様が描かれている。20 は深鉢の口縁部で、残存器高 9.3cm を測る。色調内面は赤褐色で、

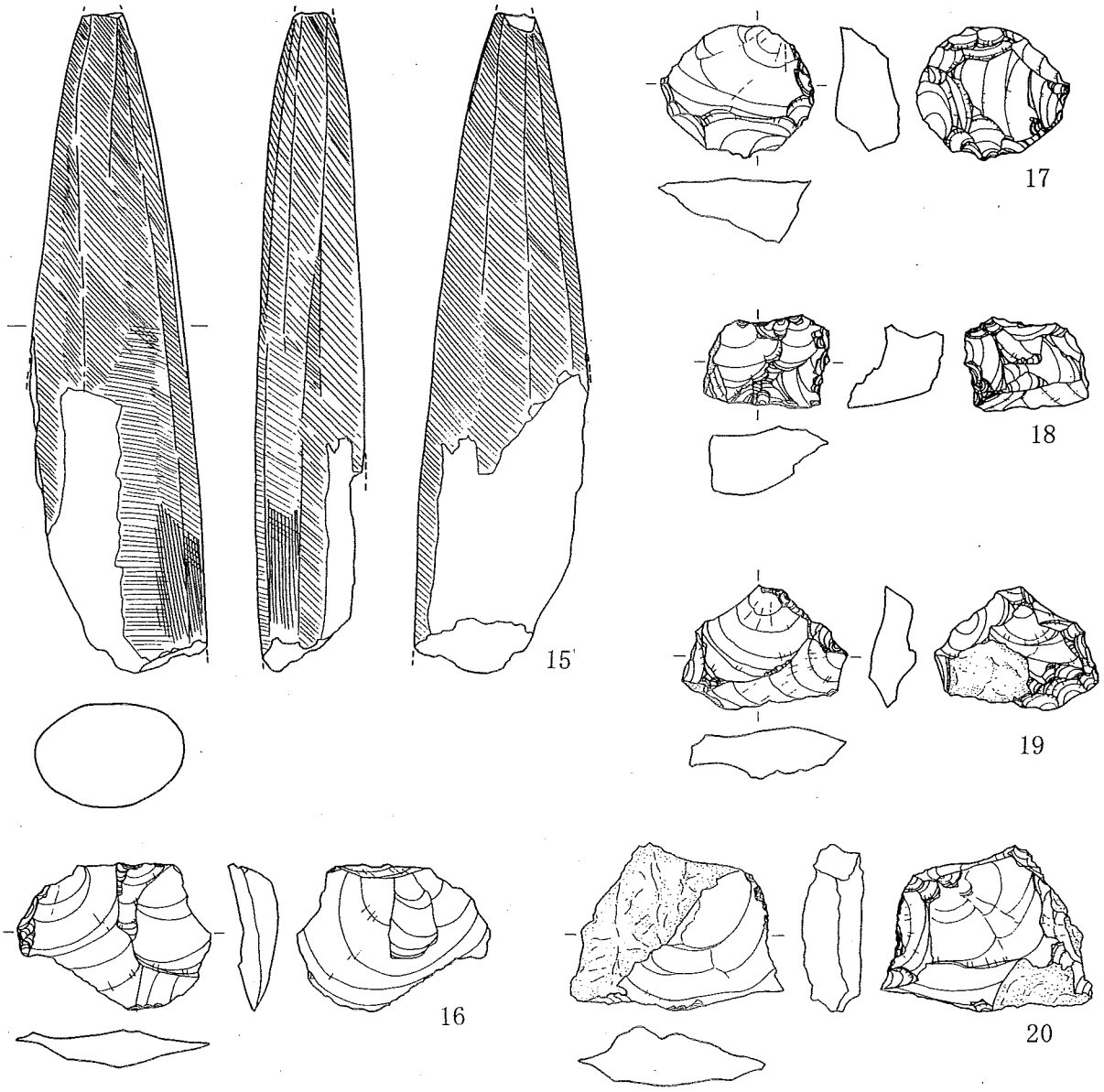


第94図 94号土坑出土土器実測図(5)(S=1/3)



第95図 94号土坑出土石器実測図(1)(S=1/1)

外面は褐色である。胎土は長石・赤褐色粒を含んでいる。内面は条痕にナデを施している。外面は全体的に器面が荒れているが、ナデで調整したのち沈線を施している。21 は深鉢の口縁部で、残存器高 11.5cm を測る。色調内面は明黄褐色で、外面はにぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。器面は全体的に荒れているため調整は不明瞭であるが、わずかに口縁端部に沈線と刻み目が確認できる。22 は深鉢の口縁部で、口径 24.2cm、残存器高 7.1cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。内外面ともにナデで調整している。また外面は沈線で文様を描いている。23 は深鉢の口縁部で、口径 27.8cm、残存器高 7.2cm を測る。色調内面はにぶい黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。内面は条痕が強く残っている。外面は条痕で調整したのち、沈線を施している。24 は深鉢の口縁部で、残存器高 7.1cm を測る。色調内面は橙色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内外面ともに条痕にナデで仕上げている。25 は深鉢の口縁部で、残存器高 8.2cm を測る。色調内面は暗褐色で、外面は褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。内外面ともに条痕にナデで仕上げている。26 は深鉢の胴部で、残存器高 12.8cm を測る。色調は、内外面ともににぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石を



第96図 94号土坑出土石器実測図(2)(S=1/2)

含んでいる。内面はナデと指オサエが施され、外面は条痕にナデで調整している。27 は深鉢の口縁部で、残存器高 8.7cm を測る。色調は、内外面ともににぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともに条痕にナデで調整している。28 は浅鉢の口縁部で、残存器高 7.3cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は白色粒・角閃石・雲母を含んでいる。内面はヘラミガキである。外面はヘラミガキののち、沈線と縄文を施している。29 は深鉢の口縁部で、残存器高 7.9cm を測る。色調内面は橙色で、外面はにぶい赤褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。内外面ともに条痕が強く残っており、口縁端部は沈線が施されている。30 は底部で、底径 11.0cm、残存器高 6.2cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は黄橙色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともにナデで仕上げている。

＊出土石器（第 95 図・第 96 図）

1 は打製石鏃で、長さ 1.45cm、幅 1.3cm、厚さ 0.25cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。2 は打製石鏃で片側抉入部の一部がわずかに欠損している。長さ 1.25cm、幅 1.5cm、厚さ 0.25cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。3 は打製石鏃で、長さ 1.85cm、幅 1.4cm、厚さ 0.2cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。4 は打製石鏃で片側抉入部の一部が欠損している。長さ 2.25cm、幅 1.6cm、厚さ 0.25cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。5 は打製石鏃で、長さ 1.9cm、幅 1.2cm、厚さ 0.15cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。6 は打製石鏃で、長さ 1.95cm、幅 1.3cm、厚さ 0.25cm を測る。材質は腰岳産黒曜石である。7 は打製石鏃で、長さ 1.5cm、幅 1.65cm、厚さ 0.2cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。8 は打製石鏃で片側抉入部が欠損している。長さ 1.75cm、幅 0.9cm、厚さ 0.3cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。9 は石鏃未製品で、長さ 2.15cm、幅 2.0cm、厚さ 0.9cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。10 はクサビ形石器で、長さ 2.45cm、幅 3.25cm、厚さ 1.0cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。11 は使用痕のある剥片で、長さ 2.55cm、幅 2.5cm、厚さ 0.7cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。12 はサイドスクレイパーで、長さ 2.9cm、幅 2.35cm、厚さ 0.8cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。13 はエンドスクレイパーで、長さ 2.5cm、幅 2.35cm、厚さ 0.85cm を測る。材質は、姫島産黒曜石である。14 は石鏃未製品で、長さ 3.65cm、幅 2.85cm、厚さ 0.95cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。15 は磨製石斧で、刃部が欠損している。長さ 19.0cm、幅 4.7cm、厚さ 3.2cm を測る。材質は花崗斑岩である。16 は使用痕のある剥片で、長さ 4.25cm、幅 5.6cm、厚さ 1.5cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。17 は石核で、長さ 3.8cm、幅 4.5cm、厚さ 2.0cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。18 は石核で、長さ 2.7cm、幅 3.65cm、厚さ 2.85cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。 19 は石核で、長さ 3.6cm、幅 4.8cm、厚さ 1.8cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。20 は使用痕のある剥片で、長さ 4.8cm、幅 6.2cm、厚さ 1.8cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。

2）140号土坑

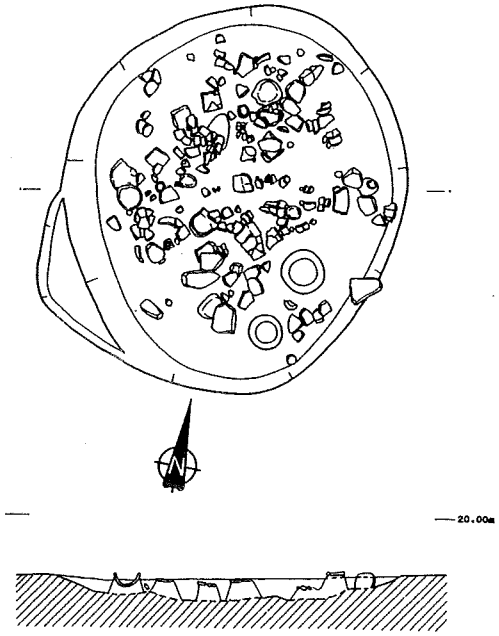
＊遺構（第 97 図）

調査区のほぼ中央で検出された、径 2.75 m、深さ 0.25 mのやや楕円形をした遺構である。

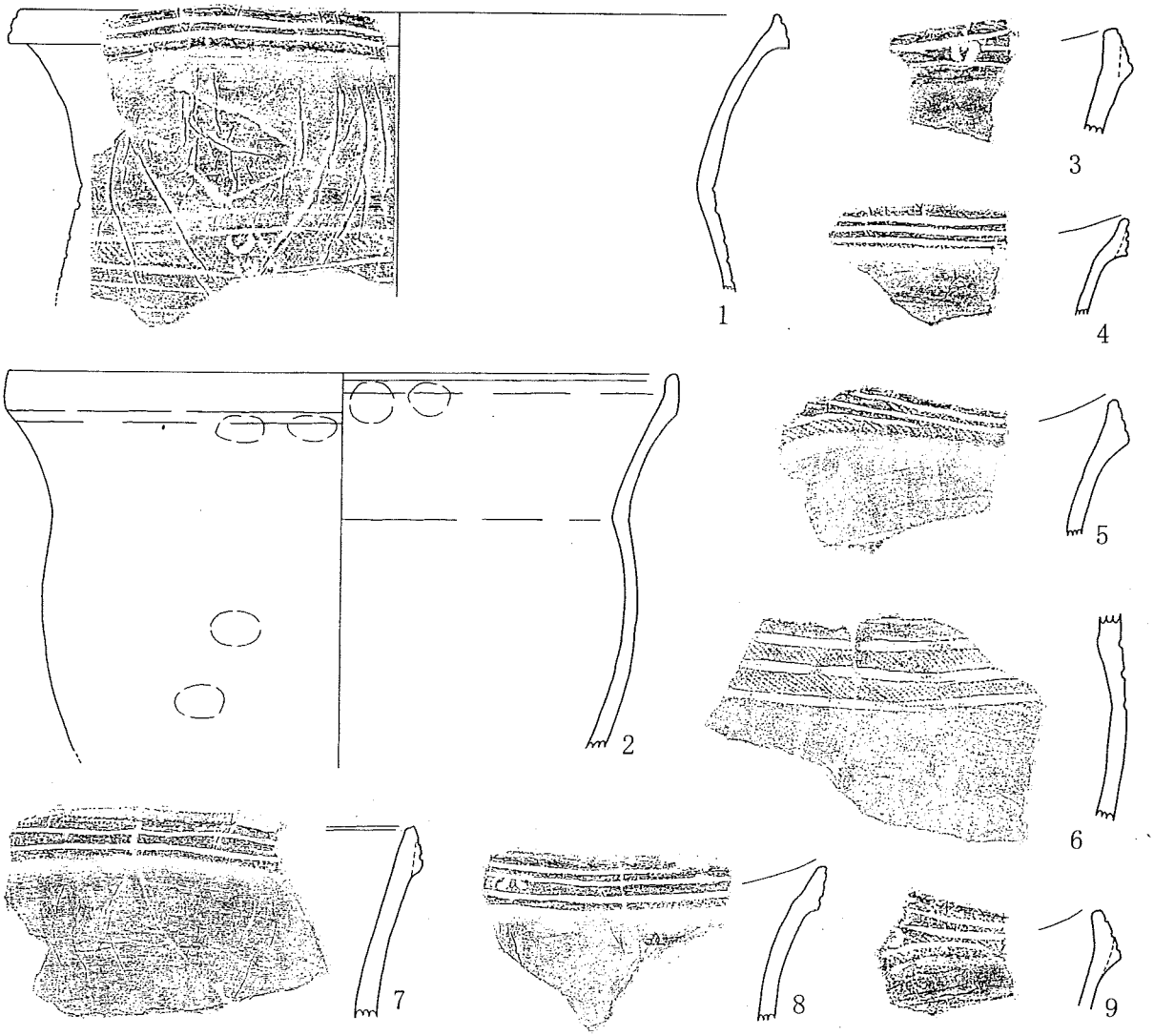
＊出土土器（第 98 図・第 99 図）

1 は深鉢の口縁部で、口径 31.5cm、残存器高 11.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はヘラミガキで、外面はナデとヘラミガキを施したのち縄文と沈線で調整している。2 は深鉢の口縁部で、口径 27.5cm、残存器高 15.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデとヘラミガキで調整している。一部指オサエが残っている。3 は深鉢の口縁部で、残存器高 4.4cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面はにぶい黄橙色である。胎土は長石・雲母を含んでいる。内外面ともにヘラミガキで仕上げられており、口縁端部は沈線と三日月形文様が施されている。4 は深鉢の口縁部で、残存器高 4.0cm を測る。色調内面は明黄褐色で、外面はにぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石・金雲母を含んでいる。内外面ともにナデのちミガキで、口縁端部には 3 条の沈線がめぐる。5 は深鉢の口縁部で、残存器高 5.6cm を測る。色調内面は明赤褐色で、一部にぶい黄橙色である。外面は明赤褐色で、一

部灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにナデのちミガキで、口縁端部には沈線と縄文が施されている。６は深鉢の胴部で、残存器高 8.7cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はミガキで、外面下部はナデである。外面上部は沈線と縄文が施されている。７は深鉢の口縁部で、残存器高 8.0cm を測る。色調内面はにぶい黄褐色で、外面は橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにミガキで、口縁端部には２条の沈線がめぐる。８は深鉢の口縁部で、残存器高 6.4cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにミガキで、口縁端部には沈線と縄文が施されている。９は深鉢の口縁部で、残存器高 4.2cm を測る。色調内面は赤褐色で、外面は明赤褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内外面ともにミガキで、口縁端部には沈線と縄文が施されている。10 は深鉢で、口径 18.0cm、底径 3.1cm、胴部最大径 16.7cm、残存器

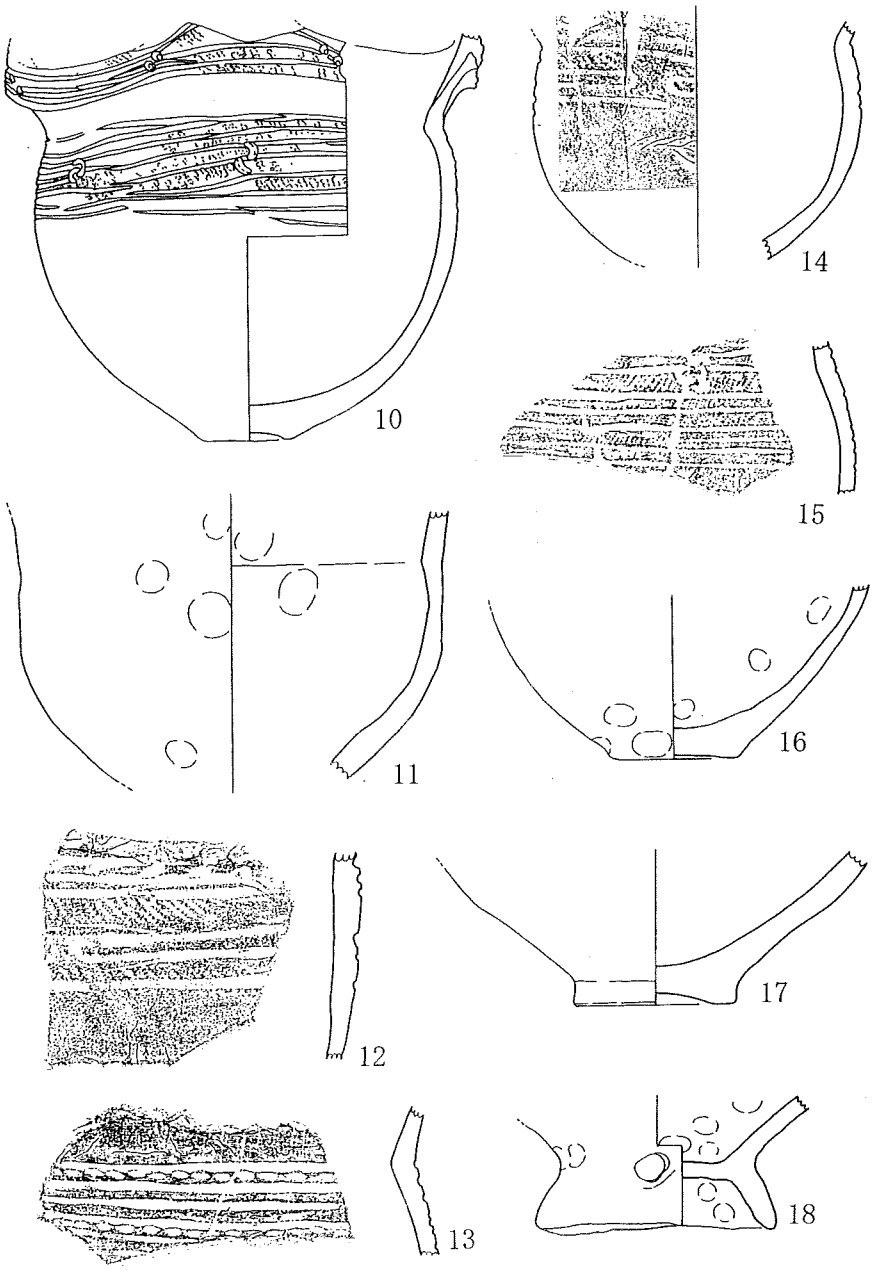


第97図 140号土坑平・断面図(S=1/60)

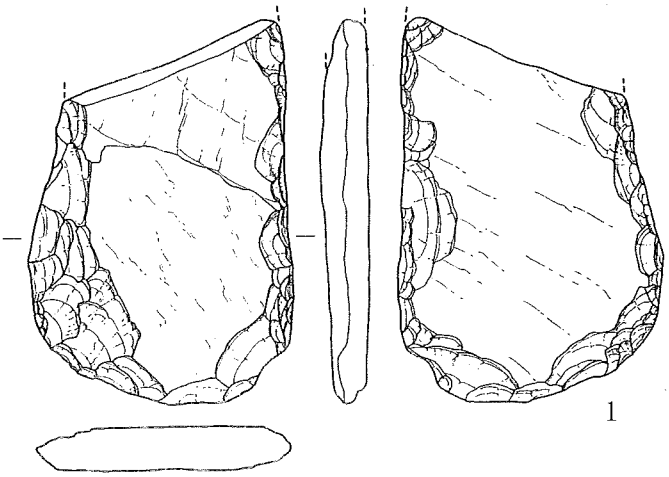


第98図 140号土坑出土土器実測図(1)(S=1/3)

高 16.5cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色で、一部暗赤褐色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに丁寧にナデが施され、口縁淡部から外面胴部にかけて、沈線と縄文、刺突文等で文様が描かれている。11 は深鉢の胴部で、残存器高 10.5cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面はにぶい黄橙色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともに指オサエとナデののち一部ミガキが施されている。12 は深鉢の胴部で、残存器高 8.2cm を測る。色調は、内外面ともににぶい黄橙色である。胎土は石英・長石・角閃石を含んでいる。内面はナデで、外面は沈線と縄文、刻み目で仕上げられている。13 は深鉢の胴部で、残存器高 6.0cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面はにぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内面はナデとミガキで、外面はミガキを施したのち、沈線と刺突文で、仕上げている。14 は深鉢の胴部で、残存器高 9.6cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、一部赤褐色である。外面は明赤褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにミガキで、外面上部には沈線と三日月形文様が施されている。15 は深鉢の胴部で、残存器高 6.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともにミガキで、外面には沈線と縄文、三日月形文様が施されている。16 は深鉢の底部で、底径



第99図 140号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)

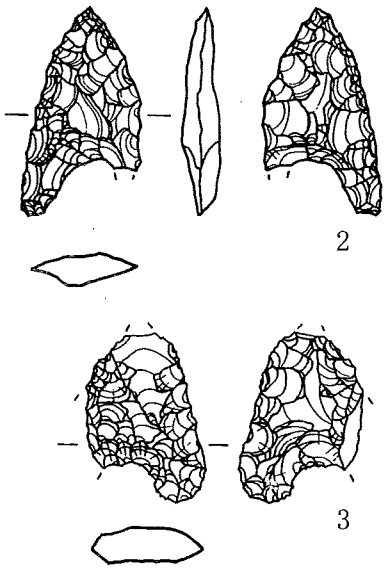


第100図 140号土坑出土石器実測図(1)(S=1/2)

5.0cm、残存器高 6.8cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面はにぶい黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。内外面ともに指オサエとナデが施されている。17 は深鉢の底部で、底径 6.2cm、残存器高 6.0cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は明黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。調整方法は、内外面ともにナデである。18 は深鉢の底部で、底径 9.5cm、残存器高 5.4cm を測る。色調内面はにぶい黄橙色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石・雲母を含んでいる。内外面ともにナデと指オサエで調整したのちミガキを施している。

＊出土石器（第 100 図・第 101 図）

1 は扁平打製石斧で、基部が欠損している。長さ 10.3cm、幅 7.1cm、厚さ 1.3cm を測る。材質は安山岩である。2 は打製石鏃で片側抉入部を欠損している。長さ 2.7cm、幅 1.6cm、厚さ 0.5cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。3 は打製石鏃で一部を欠損しているが、長さ 2.25cm、幅 1.6cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。



第101図 140号土坑出土石器実測図 (2) (S=1/1)

3）150号土坑

＊遺構

調査区のほぼ中央部で確認された遺構で、径 0.95 m、深さ 0.4 mの円形の土坑である。

＊出土土器（第 102 図）

1 は口縁部で、口径 36.0cm、残存器高 5.4cm を測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。内面は、丁寧なミガキが施されている。外面は強い指ナデ後、一部にミガキが施されている。2 は鉢の口縁部で、口径 23.6cm、残存器高 5.0cm を測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに、丁寧な横方向のミガキが施されている。3 は鉢の口縁部で、残存器高 4.7cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は角閃石・雲母・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに丁寧な横方向のミガキで、外面には沈線が施されている。

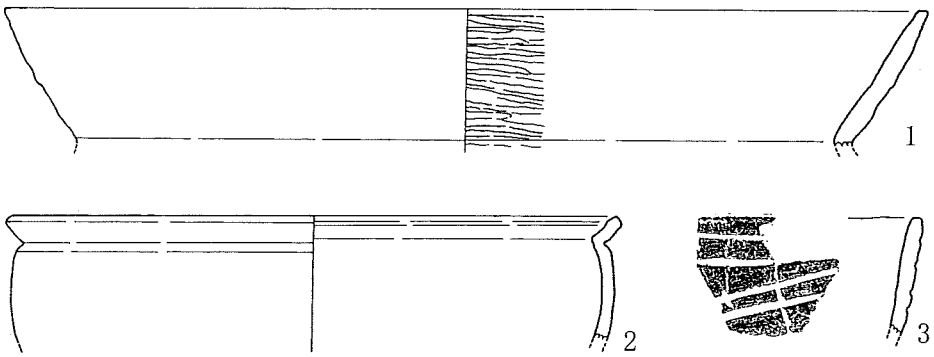
4）70号土坑

＊遺構（第 103 図）

調査区の南側で確認された遺構で、径 1.65 m、深さ 0.45 mの円形の土坑である。

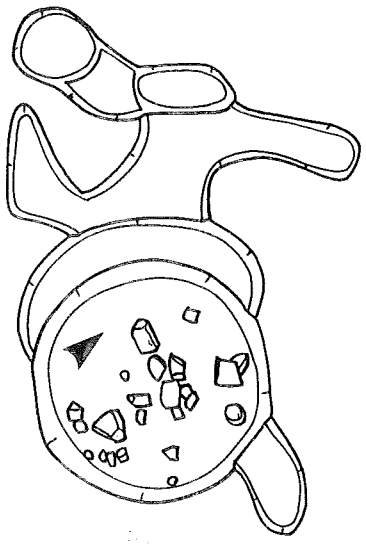
＊出土土器（第 104 図）

1 は甕の底部で、底径 7.6cm、残存器高 6.9cm を測る。色調内面は暗赤褐色



第102図 150号土坑出土土器実測図 (S=1/3)

で、外面は淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。2は甕の底部で、底径7.6cm、残存器高7.0cmを測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。3は甕の底部で、底径6.6cm、残存器高5.3cmを測る。色調内面は黄褐色である。外面は赤茶褐色で、一部黄褐色である。胎土は石英・角閃石・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。また、底部最下部にはナデが施されている。4は甕の底部で、底径7.0cm、残存器高8.0cmを測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。また、底部最下部にはナデが施されている。5は甕の底部で、底径6.4cm、残存器高7.2cmを測る。色調内面は橙色で、外面は暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。6は甕の底部で、底径7.2cm、残存器高9.3cmを測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。また、底部最下部にはナデが施されている。7は甕の底部で、底径5.9cm、残存器高8.55cmを測る。色調内面は灰褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目が施されている。8は壷で、口径15.4cm、残存器高13.3cmを測る。色調内面は灰褐色である。外面は橙色で、一部淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は横方向のミガキである。また口縁部には2個の穴をうがっている。9は壷の底部で、底径7.5cm、残存器高5.8cmを測る。色調は、内外面ともに黄褐色で、一部橙色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。10は壷の底部で、底径7.35cm、残存器高11.3cmを測る。色調内面は橙色である。外面は黄褐色で、一部灰褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。11は高坏の脚部で、底径15.4cm、残存器高11.0cmを測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデとハケ目が施され、シボリ痕が残っている。外面は縦方向のミガキが施されている。12は器台で、口径10.0cm、残存器高11.2cmを測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはヨコナデで、外面胴部は縦方向のハケ目が施されている。13は壷の底部で、底径5.2cm、残存器高7.0cmを測る。色調内面は赤褐色で、一部黄褐色、暗褐色である。外面は白褐色で、淡橙褐色、暗褐色である。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面はヘラミガキののちナデで、外面はナデである。14は壷の底部で、底径6.8cm、残存器高6.7cmを測る。色調内面は橙色で、一部灰褐色である。外面は橙色で、一部黄褐色である。胎土は石英・白色粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデと指オサエで、外面は縦方向のヘラミガキである。

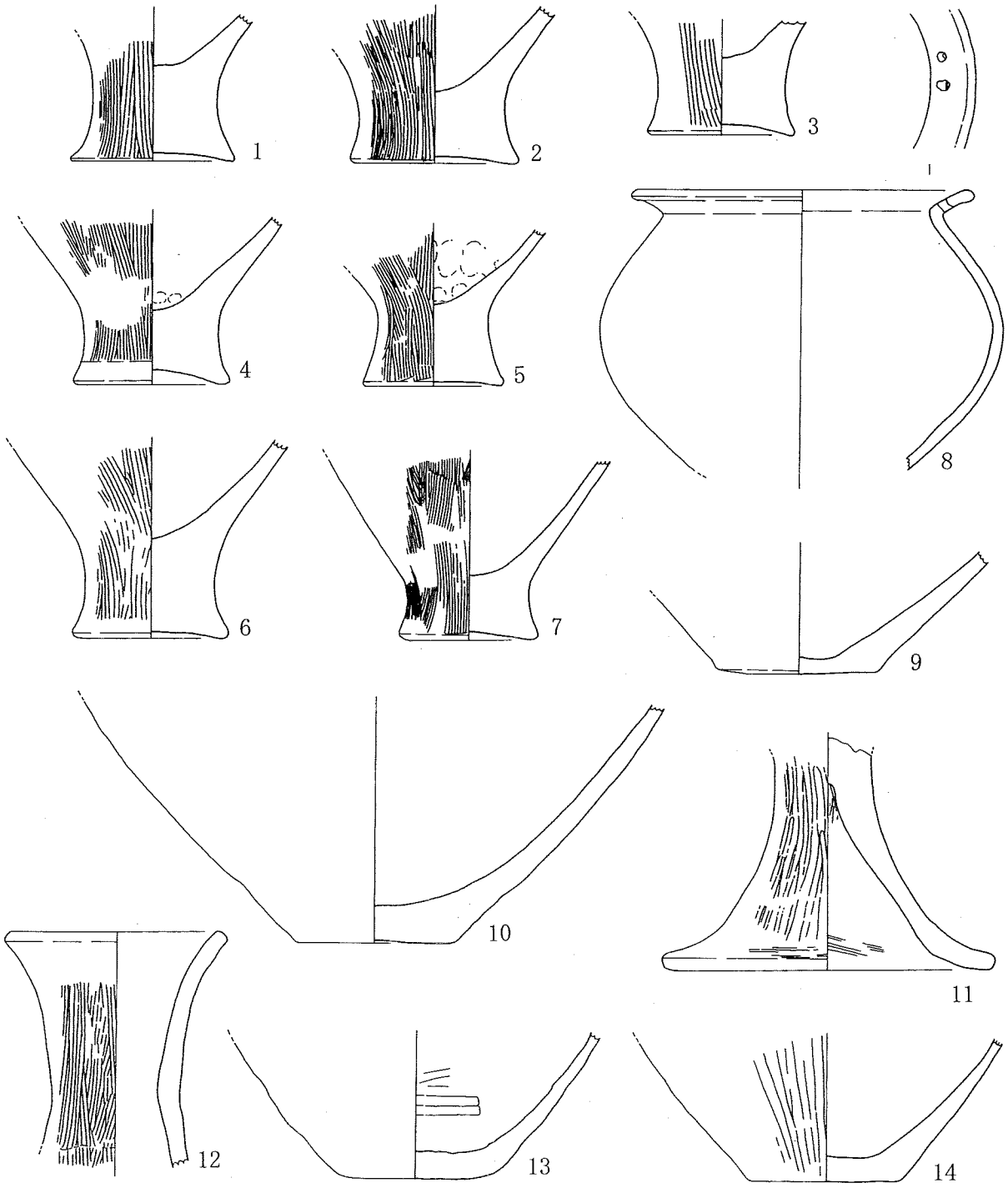


第103図 70号土坑平面図(S=1/50)

5）145号土坑

＊遺構

調査区のほぼ中央で検出された遺構で、1.65 m× 1.4 m、深さ0.2 mの楕円形の土坑である。



第104図 70号土坑出土土器実測図(S=1/3)

＊出土土器（第105図）

1は口縁部で、口径 24.8cm、残存器高 2.5cm を測る。色調内面は淡暗褐色である。外面は灰褐色で、一部暗褐色である。胎土は白色粒・砂粒・角閃石・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。2は甕の口縁部で、口径 25.0cm、残存器高 7.0cm を測る。色調内面は淡暗褐色で、外面は淡橙褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また外面胴部には2条の沈線がめぐる。

6）147号土坑

＊遺構

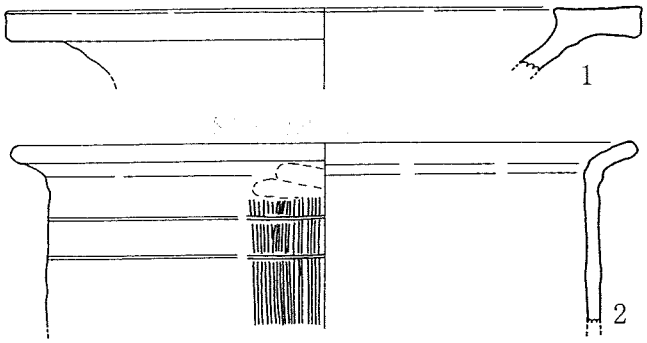
調査区のほぼ中央で検出された遺構で、1.8 m× 0.85 m、深さ 0.16 mの不定形の土坑である。

＊出土土器（第 106 図）

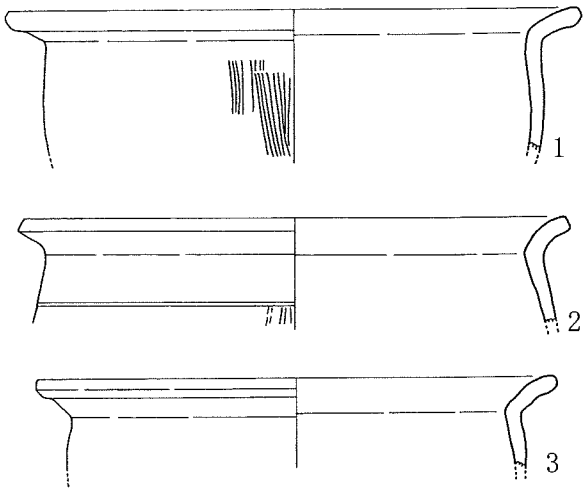
1は甕の口縁部で、口径 22.5cm、残存器高 5.7cm を測る。色調内面は淡褐色で、外面は暗褐色である。胎土は石英・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。2は口縁部で、口径 21.4cm、残存器高 4.2cm を測る。色調は、内外面ともに淡暗褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また、外面胴部には1条の沈線がめぐる。3は口縁部で、口径 20.4cm、残存器高 3.6cm を測る。色調内面は淡褐色で、外面は暗褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目がわずかに残る。

＊出土石器（第 107 図）

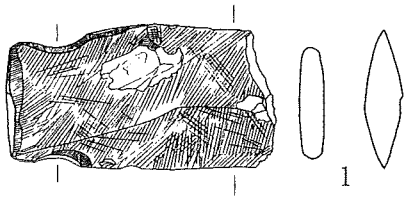
1は磨製石斧で一部を欠損しているが、長さ 7.2cm、幅 3.9cm、厚さ 1.0cm を測る。



第105図 145号土坑出土土器実測図(S=1/3)



第106図 147号土坑出土土器実測図(S=1/3)



第107図 147号土坑出土石器実測図(S=1/2)

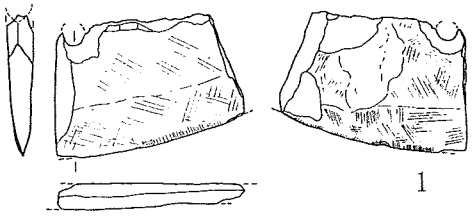
7）164号土坑

＊遺構

調査区のほぼ中央で検出された遺構で、2.15 m× 1.3 m、深さ 0.15 mの楕円形の土坑である。

＊出土土器（第 109 図）

1は口縁部で、口径 26.0cm、残存器高 10.1cm を測る。色調は、内外面ともに白褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。2は甕の口縁部で、口径 26.0cm、残存器高 9.6cm を測る。色調内面は白黄褐色で、外面は白橙褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。



第108図 164号土坑出土石器実測図(S=1/2)

＊出土石器（第 108 図）

1は石包丁の欠損したもので、長さ 3.75cm、幅 5.0cm、厚さ 0.7cm を測る。

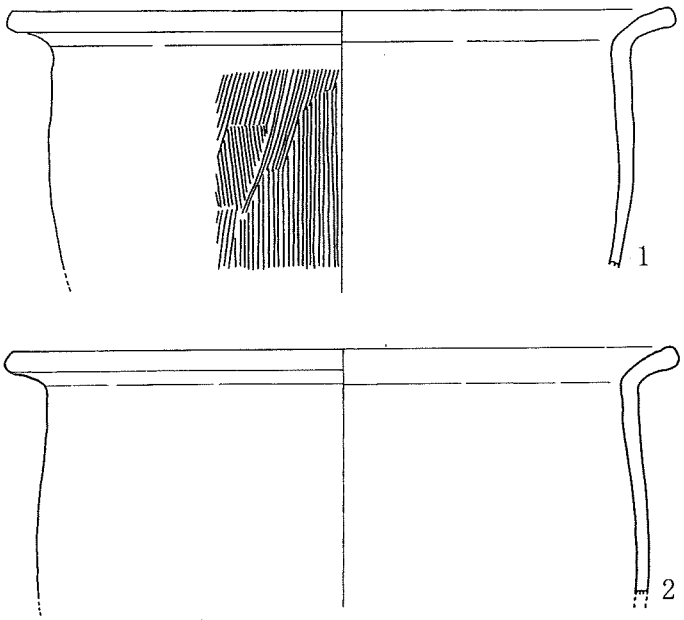
8）176号土坑

＊遺構

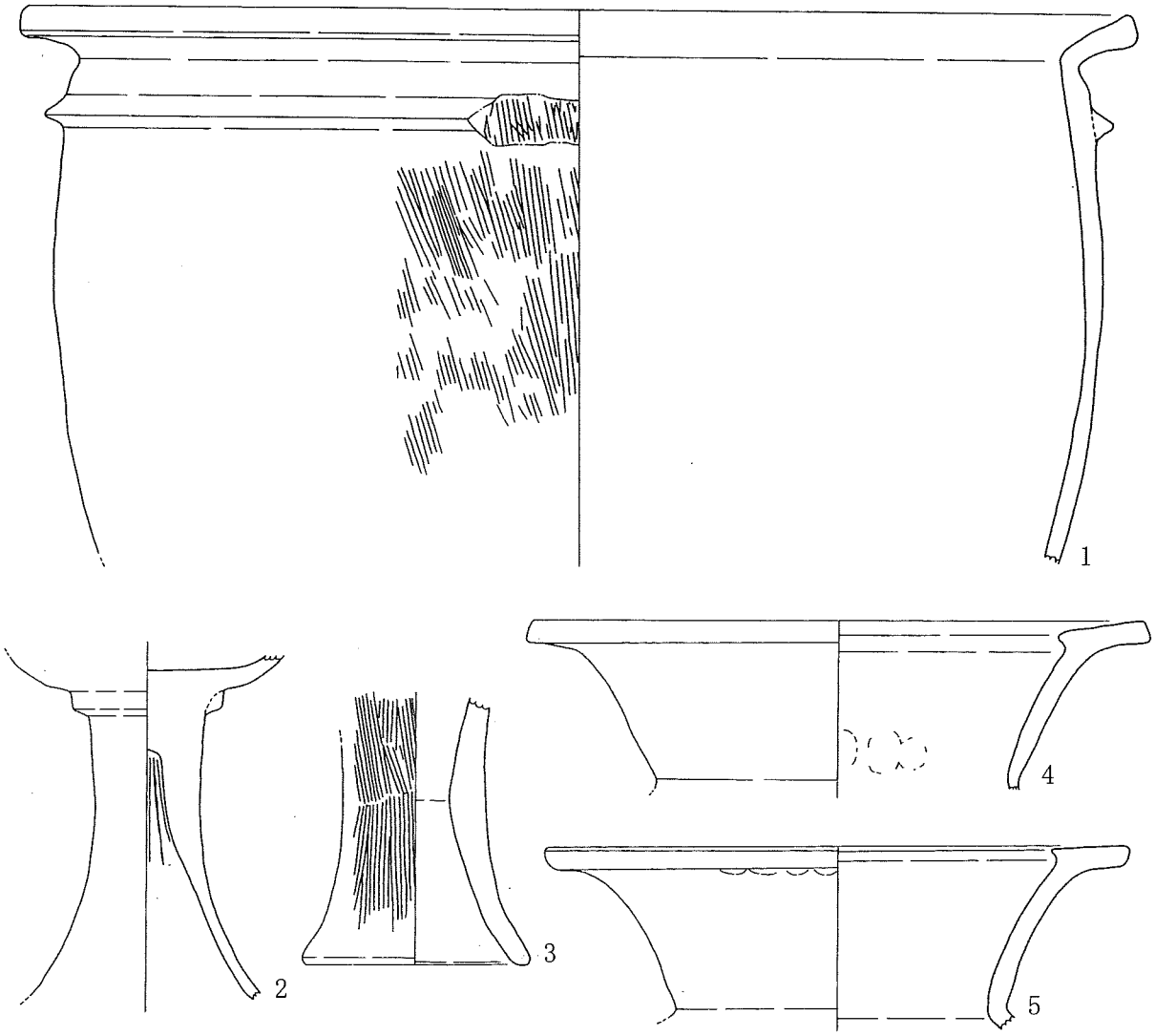
94号土坑を切るように確認された遺構で、南北1.5 m、東西0.65 m、深さ0.1 mの不定形な土坑である。

＊出土土器（第110図・第111図）

1は甕の口縁部で、口径45.5cm、胴部最大径42.7cm、残存器高22.5cmを測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は角閃石・白色砂粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また、外面胴部には1条の突帯がめぐる。2は高坏の脚部で、残存器高14.2cmを測る。色調内面は黄褐色で、外面

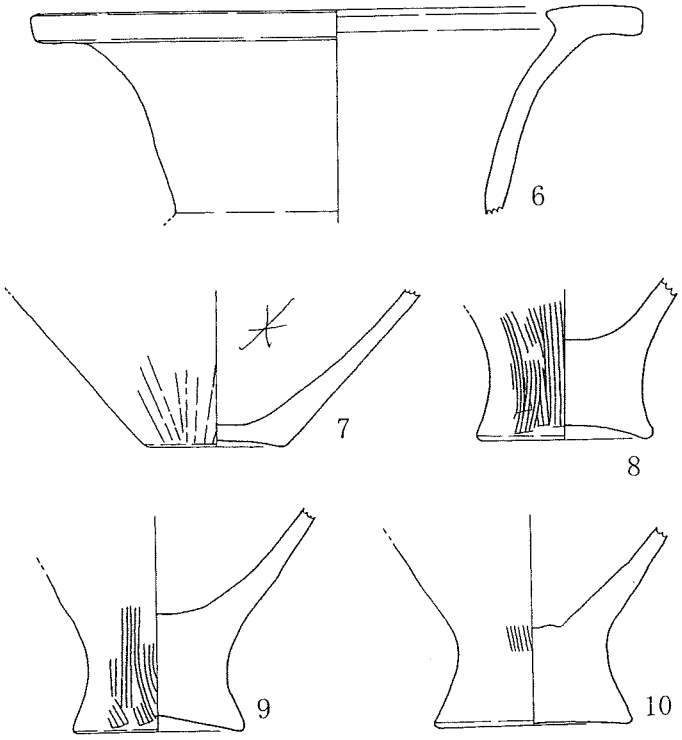


第109図　164号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

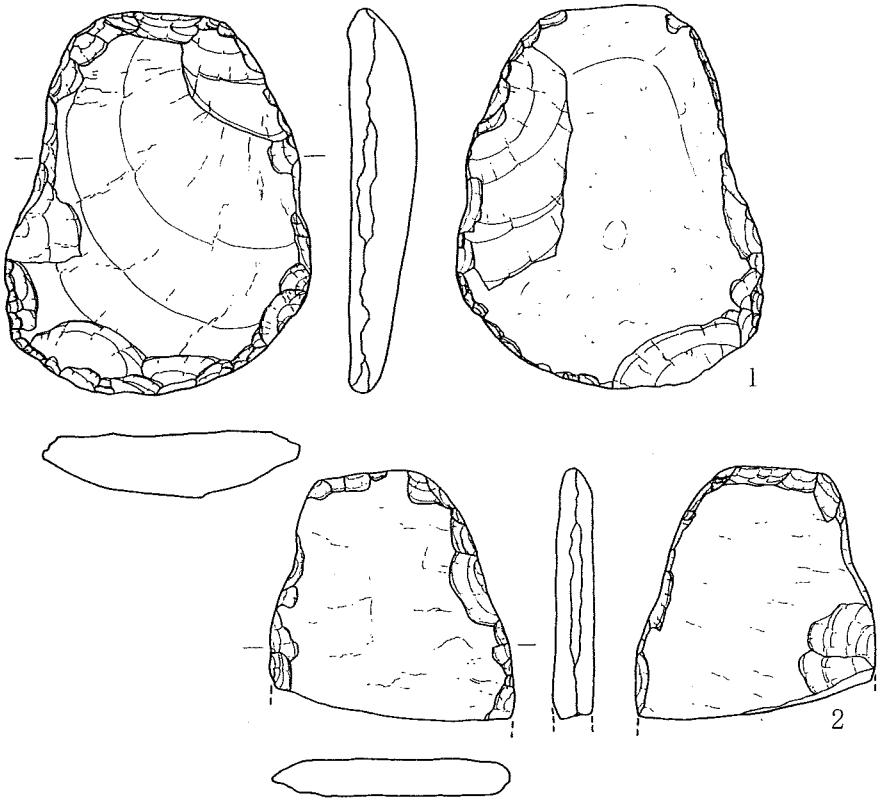


第110図　176号土坑出土土器実測図(1)(S＝1/3)

は橙色である。胎土は長石・角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、シボリ痕が残っている。外面はナデと思われるが、表面が剥落しているため不明である。3は器台で、底径 9.0cm、残存器高 11.0cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、一部橙色である。外面は黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。また外面底部にはヨコナデを施している。4は壷の口縁部で、口径 25.0cm で、残存器高 6.9cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は白色粒・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデであるが、外面は器面荒れのため、不明である。5は壷の口縁部で、口径 23.8cm で、残存器高 7.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデであるが、外面は器面荒れのため、不明である。また、口縁部には赤彩が残存している。6は壷の口縁部で、口径 23.4cm で、残存器高 8.15cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともに横方向のミガキである。7は壷の底部で、底径 5.1cm、残存器高 6.1cm を測る。色調内面は暗黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は角閃石・長石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、一部工具痕が残っている。外面は縦方向のナデである。8は甕の底部で、底径 6.7cm、残存器高 6.3cm を測る。色調



第111図 176号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)

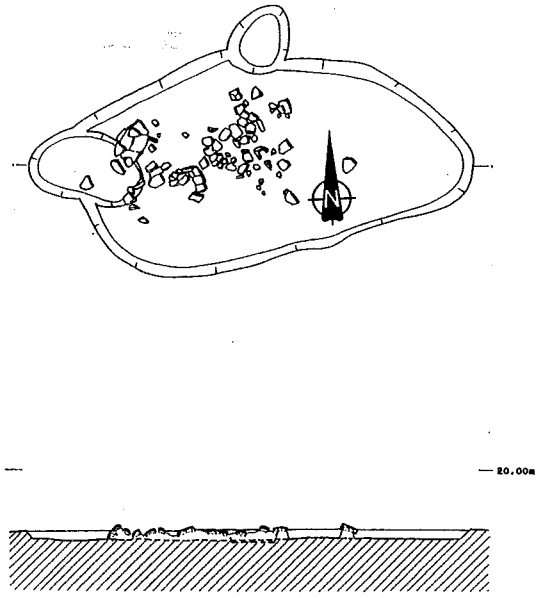


第112図 176号土坑出土石器実測図(S=1/2)

内面は淡黄褐色で、外面は橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目を施している。9は甕の底部で、底径 6.5cm、残存器高 8.7cm を測る。色調内面は白褐色で、外面は灰黄褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目を施している。10は甕の底部で、底径 7.4cm、残存器高 7.7cm を測る。色調は、内外面ともに赤褐色である。胎土は白色粒・角閃石を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目がわずかに残っている。

＊出土土器（第112図）

1は扁平打製石斧で、長さ 10.2cm、幅 8.1cm、厚さ 1.7cm を測る。材質は安山岩である。2は扁平打製石斧で、刃部が欠損している。長さ 6.6cm、幅 6.4cm、厚さ 1.05cm を測る。材質は安山岩である。



第113図　177号土坑 平・断面図（S＝1/60）

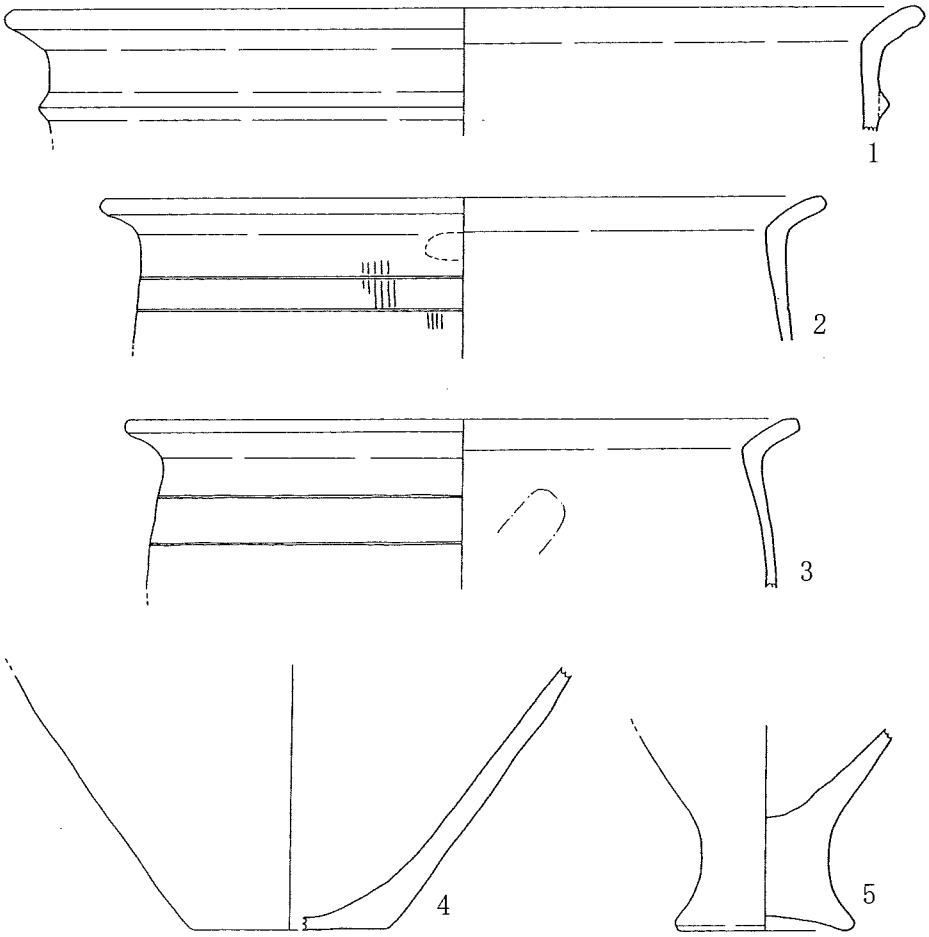
9）177号土坑

＊遺構（第113図）

94号土坑の南側で検出された遺構で、南北 1.65 m、東西 3.15 m、深さ 0.1 mのやや楕円形な土坑である。

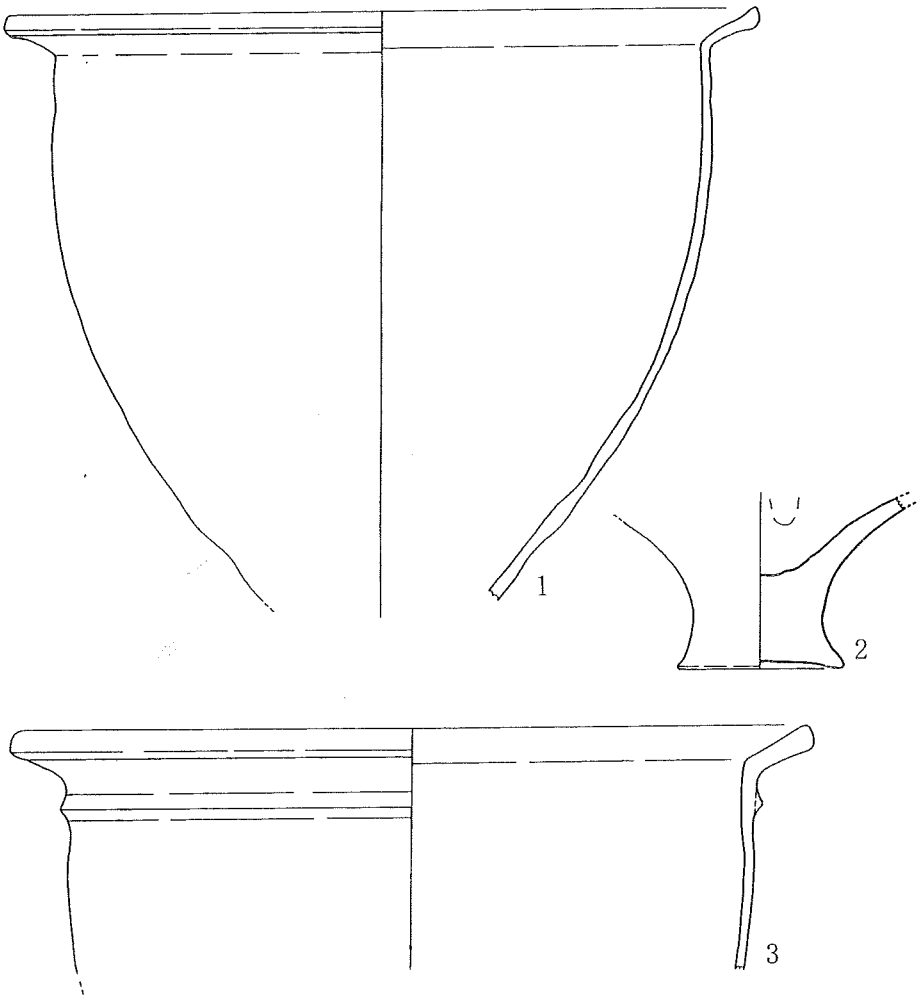
＊出土土器（第114図）

1は甕の口縁部で、口径 35.4cm、残存器高 4.9cm を測る。色調は、内外面ともに淡褐色である。胎土は角閃石・石英・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。2は甕の口縁部で、口径 28.0cm、残存器高 5.7cm を測る。色調は、内外面ともに淡褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成



第114図　177号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また、外面胴部には２条の沈線がめぐる。３は甕の口縁部で、口径 26.0cm、残存器高 6.6cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄褐色である。胎土は角閃石・石英・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また、外面胴部には２条の沈線がめぐる。４は壷の底部で、底径 7.6cm、残存器高 10.3cm を測る。色調内面は淡褐色で、一部暗褐色である。外面は暗褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は指オサエとナデである。外面は縦方向のハケ目を施している。５は甕の底部で、底径 6.6cm、残存器高 8.0cm を測る。色調内面は淡褐色で、外面は明褐色である。胎土は角閃石・石英・雲母・砂粒を含んでいる。焼成はやや良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面はハケ目と思われるが、摩滅が激しく不明瞭である。



第115図　178号土坑出土土器実測図（S=1/3）

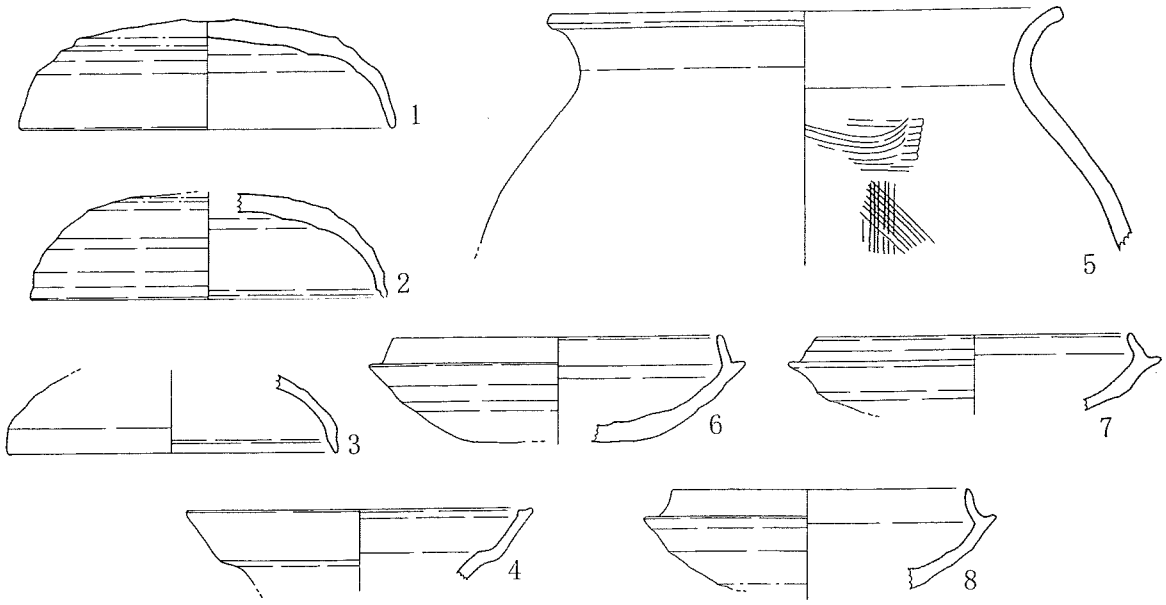
10）178号土坑

＊遺構

調査区の西側で検出された遺構で、東西 2.65 m、南北 2.5 m、深さ 0.1 mの不定形な土坑である。

＊出土土器（第 115 図）

１は甕の口縁部で、口径 29.3cm、残存器高 23.3cm を測る。色調内面は暗褐色で、一部暗茶褐色である。外面は暗茶褐色で、一部赤茶褐色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は内面はナデであるが、外面は摩滅が激しく不明瞭である。２は甕の底部で、底径 6.4cm、残存器高 6.7cm を測る。色調内面は淡褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面はハケ目と思われるが、摩滅が激しく不明瞭である。３は甕の口縁部で、口径 30.8cm、残存器高 9.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡褐色である。胎土は角閃石・石英・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデである。外面胴部は摩滅のため不明瞭であるが、ハケ目と思われる。また外面口縁下部には１条の突帯がめぐる。



第116図　126号土坑出土土器実測図(S=1/3)

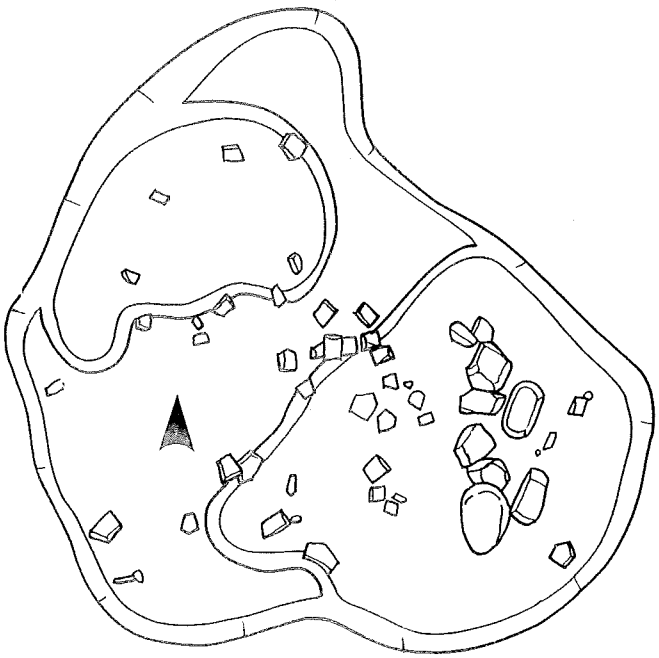
11）126号土坑

＊遺構

調査区の中央、やや西側で検出された遺構で、東西4.2 m、南北6.35 m、深さ0.3 mのやや方形の土坑である。

＊出土土器（第116図）

1は蓋坏で、口径 14.6cm、器高 4.3cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデと指オサエである。外面口縁部はナデで、上部は回転ヘラケズリである。2は蓋坏で、口径14.0cm、残存器高4.1cmを測る。色調は、内外面ともに淡灰褐色で、外面の一部は濃灰色である。胎土は雲母・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデと指オサエである。外面口縁部はナデで、上部は回転ヘラケズリである。3は蓋坏で、口径 13.0cm、残存器高 3.05cm を測る。色調内面は灰色で、外面は濃灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデである。外面口縁部はナデで、上部は回転ヘラケズリのちナデである。4は口縁部で、口径 13.6cm、残存器高 2.9cm を測る。色調内面は暗灰褐色で、外面は薄灰褐色である。胎土は砂粒・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。5は壷の口縁部で、口径 20.2cm、残存器高 9.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡橙褐色である。胎土は白色粒・砂粒を含んでいる。焼成はやや



第117図　138号土坑平面図(S=1/50)

不良である。調整方法は、内面胴部はハケ目で、口縁部はナデである。外面胴部はハケ目とナデである。6は坏身で、口径 13.0cm、受部径 15.0cm、残存器高 4.15cm を測る。色調内面は薄灰黄褐色で、外面は灰色である。胎土は雲母・白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデと指オサエで、外面はナデと、底部は回転ヘラケズリである。7は坏身で、口径 12.4cm、受部径 14.8cm、残存器高 3.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は雲母・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと、底部は回転ヘラケズリである。8は坏身で、口径 12.6cm、受部径 15.0cm、残存器高 3.9cm を測る。色調内面は薄茶色で、外面は薄茶色、一部黒色である。胎土は雲母・角閃石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面はナデと指オサエで、外面はナデと、底部は回転ヘラケズリである。

12）138号土坑

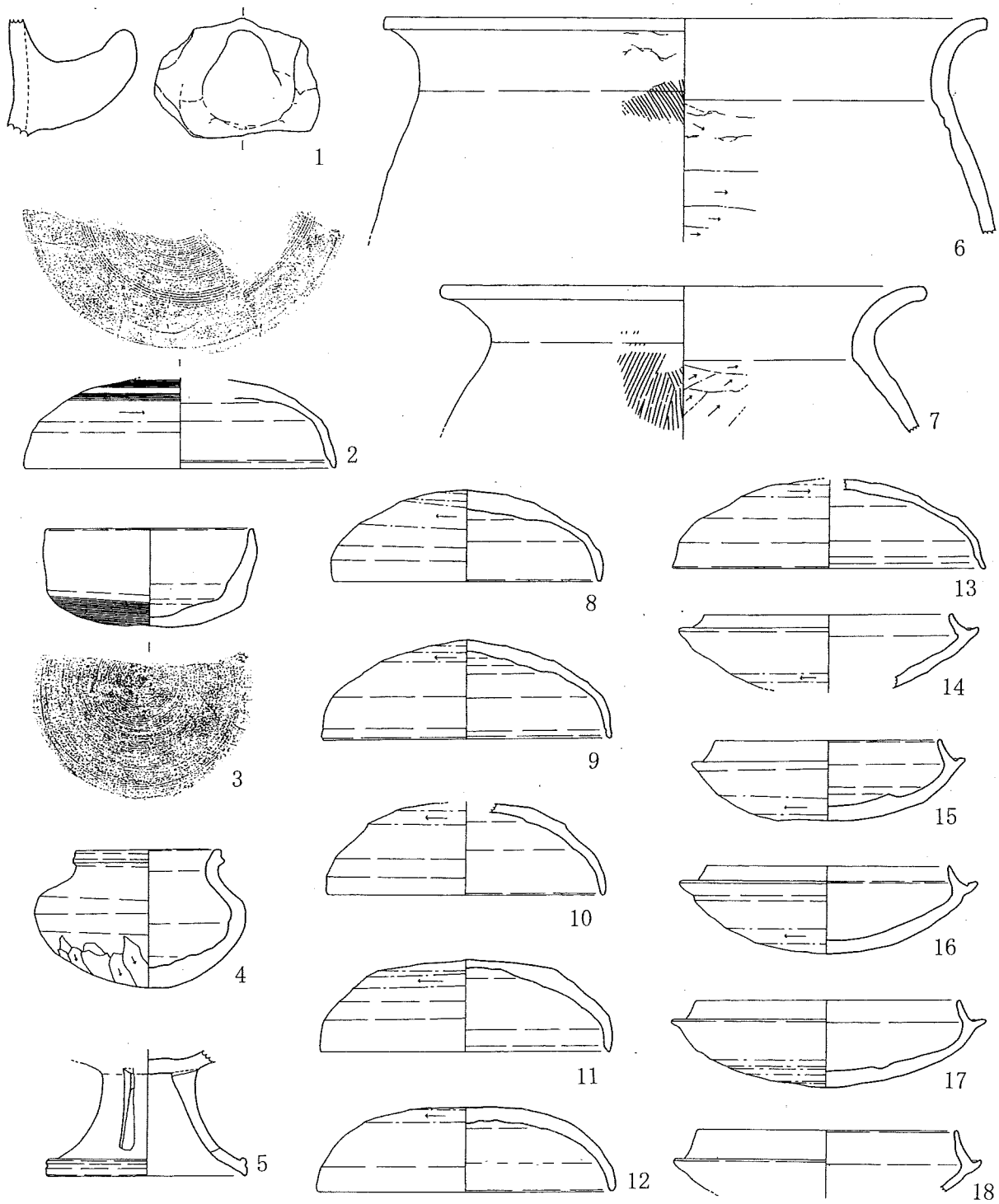
＊遺構（第 117 図）

調査区中央で確認された遺構で、南北 4.2 m、東西 4.15 m、深さ 0.35 mの不定形な土坑である。

＊出土土器（第 118 図）

1は甑の取手で、残存器高 5.7cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は石英・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。2は蓋坏で、口径 14.9cm、残存器高 4.2cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデである。外面はナデと回転ヘラケズリで、上部にはカキ目が施されている。3は坏身で、口径 10.0cm、器高 4.7cm を測る。色調内面は灰黄褐色で、外面は灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は回転ナデである。外面は回転ナデで、底部はカキ目が施されている。4は壷で、口径 7.0cm、胴部最大径 10.1cm、器高 6.6cm を測る。色調は、内外面ともに青灰色である。胎土は白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともナデで、外面底部はヘラケズリである。5は脚部で、底径 9.6cm、残存器高 5.9cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。また底部外面には2条の沈線がめぐる。6は壷の口縁部で、口径 28.8cm、残存器高 10.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は横方向のケズリであるが、器面荒れのため不明瞭である。また、頸部に粘土の接合痕が残っている。外面は縦方向のハケ目が施されている。7は壷の口縁部で、口径 23.0cm、残存器高 7.0cm を測る。色調は、内外面ともに淡橙色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はケズリで、外面はナデと縦方向のハケ目である。8は蓋坏で、口径 12.8cm、器高 4.3cm を測る。色調は、内外面ともにぶい黄橙色である。胎土は角閃石・石英・赤褐色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと回転ヘラケズリである。9は蓋坏で、口径 13.8cm、器高 4.7cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・砂粒・黒色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと回転ヘラケズリである。10 は蓋坏で、口径 13.2cm、器高 4.3cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと回転ヘラケズリである。11 は蓋坏で、口径 13.7cm、器高 4.4cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・砂粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと回転ヘラケズリである。また外面上部には回転ヘラキリがみられる。12 は蓋坏で、口径 14.0cm、器高 4.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は石英・黒色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと回転ヘラケズリである。13 は蓋坏で、口径 14.9cm、器高 4.2cm を測る。色調は、内外面ともに赤灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと回転ヘラケズリである。14 は坏身で、口径 12.0cm、受部径 14.4cm、残存器高 3.5cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄色である。胎土は白色粒・角

閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。15は坏身で、口径 10.9cm、受部径 13.2cm、器高 3.9cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。16は坏身で、口径 11.7cm、受部径 14.4cm、器高 4.2cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・灰褐色粒・黒色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。17は坏身で、口径 12.7cm、受部径 15.2cm、器高 4.05cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケ



第118図　138号土坑出土土器実測図(S=1/3)

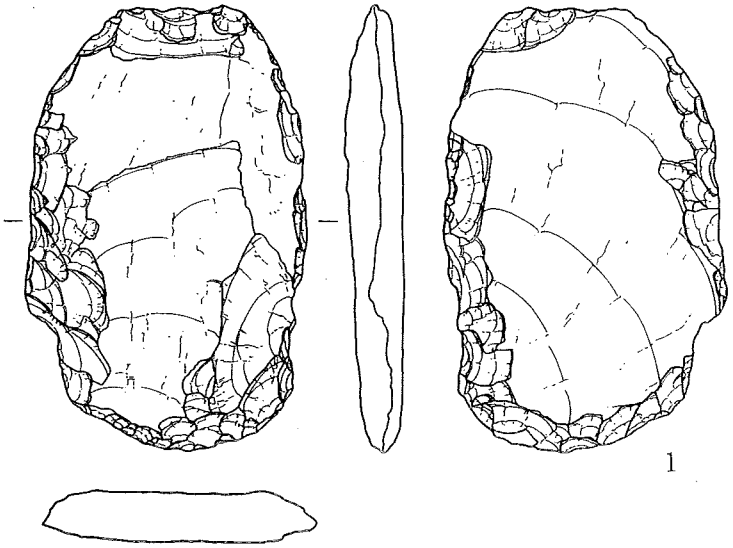
ズリである。18は坏身で、口径12.4cm、受部径14.8cm、残存器高2.9cmを測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。

＊出土土器（第119図）

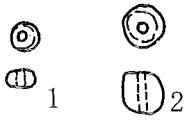
1は扁平打製石斧で、長さ11.7cm、幅7.4cm、厚さ1.5cmを測る。材質は安山岩である。

＊出土玉類（第120図）

1はガラス質の小玉で、長径4.0mm、短径2.5mm、孔径1.0mmを測る。色調は青紫色である。2はガラス質の小玉で、長径5.5mm、短径5.5mm、孔径1.0mmを測る。色調は淡緑青色である。



第119図　138号土坑出土石器実測図（S＝1/2）



第120図 138号土坑出土玉類実測図（S＝1/1）

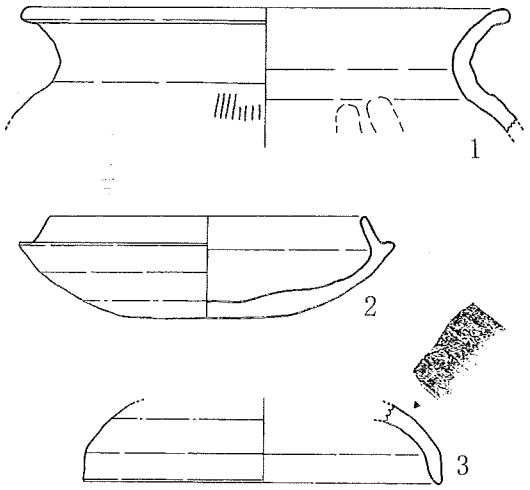
13）143号土坑

＊遺構

調査区中央、やや南側よりから検出された遺構で、南北2.1 m、東西1.5 m、深さ0.17 mのやや角丸方形の土坑である。

＊出土土器（第121図）

1は壷の口縁部で、口径18.9cm、残存器高4.9cmを測る。色調は、内外面ともに明橙色である。胎土は白色粒・砂粒を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。2は坏身で、口径12.5cm、受部径14.8cm、器高4.0cmを測る。色調内面は淡黄褐色ある。外面は淡黄褐色で、一部黒灰色である。胎土は白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。3は蓋坏で、口径14.1cm、残存器高3.1cmを測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。

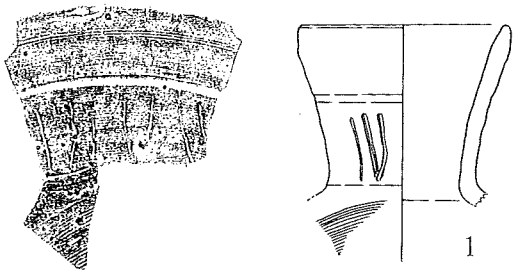


第121図　143号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

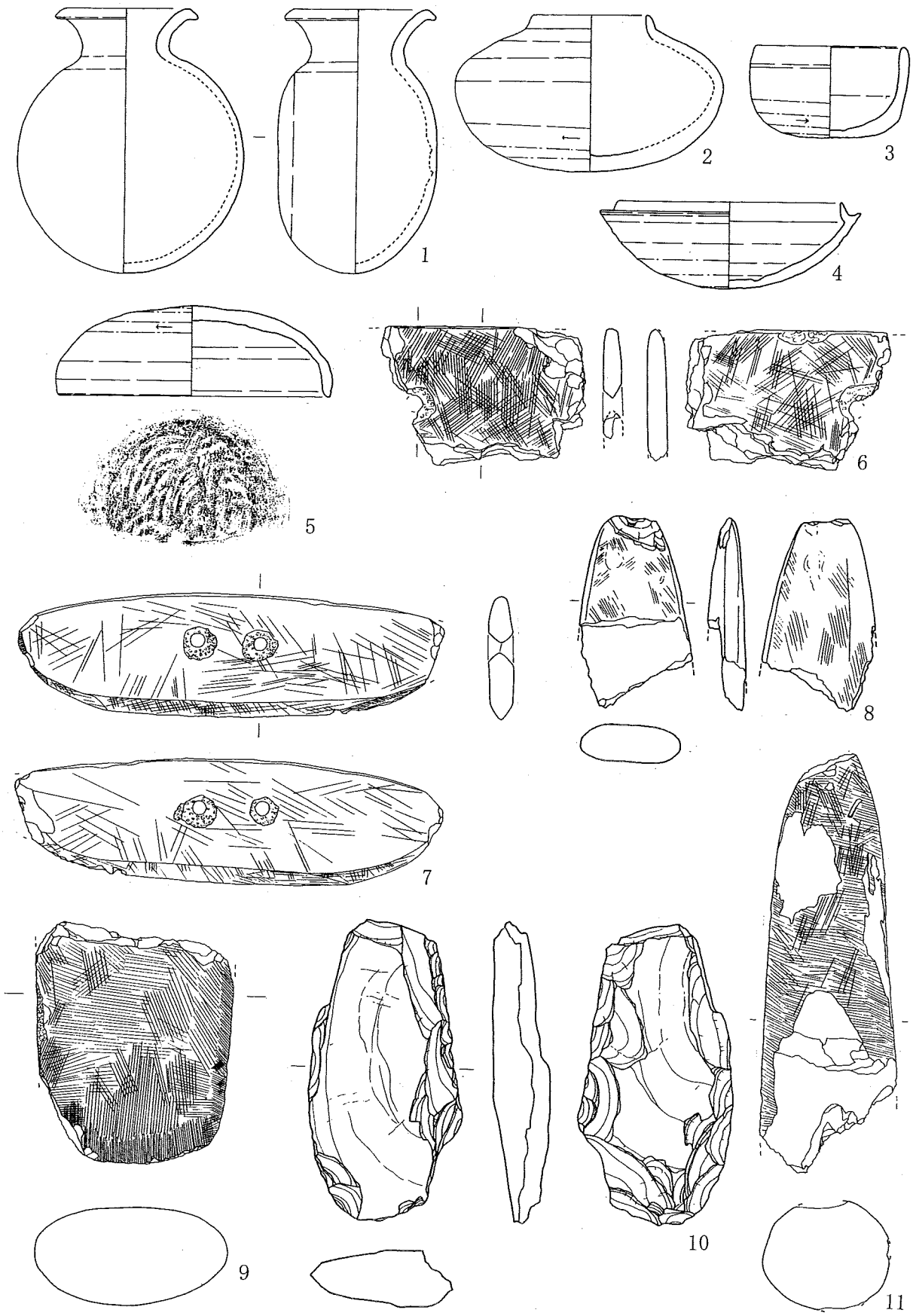
14）183号土坑

＊遺構

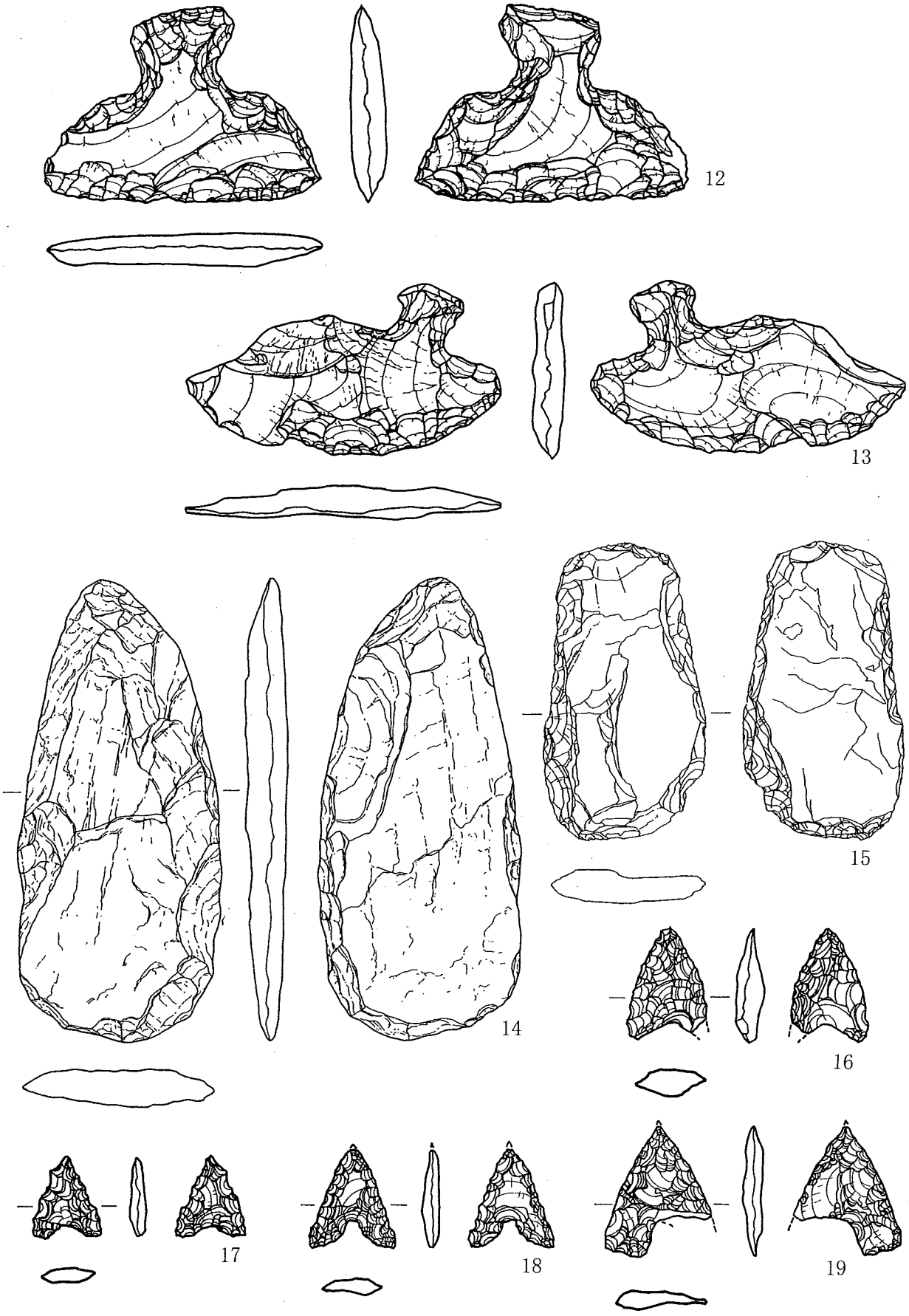
調査区南側で検出された土坑で、0.95 m× 0.25 m、深さ0.28 mの楕円形な土坑である。



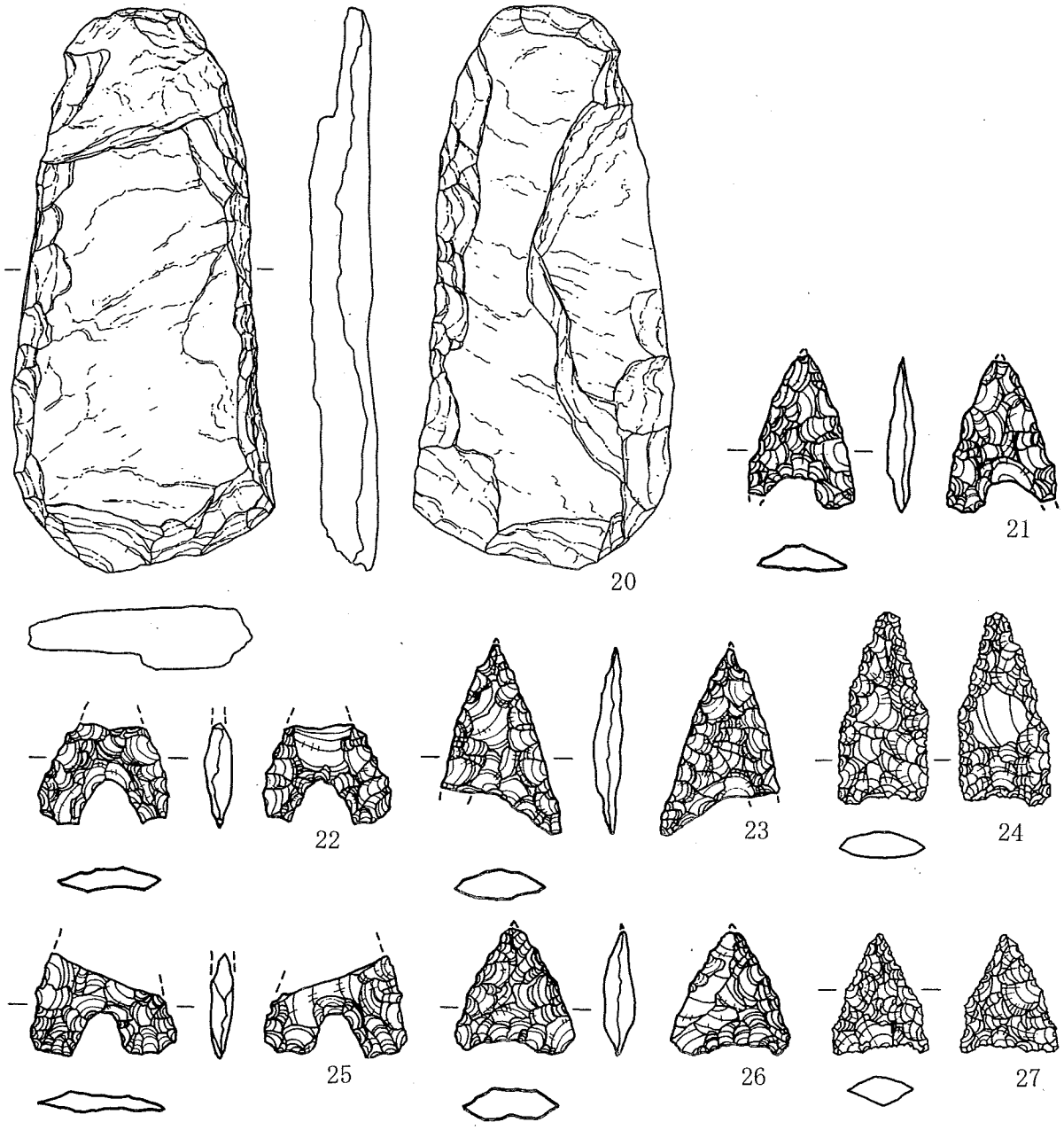
第122図　183号土坑出土土器実測図（S＝1/3）



第123図　第１次・第２次調査出土遺物実測図 (1)



第124図　第１次・第２次調査出土遺物実測図 (2)



第125図　第１次・第２次調査出土遺物実測図 (3)

＊出土土器（第 122 図）

１は口縁部で、口径 8.2cm、残存器高 9.1cm を測る。色調内面は灰色で、外面は暗灰色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。

４. その他の出土遺物

１は提瓶で、口径 6.6cm、器高 13.8cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は白色粒・赤褐色粒・角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、口縁部は細かく打ち欠いている。２は短頸壷で、口径 6.1cm、胴部最大径 14.0cm、器高 8.2cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転へ

ラケズリである。３は小型椀で、口径 7.9cm、器高 4.8cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。４は坏身で、口径 11.9cm、受部径 13.9cm、器高 4.5cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。５は蓋坏で、口径 14.5cm、器高 4.7cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は砂粒・深緑粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面口縁部はナデで、上部は同心円タタキののちナデである。外面口縁部はナデで、上部は回転ヘラケズリである。

図版番号	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考	縮尺
123－6	検出	石包丁	4.9	7.3	0.7	38.8	結晶片岩		1/2
123－7	検出	石包丁	4.35	15.2	0.95	78.6	粘板岩		1/2
123－8	P223	磨製石斧	6.65	4.0	1.3	43.58	結晶片岩	刃部欠損	1/2
123－9	検出	磨製石斧	8.5	7.05	3.5	308.1	蛇紋岩	基部欠損	1/2
123－10	検出	打製石斧	10.6	5.45	2.05	141.65	緑泥片岩		1/2
123－11	103号土壙	磨製石斧	14.7	4.85	3.8	346.7	緑泥片岩	刃部欠損	1/2
124－12	検出	石匙	3.0	4.9	0.65	9.65	サヌカイト		1/1
124－13	検出	石匙	3.0	5.6	0.6	8.19	サヌカイト		1/1
124－14	検出	打製石斧	16.7	7.9	1.85	332.02	緑泥片岩		1/2
124－15	検出	打製石斧	10.65	5.8	1.2	109.2	緑泥片岩		1/2
124－16	検出	打製石鏃	2.05	1.45	0.5	0.89	姫島産黒曜石	抉入部片側欠損	1/1
124－17	検出	打製石鏃	1.5	1.2	0.3	0.32	姫島産黒曜石		1/1
124－18	検出	打製石鏃	1.75	1.65	0.3	0.53	姫島産黒曜石	先端部欠損	1/1
124－19	検出	打製石鏃	2.35	1.9	0.35	0.9	黒曜石	先端部欠損 抉入部片側欠損	1/1
125－20	検出	打製石斧	16.6	7.2	1.4	222.93	緑泥片岩		1/2
125－21	P278	打製石鏃	2.25	1.65	0.4	1.01	姫島産黒曜石	先端部欠損 抉入部片側欠損	1/1
125－22	180号土壙	打製石鏃	1.5	2.0	0.4	0.86	姫島産黒曜石	先端部欠損	1/1
125－23	38号土壙	打製石鏃	2.8	1.8	0.4	1.21	姫島産黒曜石	抉入部片側欠損	1/1
125－24	139号土壙	打製石鏃	2.9	1.4	0.35	1.2	黒曜石		1/1
125－25	P283	打製石鏃	1.55	2.15	0.3	0.7	姫島産黒曜石	基部及び先端部欠損	1/1
125－26	P343	打製石鏃	1.8	1.8	0.45	1.23	姫島産黒曜石	先端部欠損	1/1
125－27	32号土壙	打製石鏃	1.8	1.5	0.4	0.7	黒曜石		1/1

第１表　遺物観察表(1)

第４節　第３次調査

１．住 居 跡

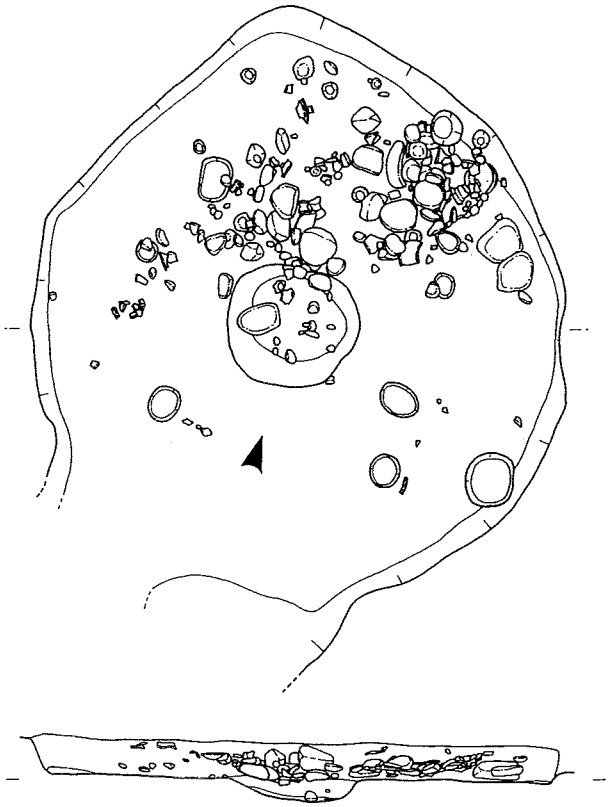
１）８号遺構

＊遺構（第 126 図）

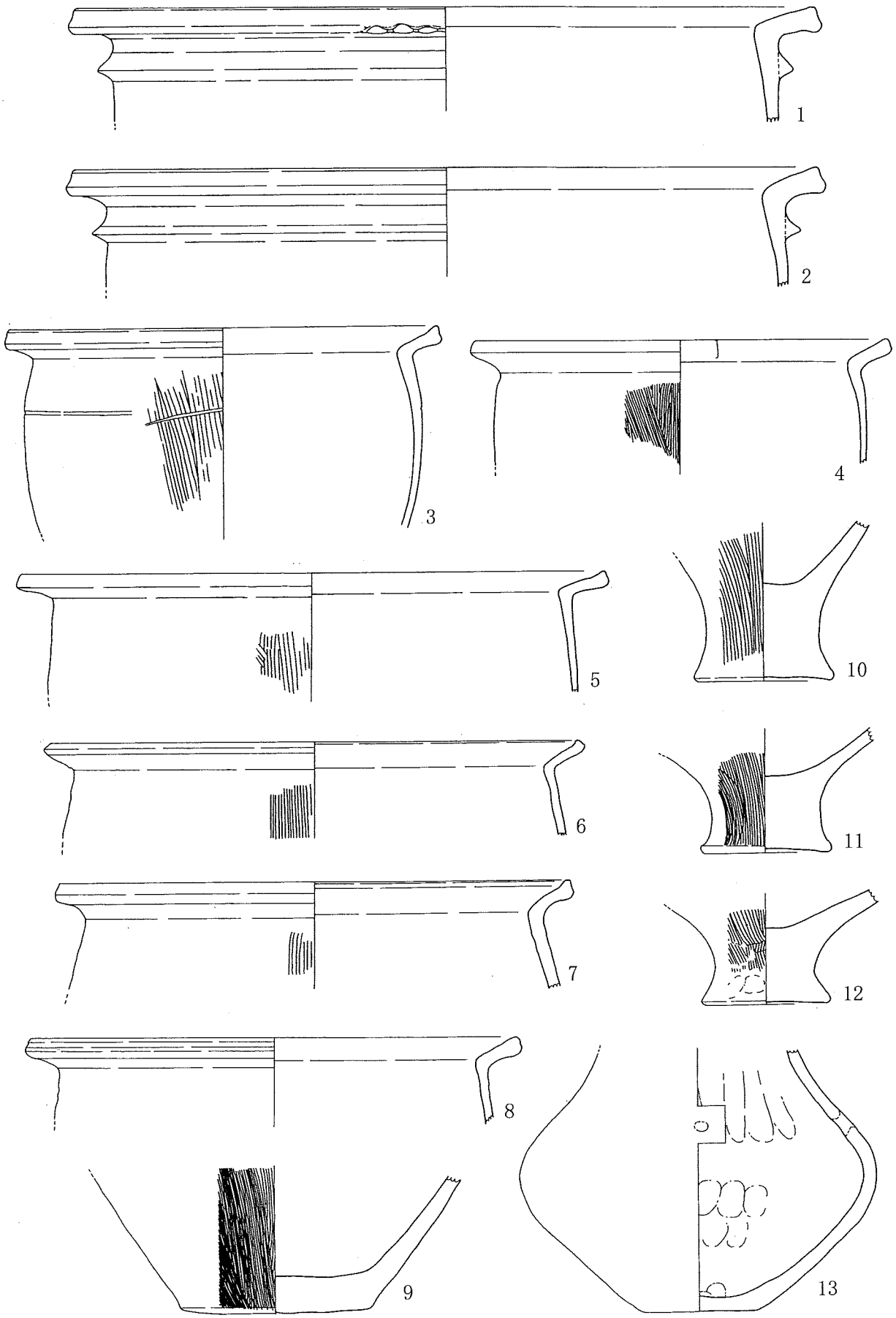
平成４年度と平成 10 年度にわたって調査が行われた遺構で、4.4m × 5.0 mの円形の住居跡である。深さは 0.30 mを測り、遺構の中央には径 1.0 m、深さ 0.18 mの土坑がある。

＊出土土器（第 127 図・第 128 図・第 129 図）

１は甕の口縁部で、口径 39.8cm、残存器高 6.2cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。調整方法は、内外面ともにナデである。２は甕の口縁部で、口径 40.2cm、残存器高 6.4cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。３は甕の口縁部で、口径 23.0cm、残存器高 10.9cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。また外面胴部には１条の沈線がめぐる。４は甕の口縁部で、口径 22.2cm、残存器高 6.7cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、一部黒灰色である。外面は灰褐色である。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。５は甕の口縁部で、口径 31.4cm、残存器高 6.5cm を測る。色調内面は淡橙色で、外面は淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。６は甕の口縁部で、口径 28.5cm、残存器高 5.05cm を測る。色調内面は灰橙褐色で、外面は暗灰橙褐色である。胎土は長石を含んでいる。焼成はほぼ良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。７は甕の口縁部で、口径 27.5cm、残存器高 5.8cm を測る。色調内面は淡茶褐色で、一部暗褐色である。外面は淡褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。８は甕の口縁部で、口径 26.2cm、残存器高 4.7cm を測る。色調内面は淡橙褐色で、外面は淡暗褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。９は壷の底部で、底径 10.4cm、残存器高 7.4cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。10 は甕の底部で、底径 7.3cm、残存器高 8.5cm を測る。色調内面は黒灰色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。底部はヨコナデを施している。11 は甕の底部で、底径 6.6cm、残存器高 6.7cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。底部はヨコナデを施している。12 は甕の底部で、底径 6.6cm、残存器高 6.1cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃

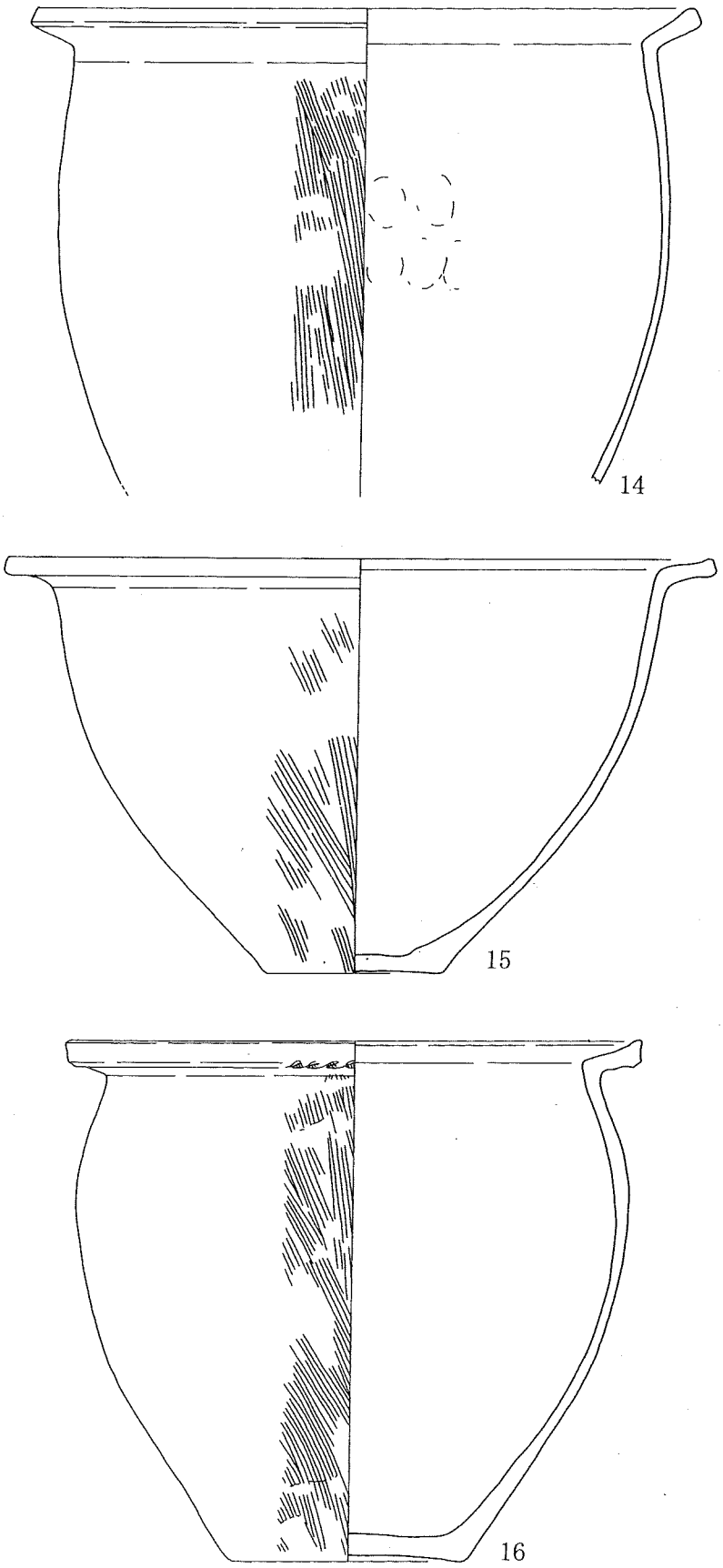


第126図　8号遺構 平・断面図（S＝1/60）



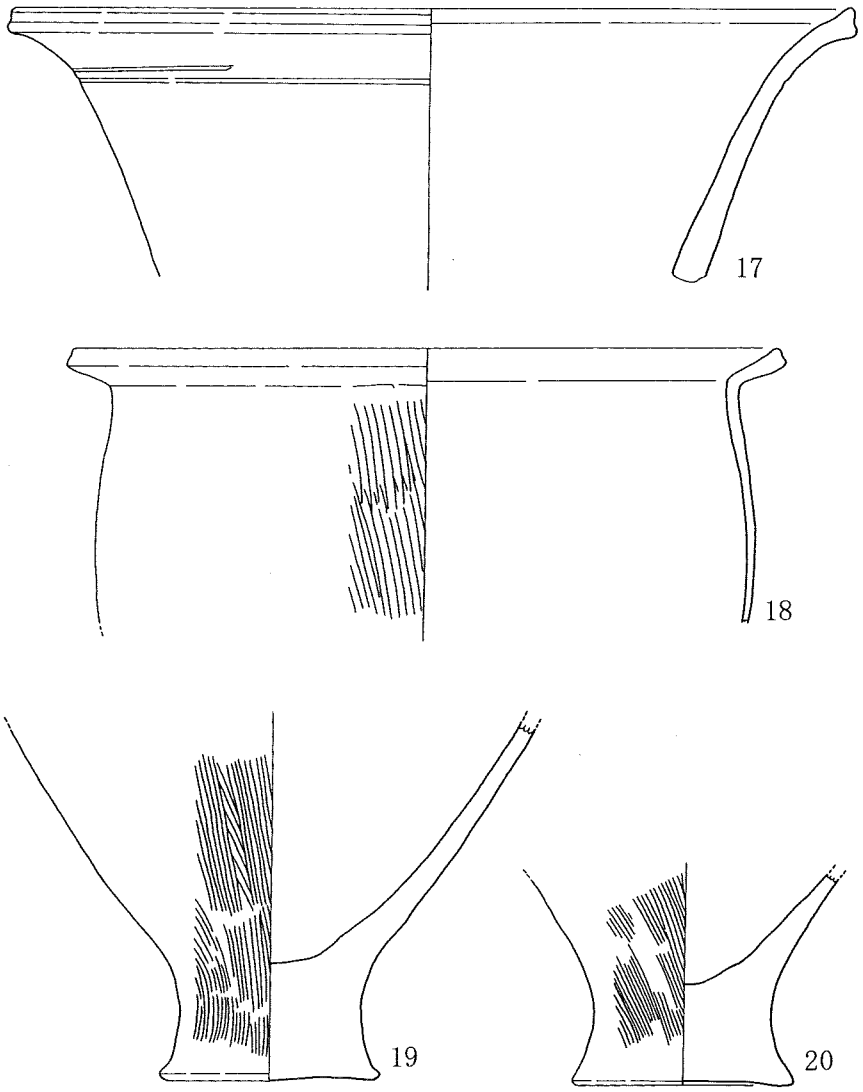
第127図　8号遺構出土土器実測図(1)(S＝1/3)

石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。底部はヨコナデを施している。13 は壷の底部で、底径 6.0cm、胴部最大径 19.4cm、残存器高 13.9cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデと指オサエである。外面はミガキである。また胴部に穴を 1 つ穿っている。14 は甕の口縁部で、口径 28.3cm、残存器高 20.5cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。15 は甕で、口径 30.4cm、器高 18.0cm、底径 7.5cm を測る。色調内面は黒灰色で、外面は淡黄褐色である。胎土は石英・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は表面が剥落しているため不明瞭である。外面はナデと、胴部は縦方向のハケ目である。16 は甕で、口径 24.6cm、器高 22.6cm、底径 10.0cm を測る。色調内面は淡赤褐色である。外面は橙色で、一部灰褐色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと、胴部は縦方向のハケ目である。17 は壷の口縁部で、口径 32.6cm、残存器高 10.6cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでい



第128図 8号遺構出土土器実測図(2)(S=1/3)

る。焼成は良好である。調整方法は、内面は横方向のミガキで、外面はナデである。また外面口縁下部には沈線がめぐる。18 は甕の口縁部で、口径 27.4cm、残存器高 10.9cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・赤褐色粒・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。19 は甕の底部で、底径 8.0cm、残存器高 14.2cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は角閃石・白色粒・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。底部はヨコナデを施している。20 は甕の底部で、底径 8.4cm、残存器高 8.4cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。底部はヨコナデを施している。



第129図 8号遺構出土土器実測図(3)(S=1/3)

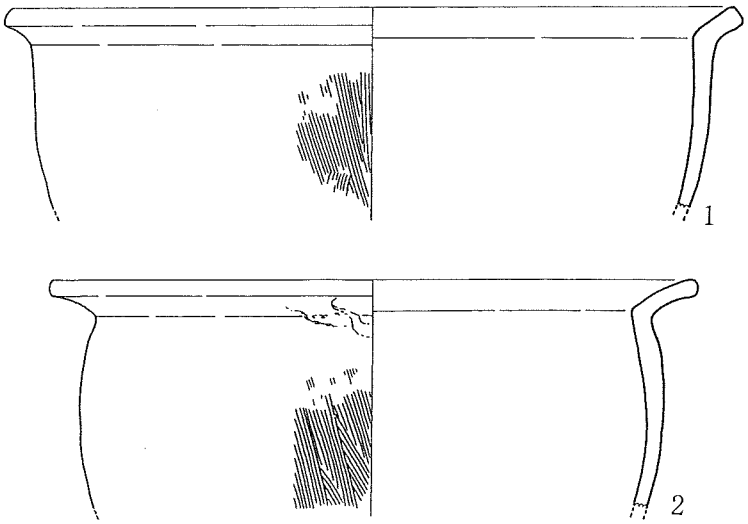
2) 9号遺構

＊遺構（第 131 図）

8 号住居の西側に位置する遺構で、6.5 m × 6.9 mの円形の住居跡である。深さは 0.10 mを測る。床面はほぼ平坦で、いくつかの柱穴を検出したが土器を伴わず、時代等は不明である。

＊出土土器（第 130 図）

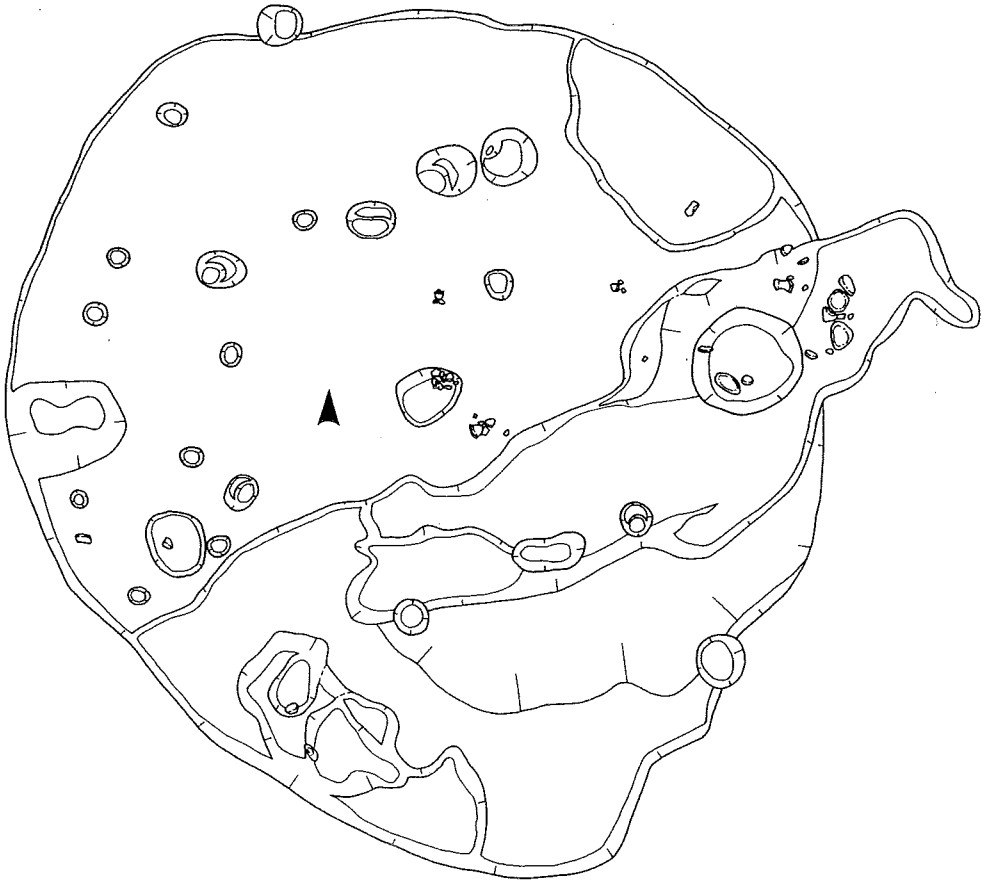
1 は甕の口縁部で、口径 28.2cm、残存器高 7.9cm を測る。色調は、内外



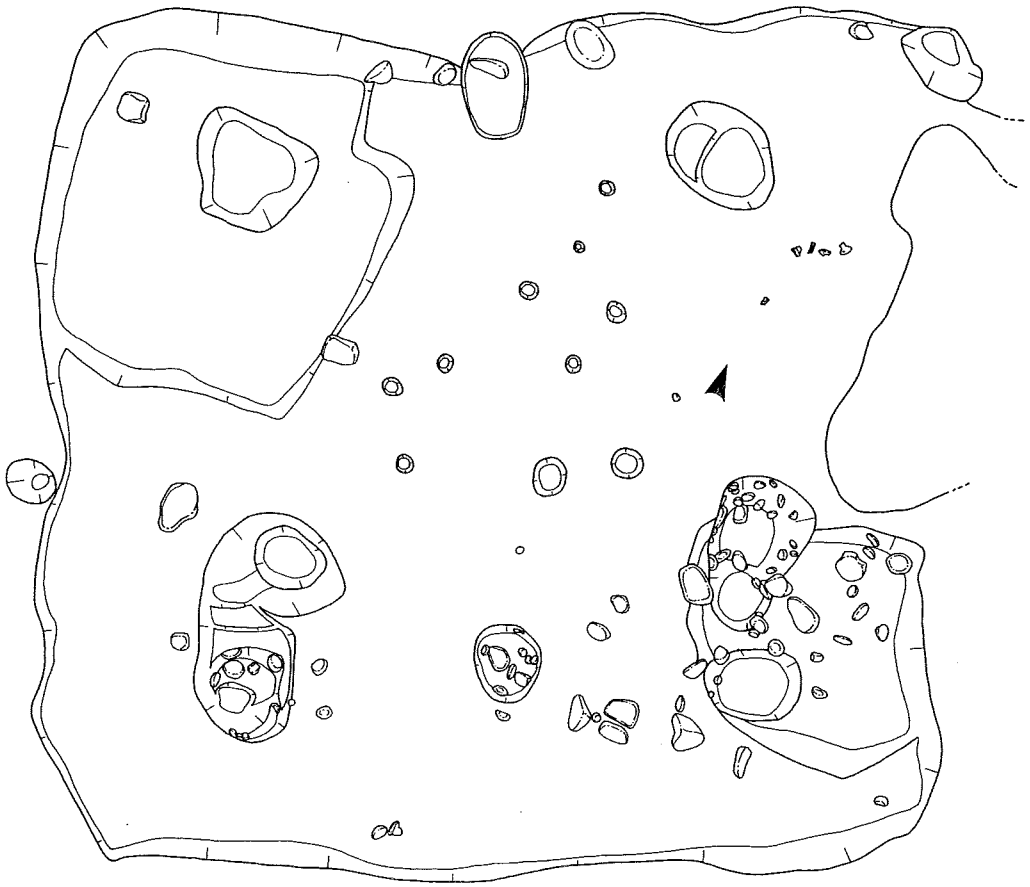
第130図 9号遺構出土土器実測図(S=1/3)

面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・赤褐色粒・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。

２は甕の口縁部で、口径25.2cm、残存器高 9.0cm を測る。色調内面は橙色で、外面は暗赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。



第131図　９号遺構平面図（S=1/60）

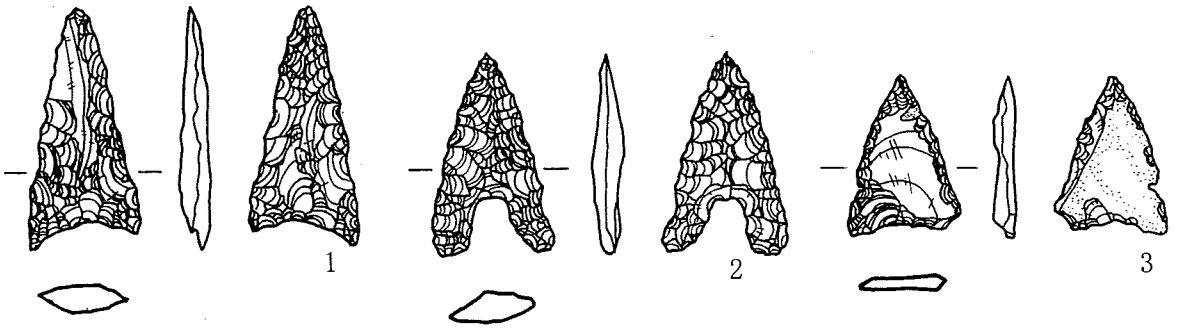


第132図　３号遺構平面図（S=1/60）

3）3号遺構

＊遺構（第132図）

調査区の北側に位置する遺構で、南北6.5 m、東西7.0 m、深さ0.10 mのやや



第133図　3号遺構出土石器実測図（S＝1/1）

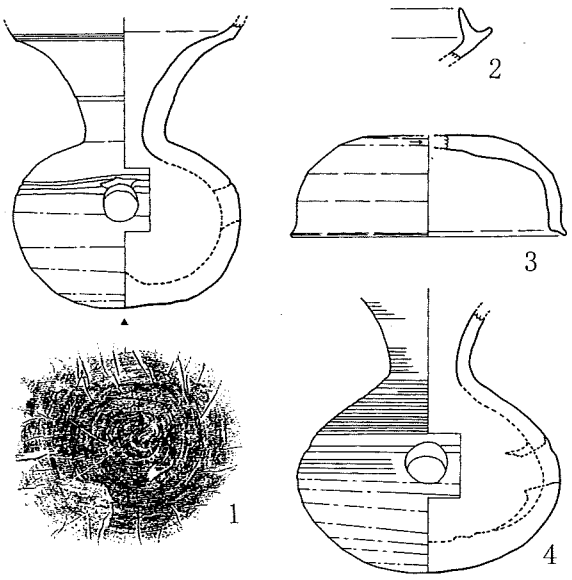
大型の住居跡である。カマドは北側壁の中央に位置したと思われ、わずかな掘り込みと焼土を確認した。床面はほぼ平坦で、四隅に径 0.8 m程のやや大きめの柱穴を検出した。

＊出土土器（第 134 図）

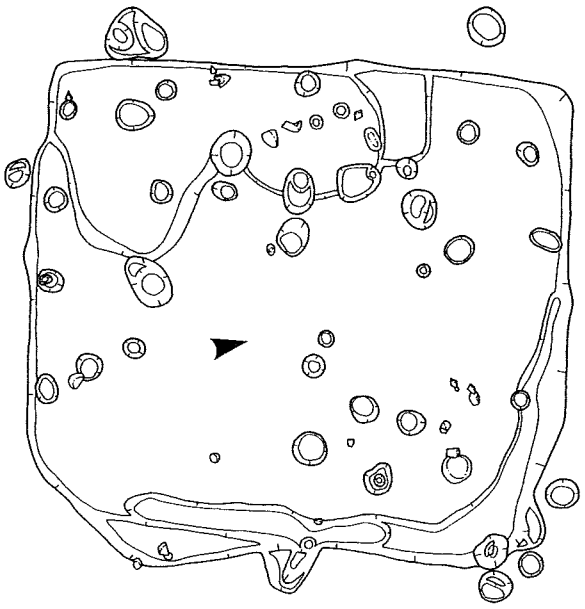
1はハソウで、胴部最大径 9.0cm、残存器高 11.1cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・黒色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。また外面底部にはヘラ記号がある。胴部には穴が1つ穿かれており、沈線が2条めぐる。2は坏身で、残存器高 2.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。3は蓋坏で、口径 10.8cm、残存器高 4.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。4はハソウで、胴部最大径 10.4cm、残存器高 10.8cm を測る。色調は、内外面ともに灰白色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はカキ目と、底部は回転ヘラケズリである。胴部には穴を1つ穿っている。

＊出土石器（第 133 図）

1は打製石鏃で、長さ 3.15cm、幅 1.5cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。2は打製石鏃で、長さ 2.6cm、幅 1.65cm、厚さ 0.45cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。3は打製石鏃で、長さ 2.1cm、幅 1.5cm、厚さ 0.3cm を測る。材質は黒曜石である。



第134図　3号遺構出土土器実測図（S＝1/3）



第135図　5号遺構平面図（S＝1/60）

4）5号遺構

＊遺構（第 135 図）

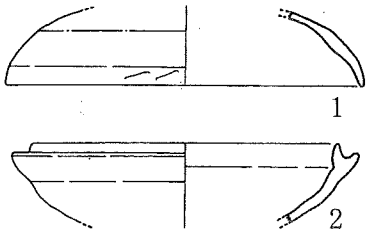
南北 4.3 m、東西 5.3 m、深さ 0.2 mの方形の住居跡である。カマドは西側壁の中央に造られていたと思われ、床面にわずかな焼土を確認した。床面は平坦で、いくつかの柱穴を確認した。

＊出土土器（第 136 図）

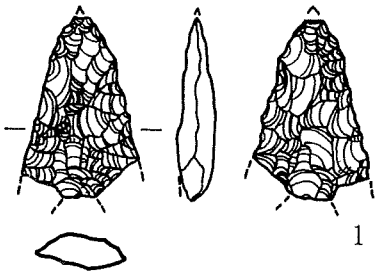
1 は蓋坏で、口径 14.1cm、残存器高 2.9cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。2 は坏身で、口径 12.0cm、受部径 13.6cm、残存器高 3.1cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。

＊出土石器（第 137 図）

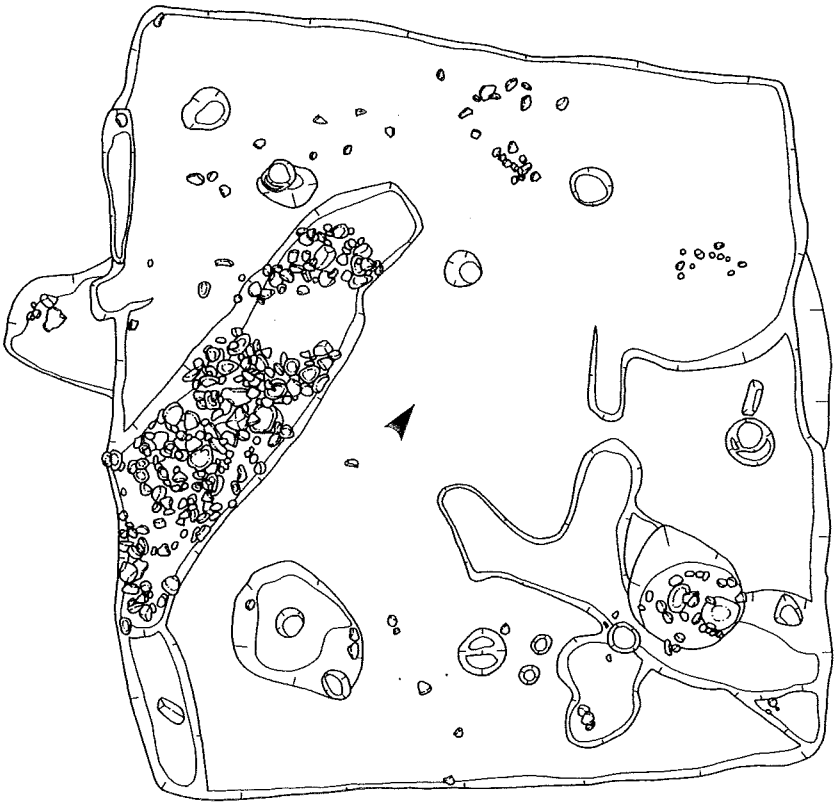
1 は打製石鏃で両側抉入部が欠損している。長さ 2.4cm、幅 1.6cm、厚さ 0.5cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。



第136図 5号遺構出土土器実測図（S＝1/3）



第137図 5号遺構出土石器実測図（S＝1/1）

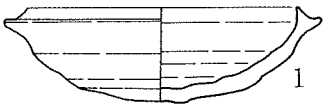


第138図 11号遺構平面図（S＝1/60）

5）11号遺構

＊遺構（第 138 図）

調査区北側のほぼ中央に位置する遺構で、東西 6.0 m、南北 5.3 m、深さ 0.25 mを測る方形の住居跡である。床面は平坦で、いくつかの柱穴を確認した。カマドは北側壁の中央に位置し、焼土を確認した。



第139図 11号遺構出土土器実測図（S＝1/3）

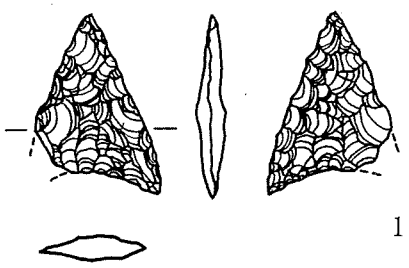
＊出土土器（第 139 図）

1 は坏身で、口径 10.6cm、受部径 12.6cm、残存器高 3.7cm を測る。色調は、内外面ともに灰黄色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラキリ後ナデである。

6）12号遺構

＊遺構（第 141 図）

11 号遺構に切られるように検出された遺構で、東西 4.3 m、南北 5.0 m、深さ 0.20 mを測る方形の住居跡であ



第140図 12号遺構出土石器実測図(S=1/1)

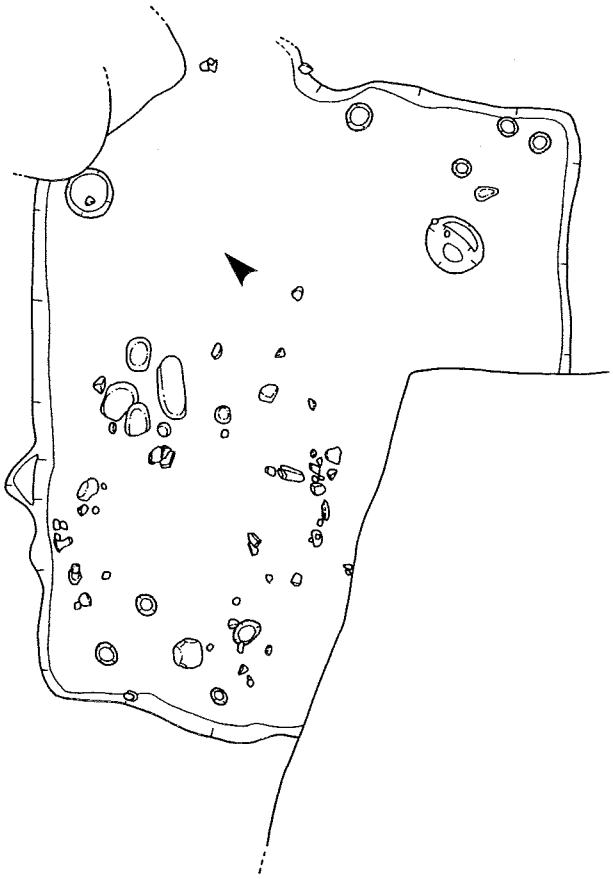
る。床面は平坦で、いくつかの柱穴を確認した。カマドは北側壁の中央に位置し、焼土を確認した。

＊出土土器（第 142 図）

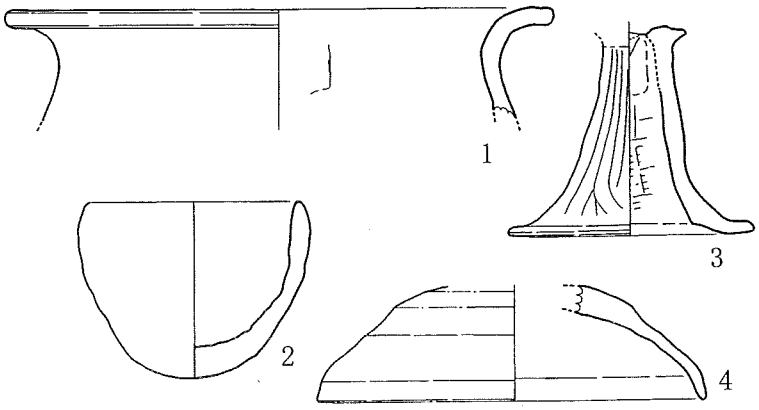
1 は壷の口縁部で、口径 21.6cm、残存器高 4.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡橙色である。胎土は長石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、器面が剥落しているため、不明瞭である。2 は椀で、口径 8.4cm、器高 6.9cm を測る。色調内面は淡橙色である。外面は暗赤褐色で、一部橙色である。胎土は角閃石・長石・石英・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、器面が剥落しているため、不明瞭である。3 は高坏の脚部で、底径 9.7cm、残存器高 8.2cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は横方向の工具ナデで、一部指ナデが施されている。外面は縦方向のミガキである。4 は蓋坏で、口径 15.1cm、残存器高 4.5cm を測る。色調内面は赤灰色で、外面は灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。

＊出土石器（第 140 図）

1 は打製石鏃で片側抉入部が欠損している。長さ 2.35cm、幅 1.7cm、厚さ 0.45cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。

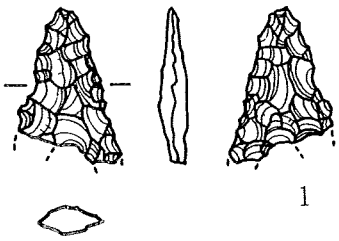


第141図 12号遺構平面図(S=1/60)



第142図 12号遺構出土土器実測図(S=1/3)

第143図 15号溝出土土器実測図(S=1/3)



第144図 15号溝出土石器実測図(S=1/1)

2．溝状遺構

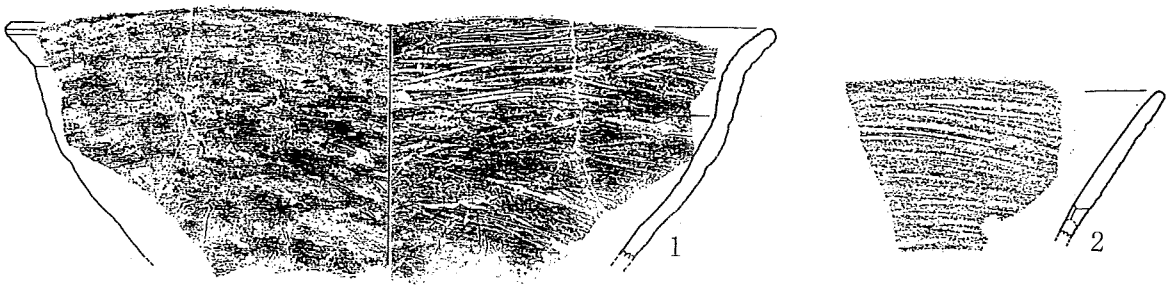
1）15号溝

＊遺構

調査区東端に検出され、ほぼ南北にのびている。確認できた長さは30.0ｍで、幅 0.6 ｍ、深さ 0.3 ｍを測る。

＊出土土器（第143図）

1は坏身で、口径 12.0cm、受部径 14.2cm、残存器高 2.25cm を測る。色調は、内外面ともに淡橙色である。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにヨコナデである。2は坏身で、残存器高 2.0cm を測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は良好である。

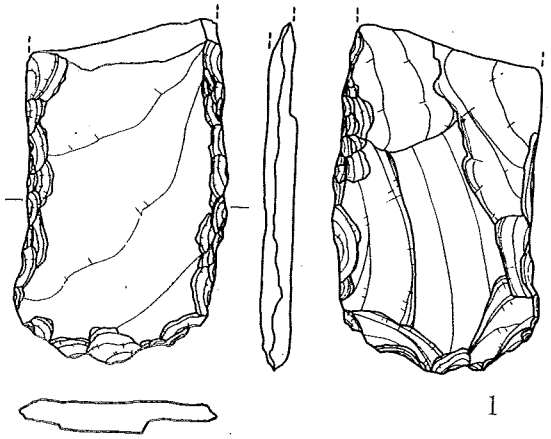


第145図　70号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

調整方法は、内外面ともにヨコナデである。

＊出土石器（第144図）

1は打製石鏃で両側抉入部欠損している。長さ 2.1cm、幅 1.4cm、厚さ 0.4cm を測る。材質は姫島産黒曜石である。



第146図 70号土坑出土石器実測図（S＝1/2）

3．土　坑

1）70号土坑

＊遺構

調査区北側に検出された遺構で、1.8 ｍ× 1.0 ｍ、深さ 0.4 ｍの不定形な土坑である。

＊出土土器（第145図）

1は浅鉢の口縁部で、口径 30.2cm、残存器高 9.2cm を測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。内外面ともに、条痕後、ミガキである。2は浅鉢の口縁部で、残存器高 5.8cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は暗赤褐色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。内面は横方向のミガキで、外面は条痕である。また、穴を1つ穿っている。

＊出土石器（第146図）

1は打製石斧で、基部が欠損している。長さ 9.25cm、幅 5.6cm、厚さ 0.85cm を測る。材質は緑泥片岩である。

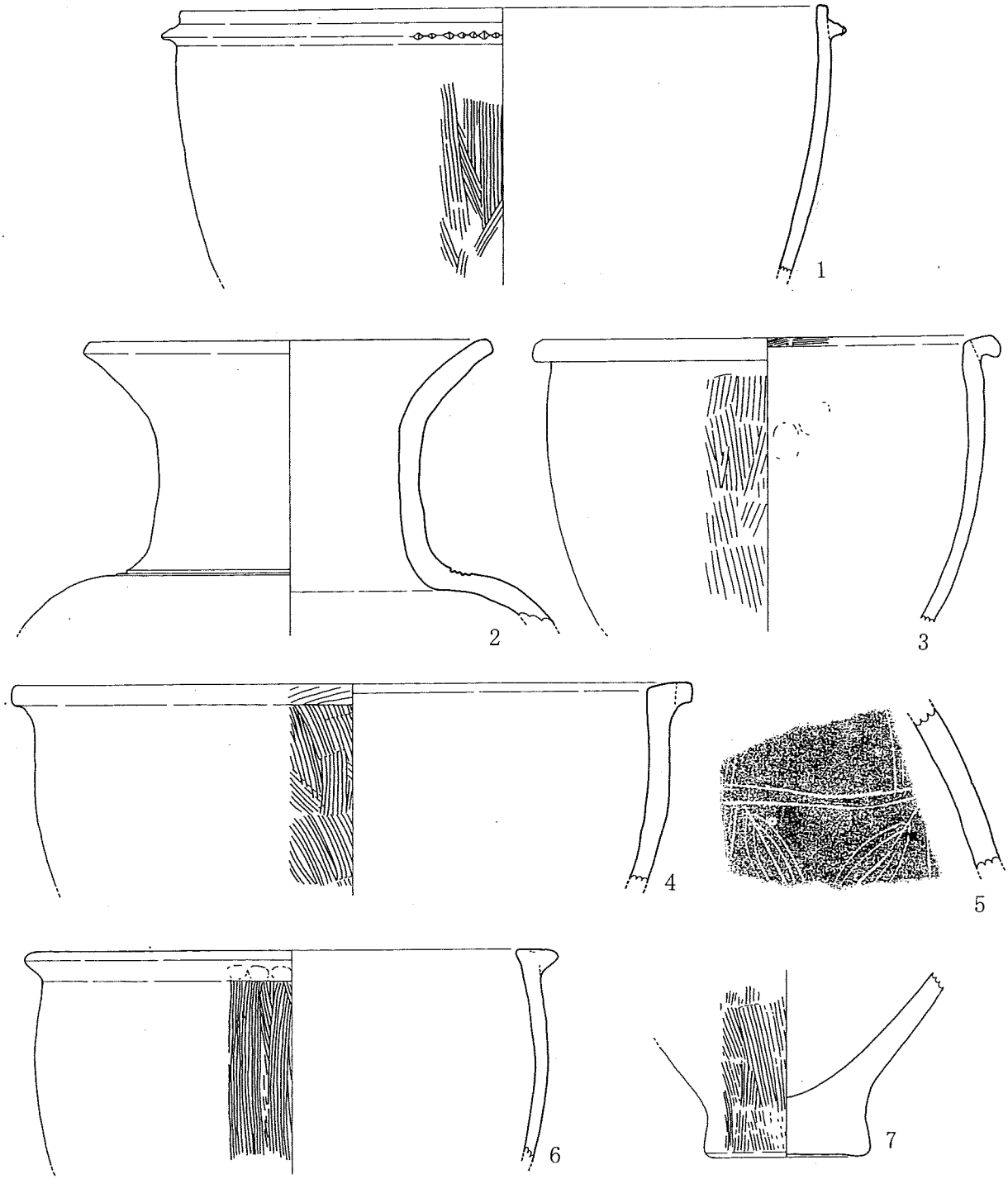
2）102号土坑

＊遺構

11号遺構の西側で検出された遺構で、1.6 ｍ× 0.8 ｍ、深さ 0.3 ｍの楕円形の土坑である。

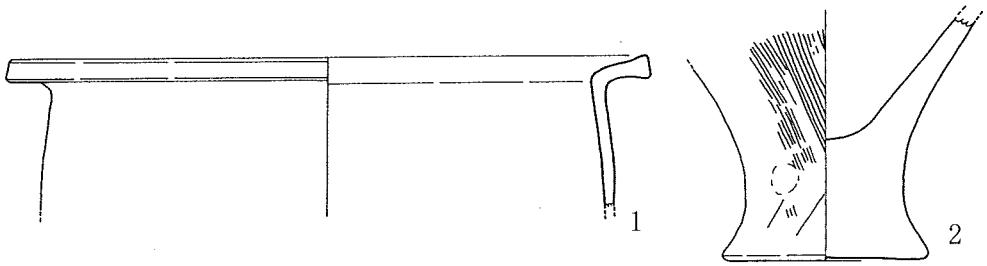
＊出土土器（第147図）

1は甕の口縁部で、口径 31.0cm、残存器高 12.7cm を測る。色調は、内外面ともに暗橙色である。胎土は長石



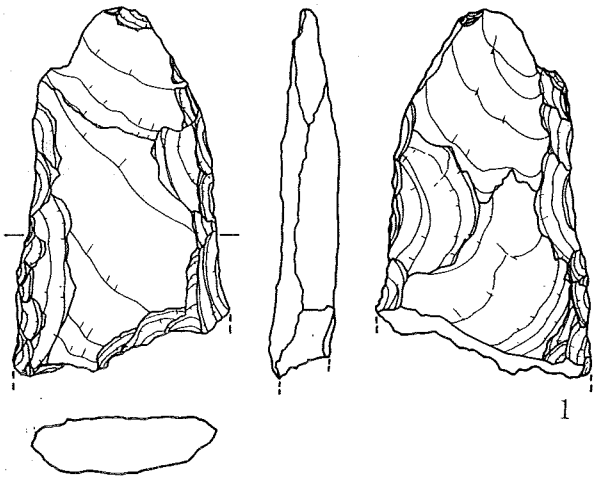
第147図　102号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのち横方向のミガキで、外面はナデと、縦方向のハケ目であ

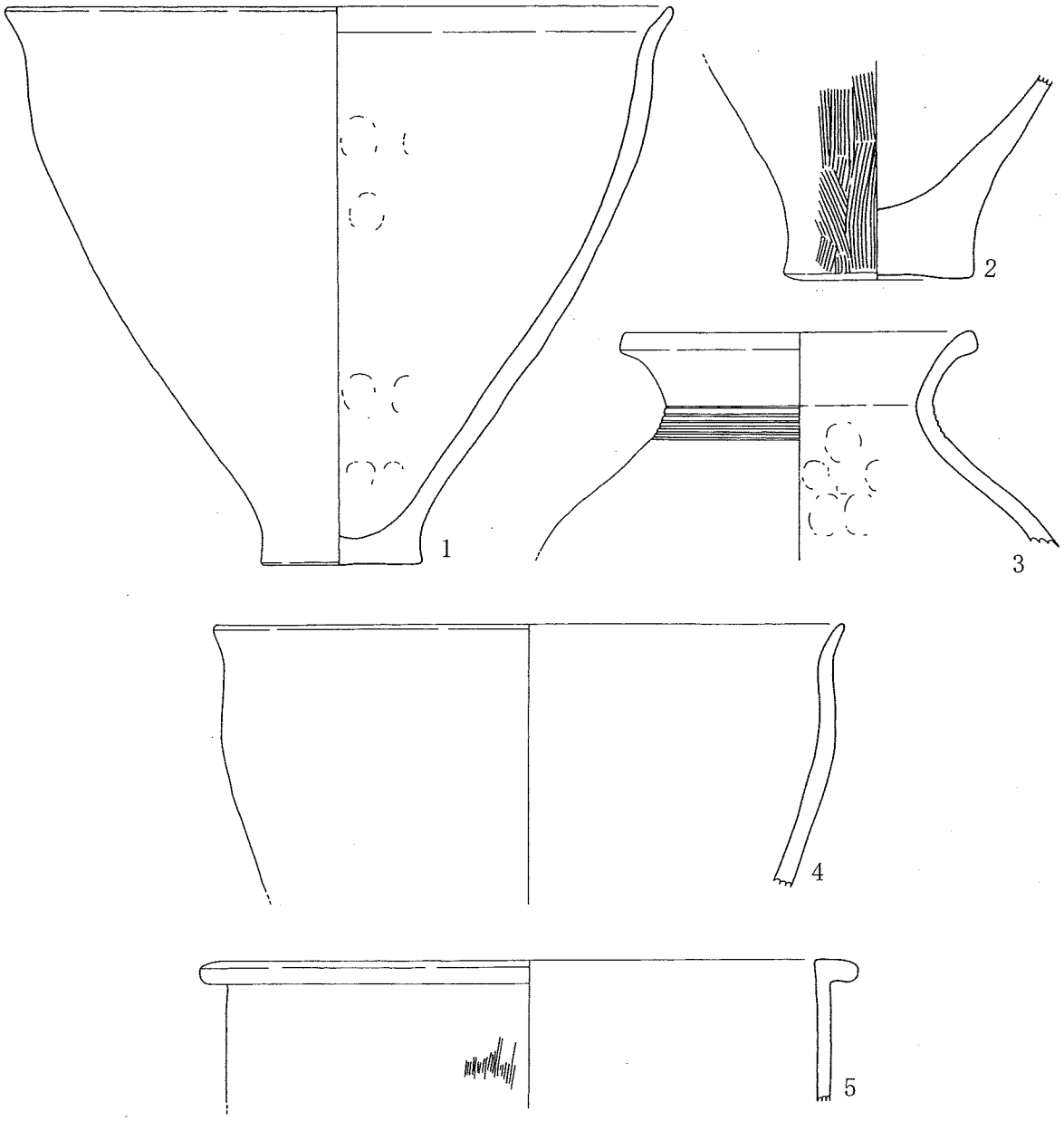


第148図　114号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

る。また外面口縁下部には刻み目の施された突帯が1条めぐる。2は壷の口縁部で、口径 19.0cm、残存器高 13.6cm を測る。色調内面は黄褐色で、一部灰褐色である。外面は黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにミガキと思われるが、器面荒れのため調整は不明瞭である。また外面頸部には沈線がめぐる。3は甕の口縁部で、口径 21.5cm、残存器高 13.6cm を測る。色調内面は淡赤褐色である。外面は暗赤褐色で、一部橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面はナデと、縦方向の

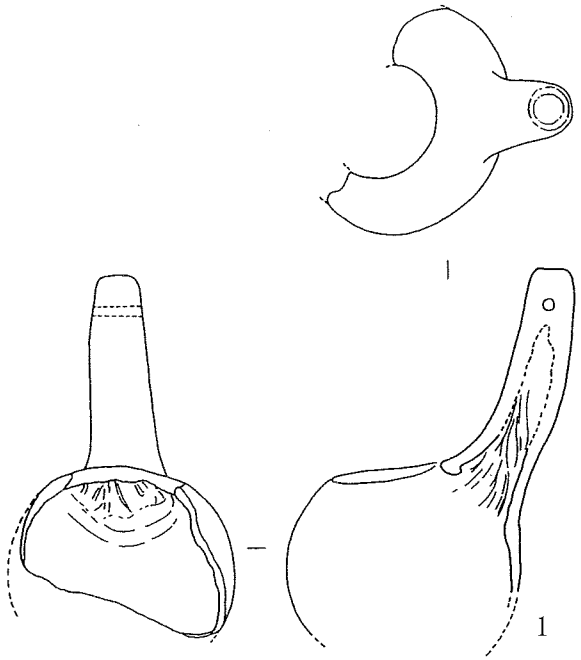


第149図 123号土坑出土石器実測図(S=1/2)



第150図 123号土坑出土土器実測図(S=1/3)

ハケ目である。４は甕の口縁部で、口径 32.2cm、残存器高 9.5cm を測る。色調内面は橙色で、外面は暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・石英を含んでいる。調整方法は、内面はナデで、外面はナデとハケ目である。５は胴部で、残存器高 7.6cm を測る。色調内面は橙色で、外面は暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデであるが、外面には線刻で木の葉の文様が描かれている。また赤彩が施されている。６は甕の口縁部で、口径 25.2cm、残存器高 10.1cm を測る。色調内面は暗灰褐色で、外面は暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと縦方向のハケ目である。７は甕の底部で、底径 7.2cm、残存器高 8.7cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、一部黒色である。外面は暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は指オサエのち縦方向のハケ目である。



第151図 143号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

3）114号土坑

＊遺構

調査区北側に検出された遺構で、径 4.3 m、深さ 0.1 mを測る円形の遺構である。遺構のほぼ中央に径 0.7 m、床面からの深さ 0.4 mの円形の土坑があり、住居跡ではないかと思われる。

＊出土土器（第 148 図）

１は甕の口縁部で、口径 25.0cm、残存器高 6.0cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・長石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデと思われるが、器面荒れのため、不明瞭である。２は甕の底部で、底径 7.8cm、残存器高 9.5cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はハケ目と底部はヨコナデである。

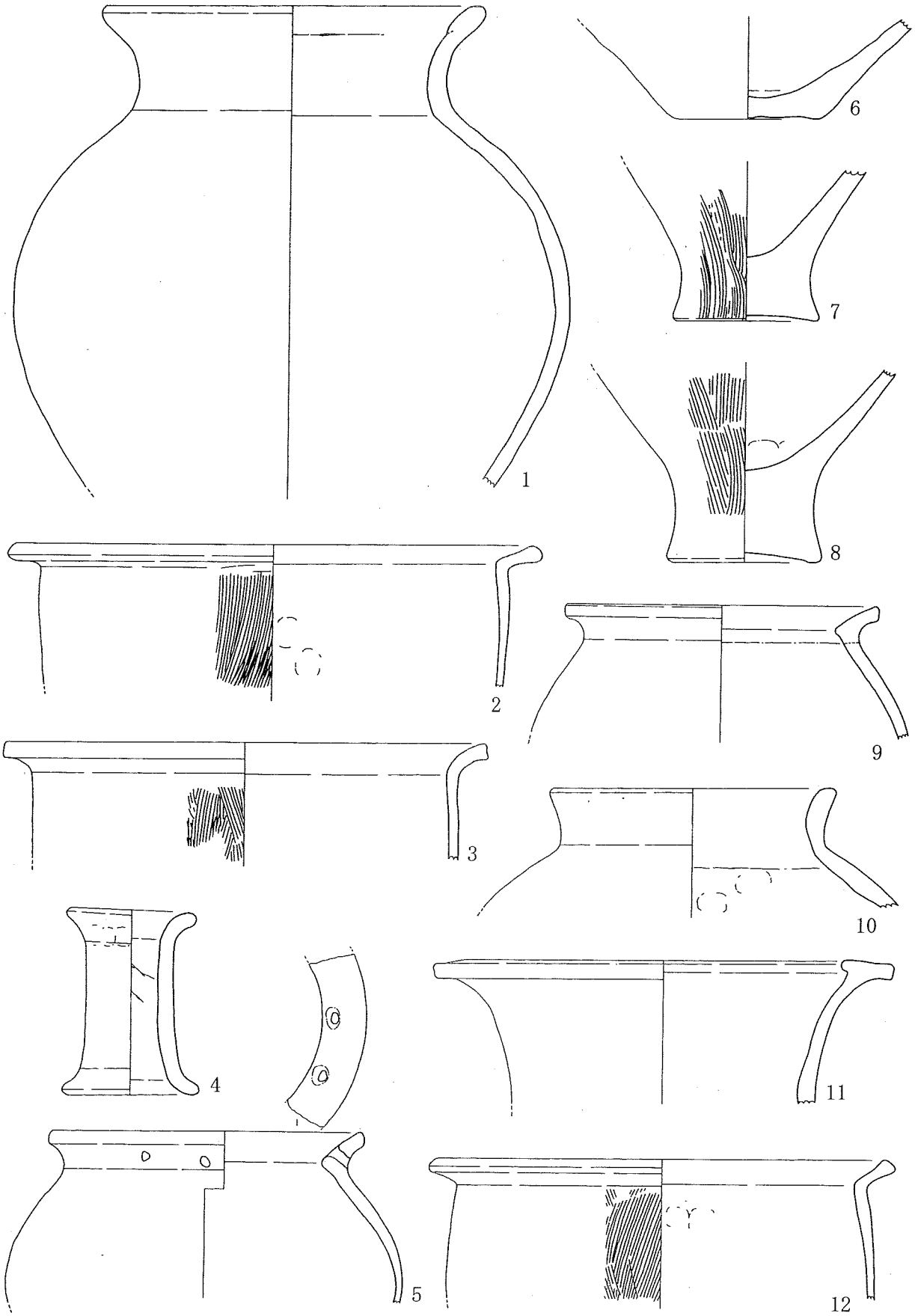
4）123号土坑

＊遺構

12 号遺構の西側に位置する遺構で、南北 1.0 m、東西 3.9 m、深さ 0.25 mを測る楕円形の土坑である。

＊出土土器（第 150 図）

１は甕で、口径 29.2cm、底径 6.9cm、器高 24.2cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデである。外面底部は縦方向の工具ナデであるが、口縁部から胴部にかけては表面が剥落しているため、調整は不明である。２は甕の底部で、底径 8.3cm、残存器高 9.3cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。３は壷の口縁部で、口径 15.2cm、残存器高 9.5cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちミガキであるが、外面は表面が剥

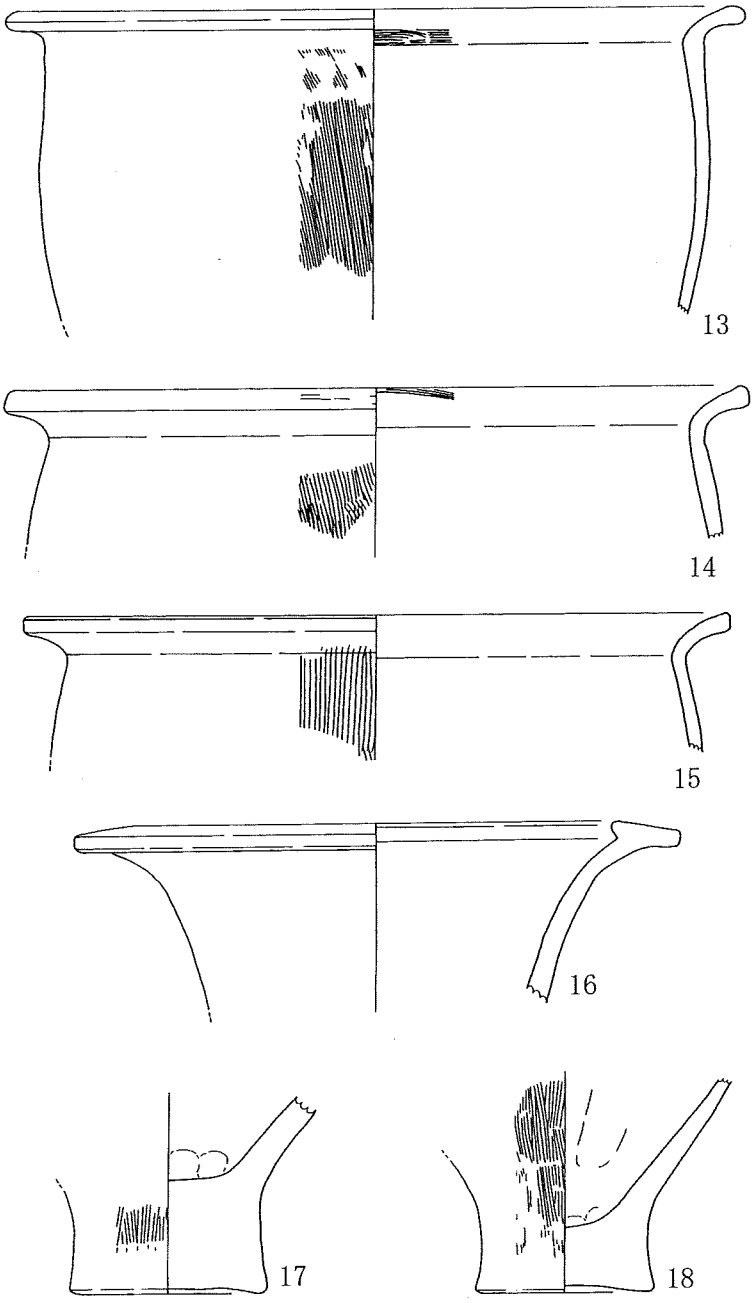


第152図　146号土坑出土土器実測図(1)(S=1/3)

落しているため、調整は不明瞭である。また外面頸部には沈線がめぐる。４は甕の口縁部で、口径 27.4cm、残存器高 11.5cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は角閃石・石英・赤褐色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。５は甕の口縁部で、口径 28.6cm、残存器高 6.3cm を測る。色調内面は淡橙色で、外面は淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石・石英を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデとハケ目である。

＊出土石器（第 149 図）

１は打製石斧で、刃部が欠損している。長さ 9.7cm、幅 5.8cm、厚さ 1.9cm を測る。材質は緑泥片岩である。



第153図　146号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)

5）143号土坑

＊遺構

調査区東側に検出された遺構で、0.7 m× 0.4 m、深さ 0.2 mのやや不定形な土坑である。

＊出土土器（第 151 図）

１は瓢箪型土器で、口径 4.6cm、残存器高 15.0cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部はナデで、取手部にはシボリ痕が残っている。外面はミガキである。

6）146号土坑

＊遺構

南北 3.0 m、東西 1.6 m、深さ 0.4 mを測る不定形な土坑である。

＊出土土器（第 152 図・第 153 図）

１は壷で、口径 20.0cm、胴部最大径 29.4cm、残存器高 25.2cm を測る。色調内面は橙色で、一部黄褐色である。外面は橙色で、一部黒色である。胎土は白色粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、全体的に器面が荒れているため不明瞭である。２は甕の口縁部で、口径 27.0cm、残存器高 7.4cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、

内面は指オサエのちナデで、外面はナデとハケ目である。３は甕の口縁部で、口径 25.2cm、残存器高 6.15cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はナデと縦方向のハケ目である。４は器台で、口径 6.3cm、底径 6.6cm、器高 9.85cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は白色粒・角閃石・石英を含む。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデのち、シボリ痕がある。外面はナデである。５は壷の口縁部で、口径 16.3cm、残存器高 8.0cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともに表面が剥落しているため、不明である。また、口縁部には穴を２つ穿っている。６は底部で、底径 7.4cm、残存器高 5.25cm を測る。色調内面は白灰褐色である。外面は赤茶褐色で、一部淡茶褐色、黒色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。７は甕の底部で、底径 7.4cm、残存器高 8.0cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。８は甕の底部で、底径 8.2cm、残存器高 10.1cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・白色粒・長石・赤褐色粒を含んでいる。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。また、外面下部はヨコナデを施している。９は口縁部で、口径 16.4cm、残存器高 7.0cm を測る。色調は、内外面ともに黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面はミガキと思われるが、表面が剥落しているため不明瞭である。10 は口縁部で、口径 14.9cm、残存器高 6.3cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部は指オサエのちナデで、口縁部はヨコナデである。外面胴部は表面が剥落してるため、不明である。11 は壷の口縁部で、口径 24.0cm、残存器高 7.6cm を測る。色調内面は暗赤褐色で、外面は灰褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は横方向のミガキで、外面は横方向のミガキである。口縁部はヨコナデである。12 は甕の口縁部で、口径 23.7cm、残存器高 7.35cm を測る。色調内面は淡黄褐色である。外面は淡黄褐色で、一部橙色である。胎土は白色粒・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目である。口縁部はヨコナデである。また、口縁部から外面胴部にかけて、赤彩が施されている。13 は甕の口縁部で、口径 28.3cm、残存器高 12.2cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は白色粒・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、一部頸部にハケ目が施されている。外面は縦方向のハケ目である。口縁部はヨコナデである。また、口縁部から外面胴部にかけて、赤彩が施されている。14 は甕の口縁部で、口径 28.6cm、残存器高 6.0cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面は縦方向のハケ目である。15 は甕の口縁部で、口径 27.4cm、残存器高 5.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面は縦方向のハケ目である。16 は壷の口縁部で、口径 23.8cm、残存器高 7.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は白色粒・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにミガキと思われるが、器面荒れで不明瞭である。17 は甕の底部で、底径 7.2cm、残存器高 7.7cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は淡橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目であるが、表面が剥落しているため不明瞭である。18 は甕の底部で、底径 6.6cm、残存器高 8.4cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目である。また外面下部は、ヨコナデを施している。

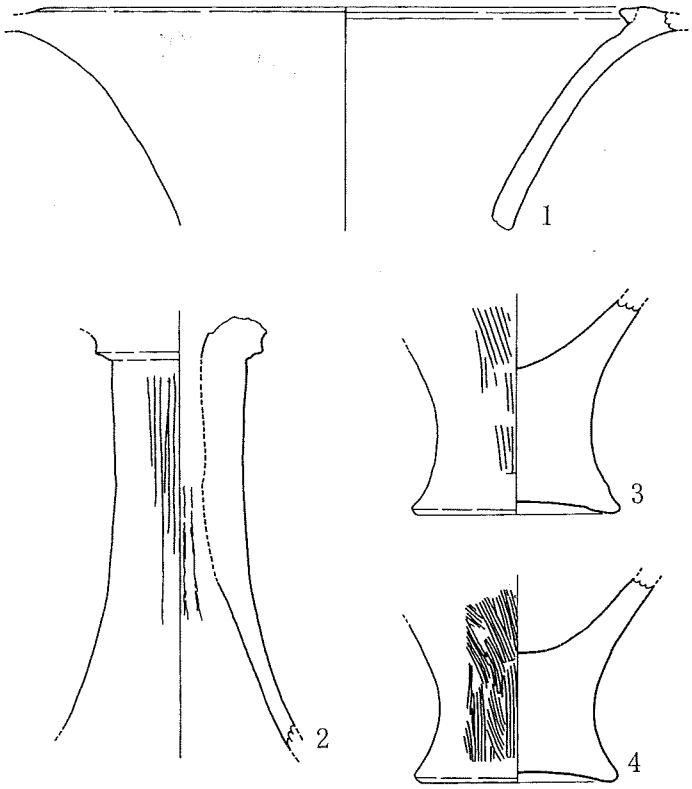
7）148号土坑

＊遺構

11 号遺構の東側に検出された遺構で、南北 2.3 m、東西 1.6 m、深さ 0.3 mを測る方形の土坑である。

＊出土土器（第 154 図）

1は壷の口縁部で、残存器高 8.7cm を測る。色調内面は淡赤褐色で、外面は暗赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は横方向のミガキで、外面は縦方向のナデである。口縁部はヨコナデである。2は高坏の脚部で、残存器高 17.0cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は白色粒・角閃石・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデでシボリ痕が残っている。外面は縦方向のミガキである。3は甕の底部で、底径 7.8cm、残存器高 8.4cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は白色粒・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。また外面下部にはヨコナデが施されている。4は甕の底部で、底径 7.5cm、残存器高 8.0cm を測る。色調内面は灰褐色で、外面は橙色である。胎土は白色粒・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。また外面下部にはヨコナデが施されている。



第154図　148号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

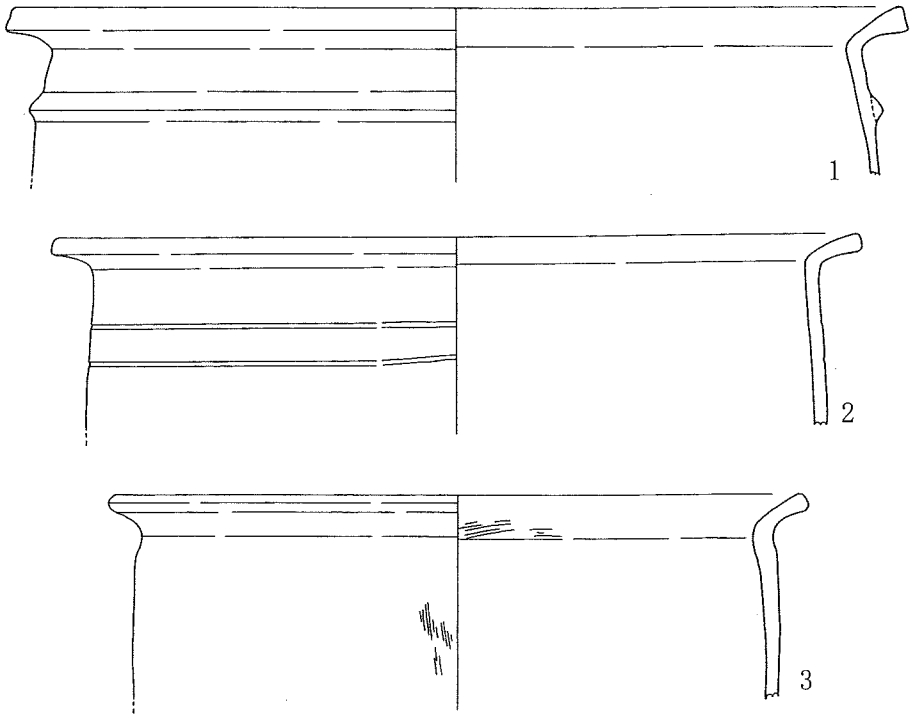
8）150号土坑

＊遺構

南北 0.7 m、東西 3.0 m、深さ 0.25 mを測る不定形な土坑である。

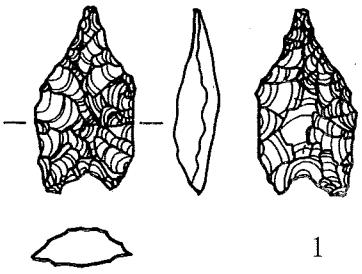
＊出土土器（第 155 図・第 157 図）

1は甕の口縁部で、口径 35.0cm、残存器高 6.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は長石・角閃

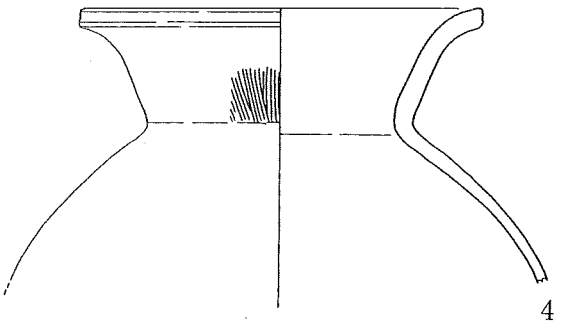


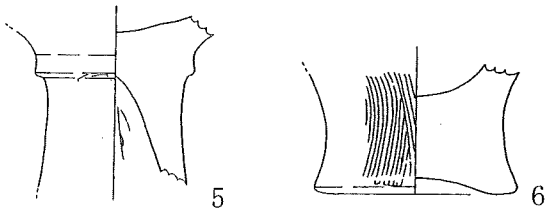
第155図　150号土坑出土土器実測図(1)（S＝1/3）

石・赤褐色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともに表面が剥落しているため不明である。外面口縁下部には突帯が１条めぐる。２は甕の口縁部で、口径 31.6cm、残存器高 7.5cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は長石・角閃石・赤褐色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともに表面が剥落しているため不明である。外面口縁下部には沈線が２条めぐる。３は甕の口縁部で、口径 27.1cm、残存器高 8.2cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。４は壷の口縁部で、口径 15.5cm、残存器高 10.9cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部はヨコナデで、口縁部は横方向のミガキである。外面胴部はミガキで、口縁部は縦方向のハケ目とヨコナデである。５は高坏の脚部で、残存器高 6.8cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は内面はナデでしぼり痕が残っている。外面はナデである。６は甕の底部で、底径 7.8cm、残存器高 5.1cm を測る。色調内面は暗赤褐色で、外面は橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法

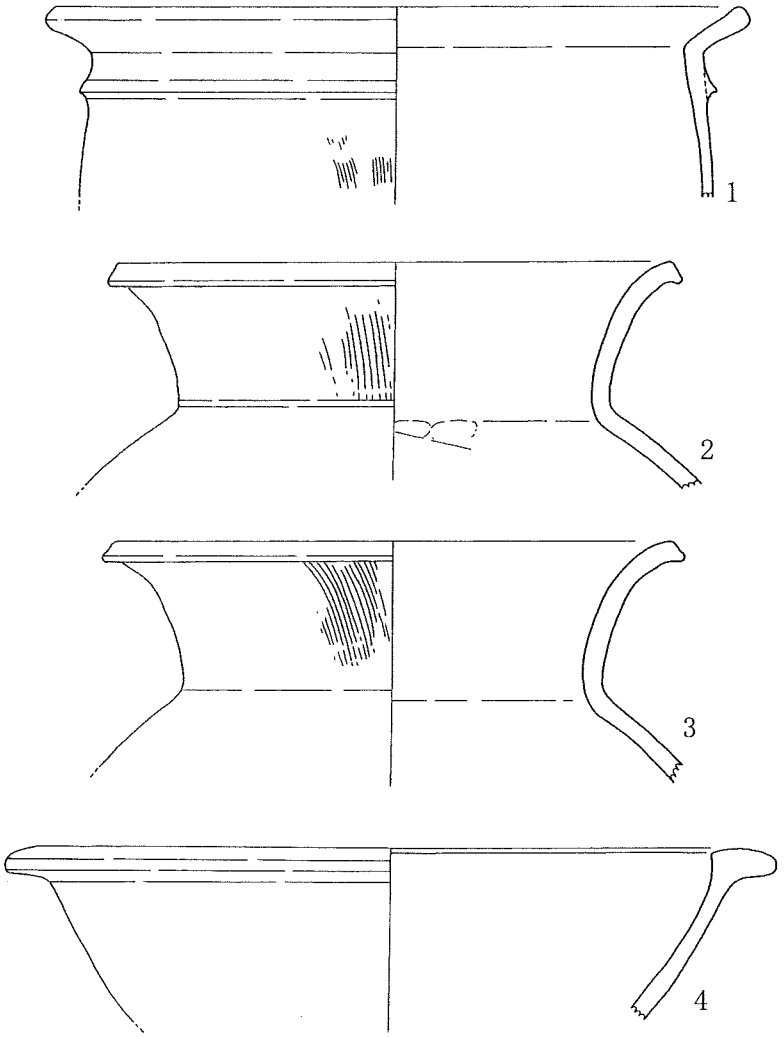


第156図 150号土坑出土石器実測図(S=1/1)

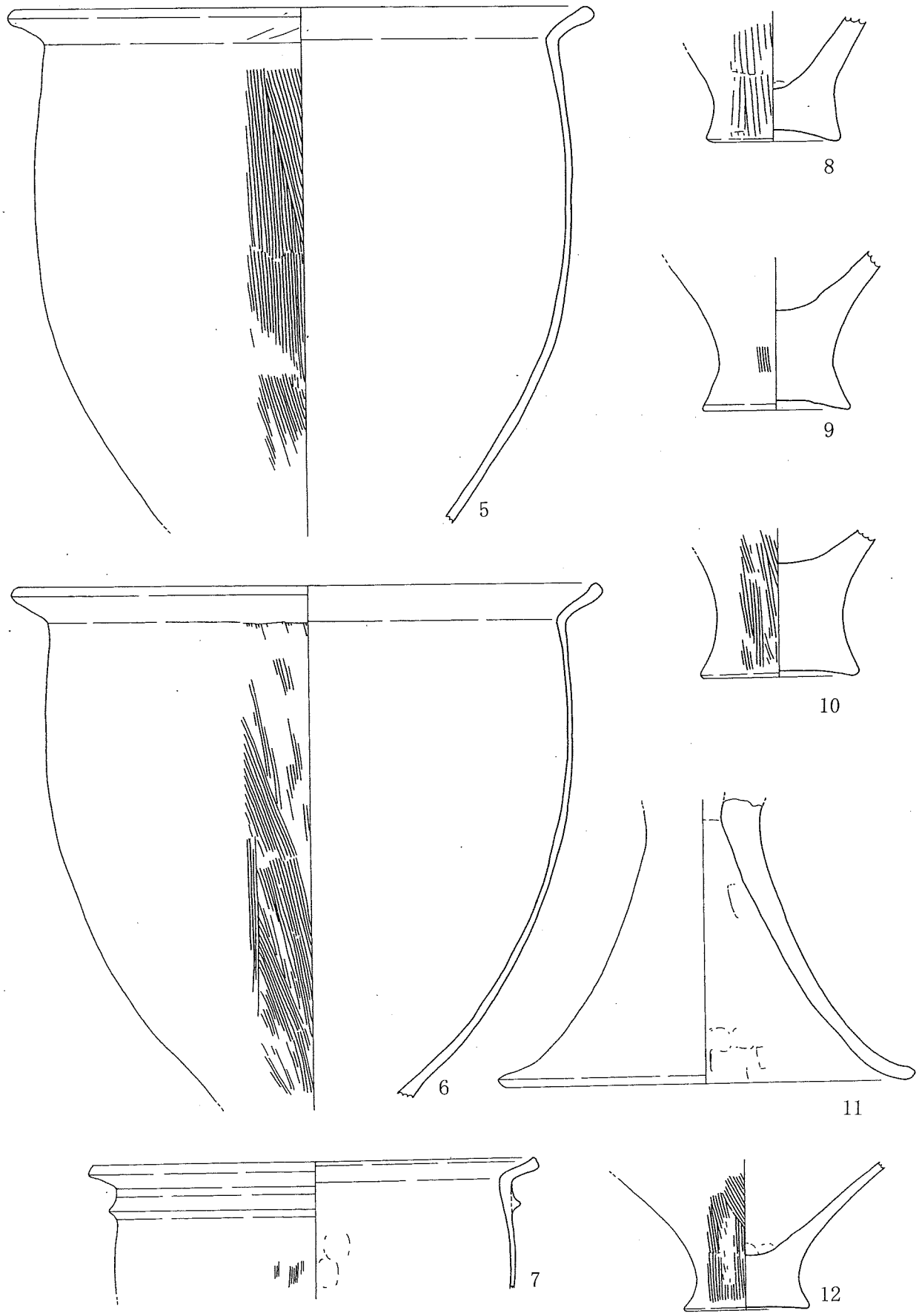




第157図 150号土坑出土土器実測図(2)(S=1/3)



第158図　163号土坑出土土器実測図(1)(S=1/3)



第159図　163号土坑出土土器実測図 (2) (S=1/3)

は、内面はナデで、外面は縦方向のハケ目である。また、外面下部はヨコナデを施している。

＊出土石器（第156図）

1は打製石鏃で、長さ2.45cm、幅1.4cm、厚さ0.6cmを測る。材質は黒曜石である。

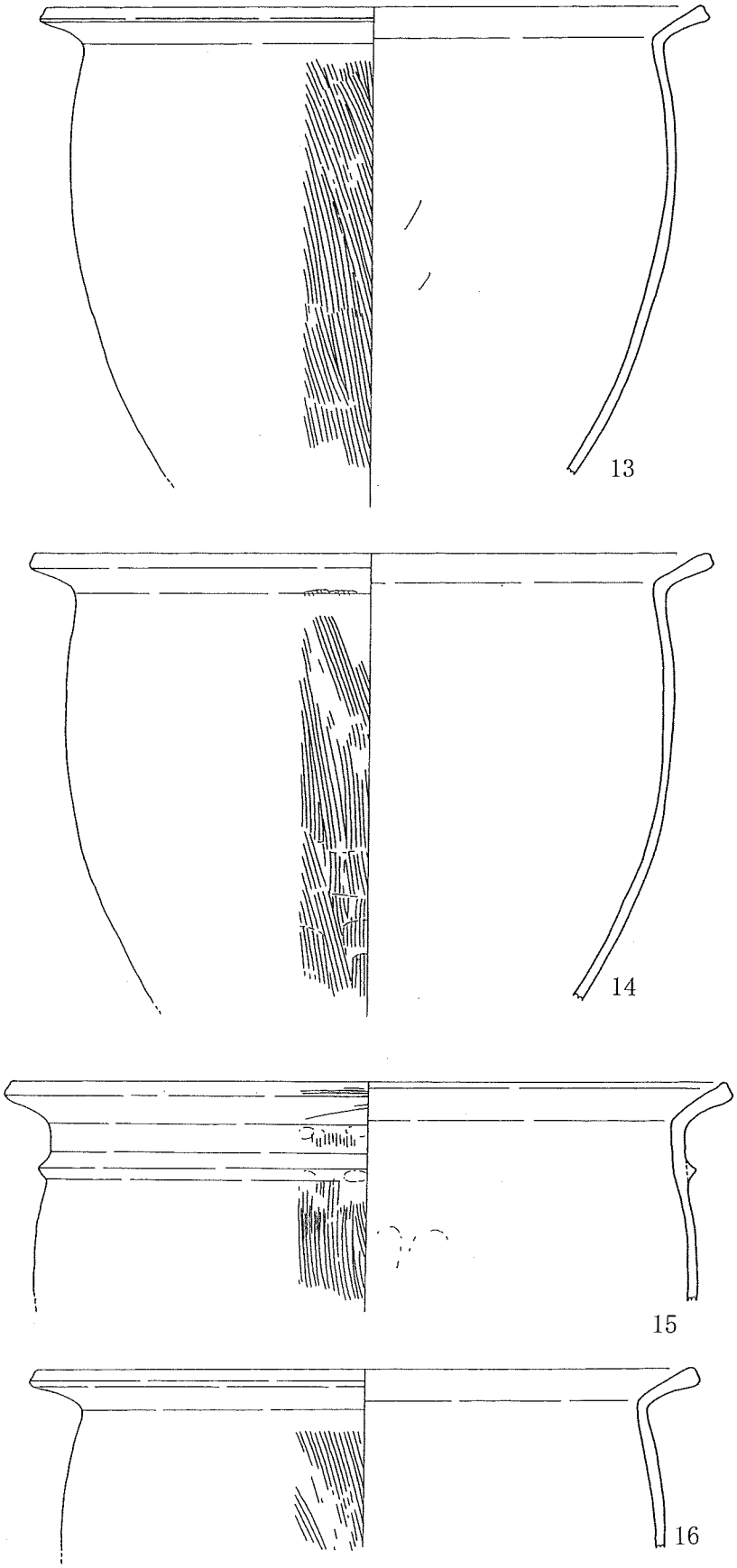
9）163号土坑

＊遺構

調査区西側に検出された遺構で、南北3.5 m、東西3.0 m、深さ0.47 mを測る不定形な土坑である。

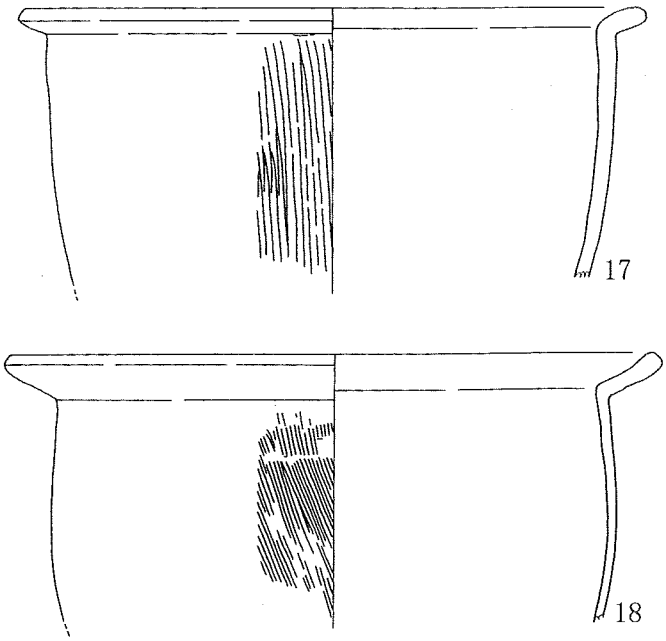
＊出土土器（第158図・第159図・第160図・第161図）

1は甕の口縁部で、口径26.8cm、残存器高7.5cmを測る。色調は、内外面ともに橙色で、一部淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から外面口縁下部にかけてナデで、外面胴部はハケ目である。また外面胴部には突帯が1条めぐる。2は壷の口縁部で、口径21.8cm、残存器高9.0cmを測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色である。胎土は石英・長石・角閃石・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部は指オサエのちナデで、口縁部は横方向のミガキである。外面胴部はミガキで、口縁部は縦方向のハケ目である。3は壷の口縁部で、口径21.7cm、残存器高9.6cmを測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は石英・白色粒・角閃石・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方

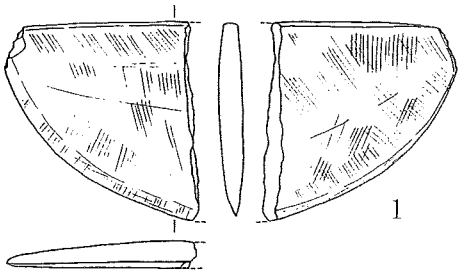


第160図　163号土坑出土土器実測図(3)(S＝1/3)

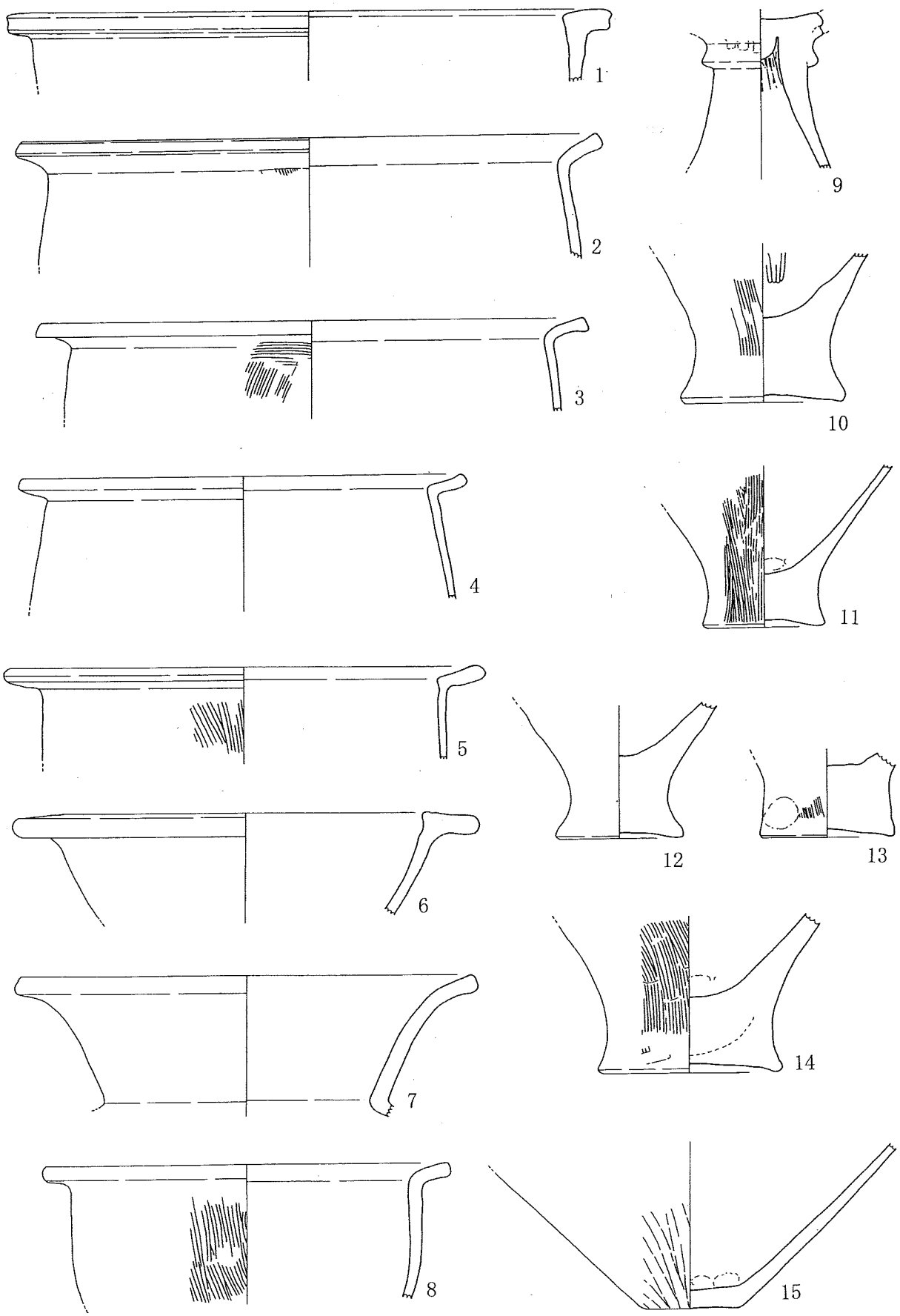
法は、内面口縁部は横方向のミガキで、外面口縁部は縦方向のハケ目である。胴部は、内外面ともに表面が剥落しているため不明である。4は口縁部で、口径 29.6cm、残存器高 6.8cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。5は甕で、口径 30.6cm、残存器高 27.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色で、一部灰褐色である。胎土は白色粒・石英・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。6は甕で、口径 31.2cm、残存器高 27.3cm を測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色で、外面の一部は灰褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目である。7は甕の口縁部で、口径 23.4cm、残存器高 6.9cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部は指オサエのちナデで、口縁部はヨコナデである。外面胴部は縦方向のハケ目である。また外面胴部には突帯が1条めぐる。8は甕の底部で、底径 6.4cm、残存器高 6.5cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目である。9は甕の底部で、底径 7.7cm、残存器高 8.3cm を測る。色調内面は暗褐色で、外面は黄赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目である。また外面下部はヨコナデを施している。10は甕の底部で、底径 8.0cm、残存器高 7.8cm を測る。色調内面は暗赤褐色で、外面は橙色である。胎土は砂粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目を施している。11は脚部で、底径 21.4cm、残存器高 15.0cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。12は甕の底部で、底径 7.7cm、残存器高 6.3cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は淡黄褐色である。胎土は石英・白色粒・角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデで、外面は縦方向のハケ目を施している。13は甕で、口径 28.6cm、残存器高 20.4cm を測る。色調内面は淡黄褐色である。外面は暗赤褐色で、一部淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・石英・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。14は甕で、口径 29.2cm、残存器高 19.6cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。15は甕の口縁部で、口径 31.2cm、残存器高 9.5cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外



第161図 163号土坑出土土器実測図(4)(S=1/3)



第162図 163号土坑出土石器実測図(S=1/2)



第163図　164号土坑出土土器実測図（S=1/3）

面は淡赤褐色である。胎土は角閃石・石英・赤褐色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけては指オサエとナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。また外面口縁下部には突帯が1条めぐる。16 は甕の口縁部で、口径 28.4cm、残存器高 7.9cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。17 は甕の口縁部で、口径 24.2cm、残存器高 10.7cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。18 は甕で、口径 25.4cm、残存器高 10.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・灰色砂粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。

＊出土石器（第 162 図）

1は石包丁で、半部が欠損している。長さ 5.25cm、幅 5.15cm、厚さ 0.7cm を測る。材質は粘板岩である。

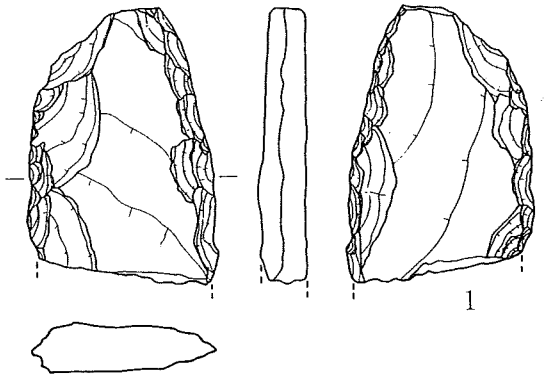
10）164号土坑

＊遺構

調査区の西端に検出された遺構で、遺構の半分は調査区域外であったため、規模は不明である。現存長 2.1 m × 1.3 m、深さ 0.45 mを測る。

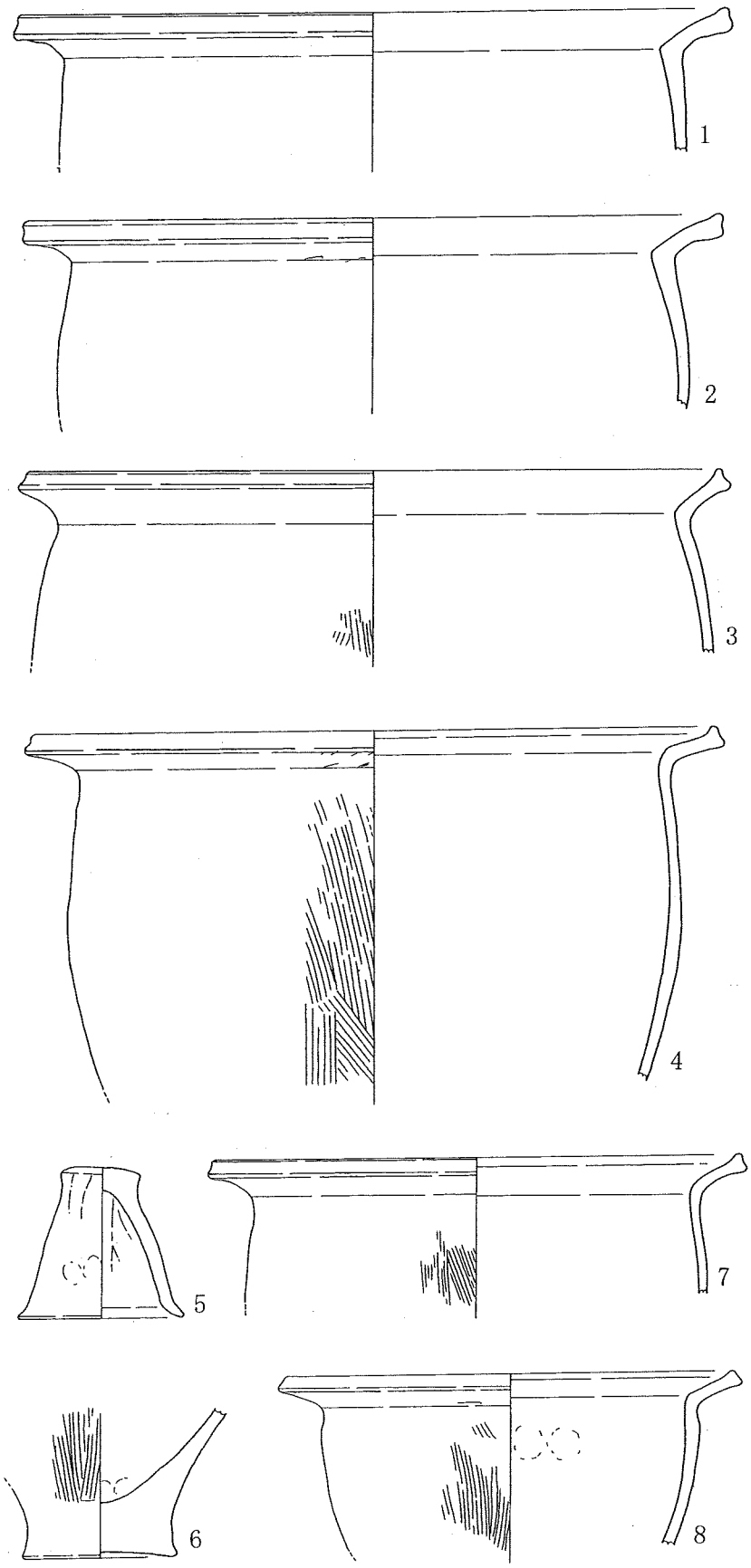
＊出土土器（第 163 図）

1は甕の口縁部で、口径 32.2cm、残存器高 3.8cm を測る。色調内面は灰褐色で外面は淡灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。2は甕の口縁部で、口径 30.7cm、残存器高 6.6cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施していると思われるが、器面荒れのため、不明瞭である。3は甕の口縁部で、口径 29.0cm、残存器高 5.0cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は角閃石・長石・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部はハケ目のちナデを施している。4は甕の口縁部で、口径 23.6cm、残存器高 6.7cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。5は甕の口縁部で、口径 25.0cm、残存器高 4.9cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、一部灰褐色である。外面は暗赤褐色である。胎土は角閃石・石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部はハケ目を施している。また口縁部から外面胴部にかけて、赤彩が施されている。6は口径 24.4cm、残存器高 5.5cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。7は壷の口縁部で、口径 24.4cm、残存器高 7.5cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。8は甕の口縁部で、口径 21.4cm、残存器高 7.3cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部はハケ目を施している。9は高坏の脚部で、



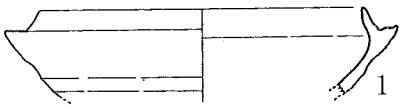
第164図 168号土坑出土石器実測図（S＝1/2）

残存器高 8.4cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面はナデで、しぼり痕が残っている。外面はナデと、縦方向の工具ナデである。10 は甕の底部で、底径 8.4cm、残存器高 7.85cm を測る。色調内面は黒茶褐色で、外面は明赤褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内面はナデで、外面はハケ目である。外面下部にはヨコナデが施されている。11 は甕の底部で、底径 6.0cm、残存器高 8.5cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目を施している。12 は甕の底部で、底径 6.4cm、残存器高 7.15cm を測る。色調内面は淡褐色で、外面は白黄褐色である。胎土は角閃石を含んでいる。焼成は不良である。調整方法は、内外面ともにナデである。13 は甕の底部で、底径 7.0cm、残存器高 4.45cm を測る。色調内面は黄褐色で、外面は白黄褐色である。胎土は角閃石・石英を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内面はナデで、外面はハケ目を施している。14 は甕の底部で、底径 9.2cm、残存器高 8.4cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・石英・長石・白色粒を含んでい

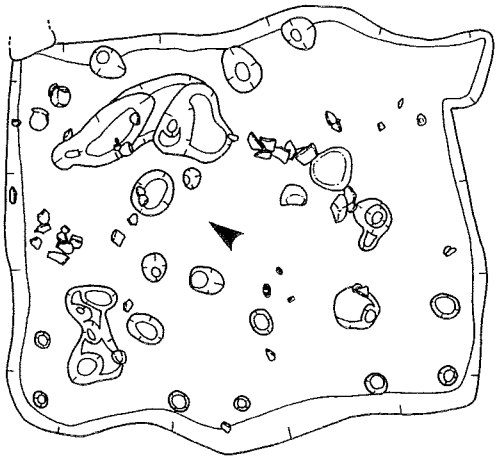


第165図　168号土坑出土土器実測図（S＝1/3）

る。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目である。外面下部にはヨコナデが施されている。15は壷の底部で、底径 5.0cm、残存器高 8.7cm を測る。色調内面は黄灰色で、外面は淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面底部は指オサエであるが、胴部は器面荒れのため不明である。外面は縦方向の工具ナデである。



第166図 27号土坑出土土器実測図(S=1/3)


第167図 81号土坑平面図(S=1/60)

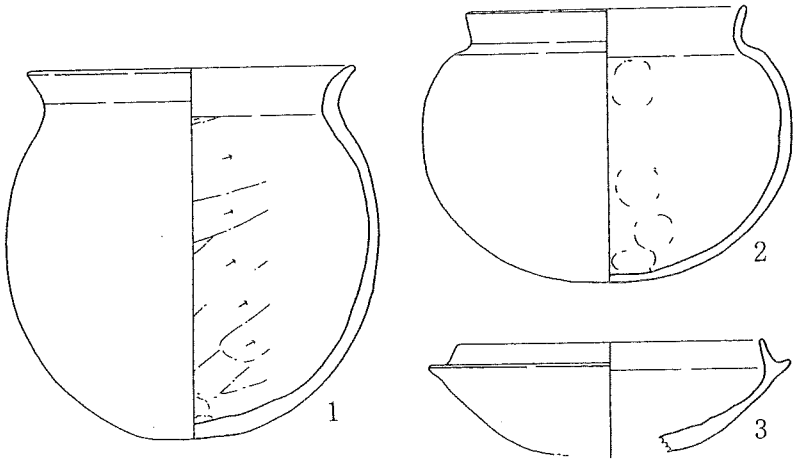
11）168号土坑

＊遺構

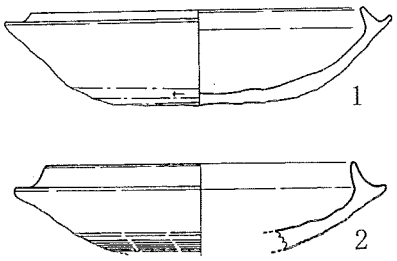
調査区東側に検出された遺構で、8号溝によって切られている。南北 2.7 m、東西 2.3 m、深さ 0.3 mを測る不定形な土坑である。

＊出土土器（第 165 図）

1は甕の口縁部で、口径 30.5cm、残存器高 6.2cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・白色粒・長石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともに表面が剥落しているため不明である。2は甕の口縁部で、口径 30.0cm、残存器高 8.5cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は角閃石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデである。外面胴部は表面が剥落しているため、不明である。3は甕の口縁部で、口径 29.8cm、残存器高 8.1cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデと思われるが、全体的に器面が荒れているため不明瞭である。4は甕の口縁部で、口径 29.4cm、残存器高 15.5cm を測る。色調内面は淡橙色である。外面は淡橙色で、一部淡赤褐色である。胎土は角閃石・石英・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。5は底径 7.0cm、器高 6.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は縦方向の工具ナデで、外面はナデと指オサエである。6は底径 6.4cm、残存器高 6.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡赤褐色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエとナデで、外面は縦方向のハケ目である。また外面下部にはヨコナデを施している。7は甕の口縁部で、口径 22.7cm、残存器高 6.2cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色



第168図 81号土坑出土土器実測図(S=1/3)



第169図 85号土坑出土土器実測図(S=1/3)

である。胎土は長石・角閃石・赤褐色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は縦方向のハケ目を施している。８は甕の口縁部で、口径 19.4cm、残存器高 7.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色で、一部灰褐色である。胎土は角閃石・長石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、一部指オサエがみられる。外面胴部は縦方向のハケ目である。また口縁部から外面胴部にかけて、赤彩が施されている。

＊出土石器（第 164 図）

１は打製石斧で、刃部が欠損している。長さ 7.3cm、幅 5.05cm、厚さ 1.3cm を測る。

12）27号土坑

＊遺構

調査区北端に検出された遺構で、２間×２間の掘立柱遺構の柱穴の一つである。径 1.15 m× 0.8 m、深さ 0.4 mを測る。

＊出土土器（第 166 図）

１は坏身で、口径 12.7cm、受部径 15.4cm、残存器高 3.4cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにヨコナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。

13）81号土坑

＊遺構（第 167 図）

８号溝の西側に溝に並行するように検出された遺構で、南北 3.76 m、東西 3.32 m、深さ 0.2 mの方形の遺構である。住居跡と思われ、いくつかの柱穴を検出した。

＊出土土器（第 168 図）

１は口径 12.9cm、胴部最大径 14.6cm、器高 14.6cm を測る。色調内面は黒褐色で、外面は暗橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部は指オサエのちナデで、口縁部にかけてはヘラケズリである。外面はナデである。２は壷で、口径 10.7cm、器高 10.75cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は長石・赤褐色粒・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面胴部は指オサエのちナデで、口縁部はヨコナデである。外面は器面が剥落しているため、不明である。３は坏身で、口径 11.8cm、受部径 14.2cm、残存器高 4.4cm を測る。色調内面は灰色で、外面は灰黄色である。胎土は角閃石・黒色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデである。外面底部は、自然釉のため調整は不明である。

14）85号土坑

＊遺構

第１次調査で確認された２号遺構を切るように検出された遺構で、遺構の西端は調査区域外である。東西は不明であるが、南北 4.5 m、深さ 0.05 mを測る方形の住居跡と思われる。

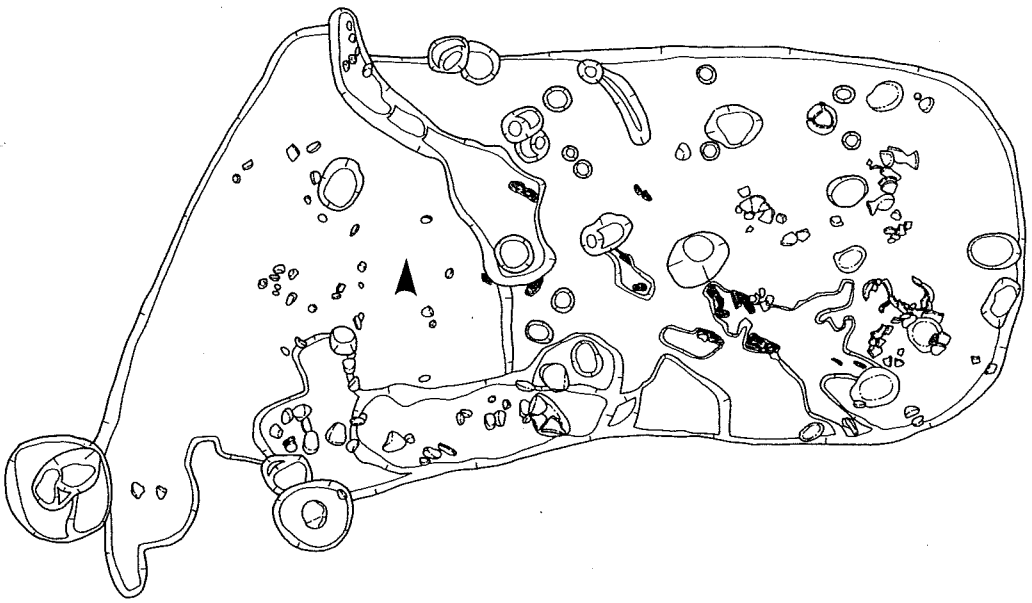
＊出土土器（第 169 図）

１は坏身で、口径 13.2cm、受部径 15.4cm、器高 3.75cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。２は坏身で、口径 12.1cm、受部径 14.8cm、残存器高 3.4cm を測る。色調内面は淡黄褐色で、外面は灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面底部はカキ目を施している。

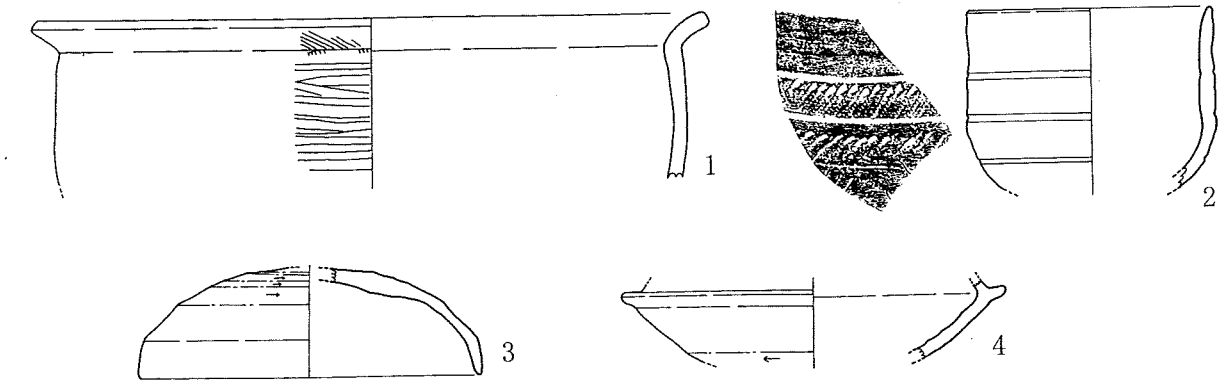
15）90号土坑

＊遺構（第 170 図）

3号遺構の南側に検出された遺構で、南北 3.16 m、東西 6.4 m、深さ 0.2 m のやや角丸方形の遺構である。住居跡と思われ、床面には焼成をうけた木片をいくつか確認した。



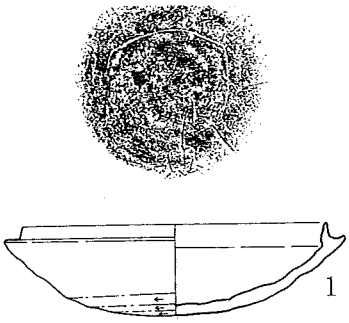
第170図　90号土坑平面図（S=1/60）



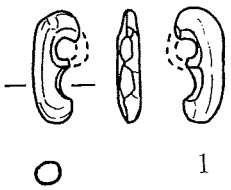
第171図　90号土坑出土土器実測図（S=1/3）

＊出土土器（第 171 図）

1は甕の口縁部で、口径 26.4cm、残存器高 6.5cm を測る。色調は、内外面ともに橙色である。胎土は石英・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面胴部は横方向のミガキである。2は口径 9.6cm、残存器高 7.05cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は白色粒・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。また外面には3条の沈線が施されている。3は蓋坏で、口径 13.4cm、残存器高 4.3cm を測る。色調は、内外面ともに淡灰褐色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデで、外面上部は回転ヘラケズリである。4は坏身で、受部径 15.2cm、残存器高 3.1cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄褐色である。胎土は角閃石・砂粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにヨコナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。



第172図 99号土坑出土土器実測図（S=1/3）



第173図 68号土坑出土玉類実測図（S=1/1）

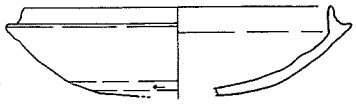
16）99号土坑

＊遺構

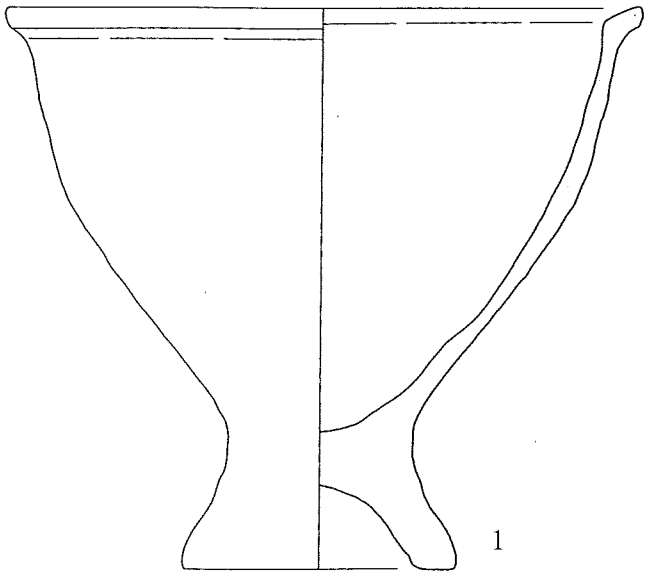
調査区西端に検出された遺構で、遺構の西端は調査区域外である。東西は不明であるが、南北 1.5 m、深さ 0.08 mを測る。

＊出土土器（第 172 図）

1 は坏身で、口径 12.1cm、受部径 13.6cm、器高 3.6cm を測る。色調は、内外面ともに淡黄橙色である。胎土は角閃石・石英・赤褐色粒を含んでいる。焼成はやや不良である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。



第174図 132号柱穴出土土器実測図（S＝1/3）



第175図 1号土器溜出土土器実測図（S＝1/3）

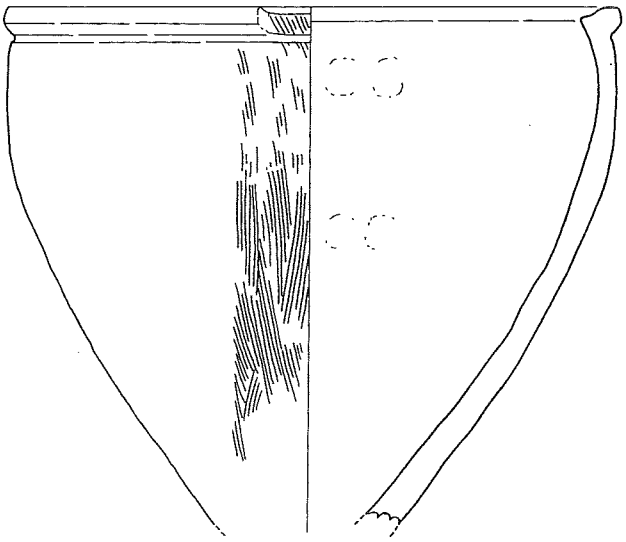
17）68号土坑

＊遺構

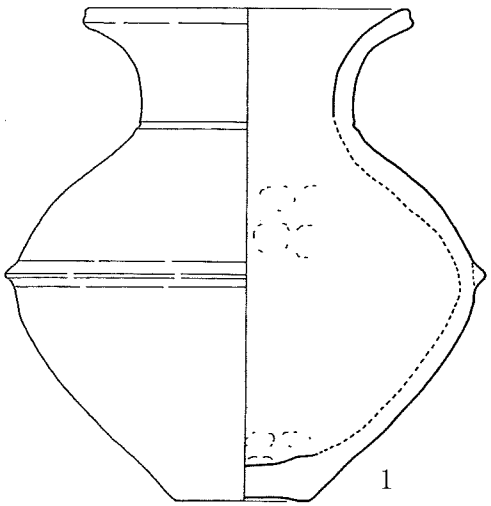
南北 4.4 m、東西 3.3 m、深さ 0.15 mを測るやや角丸方形の土坑である。土坑床面にはいくつかの柱穴が確認され、住居跡ではないかと思われる。

＊出土玉類（第 173 図）

1 は勾玉で、長さ 1.5cm、幅 0.65cm、厚さ 0.3cm を測る。



第176図 12号土器溜出土土器実測図（S＝1/3）



第177図 14号土器溜出土土器実測図（S＝1/3）

4．その他の遺構

1）132号柱穴

＊遺構

2 間×2 間の掘立柱建物の柱穴の一つである。径 0.6 m、深さ 0.15 mを測る。

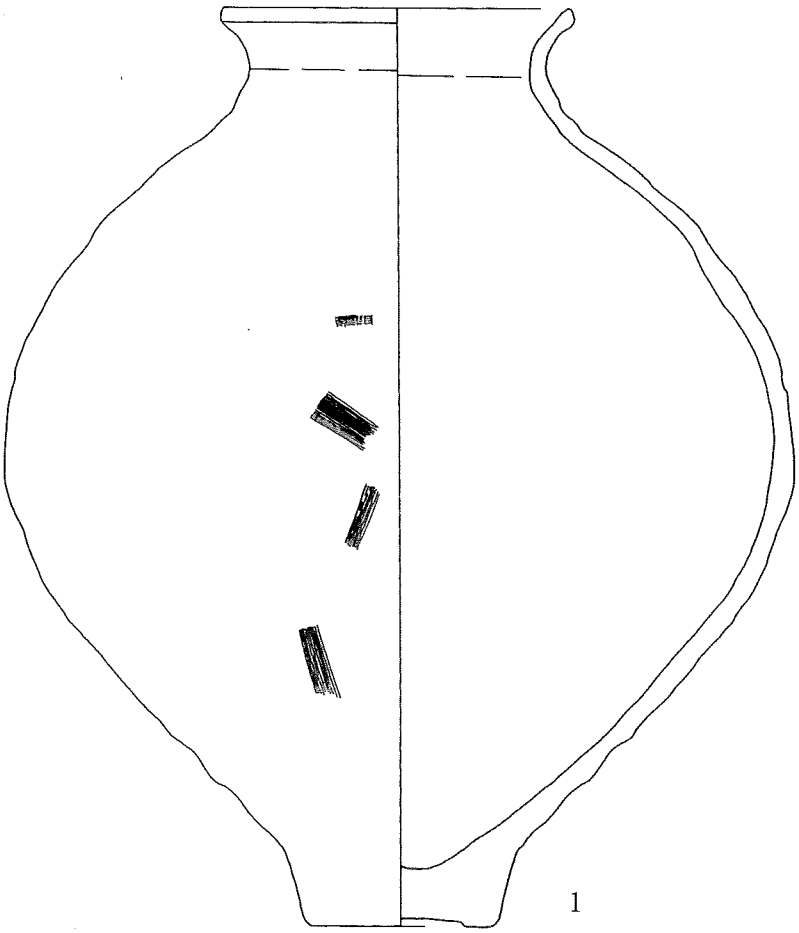
＊出土土器（第174図）

1は坏身で、口径 12.0cm、受部径 13.6cm、残存器高 3.5cm を測る。色調は、内外面ともに灰色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面底部は回転ヘラケズリである。

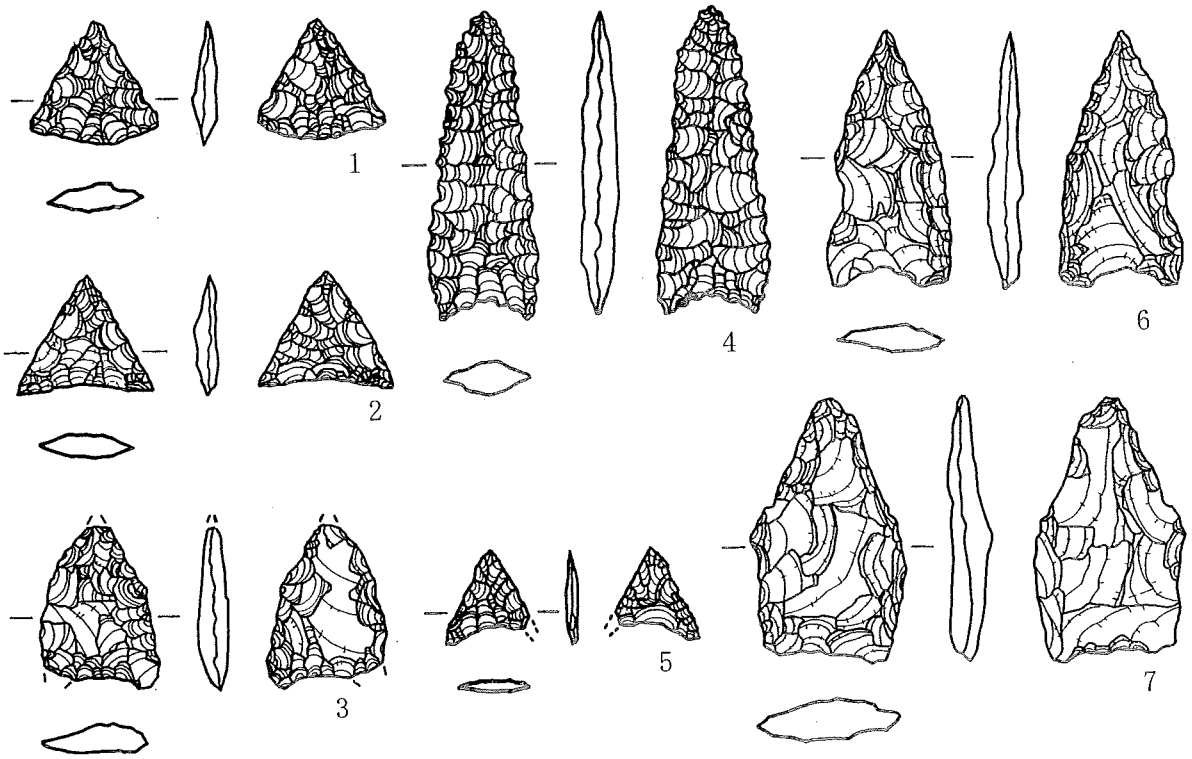
2）1号土器溜

＊出土土器（第175図）

1は甕で、口径 25.0cm、底径 10.5cm、器高 21.9cm を測る。色調は、内外面ともに暗赤褐色で、外面の一部は黒色である。胎土は砂粒・長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデである。



第178図　13号土器溜出土土器実測図（S＝1/3）



第179図　第3次調査出土遺物実測図（1）（S＝1/1）

3）12号土器溜

＊遺構

調査区西端で、検出された。

＊出土土器（第176図）

1は甕で、口径24.0cm、残存器高20.3cmを測る。色調内面は橙色である。外面は暗赤褐色で、一部橙色である。胎土は長石・角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面から口縁部にかけてはナデと、指オサエである。外面胴部は縦方向のハケ目が施されている。

4）14号土器溜

＊遺構

調査区西端で、検出された。

＊出土土器（第177図）

1は壷で、口径12.6cm、底径5.2cm、器高19.35cmを測る。色調は、内外面ともに灰褐色である。胎土は角閃石・白色粒を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内面は指オサエのちナデと、ヨコナデである。外面上部は横方向のミガキで、下部は縦方向のハケ目である。

5）13号土器溜

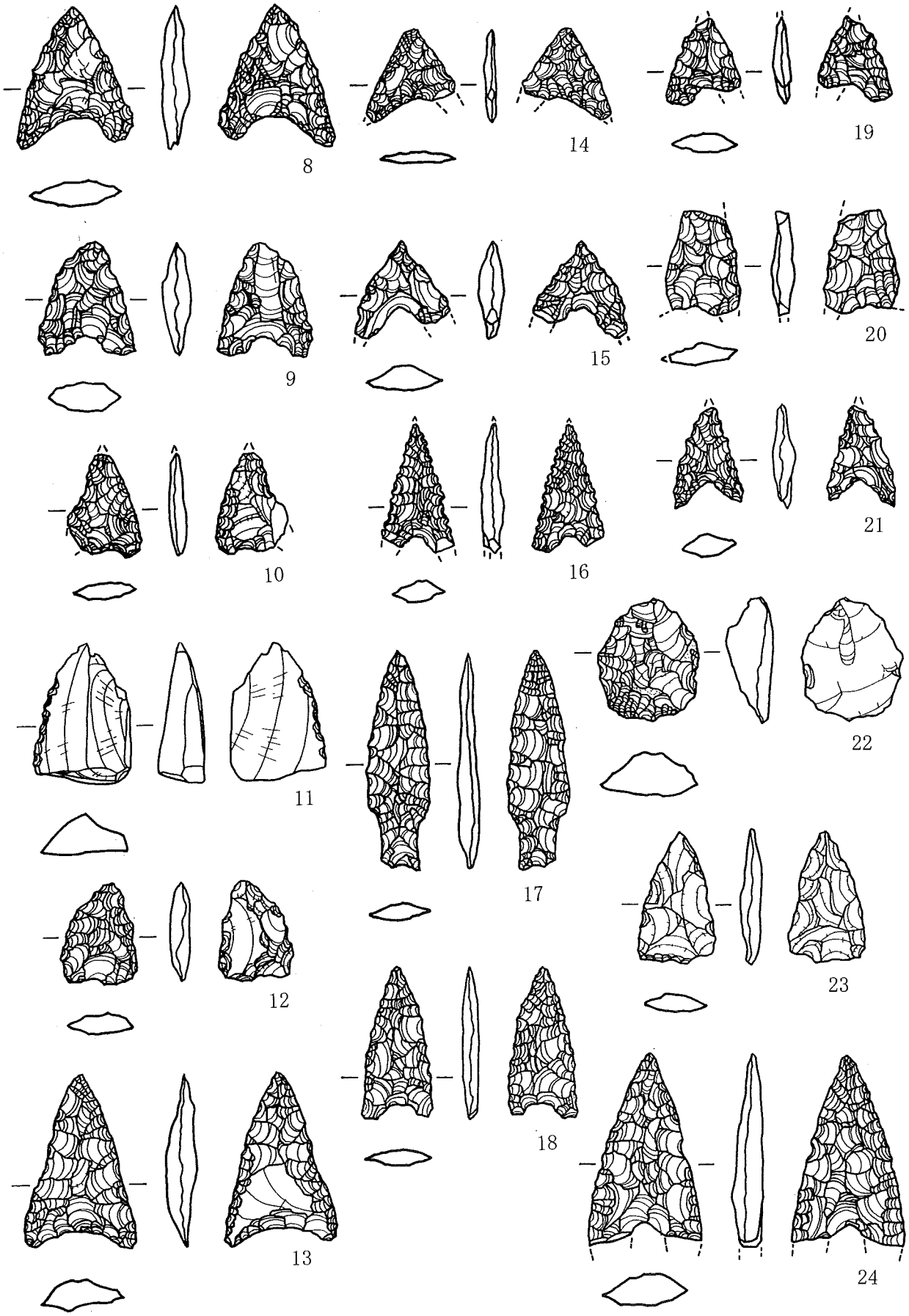
＊遺構

調査区西端で、検出された。

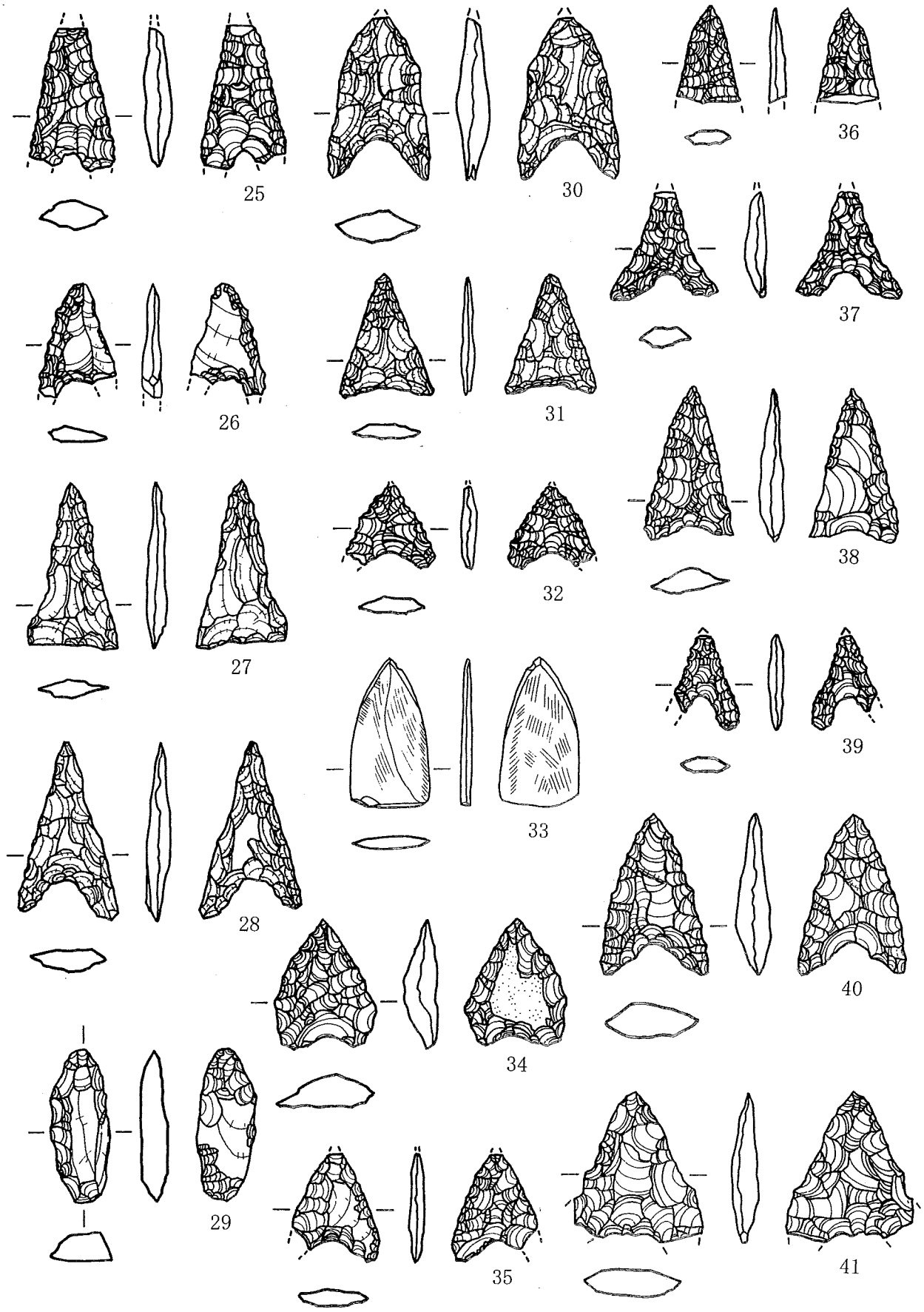
＊出土土器（第178図）

1は壷で、口径13.7cm、底径7.2cm、最大胴部径31.3cm、器高36.0cmを測る。色調内面は暗茶褐色で、外面は暗赤茶褐色である。胎土は長石・角閃石を含んでいる。焼成は良好である。調整方法は、内外面ともにナデで、外面の一部にハケ目が残っている。

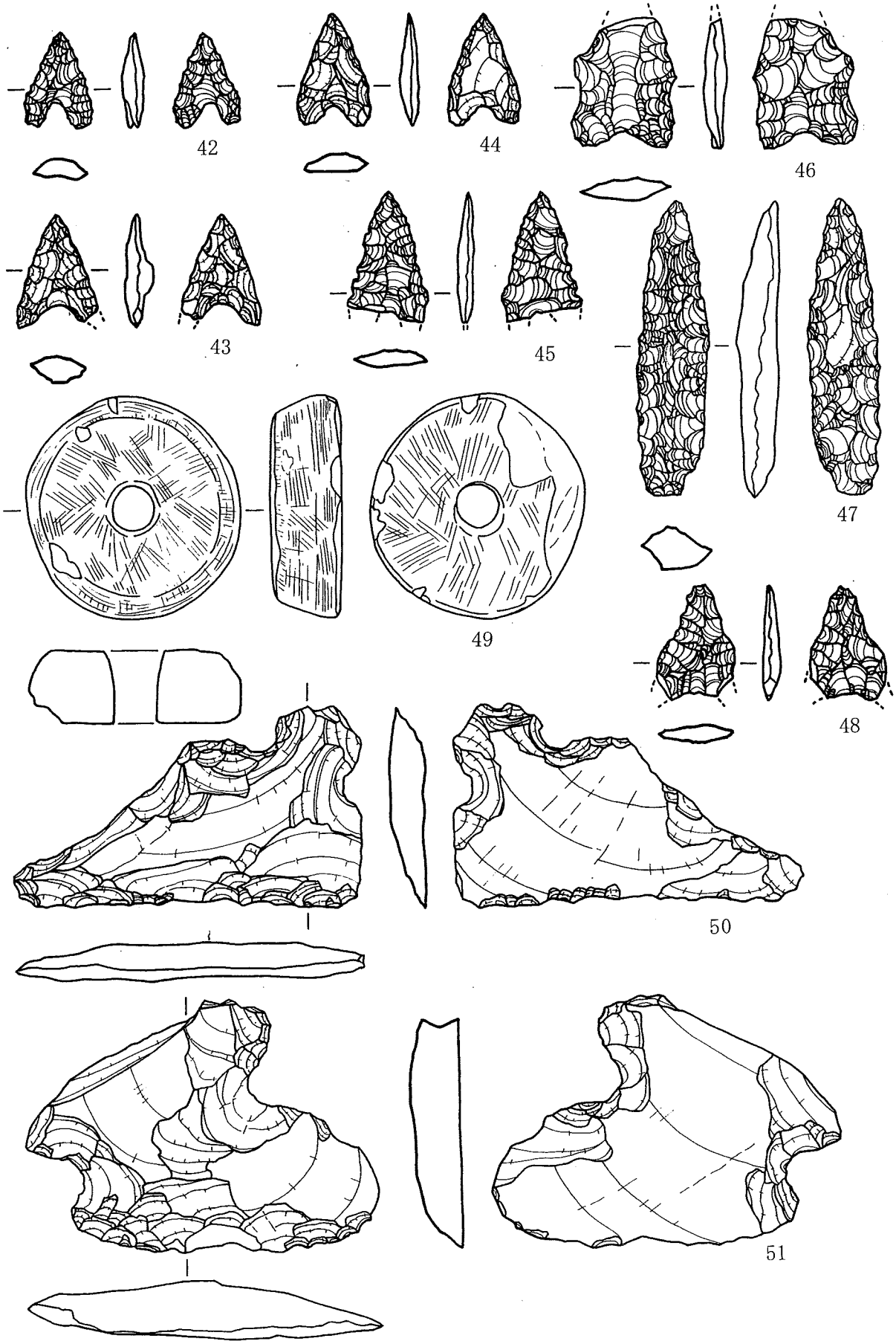
5．その他の出土遺物



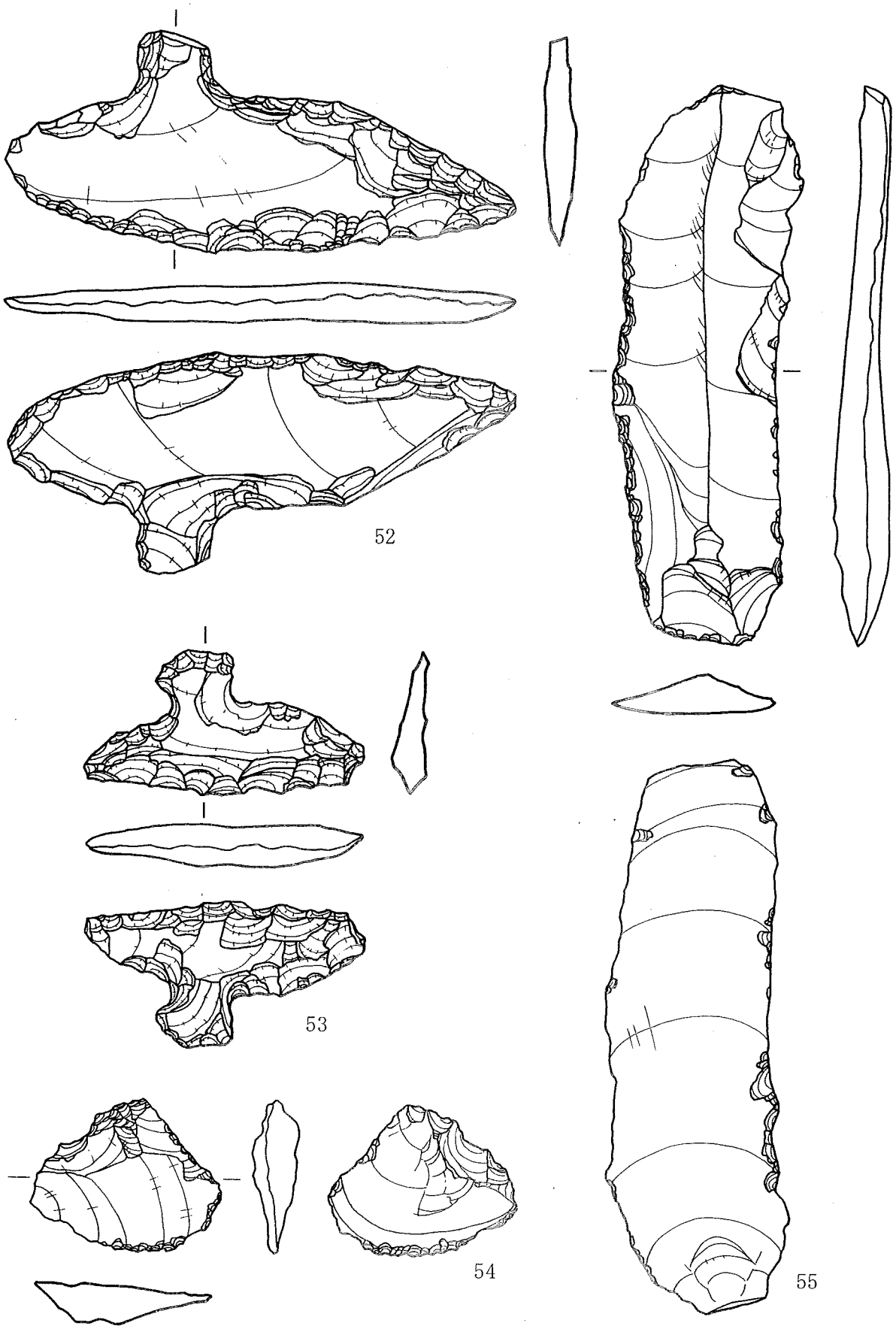
第180図　第3次調査出土遺物実測図 (2) (S＝1/1)



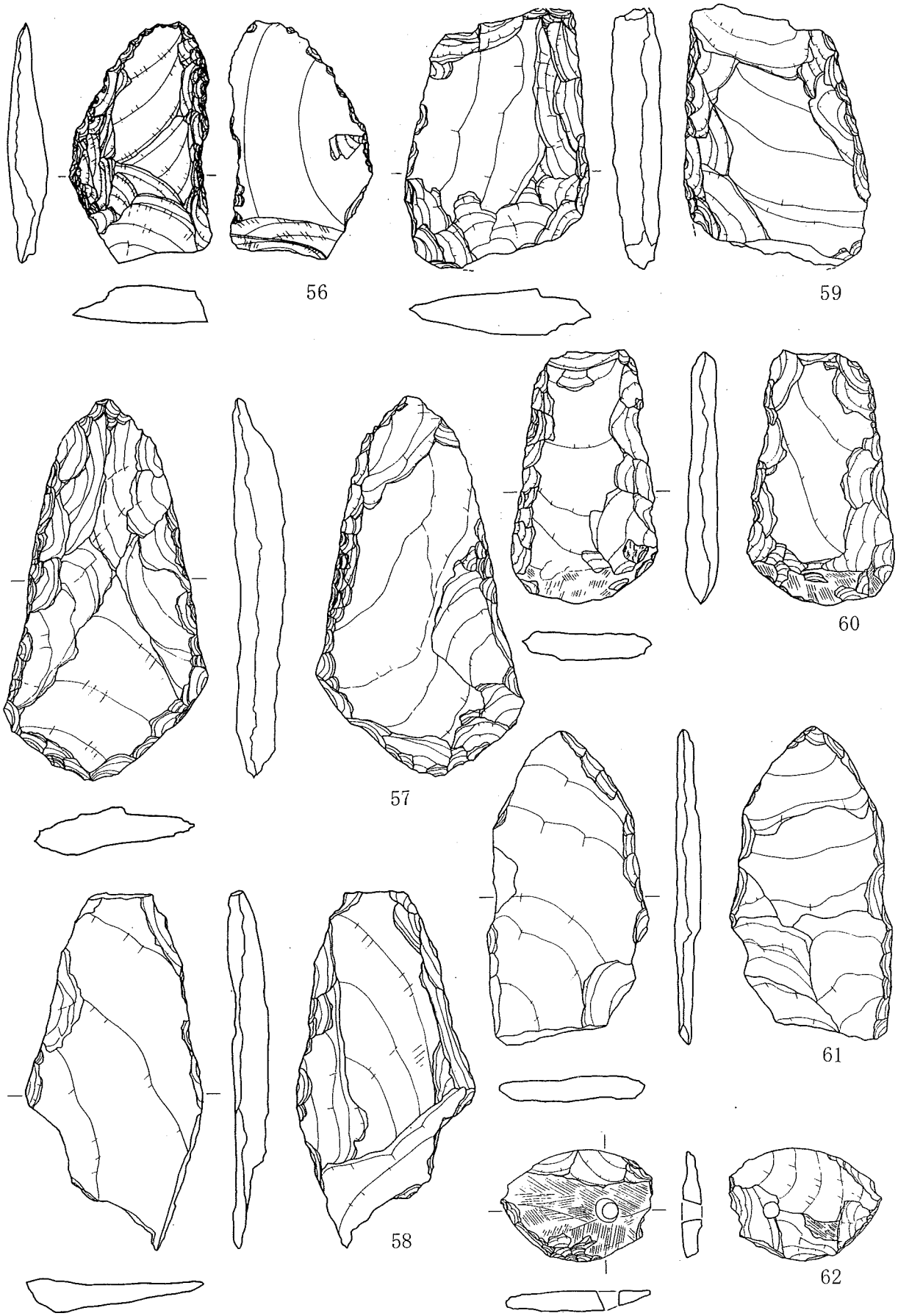
第181図　第3次調査出土遺物実測図 (3) (S=1/1)



第182図　第3次調査出土遺物実測図(4)(S=1/1)



第183図　第3次調査出土遺物実測図 (5) (S=1/1)



第184図　第3次調査出土遺物実測図 (6) (S＝1/2)

図版番号	出土地点		長さ	幅	厚さ	重さ	材質	備考
179－1	検出	打製石鏃	1.65	1.7	0.3	0.56	姫島産黒曜石	
179－2	検出	打製石鏃	1.55	1.8	0.3	0.5	姫島産黒曜石	
179－3	検出	打製石鏃	2.15	1.6	0.4	1.24	姫島産黒曜石	先端部欠損 抉入部片側欠損
179－4	P141	打製石鏃	4.05	1.5	0.5	2.27	姫島産黒曜石	
179－5	検出	打製石鏃	1.2	1.15	0.15	0.15	姫島産黒曜石	抉入部片側欠損
179－6	6号遺構	打製石鏃	3.3	1.65	0.45	1.92	不明	
179－7	10号溝	石鏃未製品	3.55	2.05	0.6	3.56	サヌカイト	
180－8	P124	打製石鏃	2.55	2.1	0.5	1.57	黒曜石	
180－9	P399	打製石鏃	2.0	1.75	0.5	1.36	姫島産黒曜石	
180－10	38号土壙	打製石鏃	1.85	1.35	0.3	0.59	姫島産黒曜石	先端部欠損 抉入部片側欠損
180－11	48号土壙	石鏃未製品	2.55	1.75	0.8	2.92	姫島産黒曜石	
180－12	59号土壙	石鏃未製品	1.85	1.4	0.4	0.89	姫島産黒曜石	
180－13	68号土壙	打製石鏃	3.2	2.0	0.6	2.3	姫島産黒曜石	
180－14	P301	打製石鏃	1.65	1.6	0.25	0.38	姫島産黒曜石	抉入部片側欠損
180－15	P399	打製石鏃	1.75	1.7	0.5	0.78	姫島産黒曜石	抉入部両側欠損
180－16	42号土壙	打製石鏃	2.35	1.35	0.4	0.71	姫島産黒曜石	抉入部両側欠損
180－17	76号土壙	尖頭器	4.0	1.15	0.4	1.39	姫島産黒曜石	
180－18	132号土壙	打製石鏃	2.75	1.25	0.3	0.97	姫島産黒曜石	
180－19	P533	打製石鏃	1.55	1.35	0.3	0.54	姫島産黒曜石	抉入部片側欠損
180－20	P403	打製石鏃	1.9	1.4	0.45	1.07	姫島産黒曜石	
180－21	42号土壙	打製石鏃	1.85	1.3	0.45	0.56	姫島産黒曜石	先端部欠損
180－22	49号土壙	二次加工剥片	2.25	1.75	0.85	2.56	黒曜石	
180－23	検出	打製石鏃	2.35	1.4	0.4	0.97	サヌカイト	
180－24	72号土壙	打製石鏃	3.55	2.05	0.6	3.23	姫島産黒曜石	抉入部両側欠損
181－25	76号土壙	打製石鏃	2.55	1.55	0.5	1.52	姫島産黒曜石	先端部欠損 抉入部両側欠損
181－26	72号土壙	打製石鏃	2.0	1.4	0.35	0.61	黒曜石	抉入部両側欠損
181－27	118号土壙	打製石鏃	3.0	1.6	0.35	1.08	サヌカイト	
181－28	検出	打製石鏃	3.2	1.8	0.45	1.4	サヌカイト	
181－29	検出	打製石鏃	2.75	1.1	0.5	1.61	姫島産黒曜石	
181－30	76号土壙	打製石鏃	2.9	1.85	0.6	2.5	サヌカイト	先端部欠損
181－31	89号土壙	打製石鏃	2.15	1.65	0.25	0.6	サヌカイト	
181－32	132号土壙	打製石鏃	1.5	1.6	0.3	0.48	姫島産黒曜石	先端部欠損 抉入部片側欠損

第 2 表　遺 物 観 察 表 (2)

181－33	検出	磨製石鏃	2.7	1.4	0.2	1.08	緑泥片岩	
181－34	検出	打製石鏃	2.35	1.8	0.6	2.05	姫島産黒曜石	
181－35	検出	打製石鏃	1.95	1.55	0.3	0.67	姫島産黒曜石	先端部欠損 抉入部片側欠損
181－36	62号土壙	打製石鏃	1.8	1.2	0.3	0.47	姫島産黒曜石	抉入部両側欠損
181－37	118号土壙	打製石鏃	1.9	1.9	0.4	0.72	姫島産黒曜石	先端部欠損
181－38	132号土壙	打製石鏃	2.7	1.6	0.45	1.2	姫島産黒曜石	
181－39	検出	打製石鏃	1.7	1.2	0.3	0.27	姫島産黒曜石	尖頭部欠損 抉入部片側欠損
181－40	検出	打製石鏃	2.9	1.95	0.65	2.54	姫島産黒曜石	
181－41	検出	打製石鏃	2.7	2.3	0.5	2.46	姫島産黒曜石	
182－42	検出	打製石鏃	1.7	1.2	0.4	0.49	姫島産黒曜石	
182－43	検出	打製石鏃	2.0	1.45	0.5	0.78	サヌカイト	抉入部片側欠損
182－44	検出	打製石鏃	2.0	1.3	0.35	0.64	サヌカイト	
182－45	検出	打製石鏃	2.3	1.45	0.3	0.76	姫島産黒曜石	抉入部両側欠損
182－46	検出	打製石鏃	2.3	1.9	0.4	1.72	姫島産黒曜石	先端部欠損
182－47	検出	尖頭器	5.2	1.3	0.75	4.62	姫島産黒曜石	
182－48	検出	打製石鏃	2.05	1.4	0.3	0.73	姫島産黒曜石	抉入部両側欠損
182－49	99号土壙	紡錘車	3.95	3.8	1.3	33.47	不明	
182－50	115号土壙	石匙	3.6	6.2	0.6	15.03	サヌカイト	
182－51	検出	石匙	4.55	6.3	0.9	23.83	サヌカイト	
183－52	検出	石匙	3.9	9.0	0.65	19.65	サヌカイト	
183－53	検出	石匙	2.55	4.95	0.65	6.11	不明	
183－54	6号遺構	使用痕のある剥片	2.7	3.35	0.8	3.69	姫島産黒曜石	
183－55	検出	使用痕のある剥片	9.8	3.35	1.0	23.49	流紋岩	
184－56	4号遺構	打製石器	8.7	5.2	1.4	61.91	サヌカイト	
184－57	検出	打製石斧	13.7	7.5	1.9	196.24	結晶片岩	
184－58	検出	打製石斧	12.9	6.45	1.4	104.95	緑泥片岩	未完成品
184－59	6号遺構	打製石斧	9.45	6.8	1.8	151.74	緑泥片岩	刃部欠損
184－60	検出	打製石斧	9.05	5.35	1.2	73.1	不明	
184－61	検出	打製石斧	11.3	5.9	1.0	87.6	緑泥片岩	未完成品
184－62	118号土壙	石包丁	4.05	5.5	0.75	16.39		

第 3 表　遺 物 観 察 表 (3)

第3章　ま　と　め

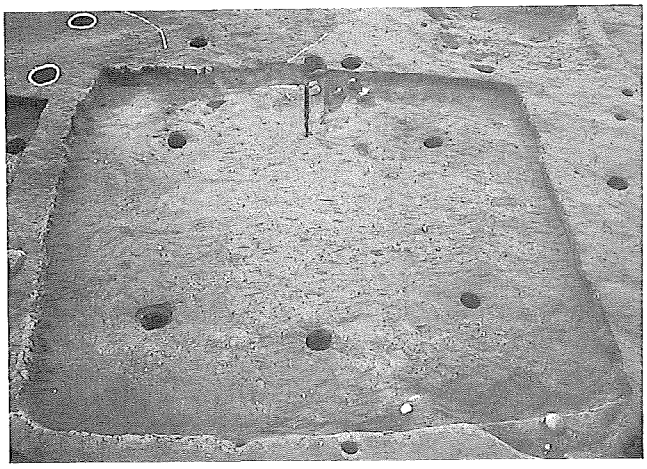
佐知久保畑遺跡で検出された遺構は、縄文時代から古墳時代にかけての複数時期にまたがって検出された。時期によってその密度に差はあるものの、当時の集落の様相の一端を垣間見ることができる。

本遺跡は、山国側右岸の自然堤防上に位置している。また1981年から1985年かけて大分県教育委員会によって調査が行われた上ノ原横穴墓群の直下で検出されており、上ノ原横穴墓群に埋葬された人々の生活した集落と考えられる。本遺跡の特徴として、溝によっていくつかの竪穴住居が一つのグループを形成していることがあげられる。検出された遺構をみると、溝で区画された空間の中で３～４軒の竪穴住居と、２間×２間の掘立柱建物を１～３棟をセットとして一グループを形成していることがわかる。また調査区南側では、柱穴が列を作るように検出されており、溝で区画された他の遺構とは明らかに異なる区分けが行われている部分がある。遺構の大半は調査区域外であり、詳しいことは不明であるが、上ノ原横穴墓群の調査で、副葬品等によって明らかになった造墓集団としての親族集団間の格差が集落内で現れていることが考えられる。

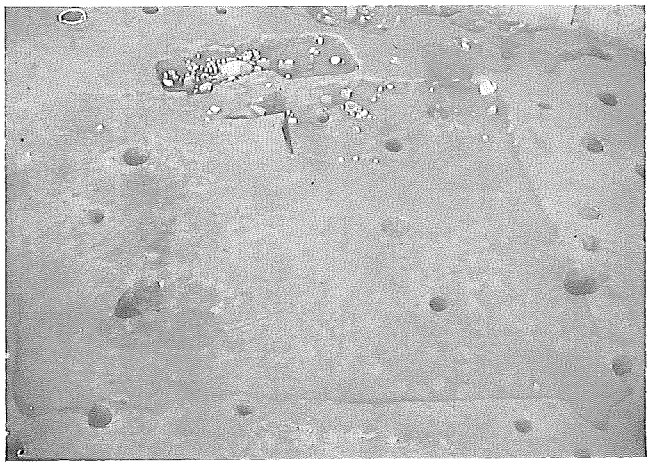
平成４年度と、10年度の２カ年に渡って行われた調査で、遺跡の一部分を確認することができたが、遺跡の大半は現在大型ショッピングセンター内の駐車場として埋め立てられ、保存されている。本遺跡は集落と墓域がセットとなって検出された遺跡として、非常に興味深い遺跡であるが、旧地形から判断して、遺跡の中心は本遺跡より南側および西側に広がっていると思われる。今後調査が行われることがあれば、さらに詳しく集落の様相が確認されること思う。

H4. 検出状況

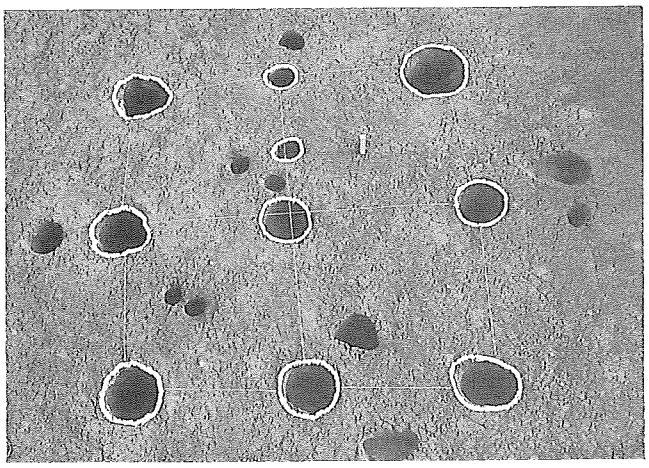
H4. 調査風景



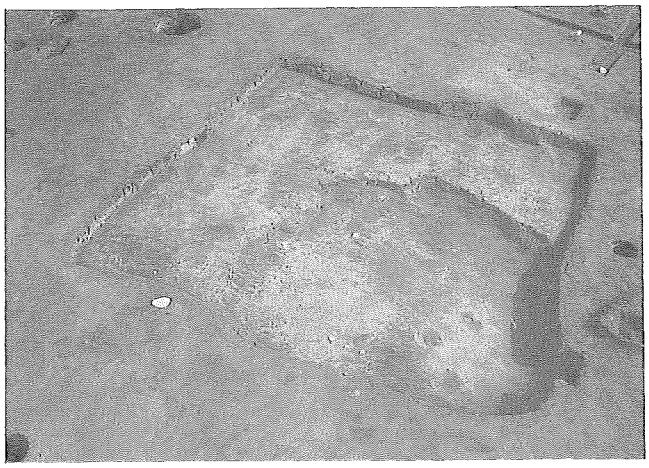
H4. 4号遺構



H4. 7号遺構

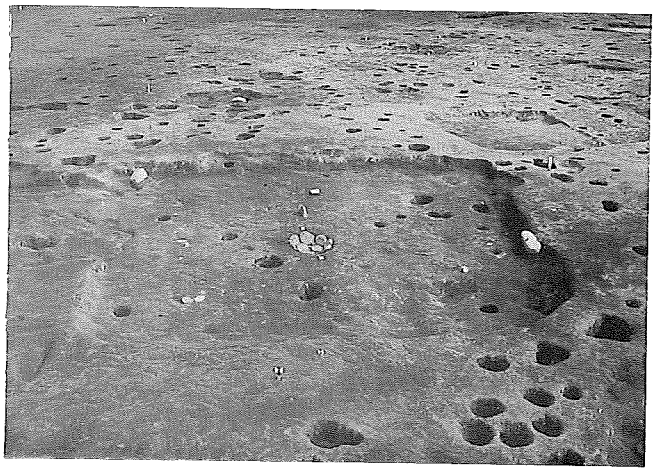


H4. 掘立柱建物

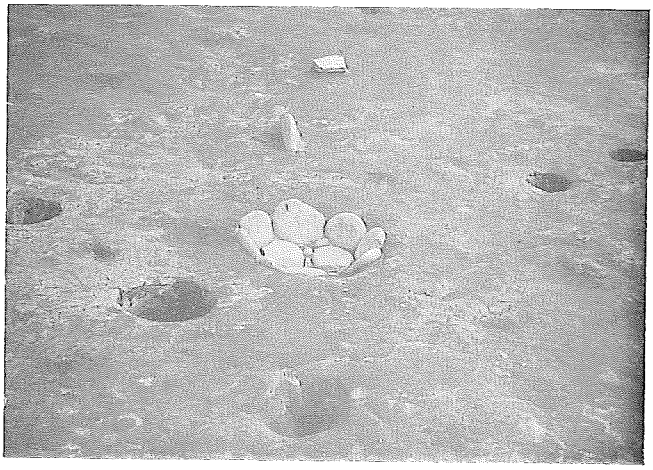


H4. 9号遺構・40号土坑

H4．4号土器溜

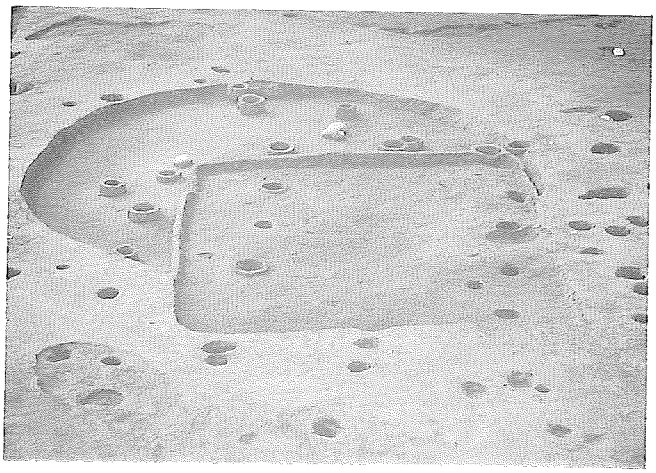


H4．24 号 遺 構



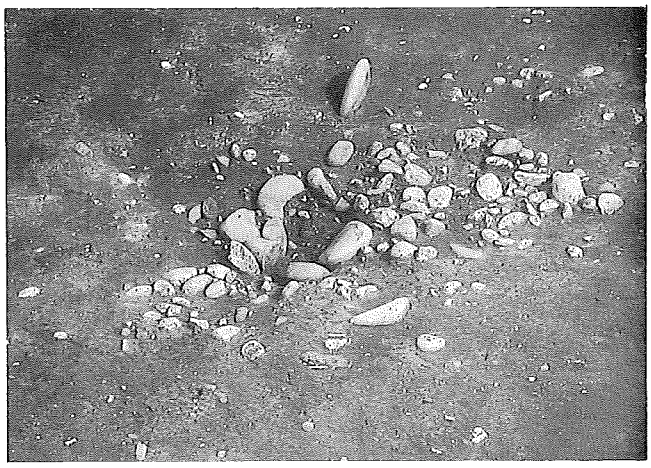
H4．24号遺構石組炉

H4．26 号 遺 構



H4．15号遺構・16号遺構

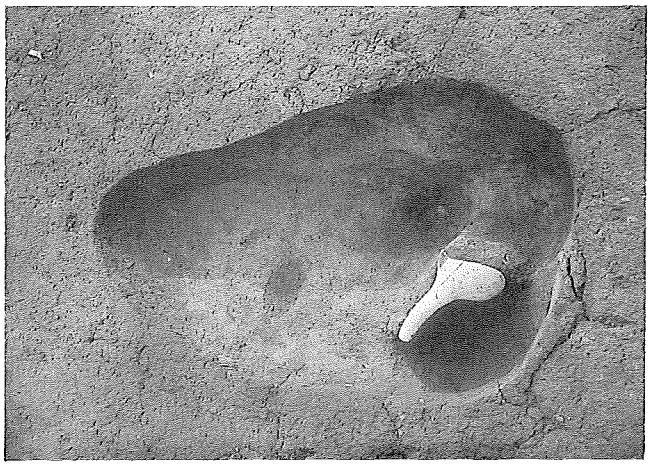
H4．94 号 土 坑



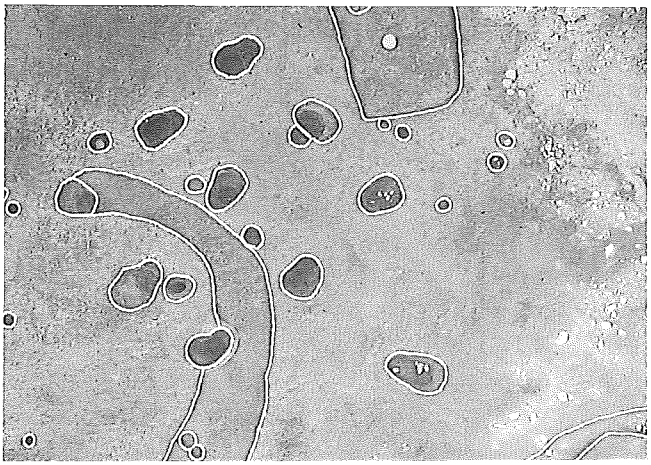
H4. 94号土坑石組炉

H4. 140 号 土 坑

H10. 5 号 遺 構



H10. 143号土坑



H10. 空　　撮

H10. 調査後全景

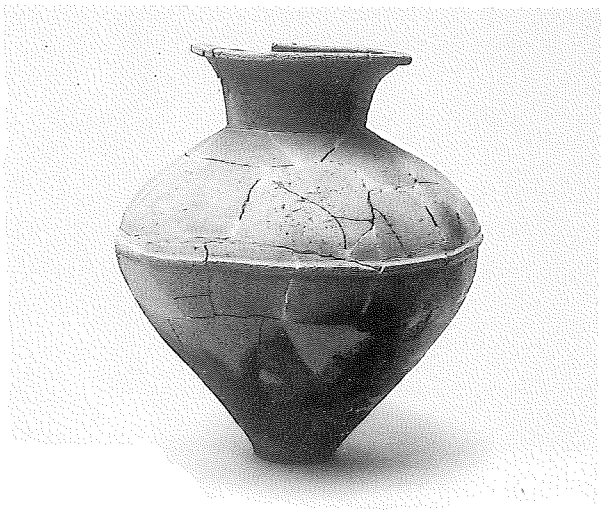
38－2

38－4

38－5

38－6

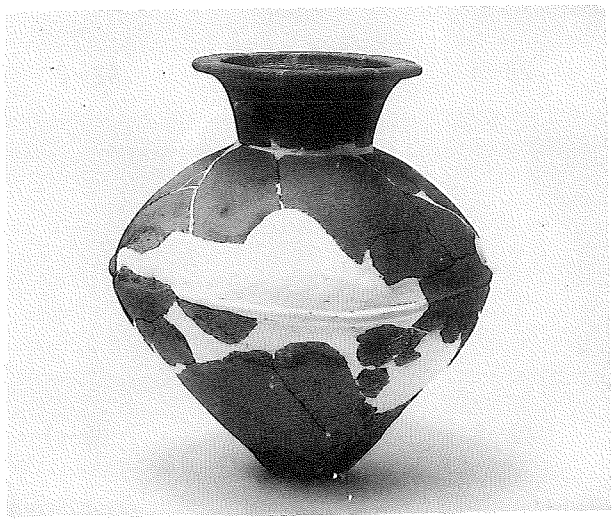
39－7



39－8

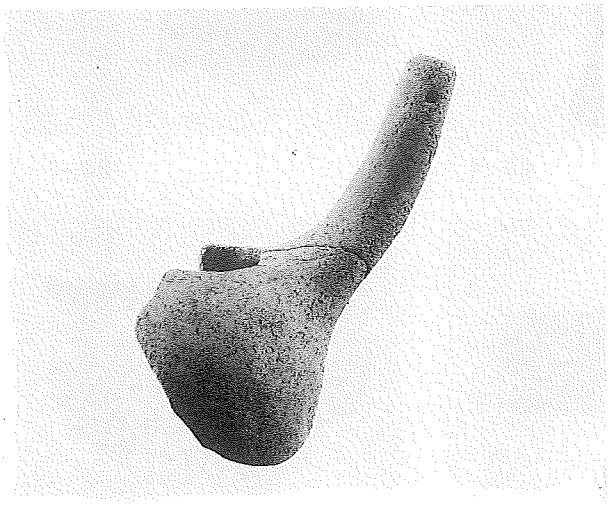
39－9

39－10



39－12

40－16

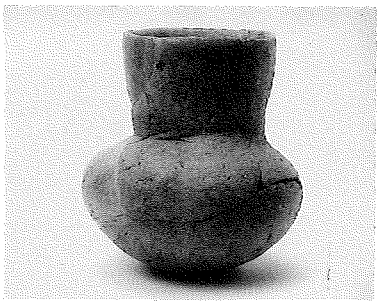


151－1

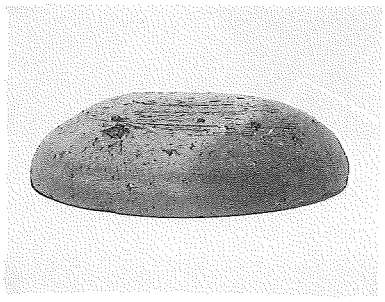
178－1

11－12

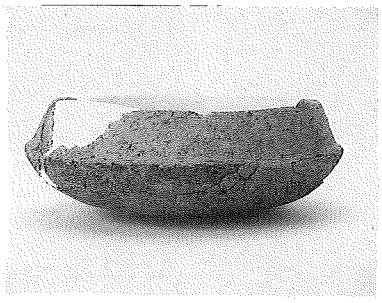
13－3



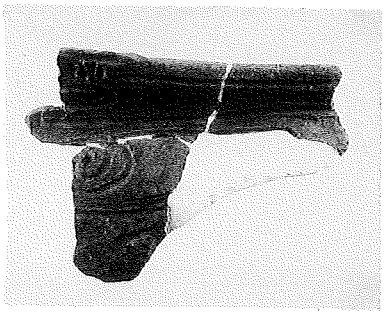
18－2



20－1

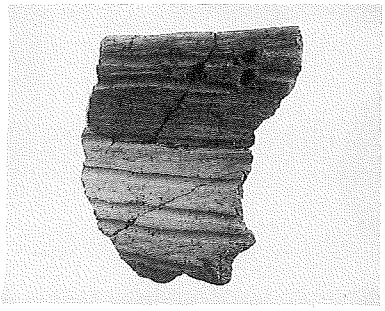


26－1



42－2

42－6

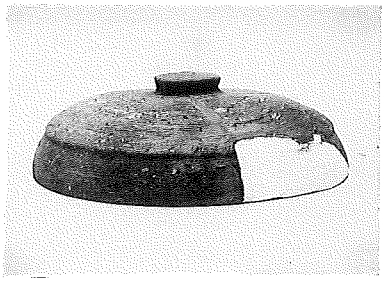


42－8

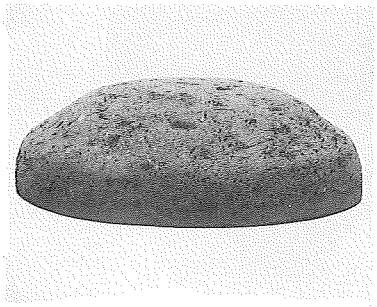
62－1

69－1

69－4

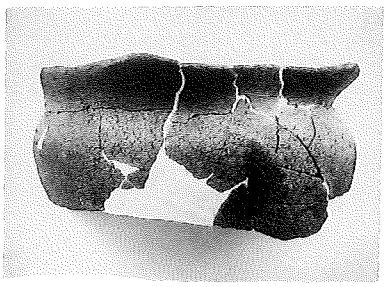


84－1

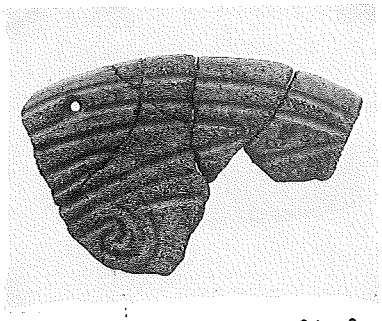


84－2

84－6

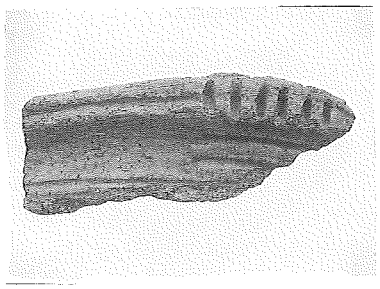


90－1

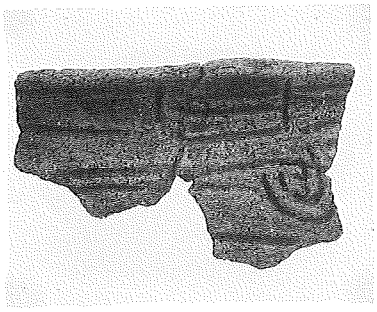


91－9

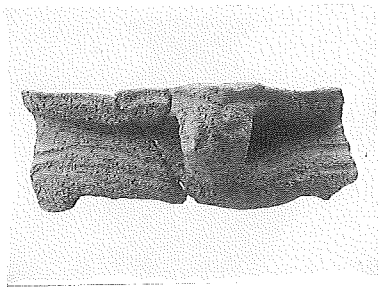
91－12



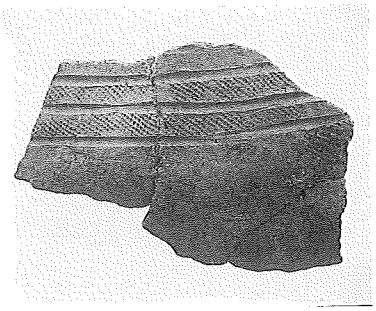
92－18



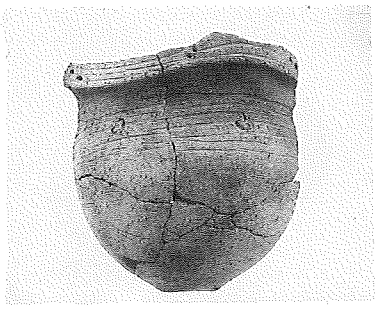
93－19



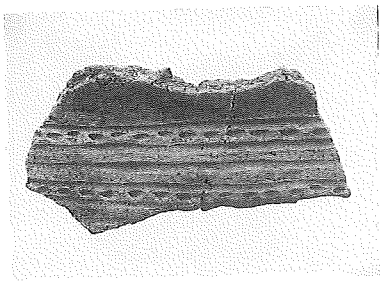
93－22



98－6



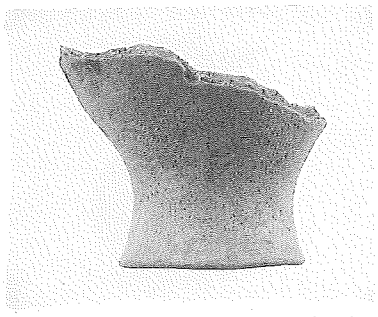
99－10



99－13

99－15

99－18



104－4

104－6

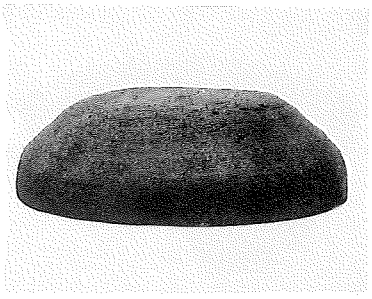
104－8

104－11

110－2

118－4

118－5

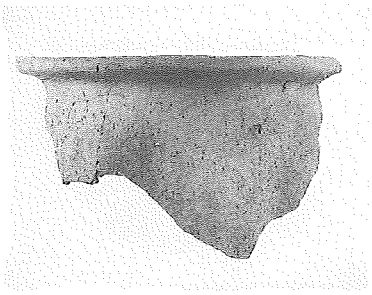


118－11

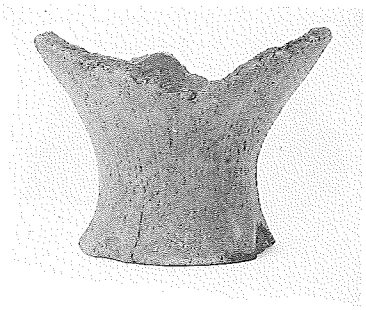
118－15

123－1

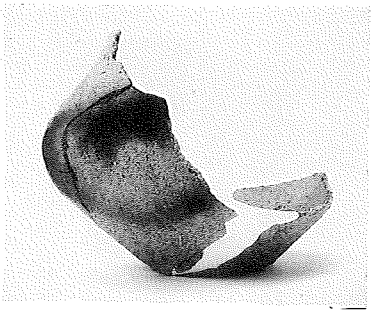
123－2



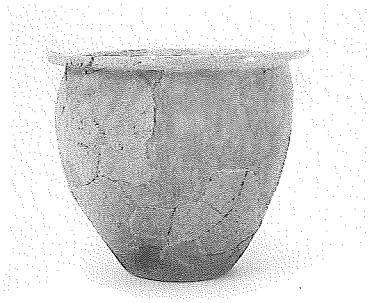
127－3



127－10



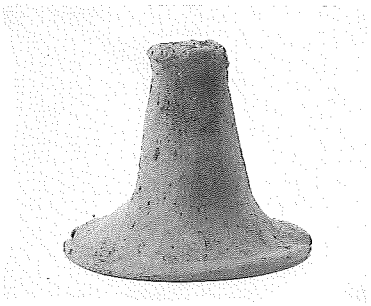
127－13



127－16

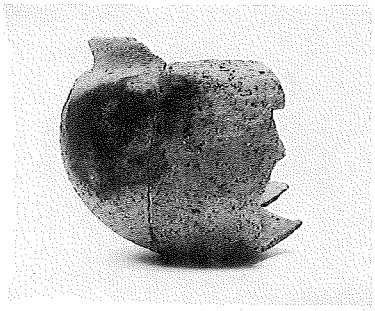
134－1

134－4



142－3

168－1

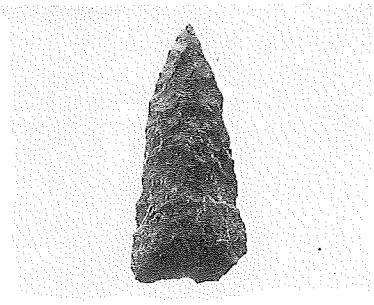


168－2

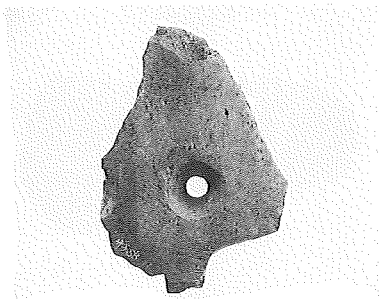
175－1

176－1

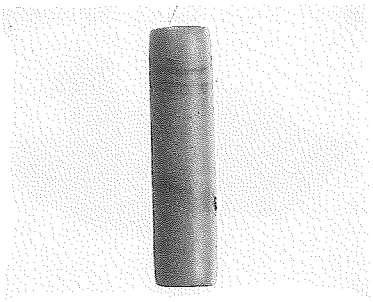
177－1



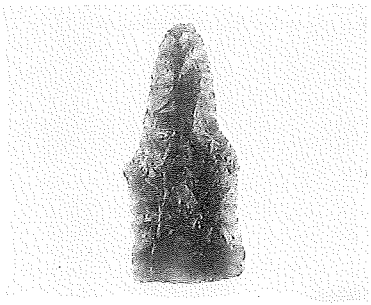
9－1



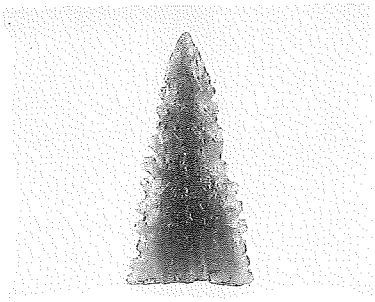
9－2



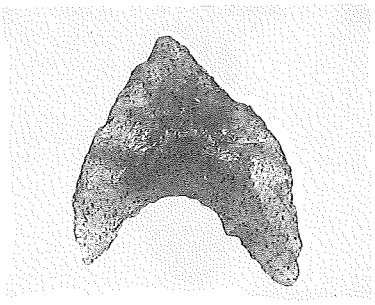
51－1



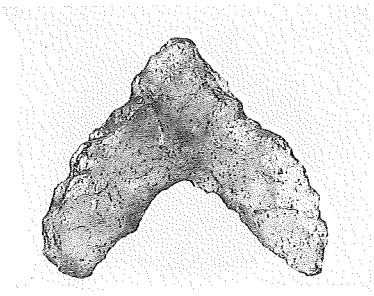
61－1



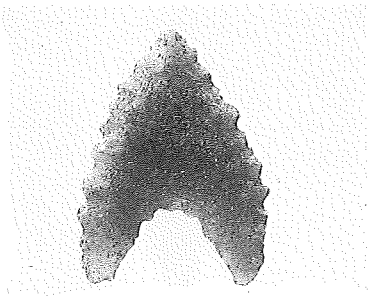
82－1



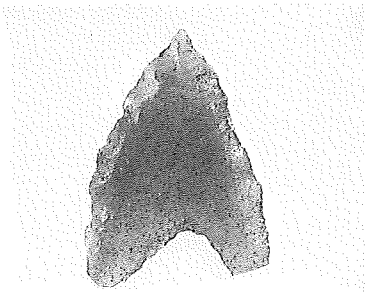
95－1



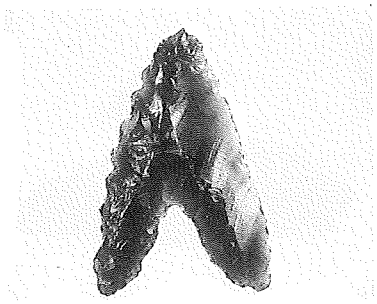
95－2



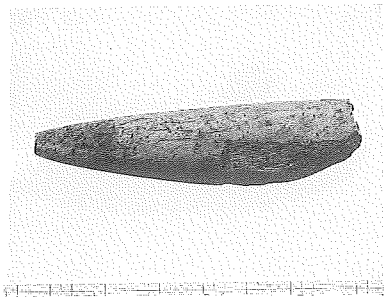
95－3



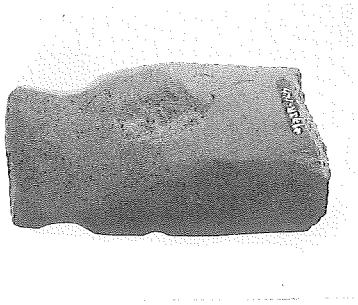
95－4



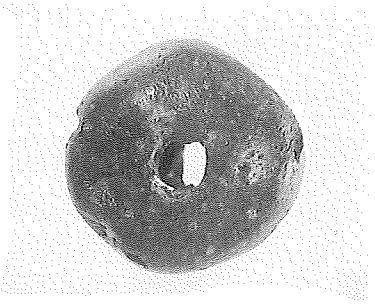
95－6



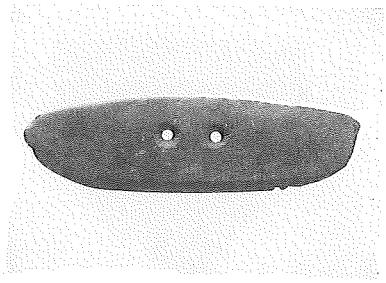
96－15



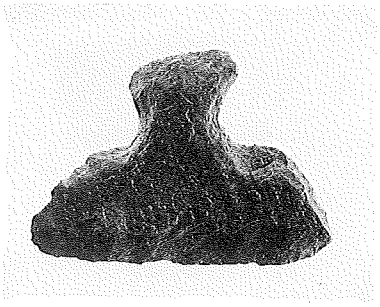
107－1



120－2

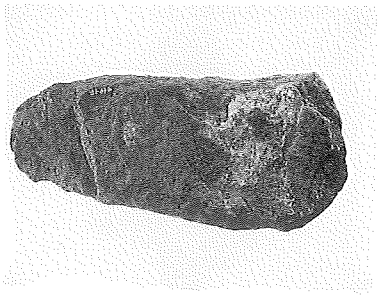


123－7

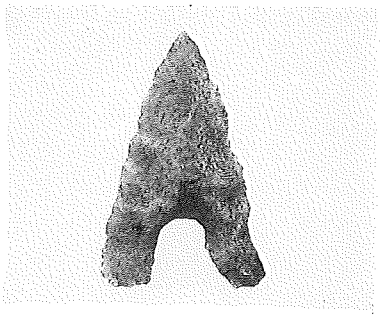


124－12

124－13

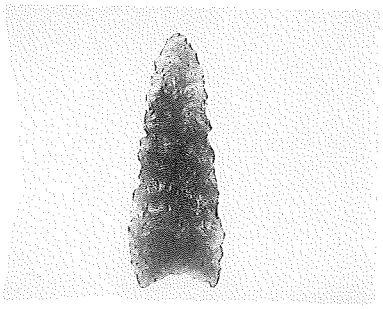


125－20

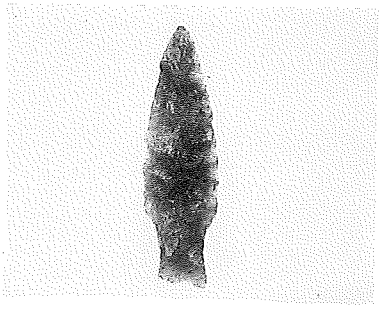


133－2

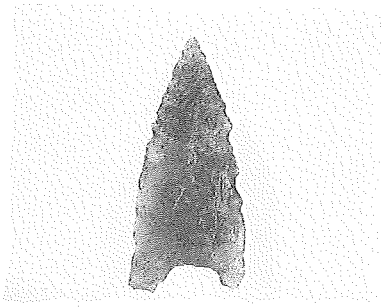
173－1



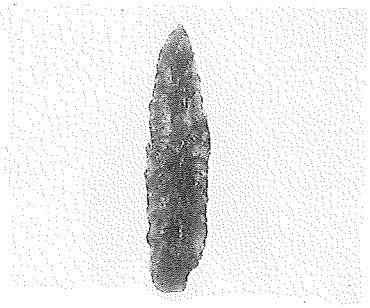
179－4



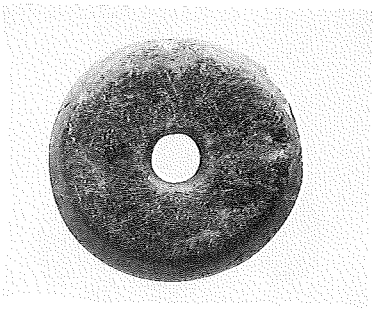
180－17



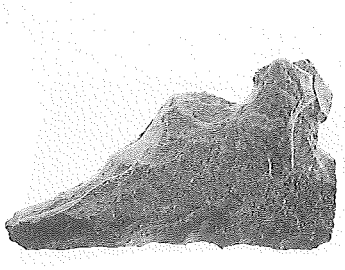
180－18



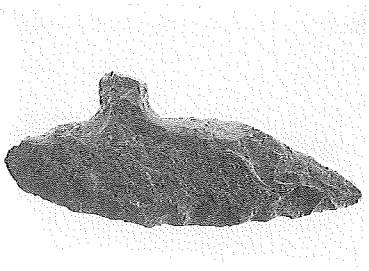
182－47



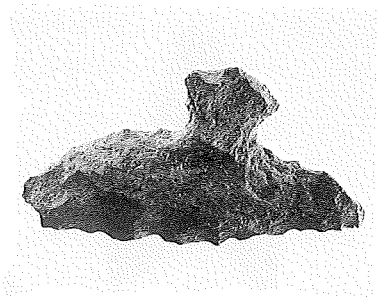
182－49



182－50



183－52



183－53

三光村の遺跡

2004年

発行／三光村教育委員会
（下毛郡三光村大字成恒）

印刷／昭　和　堂　印　刷